粕川村文化財報告第15集

御殿遺跡

平成５年度県営広域営農団地農道整備事業赤城
南麓２期地区に係る埋蔵文化財緊急調査報告書

１９９５

群馬県勢多郡粕川村教育委員会

御　殿　遺　跡

平成５年度県営広域営農団地農道整備事業赤城
南麓２期地区に係る埋蔵文化財緊急調査報告書

１９９５

上　赤城山と御殿遺跡　粕川村中之沢字湯の口、御殿、大猿一帯には、宇通遺跡をはじめとして、平安時代の集落遺跡が多く確認されている。9世紀の後半代に赤城山の山岳地帯への集落の積極的な進出がみられるのだ。粕川村に隣接する宮城村や新里村でも同様の傾向がうかがえる。

下　BH-5号住居出土の「鐃」鋳型　15片程の細片で出土したが、概ね三鈷部分と鈴部分とに別けられる。本遺跡出土例からは三鈷部分と鈴部分とは、一体の鋳型ではなく、別々に鋳られ、接合された可能性が考えられる。

序にかえて

粕川村は、赤城山の南麓に開けた村です。村の北端は、赤城山のカルデラ壁まで延びております。そして、そこから、赤城山山頂の小沼を水源とする唯一の河川、粕川が流れ落ちているのです。この赤城山と赤城山を水源とする粕川は、古代から近世にかけて、赤城山南麓の広い地域にわたって、農業と灌漑水に関わる信仰の対象となっておりました。その片鱗は今でも、月田近戸神社の『お川降り』の神事に見ることができます。

今回、発掘調査を行った「御殿遺跡」は、赤城神社西宮の元宮地として推定されてきたところの一角にあります。この遺跡からは、縄文時代早前期の遺物包含層や平安時代前期の集落と特殊な密教に関わる法具を製作した工房址が発見されました。まさに、この「御殿」の地が、赤城山信仰の発祥の地といえるかとも思われます。

本報告書は、前橋土地改良事務所から調査の委託を受けた粕川村教育委員会が平成5年度に発掘調査を実施し、平成6年度に整理作業を行った成果であります。この報告書が、多くの方に活用され、少しでも斯学に貢献することができれば幸に存じます。

最後に、発掘調査ならびに整理作業を通じてご指導、ご協力をいただいた群馬県前橋土地改良事務所の関係者の皆様、村関係各課をはじめ関係各位、並びに調査に協力いただいた作業員の方々に感謝申し上げて序といたします。

平成7年3月

粕川村教育委員会

教育長　真　下　辰　男

例　　言

1．本書は平成５年度県営広域営農団地農道整備事業赤城南麓２期地区埋蔵文化財発掘調査委託事業「御殿遺跡」の発掘調査報告書である。

2．「御殿遺跡」は群馬県勢多郡粕川村大字中之沢字御殿369-1番地他に所在する。遺跡略称はＸ３である。

3．発掘調査は平成５年７月20日より平成６年３月25日まで実施した。
　また、整理事業及び本書の作成は平成６年７月５日より平成７年３月20日まで行った。

4．発掘調査は平成５年度前橋土地改良事務所からの委託金で実施した。
　また、整理事業は、平成６年度前橋土地改良事務所の委託金で行った。

5．調査組織は次のとおりである。

事務局

教　育　長　　真下辰男

社会教育課長　　松村嘉夫

調 査 担 当

社会文化係長　　小島純一

主　　任　　梅沢克典

6．本書の作成は小島が編集、執筆、遺構写真を担当し、遺物写真は真下泰男（粕川村サンフォト）による。なお、本書の作成には以下のものが参加した。

庶務担当　　笠原嘉子　　遺物接合復元　　中嶋あぐり

遺物実測及びレイアウト　　吉沢てい子　　鈴木幸子　　武井洋子　　松村寿江　　飯尾みゆき　　石川葉子

7．発掘調査により出土した遺物及び本書掲載遺物については、すべて粕川村出土文化財管理センターで保管管理している。

8．発掘調査から整理作業にかけて、下記の方々からご指導、ご助言を賜った。記して感謝申し上げます。

石坂　茂　　五十川伸矢　　井上唯雄　　今泉明雄　　香取忠彦　　桐原　健　　坂口　一　　坂田宗彦

時枝　務　　能登　健　　原　雅伸　　樋口昇一　　細野高伯　　前原　豊　　山下歳信

凡　　例

1．本書の挿図で使用する方位は真北である。

2．本書で使用した地形図は下記のとおりである。

　図１　国土地理院20万分の１「宇都宮」

　図３　国土地理院2.5万分の１「鼻毛石」

3．本書の遺構図、遺物図の縮尺は下記のとおりである。

住居址平面図	1/80
竈平面図	1/40
土　　壙	1/40
土　　器	1/3　1/4　1/6
石　　器	1/3　1/4

なお、それぞれに、スケールを添付した。

4．土器観察表及び挿図の番号は、挿図ごとの通し番号とし、遺物取上番号も付した。

5．挿図内のアミ表記は以下のとおりである。

平面図	浅間Ｂ軽石（As—B）	
	焼土	
	石	
	地山	
遺物実測図	石器（磨製部分）	
	土器（含繊維）	

目　　次

巻頭図版
序にかえて
例　　言
凡　　例

Ⅰ．発掘調査の経緯……3

Ⅱ．御殿遺跡の位置……4

Ⅲ．発掘調査の概要……5
　1　調査の経過……5
　2　基本土層……5
　3　検出された遺構……5

Ⅳ．平安時代の遺構と遺物……6

Ⅴ．縄文時代の遺構と遺物……8

Ⅵ．包含層出土の遺物……9
　1　土　　器……9
　2　石　　器……12

Ⅶ．ま　と　め……13
　1　縄文時代包含層内の遺物分布について……12
　2　ＢＨ－５号住居出土の鋳型について……13
　3　山間地平安時代集落の成立……15

挿　　図……17
　遺構実測図
　出土遺物実測図
　遺物観察表　土器
写真図版……59
付　　図

挿　図　目　次

図１　御殿遺跡の位置(20万分の１図)…… 2
図２　御殿遺跡の調査(2,000分の１地形図) …… 3
図３　御殿遺跡と周辺の遺跡(31,250分の１)…… 4
図４　御殿遺跡基本土層図…… 5
図５　御殿遺跡出土『鐃』推定復元図……13
図６　御殿遺跡遺物包含層遺物出土概念図……14
図７　御殿遺跡全体図(折り込み)1/200 ……17
図８　ＡＨ－１号住居実測図・出土遺物実測図……19
図９　ＢＨ－１号住居実測図・出土遺物実測図……19
図10　ＢＨ－４号住居実測図・出土遺物実測図……19
図11　ＢＨ－２号住居実測図・出土遺物実測図……20
図12　ＢＨ－３号住居実測図・出土遺物実測図……21
図13　１号溝実測図・出土遺物実測図……22
図14　１号掘立柱建物実測図・出土遺物実測図
(折り込み)……23
図15　ＢＨ－５号住居出土鋳型実測図……25
図16　ＢＨ－５号住居実測図・出土遺物実測図……26
図17　ＢＨ－７号住居実測図……26
図18　ＢＨ－７号住居出土遺物実測図……27
図19　ＢＨ－６号住居実測図・出土遺物実測図……28
図20　ＣＨ－１号住居実測図・出土遺物実測図……28
図21　東区土壙(１～５号)実測図……29
図22　ＢＪ－１号住居実測図・出土遺物拓影図……36
図23　ＢＪ－１号住居出土石器実測図……37
図24　西区縄文期土壙実測図……37
図25　西区縄文期包含層出土遺物拓影図１……38
図26　西区縄文期包含層出土遺物拓影図２……39
図27　西区縄文期包含層出土遺物拓影図３……40
図28　西区縄文期包含層出土遺物拓影図４……41
図29　西区縄文期包含層出土遺物拓影図５……42
図30　西区縄文期包含層出土遺物拓影図６……43
図31　西区縄文期包含層出土石器実測図１……43
図32　西区縄文期包含層出土石器実測図２……44
図33　東区縄文期包含層出土遺物拓影図１……45
図34　東区縄文期包含層出土遺物拓影図２……46
図35　東区縄文期包含層出土遺物拓影図３……47
図36　東区縄文期包含層出土遺物拓影図４……48
図37　東区縄文期包含層出土遺物拓影図５……49
図38　東区縄文期包含層出土遺物拓影図６……50
図39　東区縄文期包含層出土遺物拓影図７……51
図40　東区縄文期包含層出土石器実測図１……52
図41　東区縄文期包含層出土石器実測図２……53
図42　東西区縄文期包含層出土石器実測図……54

写　真　目　次

PL. 1　1　御殿遺跡遠景(東より)
　　2　西区基本土層
　　3　東区基本土層
PL. 2　1　御殿遺跡全景(東より)
　　2　西区調査状況
PL. 3　1　大溝の調査
　　2　大溝全景
PL. 4　1　ＢＨ－１号住居全景
　　2　ＢＨ－１号住居土層堆積状況
　　3　ＢＨ－１号住居遺物の出土状況
　　4　ＢＨ－２号住居全景
　　5　ＢＨ－２号住居竈部分土層堆積状況
　　6　ＢＨ－２号住居竈部分詳細
PL. 5　1　ＢＨ－３号住居全景
　　2　ＢＨ－３号住居竈部分詳細
　　3　ＢＨ－４号住居全景
　　4　ＡＨ－１号住居全景
　　5　ＡＨ－１号住居竈部遺物出土状況
　　6　西区完掘状況(西より)
PL. 6　1　ＢＪ－１号住居全景(東より)
　　2　ＢＪ－１号住居遺物出土状況
　　3　ＢＪ－１号住居地床炉
PL. 7　1　西区包含層遺物出土状況(南東より)
　　2　西区包含層遺物出土状況
　　3　包含層下部で検出されたＢＪ－２号土壙
　　4　包含層下部で検出されたＢＪ－１号土壙
　　5　ＢＪ－４号土壙土層堆積状況
PL. 8　1　ＢＨ－５号住居全景
　　2　「鐃」鋳型出土状況
PL. 9　1　ＢＨ－５号住居土層堆積状況
　　2　ＢＨ－５号住居土層堆積状況
　　3　ＣＨ－１号住居全景
　　4　ＢＨ－６号住居遺物出土状況
　　5　ＢＨ－６号住居全景(北より)
　　6　ＣＨ－１号住居土層堆積状況
PL. 10　1　東区西端の造成段(北より)
　　2　造成段上の１号掘立柱建物
PL. 11　1　ＢＨ－７号住居遺物出土状況
　　2　ＢＨ－７号住居遺物出土状況(部分)
　　3　ＢＨ－７号住居中央敷物状炭化物断面
　　4　ＢＨ-７号住居全景
　　5　ＢＨ-７号住居竈部遺物出土状況
　　6　ＢＨ-７号住居土層堆積状況
PL. 12　1　東区発掘状況(東より)
　　2　ＢＨ－１・２号土壙
　　3　東区縄文包含層遺物出土状況
　　4　ＢＨ－１号土壙土層堆積状況
　　5　ＢＨ－１号土壙全景
　　6　東区縄文包含層田戸下層式土器出土状況
PL. 13　ＡＨ－１、ＢＨ－１・２・３号住居出土遺物
PL. 14　ＢＨ－５・６・７号住居出土遺物
PL. 15　ＢＨ－５号住居出土「鐃」鋳型
PL. 16　ＢＨ－５号住居出土「鐃」鋳型
PL. 17　ＢＪ－１号住居出土遺物(土器)
PL. 18　ＢＪ－１号住居出土遺物(石器)
PL. 19　西区包含層出土土器(草創期・早期) 1
PL. 20　西区包含層出土土器(早期) 1
PL. 21　西区包含層出土土器(早期) 1
PL. 22　西区包含層出土土器(早期沈線文)
PL. 23　西区包含層出土土器(早期・条痕文)
PL. 24　西区包含層出土土器(早期・前期)
PL. 25　西区包含層出土土器(前期)
PL. 26　西区包含層出土土器(前期)
PL. 27　西区包含層出土土器(前期)
PL. 28　西区包含層出土土器(前期)
PL. 29　西区包含層出土土器(中期)
PL. 30　東区包含層出土土器(草創期・前期)
PL. 31　東区包含層出土土器(草創期・早期・中期)
PL. 32　東区包含層出土土器(早期)
PL. 33　東区包含層出土土器(早期)
PL. 34　東区包含層出土土器(早期擦痕)
PL. 35　東区包含層出土土器(早期沈線文)
PL. 36　東区包含層出土土器(早期沈線文)
PL. 37　東区包含層出土土器(早期絡条体圧痕・条痕文)
PL. 38　東区包含層出土土器(早期条痕文)
PL. 39　東区包含層出土土器(早期条痕文)
PL. 40　東区包含層出土土器(早期条痕文)
PL. 41　東区包含層出土土器(早期条痕文)
PL. 42　東区包含層出土土器(早期末～前期初頭)

PL.43　東区包含層出土土器(前期)
PL.44　西区包含層出土石器(石鏃・石匙・石錐・ピエス・エスキーユ・削器他)
PL.45　西区包含層出土石器(片面加工石器・礫器・磨製石斧他)
PL.46　西区包含層出土石器(三角錐形石器・石斧他)
PL.47　西区包含層出土石器(削器)
PL.48　西区包含層出土石器(磨石・凹石)
PL.49　東区包含層(石斧)・西区包含層(極すり石)
PL.50　東区包含層出土石器(石鏃・石錐・片面加工石器・磨製石斧)
PL.51　東区包含層出土石器(へら状石器・石斧・削器・礫器)
PL.52　東区包含層出土石器(削器)
PL.53　東区包含層出土石器(削器)
PL.54　東区包含層出土石器(磨石・極すり石)

御　殿　遺　跡

図１　御殿遺跡の位置(20万分の１図)

Ⅰ　発掘調査の経緯

御殿遺跡の発掘調査は、県営広域営農団地農道（以下広域農道）整備事業赤城南麓２期地区建設に係る埋蔵文化財緊急発掘調査事業として実施した。

広域農道整備事業は、赤城村関越自動車道赤城インターチェンジから新里村を結ぶ、農道整備事業である。赤城村から北橋、富士見、前橋、大胡までを赤城南麓地区、宮城、粕川を通り、新里村までを赤城南麓２期地区として、昭和61年から平成８年を完成目標として事業着手された。

現在の国道353号線より100㍍以上高標高地を通過して行く山岳道路でもある。工事は地区内を蚕食状に進められ、粕川村内は平成４年度に一部工事着手が計画されていた。

平成３年に、村土地改良課より、埋蔵文化財の有無の照会が有り、平成３年８月９日に前橋土地改良事業所、県文化財保護課、村土地改良課、同教育委員会の４者による現地調査を実施した。その調査では、粕川村内の広域農道建設予定地内に、数箇所の埋蔵文化財包蔵地が想定された。平成４年５月12日第２回目調整会議を行った。その会議では、平成４年12月を目処に調査予定地の保安林解除が可能であり、平成４年度中に試掘調査を実施してもらいたい旨の話があった。それを受けて平成５年１月26日より２月10日まで、粕川村教育委員会が試掘調査を実施した。

その結果、縄文時代早・前期の遺物包含層及び平安時代の集落址の存在が明かとなった。教育委員会では、その結果を平成５年３月３日付けで前橋土地改良事業所に報告するとともに、文化庁宛、遺跡の発見届を提出した。その後の調整段階では、発掘調査は平成５年度中に終了すること、調査終了後出土品の整理報告書の作成を行うこと、費用については、発掘調査及びその後に行われる整理作業に係る費用は群馬県の負担とすること、整理費用については発掘調査終了後別途積算すること等が取り決められた。

教育委員会では同年５月24日付けで、調査計画書等を提出し、７月19日付けで、前橋土地改良事業所と粕川村との間で埋蔵文化財調査委託契約書の取り交わしが行われた。

その結果、発掘調査は平成５年７月20日より開始し、平成６年３月25日まで実施した。

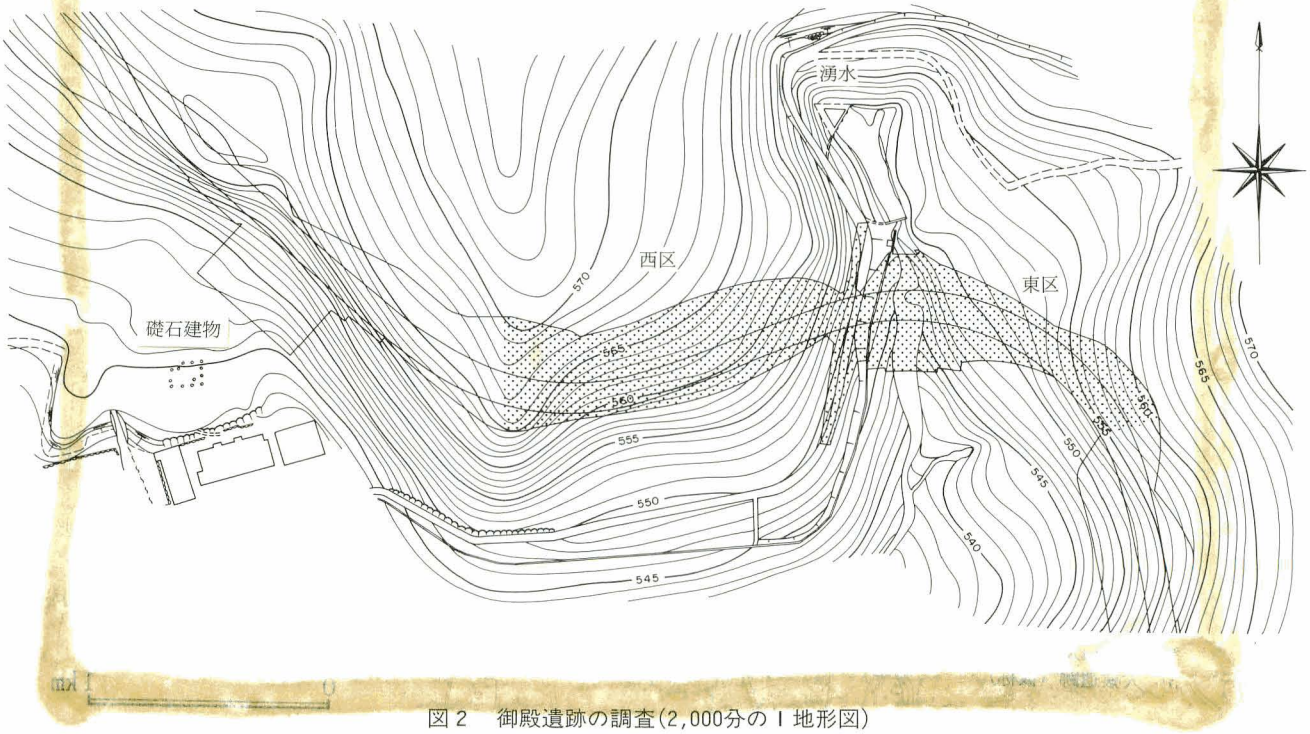


図２　御殿遺跡の調査（2,000分の１地形図）

II　御殿遺跡の位置

御殿遺跡は、粕川村の北部大字中之沢字御殿に所在する。遺跡のある大字「中之沢」地区は、昭和36年に大字「室沢」から分離して新しい行政区としてスタートした。粕川村では最も北部に位置し、標高400㍍付近から赤城山のカルデラ壁下までの地域を占める。地形上は大部分が山地形にあたる地域である。

遺跡は、宮城村村境から東へ約2㌔で、標高450㍍付近を東西に走る国道353号線から1㌔程北へ入った「湯の口湧水」の湧出口の周辺に発見された。通称シクラメン団地と呼ばれる湯ノ口地区の北に隣接している。遺跡地は、赤城山の中腹で、急峻な山地形が、丘陵性地形へと変わる地形の変換点に位置している。調査対象域は「湯ノ口湧水」から流れ出る少河川によって開析された谷地を挟んで東西両斜面地で、そこから遺構及び遺物が検出出土した。周辺の状況から、今回の調査対象地外にも遺構の存在が予想された。

ところで、昭和40年、中之沢字大猿にある宇通遺跡が群馬大学尾崎喜左雄によって調査された。その折、地元の好事家によって赤城神社の元宮地として推定されたことがある湯ノ口周辺にも注目することとなり、今泉家裏で礎石建物と考えられる礎石群を確認した。尾崎は、調査中の宇通遺跡との関連を指摘し、この湯ノ口周辺を宇通遺跡焼失後の退転先として推定した。しかし、残念なことに、その後、湯ノ口周辺は、詳細な調査を受けることなく、昭和53年からシクラメン団地として造成されてしまった。ただし、今回調査を行った、御殿地区はこの開発からは免れ、現況をよく留めていた。

注　宇通遺跡はその後、昭和59年度より平成2年度まで粕川村教育委員会が調査を行った。調査では、15棟の礎石建物址や多くの竪穴住居が検出され、9世紀後半から10世紀後半にかけての山岳寺院址であることが明かになった。

図3　御殿遺跡と周辺の遺跡（31,250分の1）

III　発掘調査の概要

1　調査の経過

調査に先立ち、発掘区を谷地を挟んで、西区と東区と総称することとした。また、国家座標第IX系、X＝53440.00、Y＝－56080.00を基線として、4×4㍍グリットを設定して行った。呼称は100×100㍍単位のグリットを大グリットA～Cとし、その中を、南北方向をアルファベットa～y、東西方向を1～25の小グリットとし、北西隅の杭を小グリットの名称とした。

発掘調査は、大型重機の搬入出用道路の確保、調査地内に放置された倒木の除去等の作業から開始し、平成5年7月27日から8月2日まで要した。発掘区は湧水による小河川で東西に分けられ、しかも、急斜面地なため、大型重機の往来が不可能であった。そのため、回送作業等予想以上に手間取った。表土掘削も同様で、大型クローラなどを使用し効率良く作業を進めるべく努力したが、8月10日より24日まで要した。

調査は、平安期の遺構を調査した後、縄文時代の遺構及び包含層の調査という順序ではじめた。遺構検出、精査、遺物取り上げ、写真撮影、実測作業を効率良く進め、極力外部委託ができる業種については外部委託を導入した。

遺構検出作業は表土掘削と平行して進め、8月19日より西区の平安時代の竪穴住居BH－1号住居から精査を開始した。また、西区東端で、踏み分け道と思われた部分が人工的に造られた大溝であることが明かとなり、調査を行った。この溝の調査は、重機を導入することが不可能であったため、すべて人力で行った。東区の精査は9月27日より始めた。

縄文時代の遺構、包含層の調査は、10月27日より、一部平安期遺構の調査と同時平行に調査を進めた。西区の包含層、東区包含層と順次調査を進め、平成6年2月7日には西区で縄文時代前期中葉のBJ－1号住居を検出した。

途中、BH－5号住居出土の鋳型が、特異なものであったため、文化女子大香取忠彦先生、奈良国立博物館坂田宗彦先生等の現地指導をお願いした。

全ての発掘作業が終了したのは、平成6年2月28日で、その後、出土遺物の水洗注記作業を3月25日まで行った。発掘調査参加人員は延べ2,198人、調査面積は2,200㎡であった。

2　基本土層

御殿遺跡の基本土層は、I層表土腐食土、II層黒色土、III層2次堆積ローム質土、IV層淡色黒ボク土、V層褐色土、VI層以下ローム層である。(図4)赤城山南麓地域の一般的な土層堆積を示す。ただし東区の低地部分では、IV層以下のローム層中に礫を含み2次堆積となっている。

遺構の確認面、遺物の出土層位は平安期がI層黒色土からIV層淡色黒ボク土上面、縄文時代の遺構の確認面はV層褐色土からVI層ローム層上面である。縄文時代の包含層はIV層淡色黒ボク土からV層褐色土下面にかけてであり、縄文中期から草創期までの遺物が出土した。包含層内の各時期別の出土傾向は中期の遺物が上位で検出されたほかは、前期前半から草創期の遺物が混在している。縄文時代の出土遺物の層位的な分離は困難であった。

3　検出された遺構

発掘調査によって検出された遺構は、平安時代9軒、掘立柱建物1棟、土壙5基、縄文時代竪穴住居1軒、土壙2基、遺物包含層700㎡であった。

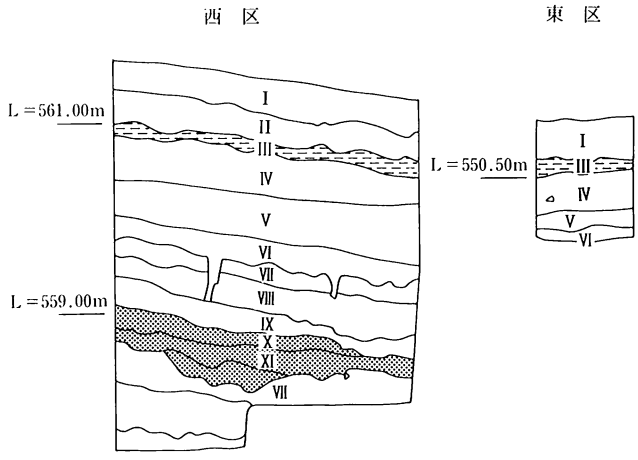


図4　御殿遺跡基本土層図

西区では、尾根頂部及びその周辺から5軒の竪穴住居を検出した。東区では湧水脇の低地から西向き斜面にかけて4軒の竪穴住居を検出した。湧水脇では人工的な造成段が1段認められ、その段上に竪穴住居と掘立柱建物が並立して検出された。また、当該期の土壙5基を検出している。

ＡＨ－１号住居（図８、PL.５・13）

形状　発掘区の最も西に位置している。東西辺長1.94㍍、南北辺長1.64㍍の縦長長方形を呈する。壁は垂直に立ち上がり、確認面からの壁高は0.32㍍である。

面積　3.29㎡　　**方位**　Ｎ－81°－Ｅ

床面　やや軟質である。

竈址　東辺南よりにあり、焼土等は認められなかった。角礫と土師器坏８（図８、PL.13）が出土している。

遺物　灰釉の高台付き椀は埋め土内、土師器坏２点は床面上より出土している。

備考　壁周溝、柱穴、貯蔵穴は検出されなかった。

ＢＨ－１号住居（図９、PL.４・13）

形状　東西辺長2.72㍍、南北辺長3.48㍍の横長長方形を呈する。住居は東向き斜面地に造られているため、壁は西が高く、東が低い。壁高は最も深い部分で0.76㍍である。

面積　8.52㎡　　**方位**　Ｎ－84°－Ｅ

床面　堅い貼り床状である。

竈址　西辺中央やや南よりに少量の焼土と礫がまとまって検出された。焼土、灰層等は認められなかった。

遺物　土師器坏３点、土師器甕１点が出土している。いずれも床面直上のものである。また、試掘調査時に須恵器坏１が出土した。

備考　北辺から北西隅、西辺にかけて僅かに壁周溝が確認された。柱穴は検出されなかった。

ＢＨ－２号住居（図11、PL.４・13）

形状　東西辺長4.48㍍、南北辺長3.36㍍の縦長長方形を呈する。南向き傾斜地に造られているため、壁は北側が最も良く残り、南壁は浅い。壁の立ち上がりは垂直に立ち上がる。壁高は最も深い部分で確認面より0.84㍍である。

面積　13.44㎡　　**方位**　Ｎ－52°－Ｅ

床面　堅い貼り床状である。

竈址　東辺中央に造られている。焚き口に大型礫を用い、竈全体が良く焼けていた。内部から土師器甕14（図11）が出土した。

遺物　須恵器坏２点、須恵器蓋１点、須恵器長頸壺１点、土師器高台付き椀２点、土師甕４点が出土した。また、竈周辺床面から鉄滓が出土した。

備考　壁周溝は北辺、西辺に確認された。北西隅には大型の円礫が２点縦位置におかれていた。貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。

ＢＨ－３号住居（図12、PL.５・13）

形状　西区の尾根頂上部に位置している。ＢＪ－１号住居の一部を切って構築されている。東西辺長2.88㍍で、南北辺の長さは不明であるが横長長方形を呈するものと思われる。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は確認面から0.51㍍である。

面積　7.77㎡　　**方位**　Ｎ－109°－Ｅ

床面　やや軟質である。

竈址　東辺やや南よりに、礫および白色粘土を用いて構築されている。火床面はよく焼けていた。

遺物　須恵器坏２点、皿１点、土師器坏１点、小形甕２点、甕３点が出土している。いずれも床面直上のものである。須恵器坏一括１は試掘時に竈上から出土したものである。

備考　床面には炭化物が認められた。住居埋め土は明瞭な層位をなさず、自然堆積とは考えられない。周溝、柱穴は検出されなかった。

ＢＨ－４号住居（図10、PL.５・13）

形状　西区の南向き斜面地最低位に位置している。東西辺の長さは不明であるが、南北辺長2.84㍍である。全体の形状は不鮮明で、壁は北西隅で立ち上がりをつかめるが、他は不明瞭である。

面積　不明　　**方位**　不明

床面　不明瞭　**竈址**　不明

遺物　須恵器蓋１点が埋め土中より出土している。

備考　貯蔵穴、周溝、柱穴は検出されなかった。一応住居としておく。

ＢＨ－５号住居（図15・16、PL.８・９・14・15・16）

形状　東区の最も西で、湧水に臨み、小規模な造成段上に位置している。１号掘立柱建物に隣接する。東西辺長3.24㍍、南北辺長3.36㍍の横長長方形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は確認面から0.39㍍

である。

面積　9.96㎡　　**方位**　N－106°－E

床面　堅い叩き締め状である。

竈址　東辺やや南よりに竈状の掘り込みがあるが、壁は全く焼けていない。また、焼土層や灰層も認められなかった。土層観察からは2次的な攪乱の可能性も考えられる。但し、焚き口部分には僅かな掘り込みがあり、焼土、灰、木炭片、鋳型片が集中して出土した。鍛冶炉の可能性が考えられる。

遺物　土師器1点、鋳型15点が床面密着の状態で出土した。また、埋め土中から鉄器2点が出土した。

備考　北東隅に人頭大の礫を4個使った囲い状の遺構があった。壁周溝は、北辺に認められた。貯蔵穴、柱穴は検出されなかった。住居埋め土は層理をなさず、人為的に一度に埋められた可能性も考えられる。

ＢＨ－6号住居（図19、PL.9・14）

形状　西向き斜面地に構築される。東斜面、南斜面側の壁のみ明瞭であるが、東側の壁は不明である。また、北側も調査範囲外のため判らない。壁高は東面で確認面から0.95㍍であり、垂直に立ち上がる。造成段とも考えられる。

面積　不明　　**方位**　不明

床面　軟質で不明瞭。

竈址　住居中央に焼土の集中部分が2カ所あった。

遺物　土師器坏1点、高台付き椀3点、甕3点、須恵器椀3点、灰釉長頸壺1点が出土している。また、墨書の書かれた坏3点がいずれも破片で出土している。遺物はいずれも床面より浮いた状態で出土した。

備考　東壁より0.7㍍離れ、浅い壁周溝が確認できた。周溝は幅0.36㍍、深さ0.15㍍程で、この周溝を境として住居の床面に0.2㍍程の段差をもっている。柱穴は明瞭なものは検出されなかったが、中央に浅いピットが検出された。

ＢＨ－7号住居（図17・18、PL.11・14）

形状　西向き斜面地に構築されている。東西辺長2.5㍍、南北辺長3.56㍍の不整長方形を呈する。壁は東側で明瞭で、垂直に立ち上がる。壁高は1.6㍍である。

面積　11.88㎡　　**方位**　N－83.5°－E

床面　堅い叩き締め状である。

竈址　東辺中央やや南側に礫及び白色粘土を用いて構築される。内部は赤く焼けていた。

遺物　土師器高台付き椀1点、甕8点、小型高台付き甕1点、須恵器坏1点、椀7点が出土している。いずれも竈内及び床面直上のものである。

備考　住居中央に直径1㍍程の円形の炭化物の集中箇所が検出された。炭化物の厚さは薄く、遺存状態も悪く、編み物等の識別は不可能であった。貯蔵穴、周溝、柱穴は検出されなかった。

Ｂ区1号掘立柱建物（図14、PL.10）

形状　東区の湧水に臨み、幅4㍍程の平場を作出している。斜面地と平場では0.3㍍前後の段差があり、段差は南に行くに従い低くなる。ＢＨ－5号住居の北に隣接している。方3間の掘立柱建物跡と考えられるが柱間等不明瞭である。柱間はPitＡ－Ｃ間3.76㍍、Ｃ－Ｄ間3.94㍍、Ｄ－Ｆ間2.92㍍、Ｆ－Ａ間4.16㍍である。

同一平坦面に、掘立柱建物と竪穴住居とが隣接して併存する例は宇通遺跡東尾根上地区にある。

遺物　掘立柱建物内の埋め土中から土師器坏1点、甕2点、須恵器坏1点、椀1点が出土している。

備考　中央には直径0.8㍍程で、焼土、炭化物、白色粘土等の集中する部分があった。

ＢＨ－1号土壙（図21、PL.12）

形状　東区の南平坦面にある。1号掘立柱建物が立つ、平坦面より1段上位の面にあたる。平面形は上面ではやや摺鉢状に開き、上面での直径は1.8㍍程、下面では1.2㍍程の円形を呈する。確認面までの深さは、最も深い部分で0.43㍍である。床面は堅く叩き締め状である。遺物は全く出土しなかった。

備考　埋め土中には浅間Ｂ軽石が認められ、底面には、炭化物、焼土塊が認められた。

ＢＨ－2号土壙（図21、PL.12）

形状　東区の南平坦面にある。1号土壙に北に位置する。直径1㍍程の円形で、深さは確認面から0.31㍍である。遺物の出土はなかった。

備考　埋め土中には多量の炭化物を含んでいた。

ＢＨ－3号土壙（図21、PL.12）

形状　東区の最も低い湧水に落ち込む西向き斜面にある。5号住居の南にあたる。長軸1.37㍍、短軸0.68㍍の楕円形で、深さは確認面から0.55㍍である。遺物の出土はなかった。

備考　埋め土中には炭化物、焼土を多く含んでいた。

ＢＨ－4号土壙（図21、PL.12）

形状　東区の最も低い湧水に落ち込む西向き斜面にある。3号土壙の北にあたる。長軸1.62㍍、短軸1.18㍍の楕円形で、深さは確認面から0.56㍍である。遺物の出土はなかった。

備考　埋め土中には炭化物、焼土を多く含んでいた。

ＢＨ－５号土壙（図21、PL.12）

形状　東区の最も低い湧水に落ち込む西向き斜面にある。１号掘立柱建物の西にあたる。直径0.9㍍程の円形で、深さは確認面から0.30㍍である。遺物の出土はなかった。

備考　埋め土中には多量に炭化物を含んでいた。

東区１号溝（図13、PL.３）

形状　西区の東端の斜面に検出された。発掘前は浅い凹地で、山へ入る道となっており、道の東は傾斜が急に強くなっていた。地形的に不自然であったため、トレンチを打ったところ、人工的な溝が検出された。

検出された溝は、発掘区の北端から始まり、南に延び、発掘区南端で谷に向かって東に直角に折れる。断面形は箱薬研状で上幅2.6～3.9㍍、下幅0.28～1.0㍍、深さ1.20～1.80㍍である。溝の東端は僅かな平坦面がありそこで止まる。

遺物　埋め土中から土師器片、縄文土器片が混在して出土した。

備考　埋め土中には、浅間Ｂ軽石（As-B）純層は確認できなかった。しかし、埋め土中に含まれるテフラ分析は行わなかった。そのため、溝の構築時期について、積極的にAs-B以降とはいえず、時期不明としておく。

V　縄文時代の遺構と遺物

西区、尾根頂上部に竪穴住居１軒、同東向き斜面で２基の土壙を検出した。

ＢＪ－１号住居（図22・23、PL.６・17・18）

形状　ＢＨ－３号住居に一部を切られている。東西辺長2.48㍍、南北辺長5.14㍍の長台形を呈する。壁は垂直に立ち上がり、壁高は0.37㍍である。

面積　19.54㎡　　**方位**　N－64°－W

床面　堅い叩き締め状である。

炉址　北中央に長軸0.64㍍、短軸0.53㍍の地床炉で、石皿（図23－７）が立位で据えられていた。焼土はあまり顕著ではない。

遺物　出土遺物は少なく、床面に貼り付いた状態で、（図22－１・４・６・10）が出土した。また、石器は大型削器（図23－２）等が壁に密着の状態で出土した。

備考　住居東壁に土壙が１基検出された。土壙は直径0.62㍍の円形で、深さは0.24㍍であった。上面に人頭大の安山岩礫が入っていた。また、住居中央の、埋め土中、床面より15㌢程浮いた位置で、厚さ３㌢程の焼土層が確認された。周溝、柱穴は検出されなかった。本住居の時期は、出土遺物が少ないが、床面出土の遺物から本遺跡Ⅷ群土器、縄文時代前期後半の黒浜式期にあたる。

ＢＪ－１号土壙（図24、PL.７）

形状　西区の東向き斜面で、湧水の沢へと落ち込んでいく落ち際に検出された。ＢＪ－２号土壙と並んで検出された。長軸長1.10㍍、短軸長0.9㍍の不正円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、深さは、確認面か0.3㍍である。

遺物　埋め土中より縄文土器の細片が出土した。また、土壙の確認面の上は厚い縄文早・前期の包含層となっており、図28－８等の土器が土壙の確認面上面から出土している。

ＢＪ－２号土壙（図24、PL.７）

形状　西区の東向き斜面で、湧水の沢へと落ち込んでいく落ち際に検出された。ＢＪ－１号土壙の東に並んで検出された。平面形は長軸長0.94㍍、短軸長0.9㍍の不正円形である。壁は僅かにオーバーハングする。深さは、確認面から0.43㍍である。

遺物　埋め土中より縄文土器の細片が出土した。

ＢＪ－１，２号土壙の所属時期は、埋め土の状態や上面の包含層の状態から縄文時代前期後半以前のものと考えられる。

VI　包含層出土の遺物

縄文時代の包含層は、西区は、Bmno-２～５グリットを中心とする範囲と、東区では、Bop-17～20グリットを中心とする範囲とに分けられる。この他に西区Ａグリットで若干の遺物の出土をみた。

西区の包含層中から出土した遺物総点数1,042点、その内土器811点、石器は231点である。土器811点の内、縄文以外の土器点数は76点である。

東区では、遺物総点数1,057点、その内土器821点、石器は236点である。土器821点の内、縄文以外の土器点数は271点である。

1　土器

東西両区の包含層から出土した縄文土器を、文様を基準として分類するとⅠ～Ⅸ群に分けられる。

Ⅰ群　草創期終末期撚糸文系土器群
Ⅱ群　早期前半擦痕文系土器群
Ⅲ群　早期前半押形文系土器群
Ⅳ群　早期前半沈線文系土器群
Ⅴ群　早期条痕文系土器群
Ⅵ群　早期縄文系土器群
Ⅶ群　早期終末～前期前半繊維縄文系土器群
Ⅷ群　前期後半竹管文系土器群
Ⅸ群　中期土器群

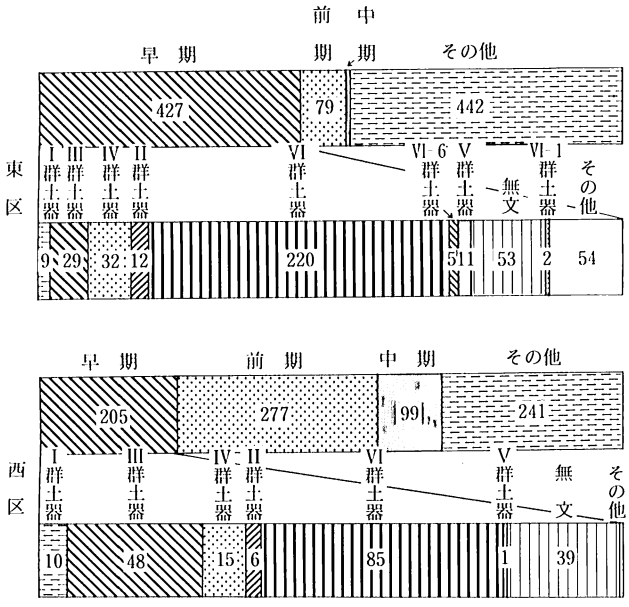


表１　包含層出土土層時期別内訳表

東西両区の包含層出土の縄文土器1,285点の時期別の内訳は表１のようである。

Ⅰ群　草創期終末期撚糸文系土器群（図25―１・２、図33―１～９、PL.19・30）

東西区合わせて10点が出土した。西区図25―１はほぼ完形に推定復元できた。文様は施文が浅く、口縁部周辺にわずかに縦方向の細かな条痕様の文様が施文される。一部に節が見えることから、原体Ｒが巻かれた単軸絡条体第１類を回転させずに引きずった絡条体条痕文の土器と考えられる。

推定器高22.3㌢、口径19.8㌢で砲弾形の器形を持ち、底部は小さな乳頭状の尖底となる。器壁は比較的薄く、外面は丁寧に調整されているが、内面の調整は粗く、全体にゴツゴツした感がある。胎土には、輝石、片岩片等の混入が認められる。

図25―２は、口縁部端部で僅かに外反し、口唇部は角頭状となる。原体ＲＬの縄文が横位に胴部、口唇端部に施文される。内外面共に丁寧な調整が施されるが、内面に引っ掻き傷状の擦痕がある。胎土には金雲母片、輝石等を含む。

東区図33―１は、口縁部破片で、口唇部は僅かに外反する。原体は単軸絡条体第１類で原体１段Ｒが巻かれる。赤褐色で内面は調整が粗い。

同図―２は太い原体ＲＬを縦位に施文する。胎土は砂粒、輝石、長石を多く含み、内面は黒色で調整は粗くザラザラした感がある。

同図―３・４は条間が広く、節が粗大な縄文が施文される。原体はＲＬが用いられる。胎土、焼成、裏面の調整ともに２によく似る。

同図―５は節間の広い、粗大な原体Ｒを用いた単軸絡条体第１類が施文される。胎土は砂質で内面の調整は粗い。

同図―６は原体Ｒを用いた単軸絡条体第１類である。胎土は精製され、赤褐色で内面は丁寧に調整される。

同図―７・８は口縁部に沈線を１条巡らせるもので、胴部は無文となる。口唇端部は丸い。７の胎土には片岩や赤褐色の鉱物粒を多量に含む。

同図―９は丸底状の尖底部である。水晶粒、雲母粒を含む。

II群　早期前半擦痕文系土器群（図26—24～27、図34—23～36、PL.19・34）

東西区合わせて28点が出土した。西区図23—24～27、東区図34—23～36は、いずれも外面に横方向のハケで掃いたような擦痕がみとめられ、内面は丁寧に調整される。他の文様は認められない。胎土も共通で、長石、輝石等を多く含む。

III群　早期前半押形文系土器群（図25—3～35、図26—1～21、図33—10～37、図34—1～17、PL.20・21・32・33）

東西区合わせて96点が出土しているが、ほとんど山形押形文が施文されたもので、3点のみ格子目押形文が施文されたものが出土した。楕円押形文は1点もない。

図25—3、図33—10は口縁部に横位施文その下に縦位に山形押形文が施されたものである。

図33—11は縦位施文は空白部を持つ帯状施文となる。内面にも同様な施文が行われる。

図25—3は空白部を持たず、密接施文となる。

同図4～6、図33—12は口縁部から縦位のみの帯状施文となる。

図25—8、図33—13～17は横位の帯状施文となる。

図26—19～21は格子目の押形文の施文されたものである。同図19、20は列点状の格子目、21は規則的な斜格子である。

胎土は精製され、輝石や片岩等を含み堅緻なものと、砂粒を多く含み、軟質なものとがある。色調も、赤褐色系と淡褐色系とに分かれる。

IV群　早期前半沈線文系土器群（図26—29～43、図27—1～3、図35、図36—1～27　PL.22・31・35・36）

沈線で平行線や斜線が施文されるものと、平行沈線やその間にペン先状に尖った竹管状の工具を用いて列点や連続爪形文様の文様、あるいは貝殻腹縁文が充填されるものがある。沈線の太さも太いものと、細く繊細なものとに2分される。胎土は精製され、輝石や長石（白色鉱物粒）を含むものが多い。黒色鉱物粒（角閃石か）を含むものもある。繊維は含まない。色調は、赤褐色系のものと淡黄褐色系のものとがある。

図35—1は胴部中位の大型破片で、下部はやや太いへら状工具による間隔の空くざっくりした押し引き状の沈線が充填される。その上位に細い沈線で平行線が3条程施文され、右上がりの平行斜線が引かれる。裏面は丁寧に調整されている。胎土には長石粒や輝石を多く含む。太い平行沈線の施文や胎土は45・46と共通する。

図35—2～10・15～30は細い沈線で平行線が数条描かれるものである。

図35—2～6は数条の平行沈線の下に沈線による平行斜線を交互に交差させている。

同図19も同様な文様構成を採るが、沈線が太く、平行斜線が綾杉状になる。

同図6は平行沈線を数条引きその上から平行沈線を垂下させている。口縁部は角頭状で小さな突起を持つ。

同図5は浅い平行沈線を垂下させている。小型の土器である。

同図12は平行沈線に端部の丸い棒状工具による列点が充填されるもので波状口縁となる。

同図13・14も波状口縁となるが文様はへら状工具による連続爪形文や連続刺突文が施文される。同図11は口唇部にも刺突が施される。

図26—37・38、図36—12は平行線間に貝殻腹縁文を充填したものである。図26—29は細かな条痕文の地文の上に貝殻腹縁による沈線が施文され、口唇端部裏面には貝殻復縁の押さえ痕が残る。

図36—27は乳房状の尖底部破片である。表面は丁寧なミガキが施され、胎土は精選され、輝石を含む。図27—1・2は同一個体と思われる。器形は口縁部が外反し、胴上半部に屈曲を持つ。文様は、浅い条痕文を地文として、細書き沈線と円形刺突、屈曲部にヘラ状工具による連続刺突、その下部に、平行沈線で弧線を描きヘラ状工具による連続刺突文を充填している。IV群としたがVI群3類土器に分類される可能性もある。

V群　早期縄文系土器群

1類　表裏縄文施文土器（図26—22・23、図34—19～22　PL.19・31）

図26—22・23は内外面に縄文が施文される土器で、口縁部の内外面と口唇部に縄文が施文される。

図26—22は内外面で撚りのことなる縄文原体が使われる。外面LR、口唇及び内面はRLとなる。

図34—19は縦位の帯状施文となる。やはり内外面ことなる原体で施文される、外面はR1、内面Lr

図26—23は外面は口唇直下に無文帯を設け、その下にLRの縄文を施文し、内面には口唇直下からLRの

縄文を1段施文している。

口縁部形態は、図26—22は、角頭状となるが、図34—19は肥厚する。胎土には繊維を含まない。

図34—20～22は胴部破片である。内外面共にＬＲの縄文が施文される。

Ⅵ群　早期条痕文系土器群（図27—４～24、図36—28～34、図37・38、PL.23・24・37～42）

１類　微隆起線文が斜行するもの（図36—28・29）

東区で２点出土している。条痕文は施文されず、微隆起線のみが施されるものである。胎土には繊維を含まない。29は小型の土器である。

２類　刺突文を持つもの（図36—30～34）

地文として条痕文を持つもの31～34と持たないもの30とに２分できる。

図36—30は口唇部にヘラ状工具によるハの字状の刻みを持ち、口唇直下から３～４段の刺突文を巡らす。刺突は、草本類の茎を用いたものか。胎土には片岩、チャート片、長石片を多く含み、獣毛状の繊維を含んでいる。

同図31～34は同一個体か。条痕文を地文とし、そのうえに、２本１単位の刺突が口唇部直下より７段以上にわたって横走して施文される。口唇部にはヘラ状工具による刻み目をもち、ゆるやかな波状口縁となることも考えられる。胎土には片岩、チャート、長石片と金雲母粒を含む。

３類　微隆起線と円形刺突を持つもの（図27—４、図37—１～６）

内外面に条痕文が施され、その上に微隆起線が斜行あるいは横走し、その微隆起線上に円形刺突文が施文される。胴部には屈曲を持つ。口唇部前面に刻み目を持つもの（図37—１・２）や口唇部中央が凹面となるもの（図37—３・４）がある。

５類　太い沈線による曲線が施文されるもの（図27—５）

１点のみ出土している。外面にのみやや粗い条痕文が施されそのうえに太い平行沈線で曲線を描く。胎土は精選され、繊維等の雑入物を含まない。焼成も良好である。

６類　絡条体圧痕文土器（図37—20・21）

図34—21は、胴部破片である。絡条体が２段にわたって横位の施文される。内面には条痕が施される。胎土には繊維を僅かに含み、白色、半透明鉱物粒を多く含む。

同図20は、口唇から口縁部にかけて、斜位に絡条体を押し付ける。口縁部は外反する。内面にのみ条痕を施すが調整は粗い。繊維を僅かに含む。

図24—７は、口唇及び口縁部直下に絡条体を施す。口縁部は直線的に開く。内面の調整は粗い。胎土には繊維は含まない。

７類　条痕文のみ施されるもの（図27—６～24、図37—19、図38・39—１～４）

図37—19は、口唇から口縁端部に櫛状工具の圧痕あるいは短い絡条体を斜位に施文し、以下胴部には細かい条痕文を施す。内面には口縁部にのみ条痕文を施す。口縁部はゆるやかな波状を成す。胎土には繊維を僅かに含む。

図37—７～18は、口縁部破片である。

同図７・８は口唇内面を削ぎ、内斜となる特徴的な口縁部を持つ。

胴部破片では、文様に着目した場合は、粗くざっくりした条痕文のものと条線状で細く細かいものとに分類される。また、施文方法に着目した場合では、外面のみ施すものと内外面ともに施文するものとに分けられる。さらに、胎土での分類では繊維を含むものと含まないもの、片岩片を含むものと含まないもの等に分類できる。

Ⅶ群　早期終末～前期前半繊維縄文系土器群（図28—１～23、図29—１～28、図39—５～18　PL.25～28・42・43上）

条痕文系土器から関山式までを一群とした。条痕文土器については、Ⅵ群土器の胴部破片の一部は、Ⅶ群となる可能性もある。

図28—4は、底部破片である。内外面及び底部外面底面に条痕文を施す。底部は小さな上げ底となり、胴下半部が丸みを帯びる。胎土には繊維を多く含む。

図39—５・６は、貝殻背面圧痕文をもつもの。胎土には繊維を多く含む。

図28—７は、尖底部破片である。ＲＬの縄文を羽状に全面に施す。胎土には繊維を多く含む。

同図５・６は縄文が縦位施文された特徴的な土器である。縄文原体は０段多条のＲＬを用いている。胎土には多量の繊維を含む。

（図28—８～23、図29—１～28、図39—８～18）は関山式土器を一括した。いずれも胎土には繊維を含む。

粘土瘤の貼付文を持つものは東西区で各１点ずつ出土している。

図28—10は胴上半部の破片で、縦長の粘土瘤を貼る。

図39—９はコンパス文の上に円形の粘土瘤を貼付する。

図28—８は胴部下部の大型破片で、全面に組紐を施文し、半裁竹管による平行沈線で連続山形文を上下２～３段全周させている。

同図11～23は口縁部に半裁竹管による山形文や菱形文を施文する。

同図11は平行沈線と円形竹管文を施す。

同図９は波状口縁で胴中央に竹管による連続縦線を全周させる。

図29—28はＬＲの原体を向後に施文することによって菱形の文様を作り出している。また、原体の端が区画文のような効果を出している。

Ⅷ群　前期後半竹管文系土器群(図39—19～18、PL.43下)

黒浜式土器から諸磯、浮島式までをⅧ群とした。

出土点数は少ない。

図39—21は半裁竹管による連続爪形文を施文したもの。

同図34～36は貝殻腹縁による連続鋸歯文を施したもの。

Ⅸ群　中期土器群（図29—29～36、図30・図39—25、39～41、PL.29・31）

中期前半の結節をもつ縄文を縦位に施文したものが東区で３点出土している。胎土には金雲母を含んでいる。(図36—25・39・40)

他は、勝坂、加曾利Ｅ式土器である。総て、西区からの出土である。

2　石器

西区では48点、東区では52点の石器が出土したが、その内２点が剥片、砕片類である。２次加工のある剥片を含めて石器と考えられるものは、総て図示した。石器の出土層位は、基本層序第Ⅳ層であり、一部には表採されたものも含んでいる。

石鏃６点（図31—１・２、図40—１～４）、石錐２点（図31—３、図40—６）、石匙１点（図31—６）、ピエス・エスキーユ７点（図31—８～14）等さまざまな石器がまんべんなく出土している。(表２)特徴的な石器の出土は無い。削器類の出土が多く、スタンプ形石器は認められない。

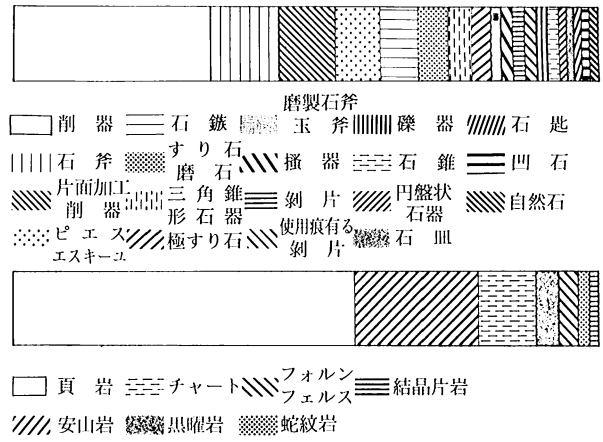


表２　包含層出土石器組成表

VII まとめ

御殿遺跡の調査では、平安時代の遺構と縄文時代の包含層等が検出され多くの遺物が出土した。その中で縄文時代の包含層の遺物分布について触れ、さらに特筆される「鐃」の鋳型の問題や御殿遺跡の平安集落の成立の問題にふれてまとめとしたい。

1　縄文時代包含層内の遺物分布について

遺物の分布は谷よりの緩斜面地に集中する。(図６)西区で最も遺物の出土が多いBm•m－４グリットは、急傾斜地にあって僅かに傾斜がゆるくなる部分である。東区では沢よりの最も平坦な部分に集中する。また、そこは、包含層が最も厚く残る場所でもある。遺物の出土量は、包含層の厚さに比例する。しかし、時期別にみると必ずしも包含層の層厚とは関係がない。(図４)なぜなら、西区では、前期・中期の遺物を比較的多く出土しているのに対して、東区には中期の遺物は１点のみであり、前期の土器も少ない。時期を異にして遺跡の選地傾向に差異があることが分かる。

最も出土点数の多い早期の土器は、細別ごとの分布をみても明瞭に分布を異にする細別土器の傾向は伺えない。また、包含層内の層位的な細分は不可能であった。いずれにしても、本遺跡の早期土器群は、赤城山南麓の山地地域における縄文時代早期土器群の好例と言えよう。

2　ＢＨ－５号住居出土の鋳型について

住居床面からまとまって出土した鋳型は、雑密系の法具「鐃」の鋳型である。鋳型をもとに、出土した鋳型がすべて同一個体であるという前提で、原型を推定復元したものが図５である。管見する限りでは現存する「鐃」には同范のものは見当たらない。男体山山頂遺跡出土[注1]の一群の「鐃」を古式とし、茨城県新治村出土鋳型を新式とすると、古式と新式の中間形式とも思われる。ただし、御殿遺跡ＢＨ－５号住居出土の鋳型はその共伴遺物から考えて、９世紀中葉から後半の年代が与えられよう。

ＢＨ－５号住居の鋳型は住居竈状遺構前の直径0.6㍍前後の浅い掘り込み及びその周辺から床面密着あるいは一部が床面にめり込む状態で出土した。浅い掘り込み内には炭化物、焼土等が多く認めら、床面も焼けて赤化していた。ただし、鉄滓は全く出土しなかった。銅滓は極小片が１点のみ認められた。鋳型はよく焼けており、湯道の周辺には胎土が熱のため発泡した部分もある。以上のことより、一応、ＢＨ－５号住居は小規模ながら炉を持った、鍛冶遺構としてとらえられよう。

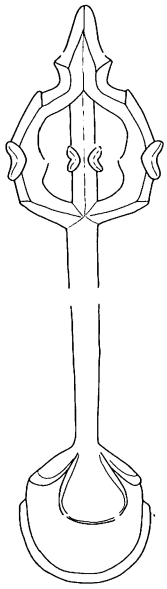


図５　御殿遺跡出土『鐃』推定復元図

ところで、これまでの密教法具の鋳型の出土例をみると、寺院跡との密接な関係が指摘される[注2]。ただし、法具関連の鋳型を出土した遺跡はあまり多くはない。薩摩国分寺跡他数例報告されている。最近の例をみると、徳島県大浦遺跡では錫杖や金剛杵などの密教法具の鋳型がまとまって出土している[注3]。また、群馬県では高崎市西島遺跡群５号住居から三鈷杵の鋳型が出土している[注4]。いずれも、近接する地域あるいは遺構が寺域やそれに想定される地域内にある。高崎市西島遺跡群出土例は、新保廃寺が想定されている寺域内にある[注5]。また、茨城県新治郡新治村の「鐃」鋳型が採集されている藤沢地区も、古代末の寺院跡の密集地である。特に、この地域は「東国の化主」とよばれる、徳一開基の伝承を持つ寺の多い地域でもある。

法具の鋳型出土遺構と寺院あるいは何らかの宗教施設とは密接な関連があることが伺える。御殿遺跡例も

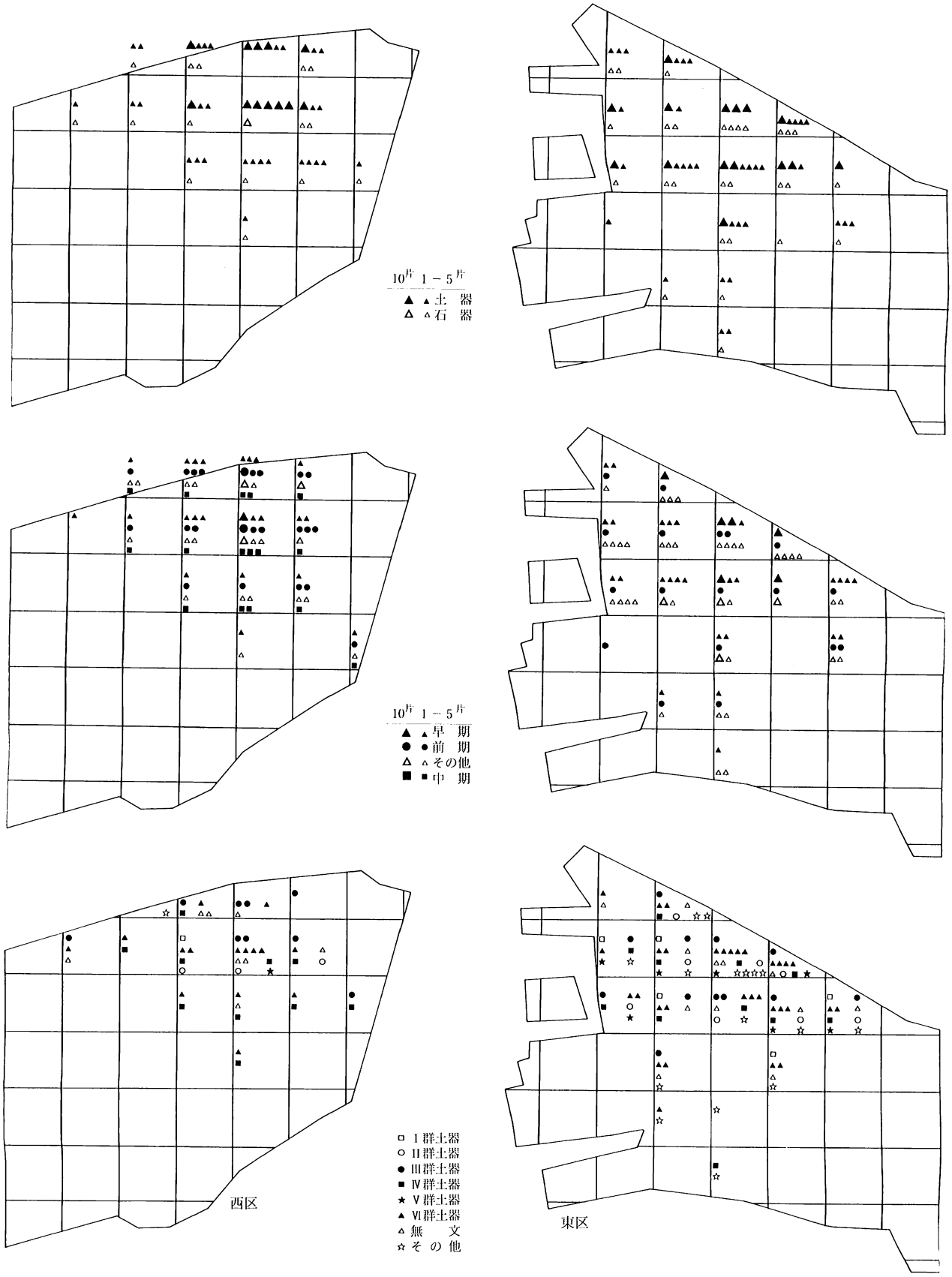


図6　御殿遺跡遺物包含層遺物出土概念図

隣接する今泉家裏礎石群や、北方500㍍にある宇通遺跡との関係を十分考慮する必要がある。

また、「鐃」が雑部密教に係る法具であり、男体山山頂遺跡から、まとまって6本の出土例を見ている。男体山は「勝道上人」開山の伝承を持ち、赤城山もまた「勝道上人」開山の伝承を持つ。そして、赤城山南麓地域や片品地方に残る伝説や説話の中にも日光男体山と赤城山との関わりを説くものがある。[注6]「鐃」をめぐる問題は、赤城山信仰の成立という問題とも密接に関わりを持っている。今後の研究の課題である。

3　山間地平安時代集落の成立
―サトとオクヤマの間―

御殿遺跡では縄文時代草創期末から中期までの遺構と遺物、平安時代前期の竪穴住居が検出された。縄文時代中期以降平安時代までの遺構は全く存在しない。伝統集落地域とは異なる第二次新開集落地域の遺跡といえる。

検出された平安時代の7軒の竪穴住居は、その出土遺物から、総て9世紀後半代（坂口編年IXX段階）[注7]に位置付けすることができる。また、竪穴住居の形態は、5住・6住を除いて、一般的な竪穴住居である。そこから、出土した遺物も5住の特殊な遺物（鋳型）を除けばごく一般な出土遺物であるといえる。御殿遺跡は、時間的に限定されるものの一般的な平安時代集落ということができる。また、御殿遺跡は、赤城山南麓の山間僻地、急斜面地という特殊な地理環境に立地する。しかし、遺跡の立地を詳細に見た場合、現在ではシクラメン団地の造成により大きく改変されてはいるが、広い湿地帯が開ける場所であったという。それは、近世末にはじまる中之沢の歴史のなかで最初に入植がなされるのがこの御殿湯の口の地であったことからも伺える。御殿遺跡の立地する環境は、豊富な湧水を背景として、南に湿地が開けている地形であり、水田耕作が可能な地域であるといえる。翻って、赤城山南麓の標高500㍍以上の地域を概観した場合、最も水田耕作に適した地に立地していると言えよう。明かに、御殿遺跡の平安時代の集落は、水田耕作を指向している。

赤城山南麓の山麓地域の開発の過程は、すでに、新里村や粕川村の遺跡の詳細分布調査の成果から考察が加えられている。[注8]それは、この地域の弥生時代から、古墳時代、奈良・平安時代へ至る遺跡の分布を見た場合、時代が下がるにしたがって、遺跡数の増加傾向と遺跡の分布の高標高地、山間地への拡大傾向が看取できる。しかも、その高標高地・山間地への遺跡進出地は、必ず、水田可耕地を指向している。御殿遺跡もその好例として捉えられよう。しかし、反面、山間地―すなわちここでは赤城山の高標高、山間僻地―への集落の拡大は、伝統集落地域のそれが面的な拡大とするならば、点的な拡散であるともいえる。また、水田耕作が不可能な場所に立地する遺跡も存在する。（図3）

かつて、能登は水田耕作を背景とした里棲み集落地域とは別に、畠作を背景とした山棲み集落地域があることを明かにし、それぞれの地域には「サト」と「サト」の延長としての「ヤマ」―「サトヤマ」―と、それとは隔絶された空間としての「オクヤマ」という2つの「ヤマ」の概念を提示した。赤城山南麓地域は、サトとサトの延長、外縁部としてのサトヤマに該当するとされた。また、赤城山南麓地域に多く分布する大型炭窯に着目し、サトのおける第2次新開集落が地域特性を活かして、新たな産業を定着させていくとともに、山間地の産業を規定して行ったともした。[注9]

粕川村地域では7世紀後半代には、深津三ケ尻西遺跡に代表されるたたら製鉄が開始される。また、8世紀以降のタタラ製鉄址が赤城山南麓地域には多く分布する。同様にタタラ製鉄と不離の関係にある大型炭窯の分布も濃厚である。宮城村では標高370㍍に位置する芳見沢遺跡で、9世紀中葉の大型炭窯が2基検出されている。[注10]ここに、新たなヤマの開発が指向された要因の一つが考えられる。

今のところ、赤城山南麓山間地への進出は、9世紀中葉を溯らない。それは、これまで、粕川村や宮城村の標高350㍍以上で確認されている15箇所の遺跡の出土遺物から明らかである。弥生時代以降省みられなかった赤城山南麓の高標高山間地への進出が9世紀中葉を契機として積極的に開始され始めることとなる。

また、一方では、前述した現象として「鐃」の鋳型や宇通遺跡として現れてくる山岳仏教の台頭という社会状況とも呼応していることも考えられる。平安新仏教と奈良仏教との確執の中、各地に山岳修行の山や寺院が開かれて行く。特に、赤城山南麓地域では、サトヤマの拡大と、宗教的なタケとしてのヤマの開発とが合致し、その結果、宇通遺跡や御殿遺跡が成立することとなるのではないだろうか。これらの現象はまた、能登が指摘するような9世紀代の集落の小規模化や、10世紀後半における竪穴住居の消失などの一連の古代

集落の変質に係わる問題[注11]をも内包していよう。今後の赤城山南麓の高標高山間地遺跡の調査の進展に期待がもたれる。

注１　「日光男体山」山頂遺跡発掘調査報告書
　　昭和３８年　日光二荒山神社
注２　杉山　洋「寺院付属の金属関係工房－梵鐘及び金属工房など」　仏教美術148号
注３　山　典　滝山雄一「徳島県大浦遺跡」
　　日本考古学年報38号　1987
注４　西島遺跡群（IV）　高崎市文化財報告書第76集　高崎市教育委員会　1987
注５　大江正行「新保田中村前遺跡出土瓦の検討」　新保田中村前遺跡III　1993
　　㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団
注６　勢多郡誌　勢多郡誌刊行会1958年
注７　坂口　一「奈良平安時代の土器編年―住居の重複と共伴関係による土器型式組列の検討」
　　群馬県史研究24　1986
注８　能登健他「新里村の遺跡」新里村教育委員会　1984
　　能登健他「粕川村の遺跡」粕川村教育委員会　1985
　　能登健他「赤城山南麓における遺跡群研究」
　　信濃35―４　1983
注９　峯岸遺跡―里棲み集落の発掘調査―
　　新里村教育委員会　1985
　　能登健他「ヤマ棲み集落の出現とその背景」　信濃37―４
　　1985　４月
　　能登健「新田町誌第４巻」　1984
注10　宮城村教育委員会　細野高伯氏教示
注11　注９に同じ

挿　　図

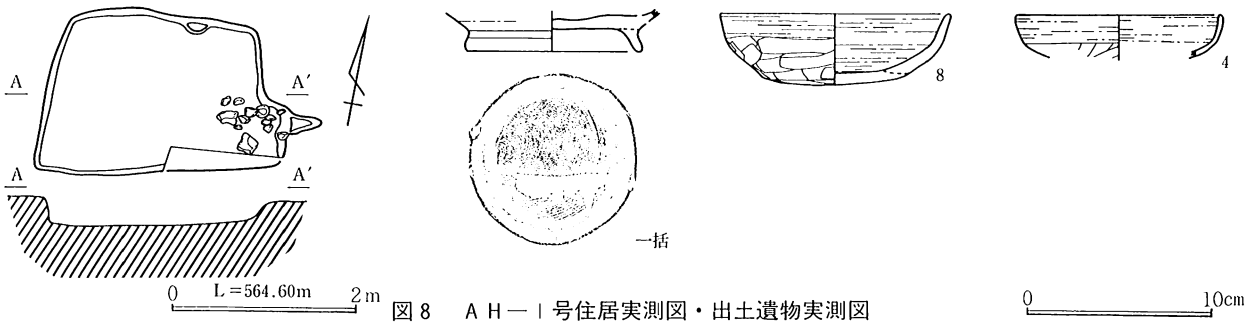
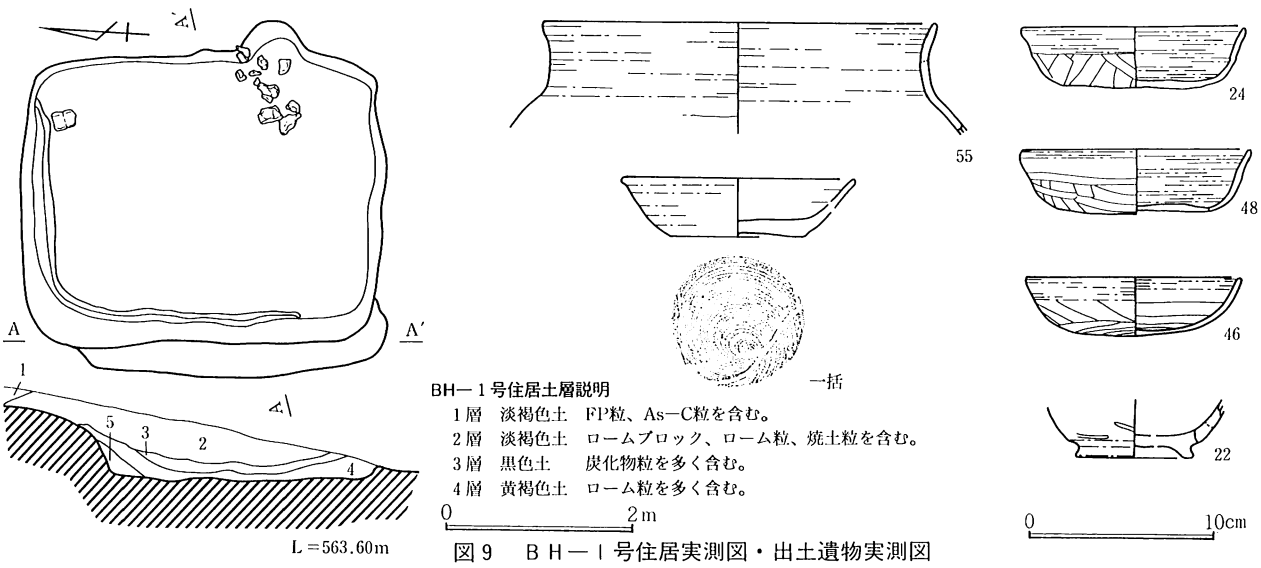


図８　ＡＨ－１号住居実測図・出土遺物実測図



BH－１号住居土層説明

1層　淡褐色土　FP粒、As－C粒を含む。
2層　淡褐色土　ロームブロック、ローム粒、焼土粒を含む。
3層　黒色土　炭化物粒を多く含む。
4層　黄褐色土　ローム粒を多く含む。

図９　ＢＨ－１号住居実測図・出土遺物実測図

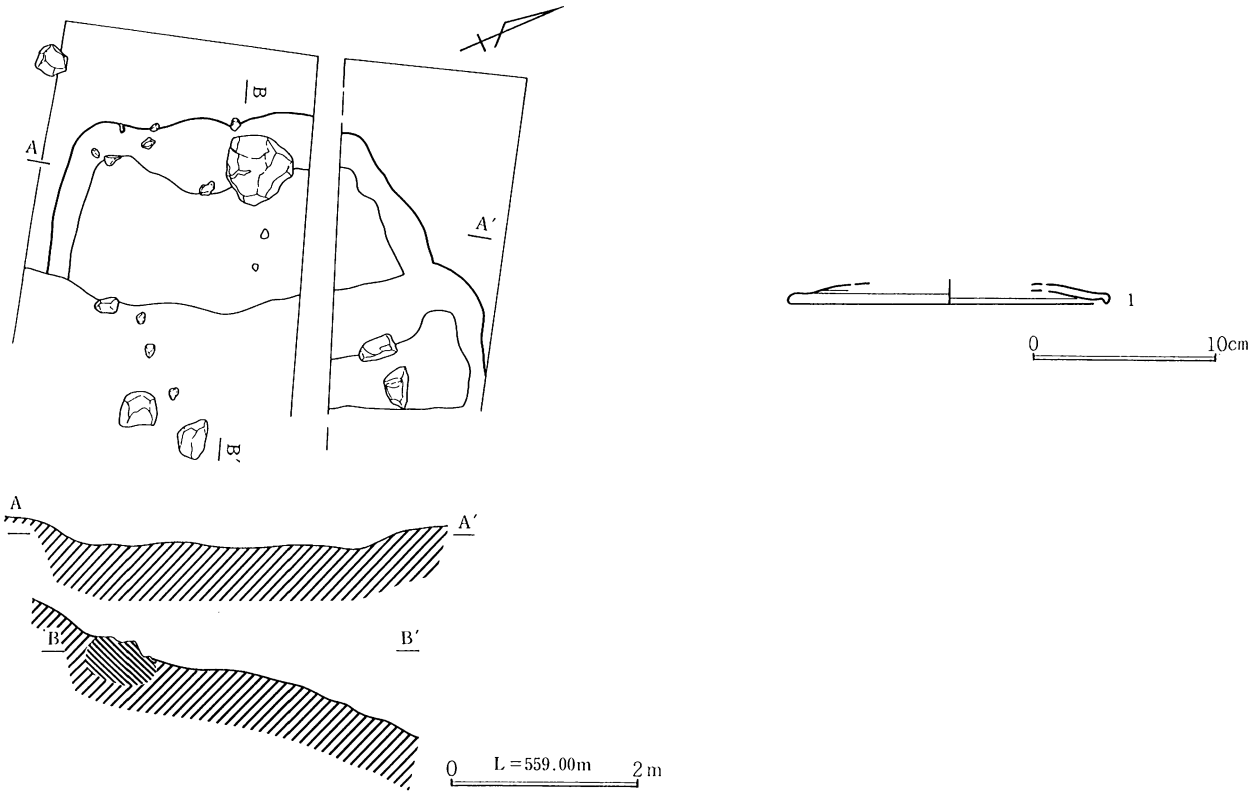


図10　ＢＨ－４号住居実測図・出土遺物実測図

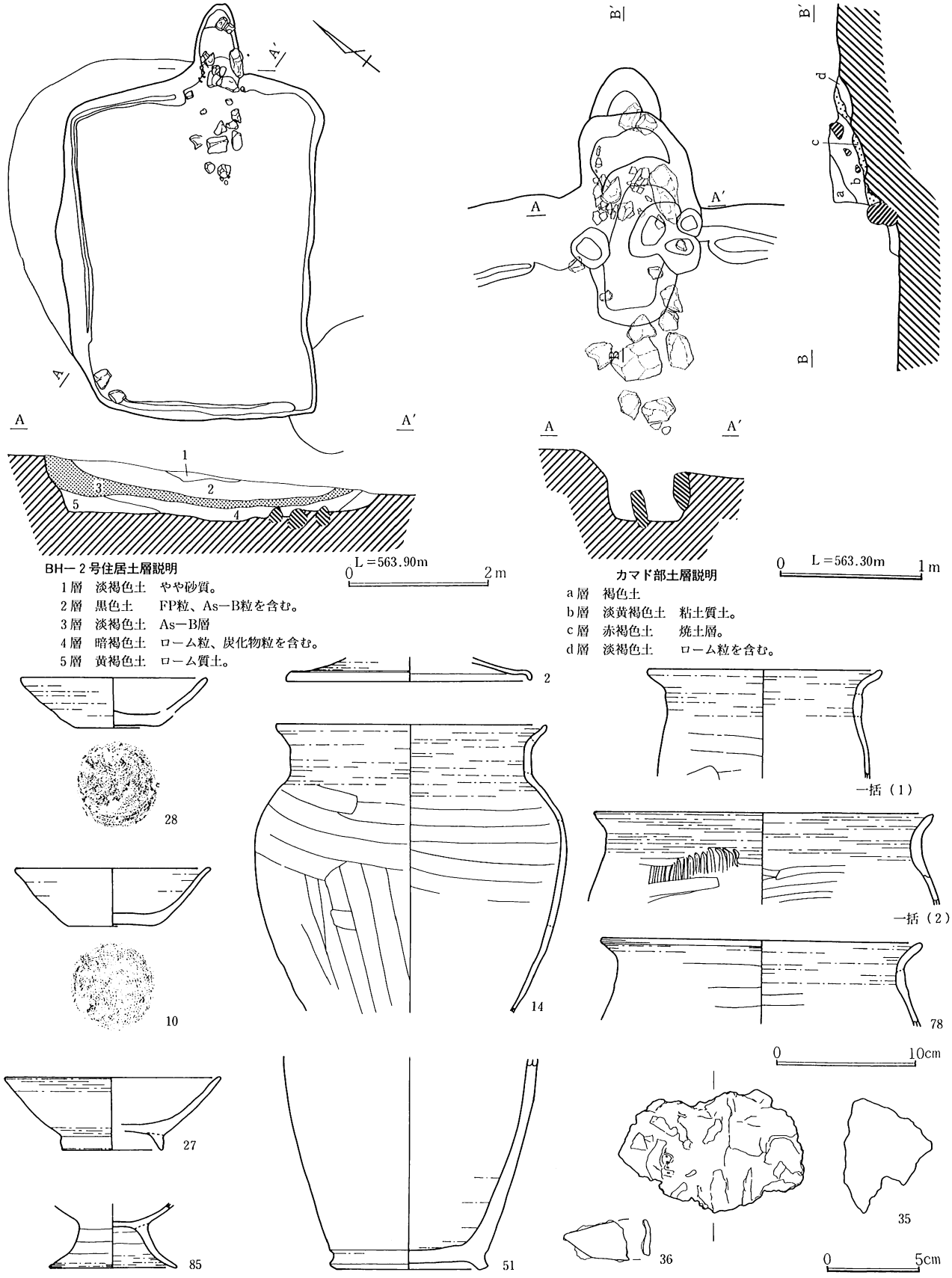
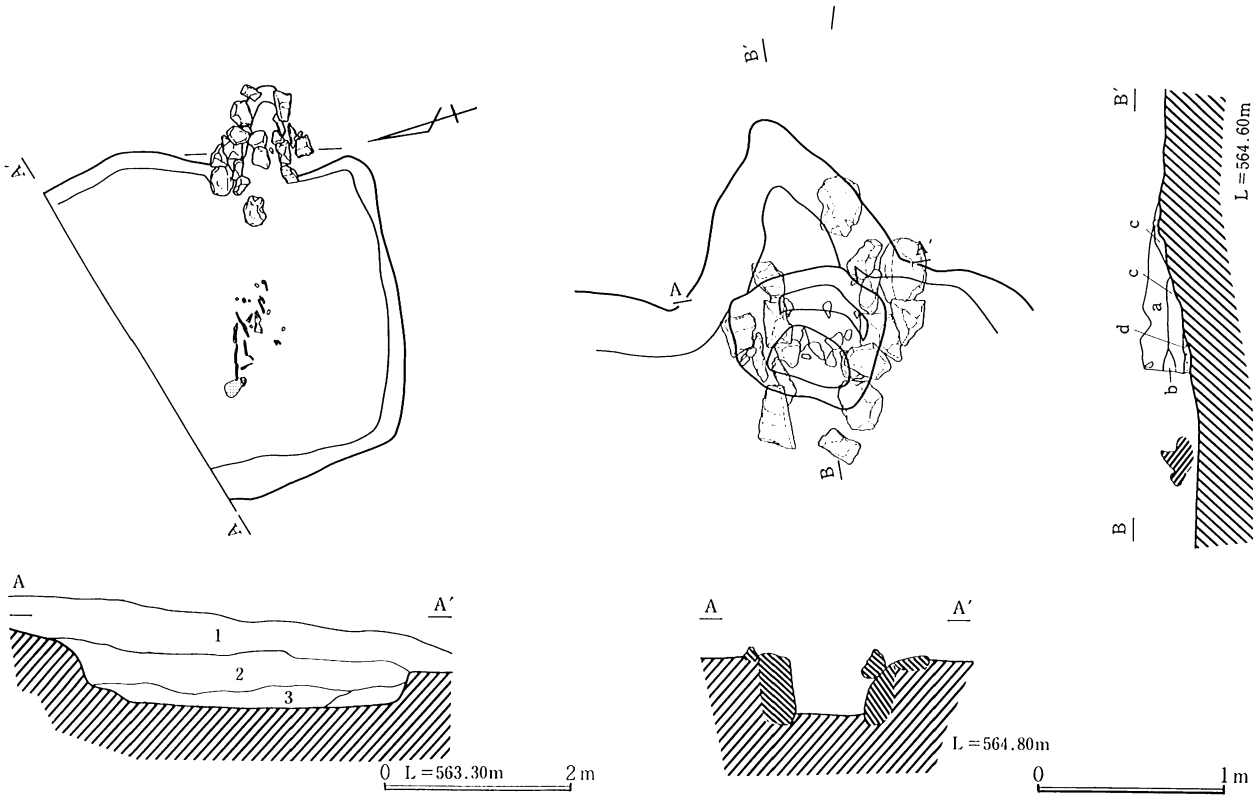


図11　ＢＨ－２号住居実測図・出土遺物実測図



BH－3号住居土層説明

1層　暗褐色土　表土層
2層　淡褐色土　ロームブロック、ローム粒、炭化物粒を多く含む。
3層　褐色土　炭化物を多く含む。

カマド部土層説明

a層　褐色土
b層　淡褐色土　焼土粒、炭化物粒を含む。
c層　淡黄褐色土　焼土粒、炭化物粒を含む。
d層　赤褐色土　焼土層

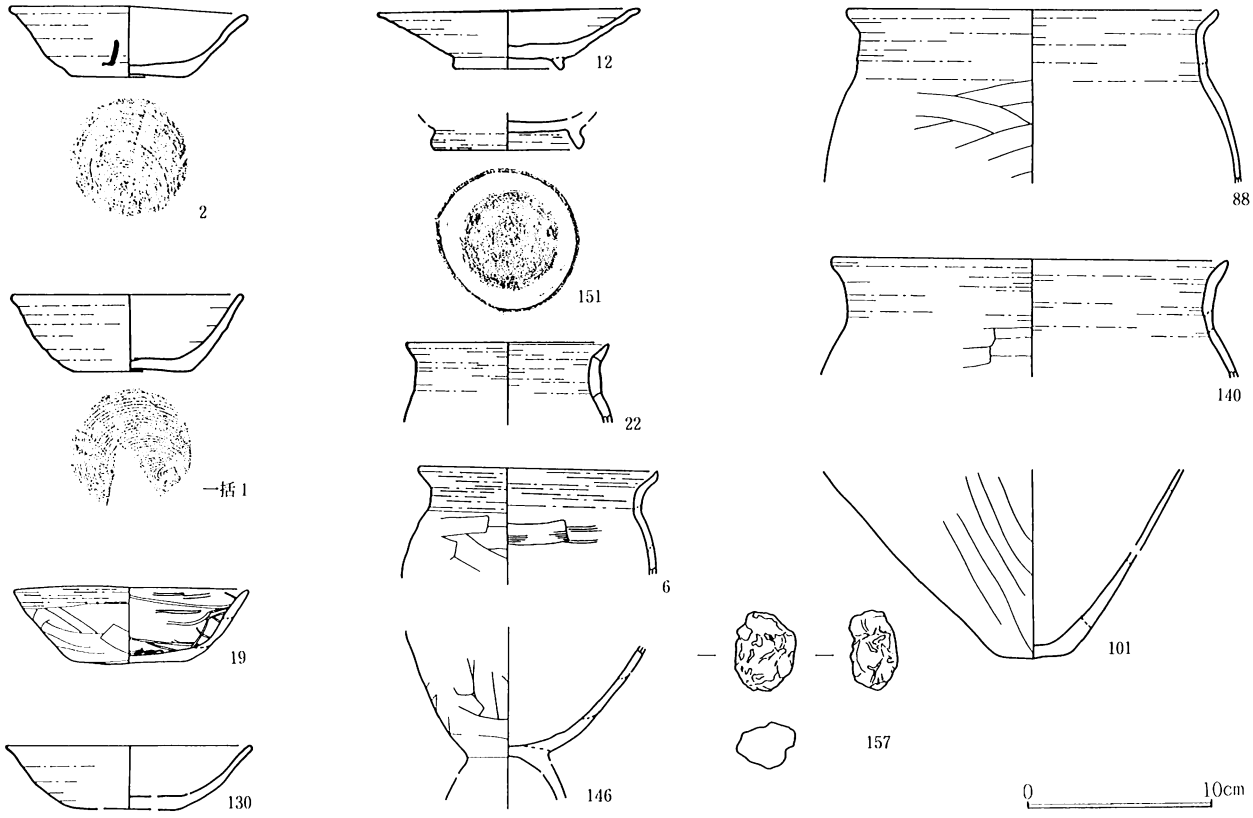


図12　ＢＨ－３号住居実測図・出土遺物実測図

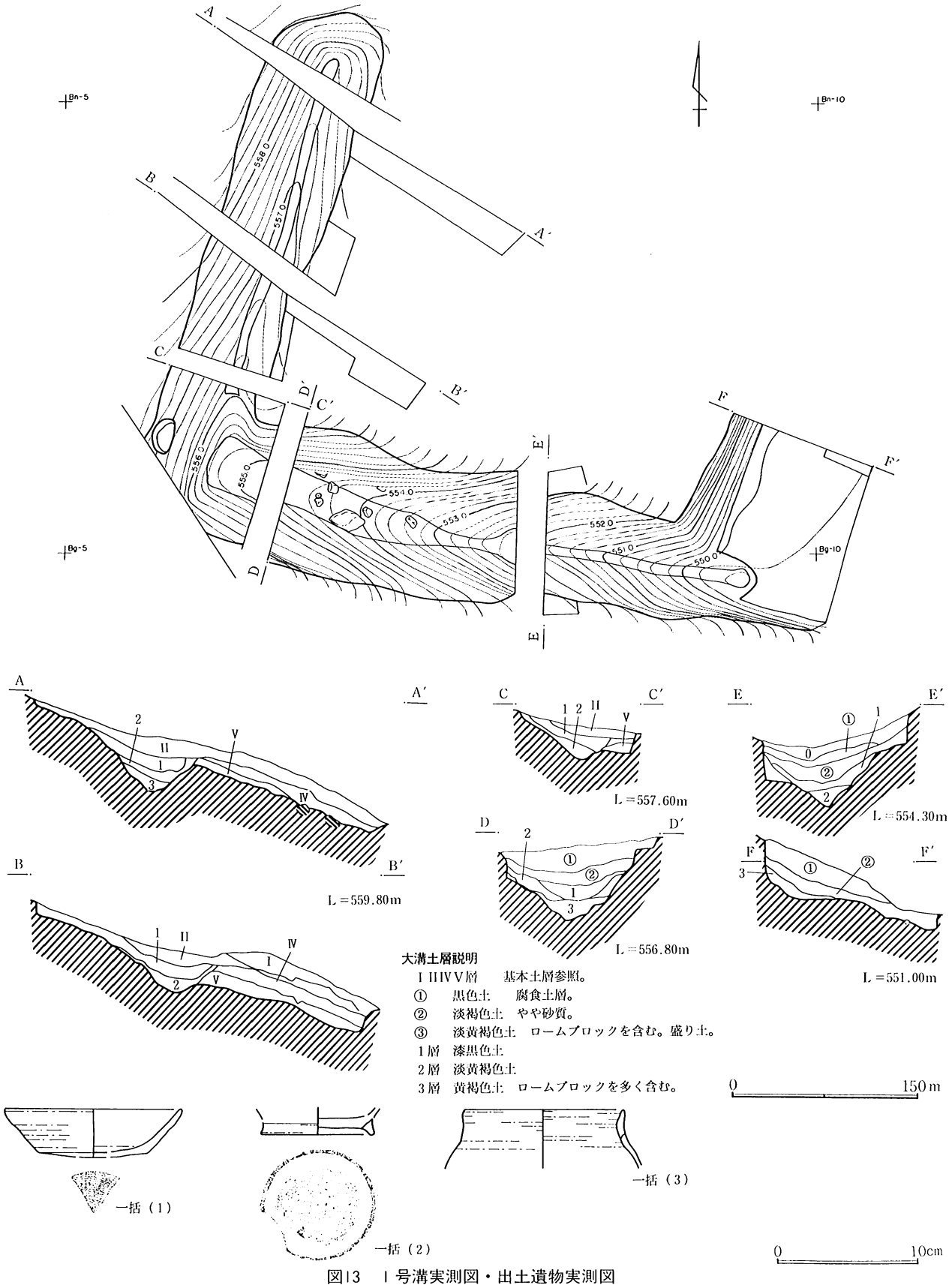


図13　Ⅰ号溝実測図・出土遺物実測図

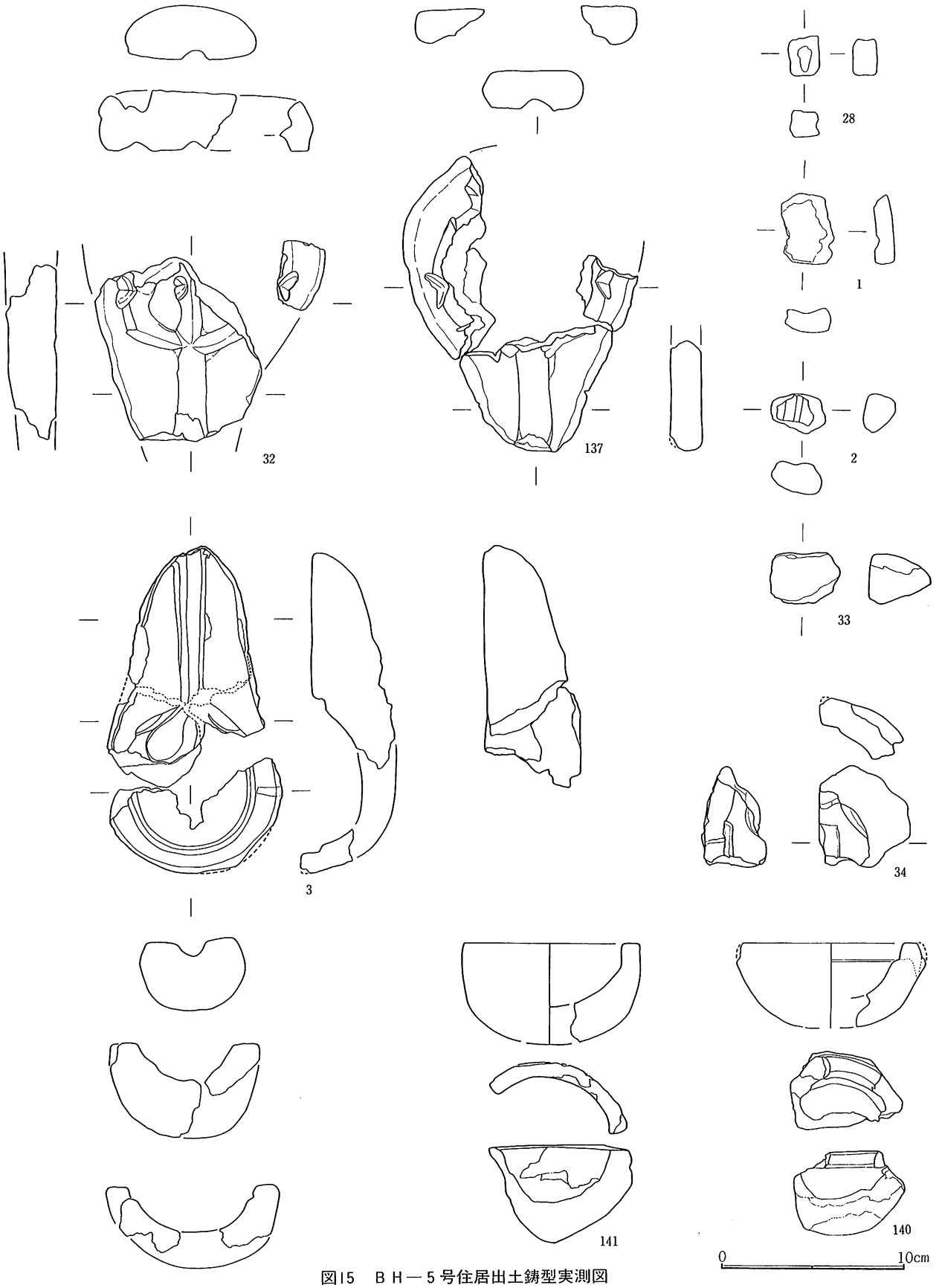
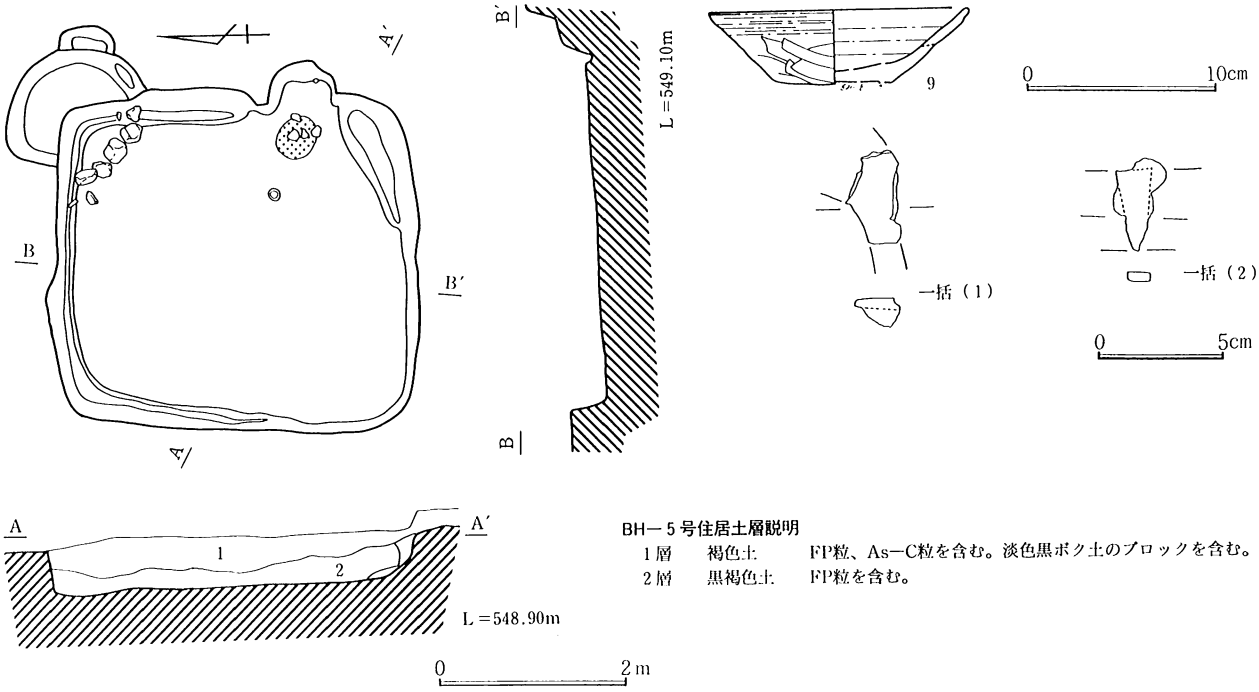


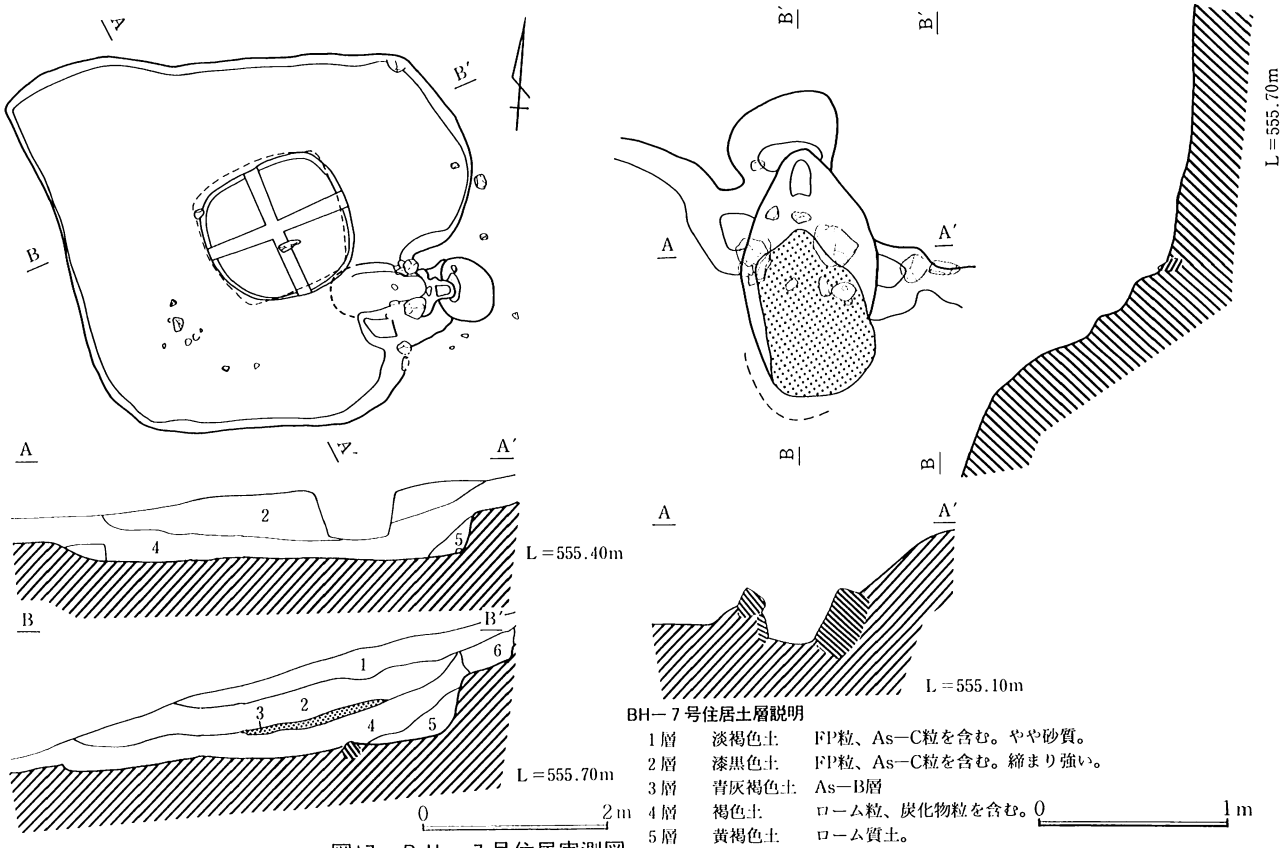
図15　ＢＨ－５号住居出土鋳型実測図



BH－5号住居土層説明

1層	褐色土	FP粒、As－C粒を含む。淡色黒ボク土のブロックを含む。
2層	黒褐色土	FP粒を含む。

図16　ＢＨ－５号住居実測図・出土遺物実測図



BH－7号住居土層説明

1層	淡褐色土	FP粒、As－C粒を含む。やや砂質。
2層	漆黒色土	FP粒、As－C粒を含む。締まり強い。
3層	青灰褐色土	As－B層
4層	褐色土	ローム粒、炭化物粒を含む。
5層	黄褐色土	ローム質土。
6層	黄色土	ロームブロック。

図17　ＢＨ－７号住居実測図

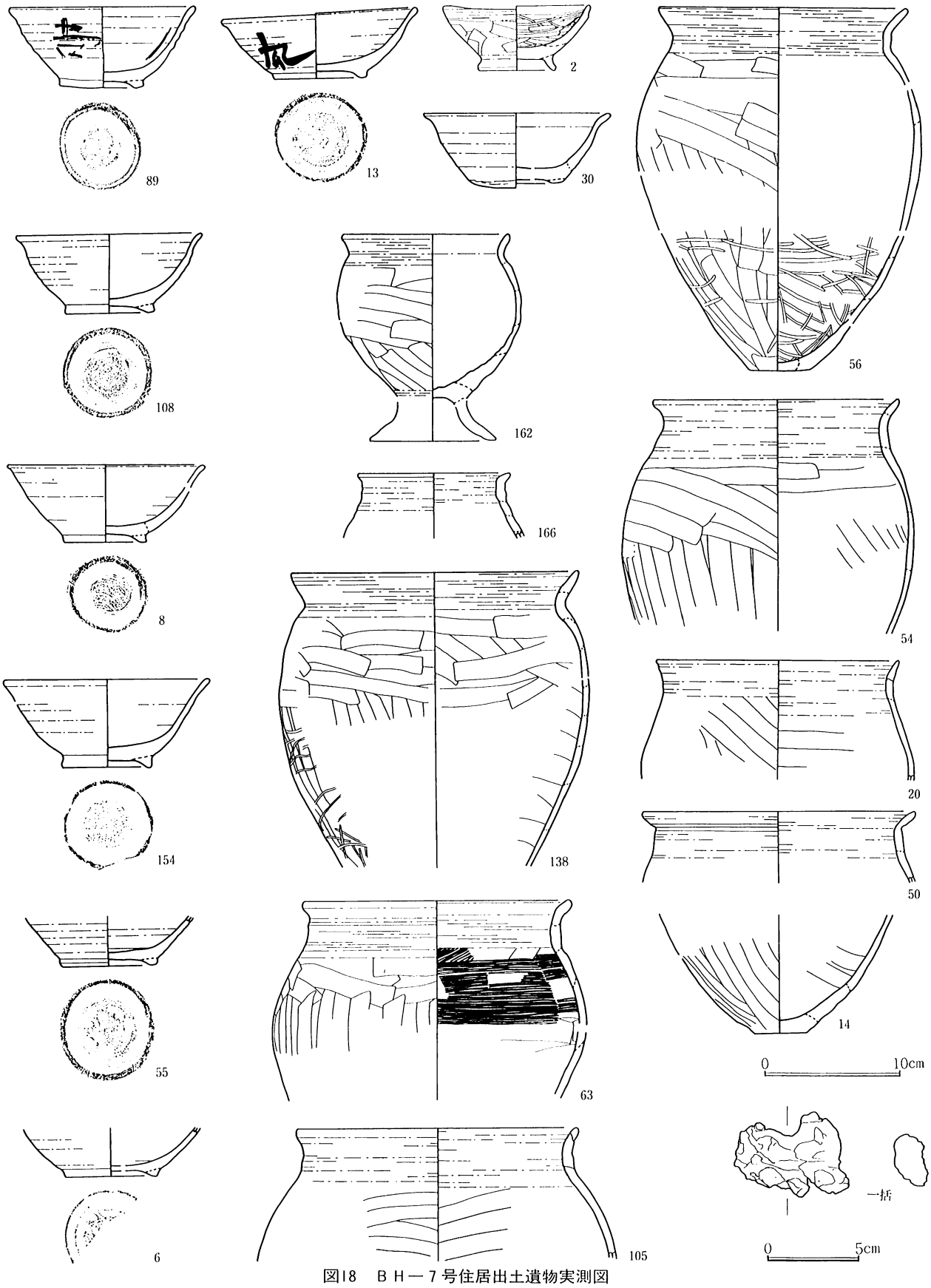


図18　ＢＨ－７号住居出土遺物実測図

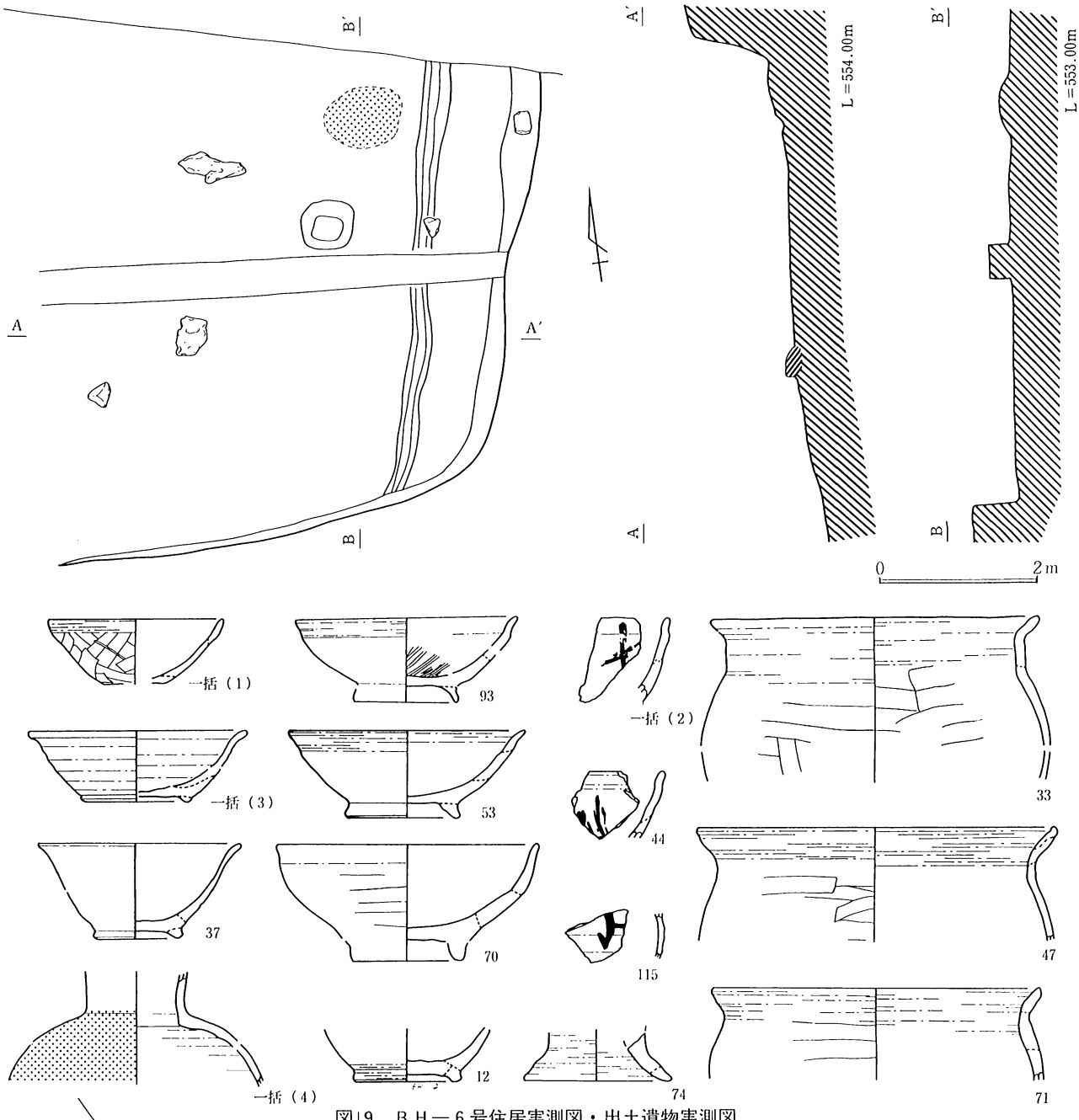


図19　ＢＨ－６号住居実測図・出土遺物実測図

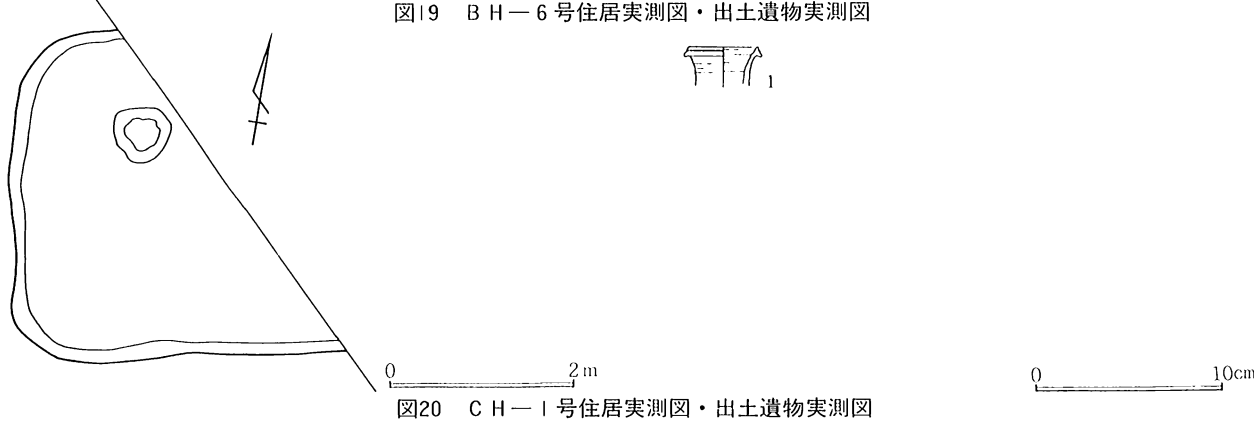


図20　ＣＨ－１号住居実測図・出土遺物実測図

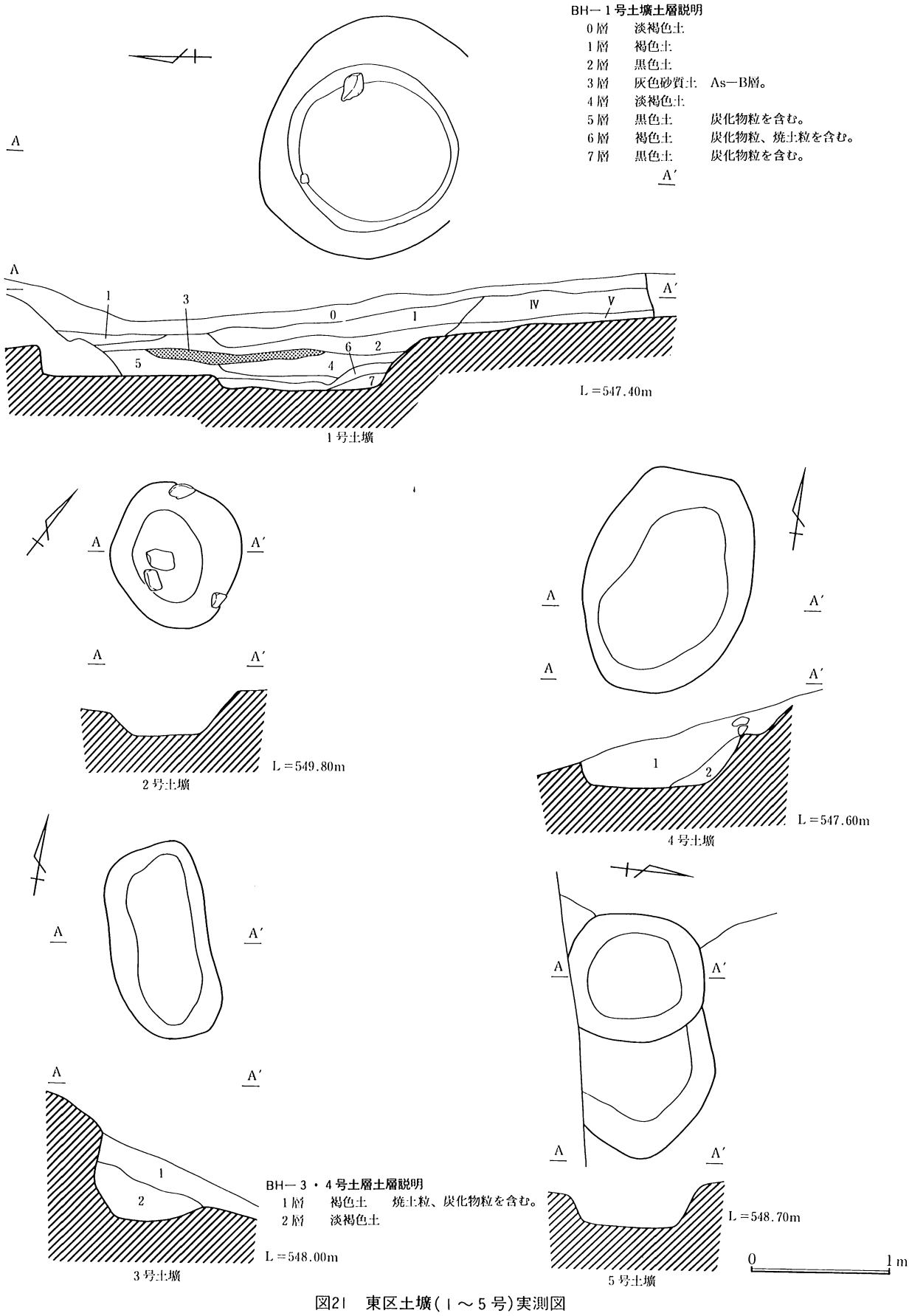


図21　東区土壙(1～5号)実測図

AH－1号住居出土遺物観察表（図8、PL.13）

番号	器　形	法　量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考⑥出土状態
一括	高台付き椀 (灰釉)	9.1	ロクロ成型。底部回転糸切りの後付け高台。	ロクロ成型。	ロクロ成型。	①7.5Y8/1灰白②還元③底部のみ④精製⑤黒斑有り。やや軟質。⑥床面
8	坏	3.7 12.05 7.2	底部は平底風の丸底胴部は緩やかに内湾口縁部は短く直立。	底部、胴部手持ちヘラ削り。 口縁部ヨコ撫で。	ヨコ撫で。	①7.5YR6/6橙②酸化③完形④精製⑥床面竈部
4	坏	(10.8)	口縁部は短く直立。	口縁部ヨコ撫で。胴部ヘラ削り。	ヨコ撫で。	①7.5YR6/4にぶい橙②酸化③口縁部の一部のみ④精製⑥埋め土内

BH－1号住居出土遺物観察表（図9、PL.13）

番号	器　形	法　量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考⑥出土状態
55	甕	(20.8)	コの字口縁。口唇部は外反。	口縁部ヨコ撫で。胴部ヘラ撫で。	ヨコ撫で。	①2.5Y6/3にぶい橙②酸化③口縁部に一部④精製。砂粒を含む⑥床面
24	坏	3.2 12.0 9.3	底部は平底。口縁部は胴部より直線的に開く。	口縁部ヨコ撫で。胴部撫で。底部ヘラ削り。	ヨコ撫で。	①5YR7/4にぶい橙②酸化③2/3④精製。砂粒を含む⑥床面
48	坏	3.3 12.4 8.35	底部は平底。口縁部は胴部より直線的に開く。	口縁部ヨコ撫で。胴部撫で。底部ヘラ削り。	ヨコ撫で。	①7.5YR6/6橙②酸化③2/3④精製。輝石を含む。⑤内面黒色か⑥床面
46	坏	3.0 11.5 8.5	底部は平底状の丸底胴部はやや内湾ぎみに、口縁部は開く。	口縁部ヨコ撫で。胴部撫で。底部ヘラ削りの後撫で。	ヨコ撫で。	①7.5Y5/3にぶい褐②酸化③完形④精製。輝石を含む⑤内面に墨書か⑥床面
22	高台付き椀	3.0 11.5 8.5	高台部は短く、外に張る。	高台部張り付け。胴部ヘラ撫で。	撫で。	①2.5Y7/2灰黄②酸化③底部1/3④精製。砂粒を含む⑥埋め土
一括1	坏(転用硯) (須恵器)	3.0 (12.4) 7.1	底部回転糸切り。口縁部は直線的に開き口唇部は僅かに肥厚	ロクロ成型。	ロクロ成型。底部に光沢。	①2.5Y4/1黄灰②還元③1/2④白色鉱物粒を含む⑤内面底部に朱墨残存か⑥埋め土

BH－4号住居出土遺物観察表（図10）

番号	器　形	法　量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考⑥出土状態
1	蓋 (須恵器)	(17.0)	縁部は短く折れる。	ロクロ成型。	ロクロ成型。	①5Y8/1灰白②還元③縁部の一部のみ④砂粒を含む⑥埋め土内

BH－2号住居出土遺物観察表（図11、PL.13）

番号	器　形	法　量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考⑥出土状態
28	坏 (須恵器)	3.5 (13.2) 6.0	口縁部は直線的に開く。底部回転糸切り	ロクロ成型。	ロクロ成型。	①7.5YR8/4浅黄橙②酸化③2/3④砂粒を含む⑥床面
10	坏 (須恵器)	4.0 13.8 4.4	口縁部は直線的に開き、口唇部は僅か外反。底部回転糸切り	ロクロ成型。	ロクロ成型。	①2.5Y7/2灰黄②還元③一部欠損④砂粒を含む⑤内外面に黒斑⑥床面
27	高台付き椀	(5.1) (15.2) (7.2)	口縁部は直線的に開く。底部付け高台。	底部、胴部ヘラ削り。 口縁部ヨコ撫で。	ヘラ研き。黒色処理	①5YR6/4にぶい橙②酸化③1/3④砂粒を含む⑤内面黒色⑥

番号	器　形	法　量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考⑥出土状態
2	蓋 (須恵器)	(17.4)	縁部は丸みを帯び、短く屈曲する。	ロクロ成型。	ロクロ成型。	①5Y7/1灰白②還元③口縁の一部のみ④精製⑥
85	小形台付甕	(9.0)	高台部はハの字状に開く。	高台部ヨコ撫で。	撫で。	①5YR7/6橙②酸化③高台部2/3④精製⑥
14	甕	(19.0)	最大径を肩部に持つ口縁部はコの字状。口唇は外反し肥厚。	口縁部ヨコ撫で。胴部ヘラ撫で状の削り	ヨコ撫で。	①2.5YR6/6橙②酸化③1/2④精製。輝石を含む⑥竈煙道部
51	瓶 (須恵器)	(11.2)		ロクロ成型。	ロクロ成型。	①5Y7/1灰白②還元③底部1/2④石英粒を含む⑥
一括1	甕	(16.4)	口縁部はコの字状。	口縁部ヨコ撫で。胴部ヘラ削り。	ヨコ撫で。	①5YR7/4にぶい橙②酸化③口縁部の一部④精製。輝石を含む⑥竈内一括
一括2	甕	(23.8)	コの字状口縁。	口縁部ヨコ撫で。胴部ヘラ削り。	ヨコ撫で。	①7.5YR7/4にぶい橙②酸化③口縁部の一部④精製⑥竈内一括
78	甕	(22.6)	コの字状口縁。	口縁部ヨコ撫で。胴部ヘラ削り。	ヨコ撫で。	①2.5YR6/6橙②酸化③口縁部の一部④精製⑥
35	鉄滓					
36	鉄器		鎌の一部か			

BH－3号住居出土遺物観察表(図12、PL.13)

番号	器　形	法　量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考⑥出土状態
2	坏 (須恵器)	3.7 12.7 6.5	底部回転糸切り。口唇部は僅かに肥厚。	ロクロ成型。	ロクロ成型。	①5Y8/2灰白②還元③4/5④砂粒を含む⑤外面に墨書。内外面に黒斑。⑥床面
一括1	坏 (須恵器)	4.1 12.4 6.4	底部回転糸切り。胴部は僅かに内湾。	ロクロ成型。	ロクロ成型。	①7.5Y7/1灰白②還元③2/3④精製⑤内外面にタール状の炭化物⑥竈部一括
19	坏	3.9 12.35 6.25	口縁部は直線的に開く。	口縁部ヨコ撫で、指頭圧痕。胴部、底部ヘラ削り。	ヨコ撫で。	①5YR7/6橙②酸化③完形④精製。砂粒を含む⑤底部に黒斑⑥床面
130	坏 (須恵器)	3.3 (13.0) (6.0)	口唇部は僅かに外反する。	ロクロ成型。	ロクロ成型。	①2.5Y8/2灰白②還元③1/4④精製⑤内外面に黒斑⑥
12	高台付き皿	3.2 13.7 5.6	底部より直線的に開く。口唇部は肥厚。	ロクロ成型。	ロクロ成型。	①2.5Y8/2灰白②酸化③3/4④砂粒を含む⑤底部内面に黒斑⑥床面
151	高台付き椀 (灰釉)	8.0	高台部は大きく、外側は大きく張出す。	ロクロ成型。	ロクロ成型。	①5Y8/1灰白②還元③底部④精製⑤底部周辺打欠⑥床面
22	甕	(10.5)	コの字状口縁。口唇端部は外傾。	口縁部ヨコ撫で。胴部ヘラ削り。	ヨコ撫で。	①5YR5/3にぶい赤褐②酸化③口縁部の一部④精製⑥
6	小型台付甕	(12.5)	コの字状口縁。口唇端部は短く、外傾。	口縁部ヨコ撫で。胴部ヘラ削り。	口縁部ヨコ撫で。頸部にハケ目。	①5YR7/4にぶい橙②酸化③口縁部のみ④精製⑤146と同一個体か⑥

番号	器　形	法　量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考⑥出土状態
146	小型台付甕			ヘラ削り。		①5YR7/4にぶい橙②酸化③底部のみ④精製⑤6と同一個体か⑥
88	甕	(19.8)	コの字状口縁。口唇部外傾。	口縁部ヨコ撫で。胴部ヘラ削り。	撫で。	①2.5YR5/6明赤褐②酸化③口縁部1/5④精製⑥
140	甕	(21.6)	コの字状口縁。	口縁部ヨコ撫で。胴部ヘラ削り。	撫で。	①5YR7/6橙②酸化③口縁部2/5④精製。砂粒を含む⑥
101	甕	3.8	底部は小さく、胴部直線的に立ち上がる	底部ヘラ削り。		①5YR7/6橙②酸化③底部のみ④精製⑤外面にタール状の付着物⑥
157	粘土塊		焼けた粘土塊。			①7.5YR8/6浅黄橙②酸化③完形④精製⑥

B区大溝出土遺物観察表(図13)

番号	器　形	法　量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考⑥出土状態
一括1	坏 (須恵器)	(3.5) (12.4) (7.6)	口縁部は直線的に開く。	ロクロ成型。底部回転ヘラ削り。	ロクロ成型。	①2.5Y6/1黄灰②還元③1/5④精製⑥埋め土
一括2	高台付き椀 (須恵器)	(7.9)		ロクロ成型。	ロクロ成型。	①2.5Y7/3浅黄②還元③底部のみ④砂粒を含む⑤器面の荒れ顕著⑥埋め土
一括3	甕	(11.4)	コの字状口縁。	撫で。	撫で。	①5YR6/6橙②酸化③口縁部の一部のみ④精製⑥埋め土

BH－5号住居周辺(1号掘立柱建物)出土遺物観察表(図14)

番号	器　形	法　量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考⑥出土状態
41	坏 (須恵器)	3.8 (12.0) (5.8)	底部回転糸切り。胴部は僅かに内湾し口唇部は短く外反。	ロクロ成型。	ロクロ成型。	①5Y7/1灰白②還元③1/3④精製。砂粒を含む⑥
48	高台付き椀 (須恵器)	6.1	底部は回転糸切りの後付け高台。高台部は丸みを帯びる。	ロクロ成型。	ロクロ成型。	①2.5Y7/3浅黄②還元③底部のみ④白色鉱物粒を含む⑥
15	坏	4.0 (12.8) (5.4)	底部は平底。口縁部は直線的に開く。	口縁部ヨコ撫で。胴部、底部ヘラ撫で状の削り。	撫で。	①5YR5/6明赤褐②酸化③1/2④精製。砂粒を含む⑥
158	甕	(16.8)	コの字状口縁。	口縁部ヨコ撫で。胴部ヘラ削り。	撫で。	①10YR7/4にぶい黄橙②酸化③口縁部の一部④精製⑥
154	甕		コの字状口縁。	胴部ヘラ削り。	ヘラ撫で。	①7.5YR7/6橙②酸化③胴部の一部のみ④精製⑥

BH－5号住居出土鋳型観察表(図15、PL.15・16)

番号	器　形	法　量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考⑥出土状態
32	三鈷部分の鋳型で上下を欠損している。全体の現存長9.8㌢、現存最大幅9.1㌢、柄幅1.4㌢、中鈷部幅0.9㌢、脇鈷部幅1.3㌢である。鈷部には金剛牙の半月形を表現しているが鋭さを欠く。また、金剛牙の下には逆刺の表現も認められる。鋳型の湯道の断面形は柄の部分では丸く、鈷部では鋭く凌をもつ。鋳型全体の断面形は偏平で柄部分で僅かに丸みを帯びる。 色調は赤褐色で、断面は黒色、表面の湯道部分は暗灰色に変色している。胎土は砂粒をやや多く含む。5号住居床面密着で出土している。 復元実測してある小破片は一括出土のものである。					
2・7	三鈷部分鋳型で、下部は原型を残す。					
139・137	三鈷部分の鋳型で、2・7と同一個体と考えた。金剛牙、逆刺に表現が認められる。					
3・31	鈴身部分の鋳型である。上端は原型を残す。現存長17.5㌢、現存最大幅8.7㌢、鋳型から復元できる鈴身の最大長8.1㌢、直径6.0㌢である。柄の部分の最大幅は1.6㌢である。鈴身の上部には蓮弁形を表現する。鋳型全体の断面形は半球状である。					
29・30	鈴身下部の鋳型であろう。唇出の表現が認められる。鋳型における唇出は1.0㌢である。また、鋳型表面の縁部に僅かな(段)を作る。これは、同じ鈴身の鋳型と考えられる34にも認められ、鋳型の合わせ目の記しと思われる。					
34	鈴身上部の鋳型か。唇出の切り上がりの切り込みや蓮弁の一部の表現が残る。また、表面縁部には僅かな段をもつ。					
140	鈴身の鋳型と考えられるが、29・30とは別個体である。					
1・2 28・33	いずれも鋳型の一部と考えられる。					
141	鈴身の鋳型と考えられるが唇出の表現が僅かに認められる。一部被熱の為胎土が発泡している。					

BH－5号住居出土遺物観察表(図16、PL.14)

番号	器　形	法　量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考⑥出土状態
9	坏	3.8 13.65 6.2	底部は平底。口縁部は底部より直線的に開く。	口縁部ヨコ撫で。胴部指頭圧痕状の押さえ。底部ヘラ削り。	撫で。	①7.5YR7/4にぶい橙②酸化③2/3④精製⑥床面
一括1	鉄器		鎌か			
一括2	鉄器		鎌か			

BH－7号住居出土遺物観察表(図17・18、PL.14)

番号	器　形	法　量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考⑥出土状態
89	高台付き椀 (須恵器)	5.8 13.4 6.1	底部回転糸切りの後付け高台。口縁部は直線的に開く。	ロクロ成型。胴部に墨書有り。	ロクロ成型。胴部下半に墨書有り。	①2.7Y8/4淡黄②酸化③完形④精製⑤内外面に黒斑⑥床面
13	高台付き椀 (須恵器)	4.9 13.5 6.6	底部回転糸切りの後付け高台。胴部は僅かに内湾する。	ロクロ成型。胴部に墨書有り。	ロクロ成型。	①5Y7/2灰白②還元③完形④精製⑥床面
2	高台付き椀	4.6 10.6 (5.6)	底部付け高台。胴部僅かに内湾。	口縁部ヨコ撫で。胴部ヘラ撫で。	ヘラ研き。	①10YR7/2にぶい黄橙②酸化③2/3④精製。砂粒を含む⑥床面
30	坏 (須恵器)	5.25 (13.3) (6.4)	底部回転糸切りか。胴部僅かに内湾。口唇部僅かに外反。	ロクロ成型。	ロクロ成型。	①10YR7/4にぶい黄橙②還元③1/2④小円礫を含む⑥
108	高台付き椀 (須恵器)	5.5 (13.4) 6.4	底部回転糸切りの後付け高台。胴部僅かに内湾。	ロクロ成型。	ロクロ成型。	①10YR6/3にぶい黄橙②酸化③1/2④精製。砂粒を含む⑤内外面に黒斑⑥
8	高台付き椀 (須恵器)	5.4 (14.2) 6.0	底部回転糸切りの後付け高台。胴部僅か内湾。	ロクロ成型。	ロクロ成型。	①5YR7/4にぶい橙②酸化③1/2④精製⑥

番号	器　形	法　量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考⑥出土状態
154	高台付き椀 (須恵器)	6.2 (14.9) 6.5	底部回転糸切りの後付け高台。	ロクロ成型。	ロクロ成型。	①10YR7/3にぶい黄橙②酸化③2/3④精製⑤外面に黒斑⑥
55	高台付き椀 (須恵器)	7.0	底部回転糸切りの後付け高台。	ロクロ成型。	ロクロ成型。	①2.5YR7/4浅黄②還元③底部のみ④精製⑤内面に黒斑⑥
6	高台付き椀 (須恵器)	(6.6)	底部回転糸切りの後付け高台。	ロクロ成型。	ロクロ成型。	①10YR7/3にぶい黄橙②酸化③底部1/3④精製⑥
162	小形台付甕	(12.1)	口縁部は短く外傾。口唇部は肥厚する。胴部は球形。	口縁部ヨコ撫で。胴部ヘラ削り。	ヨコ撫で。	①2.5YR5/4にぶい赤褐②還元③胴部1/2④精製⑥
166	甕	(10.8)	コの字状口縁か。口唇部は短く外傾する	口縁部ヨコ撫で。	口縁部ヨコ撫で。	①5YR7/4にぶい橙②酸化③口縁部のみ1/3④精製。砂粒を含む。⑥
138	甕	(20.5)	口縁部はくの字に短く外傾。	口縁部ヨコ撫で。胴上半部はヘラ撫で状の削り。下半は一部に研き	口縁部ヨコ撫で。胴部撫で。	①10Y8/3浅黄橙②酸化③1/5④精製⑥
63	甕	(19.2)	コの字状口縁か。口唇部は短く外傾し、端部をつまみ上げる	口縁部ヨコ撫で。胴部撫で状のヘラ削り。	口縁部ヨコ撫で。胴部ハケ目。	①10YR7/3にぶい黄橙②酸化③口縁部1/2④精製。砂粒を含む⑥
105	甕	(20.0)	口縁部短く、緩やかに外反。	口縁部ヨコ撫で。胴部撫で状のヘラ削り。	口縁部ヨコ撫で。胴部ヘラ撫で。	①2.5Y8/3淡黄②酸化③口縁部の一部④精製。砂粒を含む⑥竈内
54	甕	17.6	口縁部短く、緩やかに外反。	口縁部ヨコ撫で。胴部撫で状のヘラ削り。	口縁部ヨコ撫で。胴部ヘラ撫で。	①2.5YR5/6明赤褐②酸化③底部を欠損④精製。砂粒を含む⑥竈内
56	甕	(17.85) 4.3	コの字状口縁か。	口縁部ヨコ撫で。胴部撫で状のヘラ削り。	口縁部ヨコ撫で。	①10YR8/4浅黄橙②酸化③1/2④精製。赤色鉱物粒を含む⑥竈内
20	甕	(17.4)	口縁部は短く外傾。	口縁部ヨコ撫で。胴部撫で状のヘラ削り。	口縁部ヨコ撫で。胴部撫で。	①7.5YR7/4にぶい橙②酸化③口縁部の一部④精製。砂粒を含む⑥
50	甕	(19.6)	コの字状口縁。口唇部は肥厚し、短く外傾。	口縁部ヨコ撫で。胴部ヘラ削り。	口縁部ヨコ撫で。	①5YR7/4にぶい橙②酸化③口縁部の一部④精製。砂粒を含む⑥
14	甕	3.9	底部は小さく、胴部はやや内湾して立ち上がる。	撫で状のヘラ削り。		①10YR6/4にぶい黄橙②酸化③底部のみ④精製。砂粒を含む⑥
一括1	鉄滓					⑥埋め土一括

BH－6号住居出土遺物観察表(図19、PL.14)

番号	器　形	法　量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考⑥出土状態
一括1	坏	4.0 (11.0) (3.8)	底部は平底。口縁部は僅かに内湾する。	口縁部ヨコ撫で。胴部ヘラ撫で。	口縁部ヨコ撫で。	①5YR6/6橙②酸化③2/5④精製。砂粒を含む⑥埋め土一括
93	高台付き椀	5.4 (14.0) 6.6	体部は浅く、胴部は僅かに内湾し、口縁部に段を持つ。	口縁部ヨコ撫で。胴部ヘラ撫で。	ヘラ研き。	①10YR7/3にぶい黄橙②酸化③1/2④精製。輝石を含む⑥
一括2	坏			口縁部ヨコ撫で。胴部ヘラ撫で。	黒色研磨。ヘラ研き。	①10YR8/3浅黄橙②酸化③口縁部のみ④精製⑤墨書⑥

BH－6号住居出土遺物観察表(図19、PL. 9・14)

番号	器　形	法　量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考⑥出土状態
一括3	高台付き椀 (須恵器)	4.4 (13.9) (6.9)	高台部は低く端部は丸みを帯びる。	ロクロ成型。	ロクロ成型。	①5YR7/6橙②酸化③1/3④精製⑤内面に黒斑⑥
53	高台付き椀	5.45 14.8 7.2	口縁部は緩やかに内湾して開く。	口縁部ヨコ撫で。胴部ヘラ撫で。	黒色研磨。ヘラ研き。	①10YR7/4にぶい黄橙②酸化③完形④精製⑤内外面にタール状の炭化物⑥
44	坏		口縁部内面に段を持つ。	口縁部ヨコ撫で。	黒色研磨。ヘラ研き。	①2.5Y8/3淡黄②酸化③口縁部の一部④精製⑤外面に墨書⑥
37	高台付き椀 (須恵器)	6.0 (12.15) 5.55	体部はやや深い。	ロクロ成型。	ロクロ成型。	①7.5YR7/6橙②酸化③1/2④精製。砂粒を含む⑤2次焼成か⑥
70	高台付き椀	(16.4)	体部はやや深く、胴部は内湾する。	口縁部ヨコ撫で。胴部撫で。	胴部撫で。	①10YR7/3にぶい黄橙②酸化③1/2④精製。砂粒を含む⑥
115	坏 (須恵器)			ロクロ成型。	ロクロ成型。	①2.5Y8/3淡黄②酸化③口縁部の一部④精製⑤外面に墨書⑥
一括4	長頸壺 (灰釉)		肩部が張る。	ロクロ成型。	ロクロ成型。	①5Y7/1灰白②還元③肩部の一部④精製⑤肩部外面にオリーブ色の釉⑥埋め土一括
12	高台付き椀 (須恵器)	(6.6)	底部回転糸切りの後付け高台。	ロクロ成型。	ロクロ成型。	①10YR7/4にぶい橙②酸化③底部1/2④精製⑥
74	小形台付甕	(9.4)	脚台部はハの字状に開く。	ヨコ撫で。	ヨコ撫で。	①5YR5/4にぶい赤褐②酸化③脚台部1/2④精製⑥
33	甕	(20.7)	コの字状口縁。口唇部は肥厚し、外反。	口縁部ヨコ撫で。胴部ヘラ撫で状のヘラ削り	口縁部ヨコ撫で。胴部ヘラ撫で。	①7.5YR7/3にぶい橙②酸化③口縁部の一部④精製。砂粒を含む⑥
47	甕	(22.5)	口縁部は緩やかに外反。口唇内面に稜を持つ。	口縁部ヨコ撫で。胴部ヘラ削り。	口縁部ヨコ撫で。	①5YR7/4にぶい橙②酸化③口縁部の一部④精製。輝石を含む⑥
71	甕	(20.4)	口縁部は短く、外傾	口縁部ヨコ撫で。胴部ヘラ削り。	口縁部ヨコ撫で。	①7.5YR7/4にぶい橙②酸化③口縁部の一部④精製。砂粒を含む⑥

CH－1号住居出土遺物観察表(図20)

番号	器　形	法　量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調②焼成③残存④胎土⑤備考⑥出土状態
1	短頸壺 (須恵器)	(5.6)	口唇部を短くつまみ上げ。口縁部外面にカエリを持つ。	ロクロ成型。	ロクロ成型。	①10Y4/1灰②還元③口縁部1/3④精製⑥床面

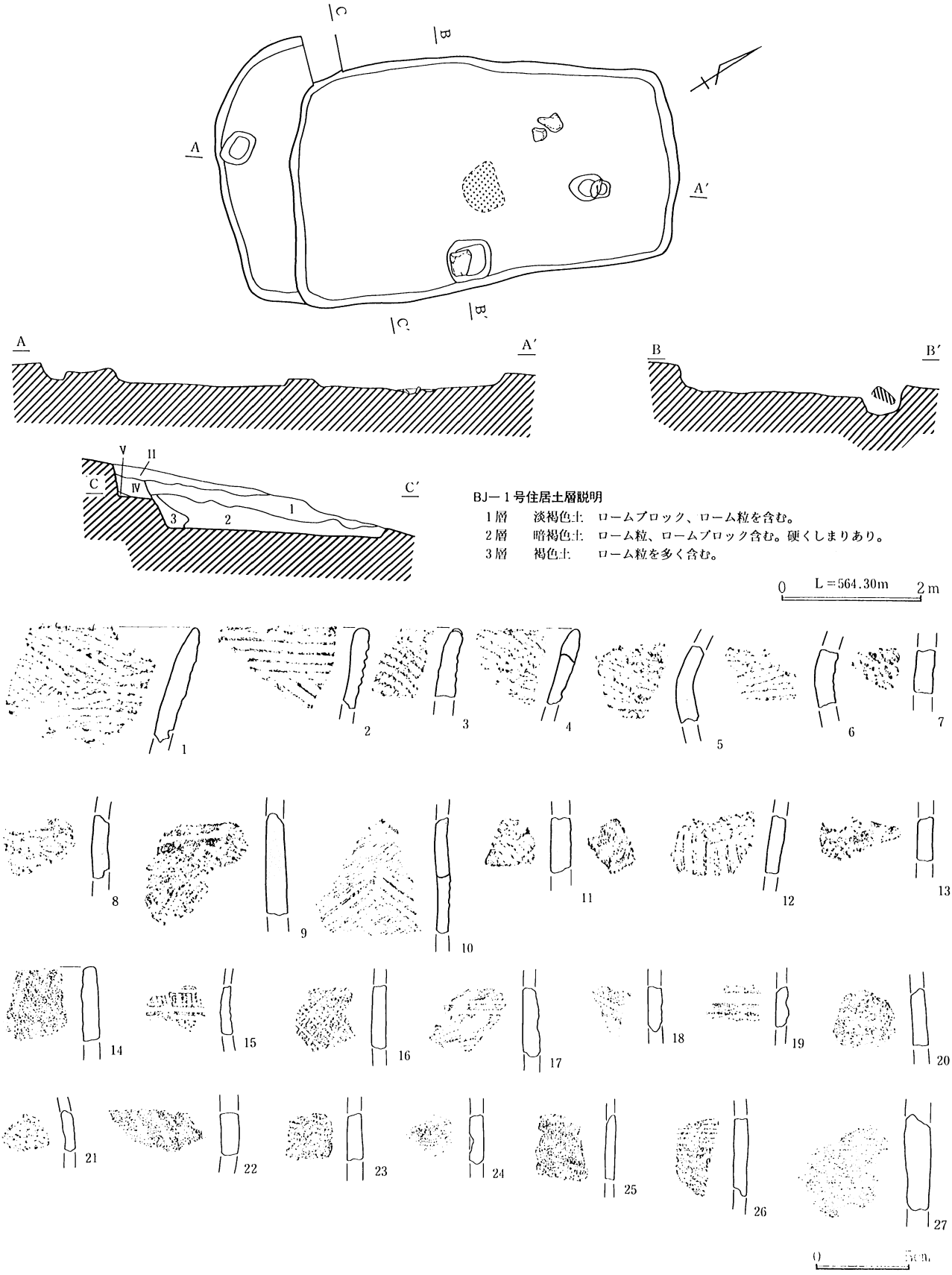


図22　ＢＪ－１号住居実測図・出土遺物拓影図

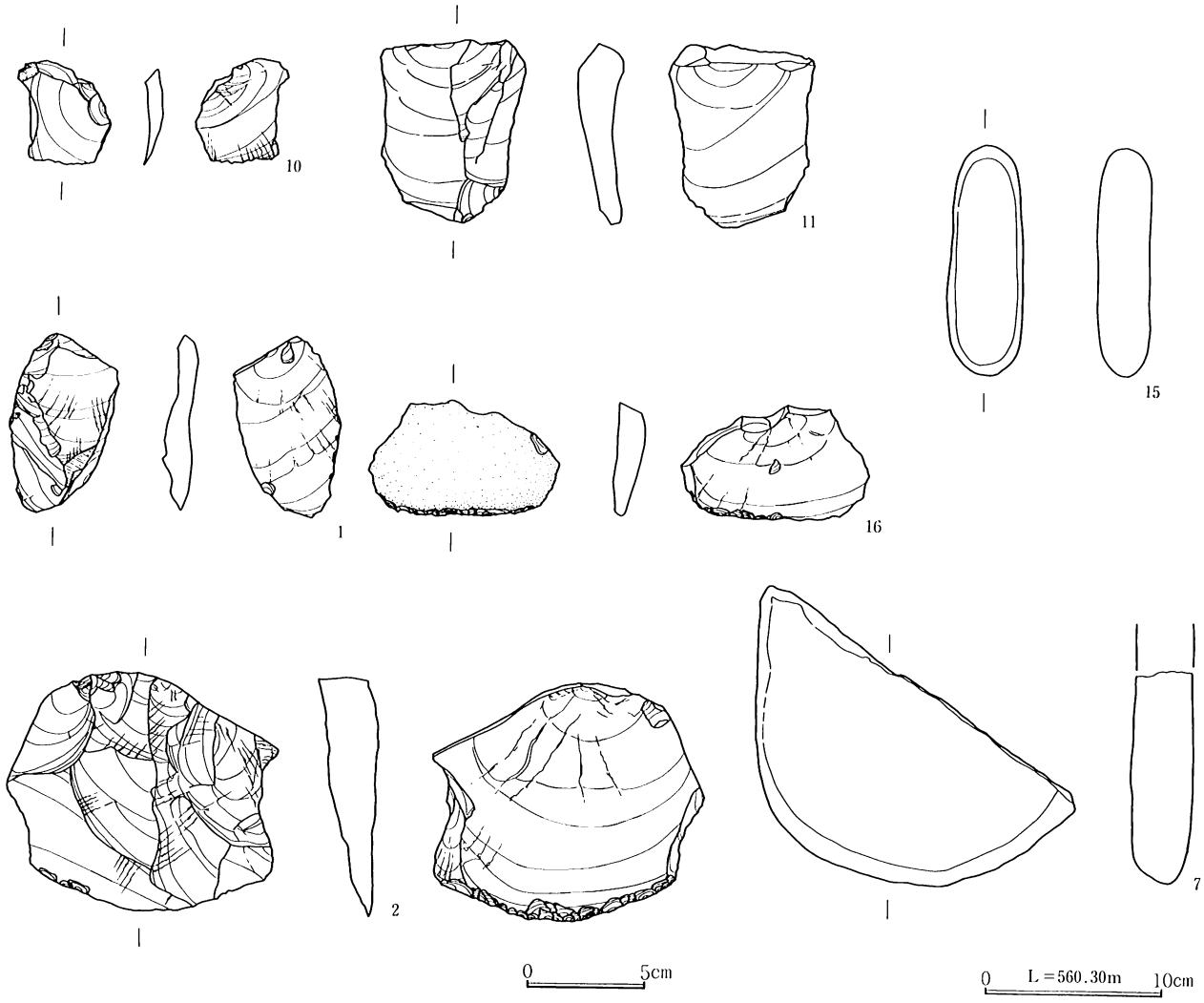


図23　ＢＪ－１号住居出土石器実測図

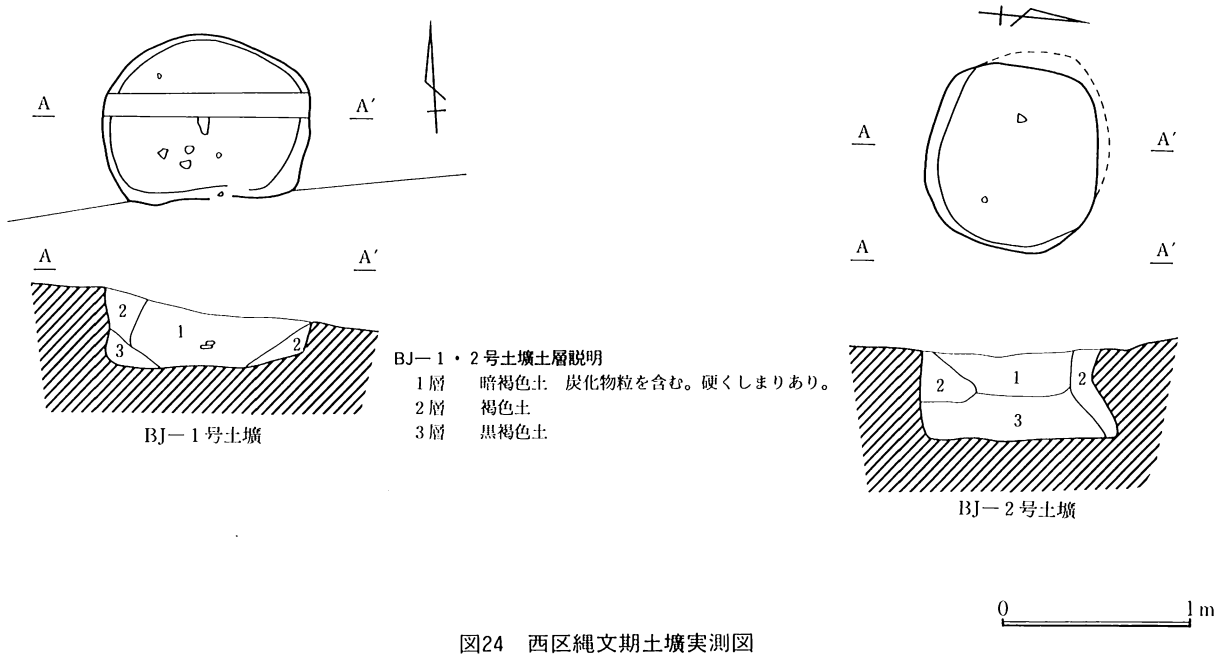


図24　西区縄文期土壙実測図

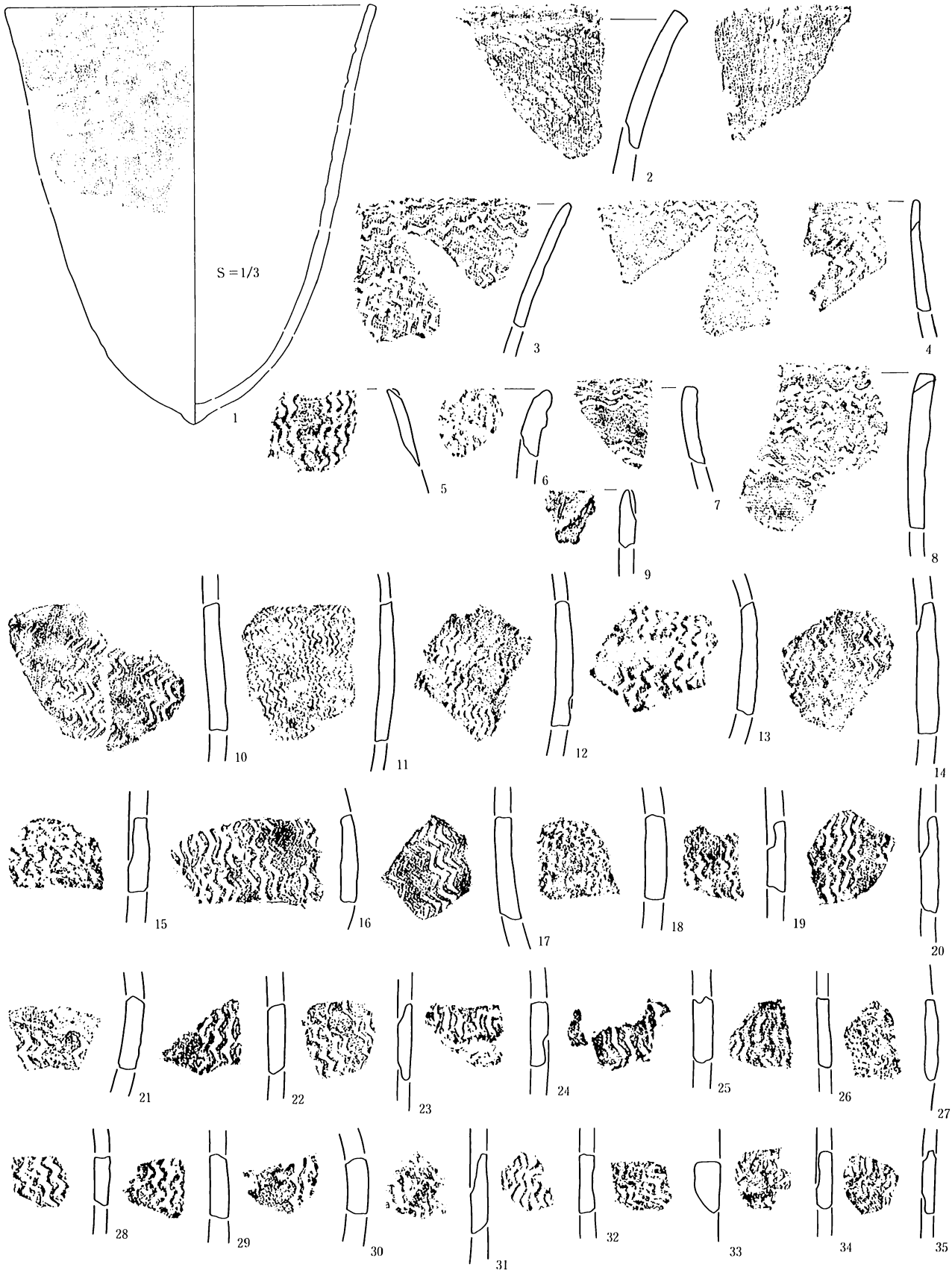


図25　西区縄文期包含層出土遺物拓影図Ⅰ　　S＝1/2

図26　西区縄文期包含層出土遺物拓影図２

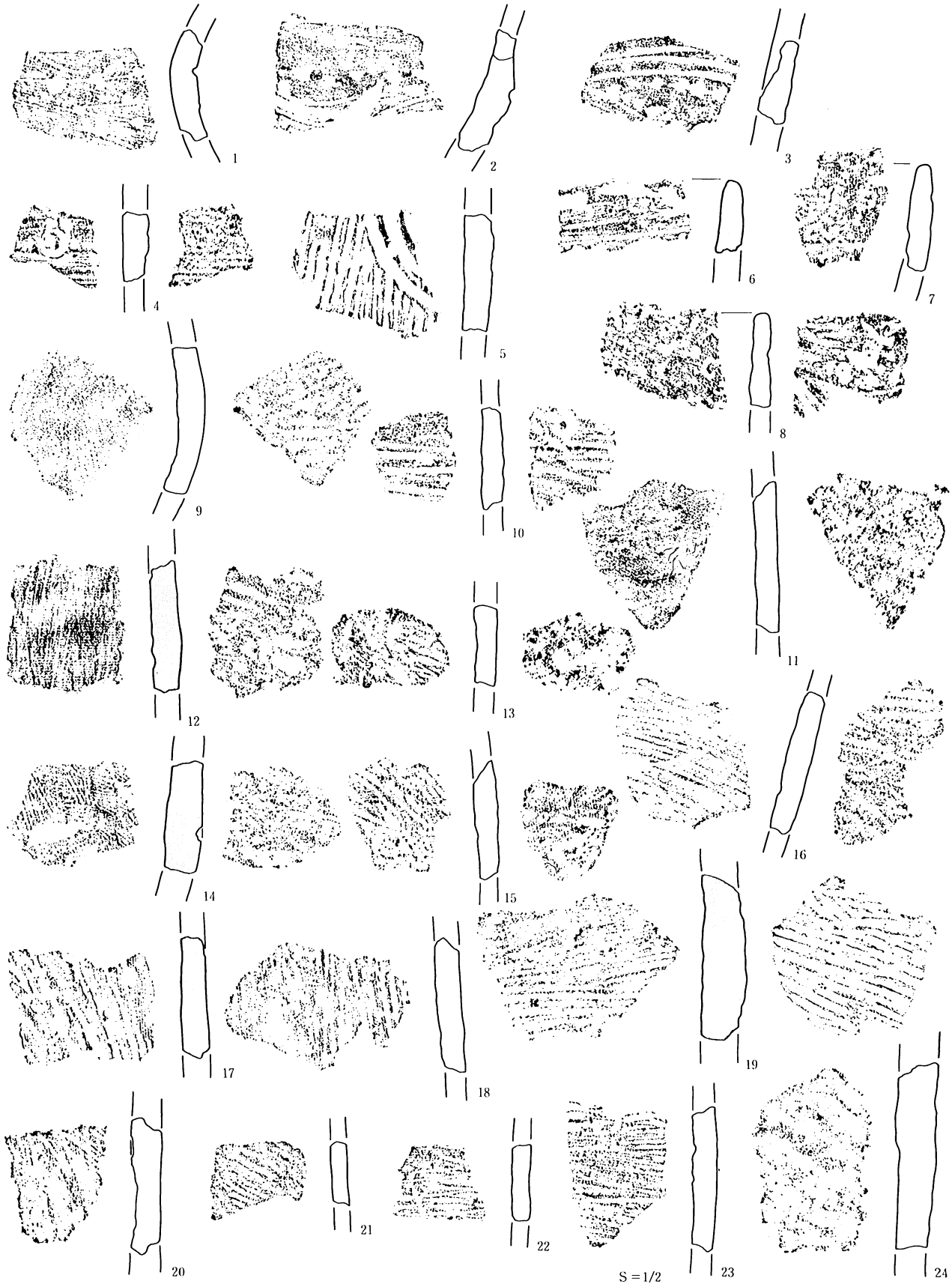


図27　西区縄文期包含層出土遺物拓影図３

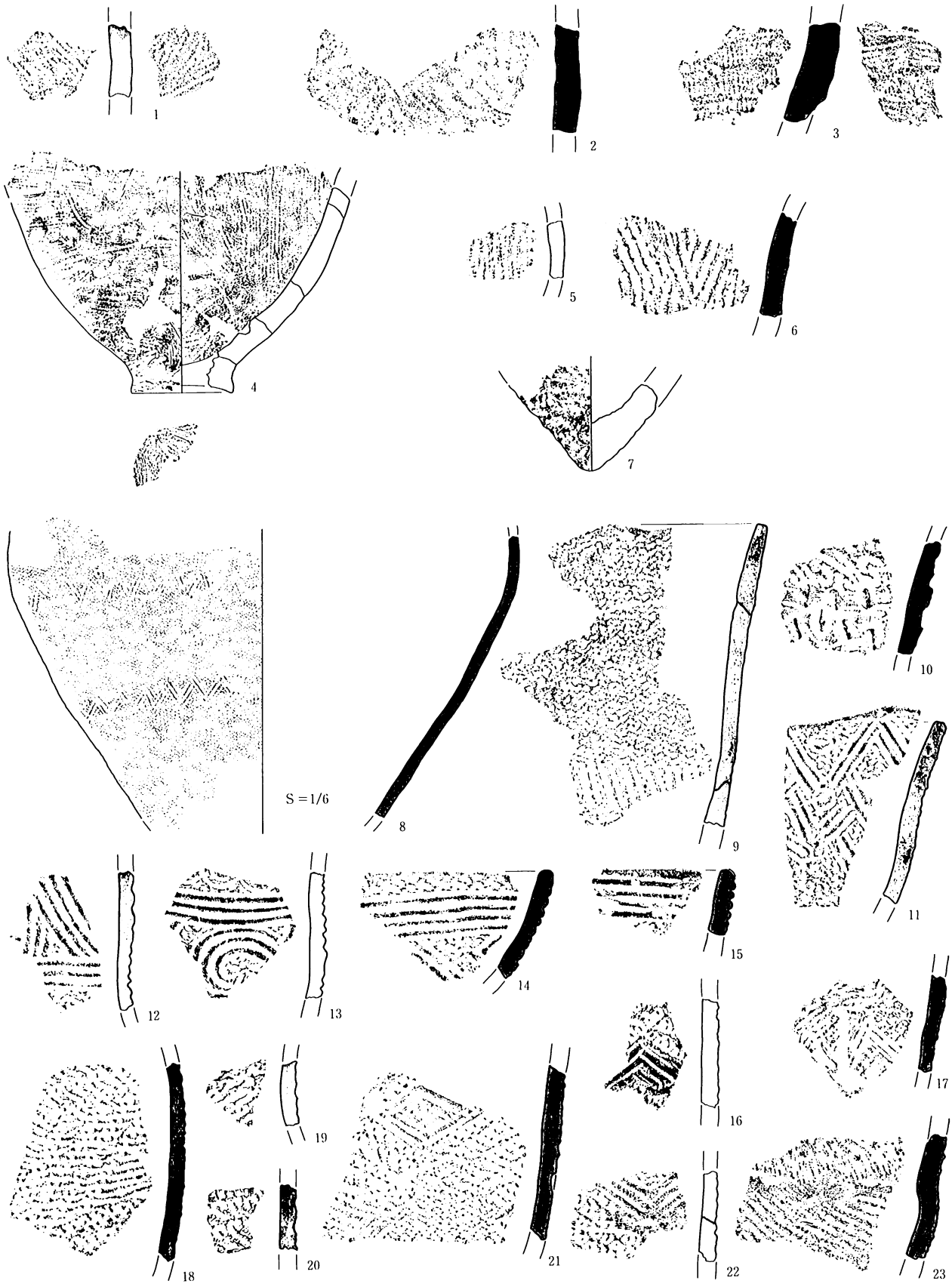


図28　西区縄文期包含層出土遺物拓影図４　　S＝1/3

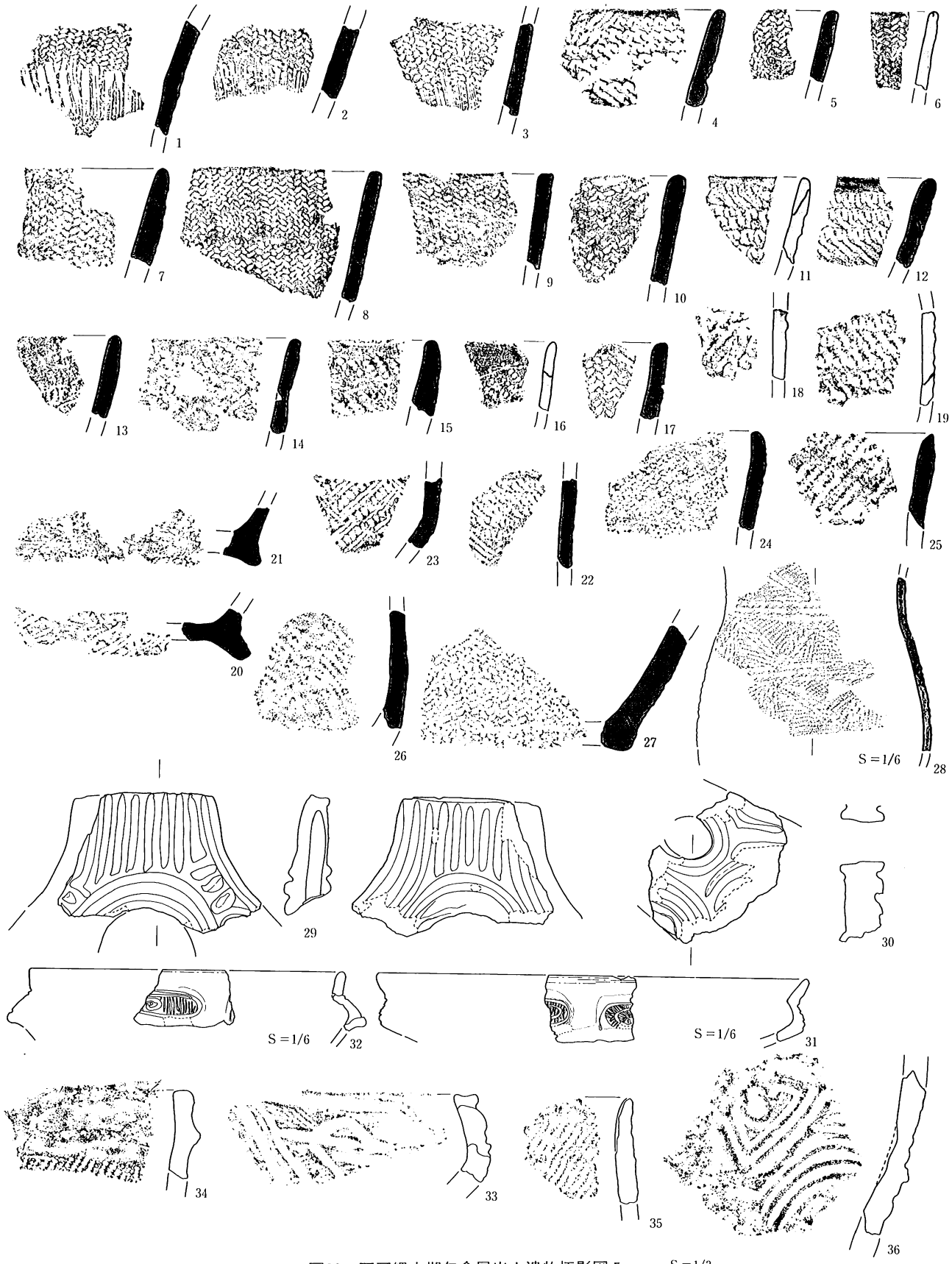


図29　西区縄文期包含層出土遺物拓影図５　S＝1/3

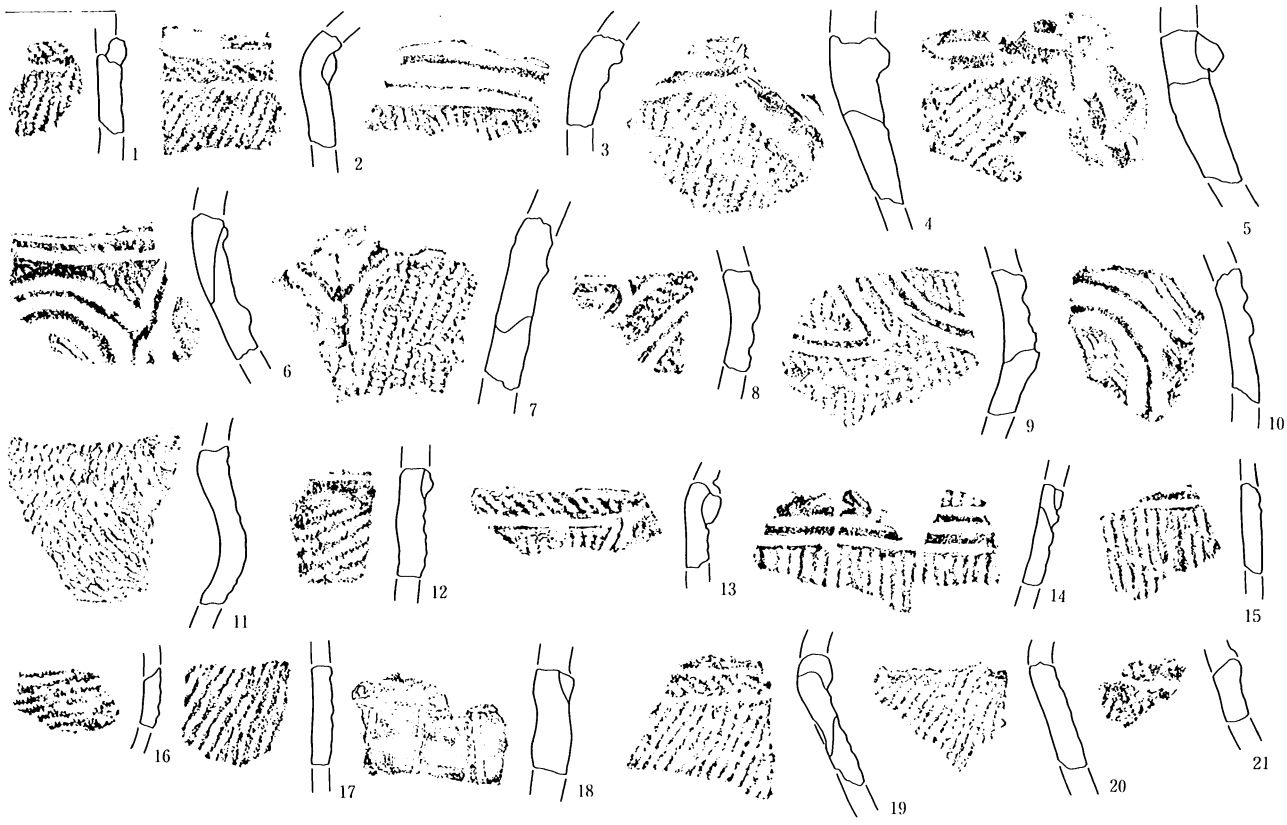


図30　西区縄文期包含層出土遺物拓影図６　　S＝1/3

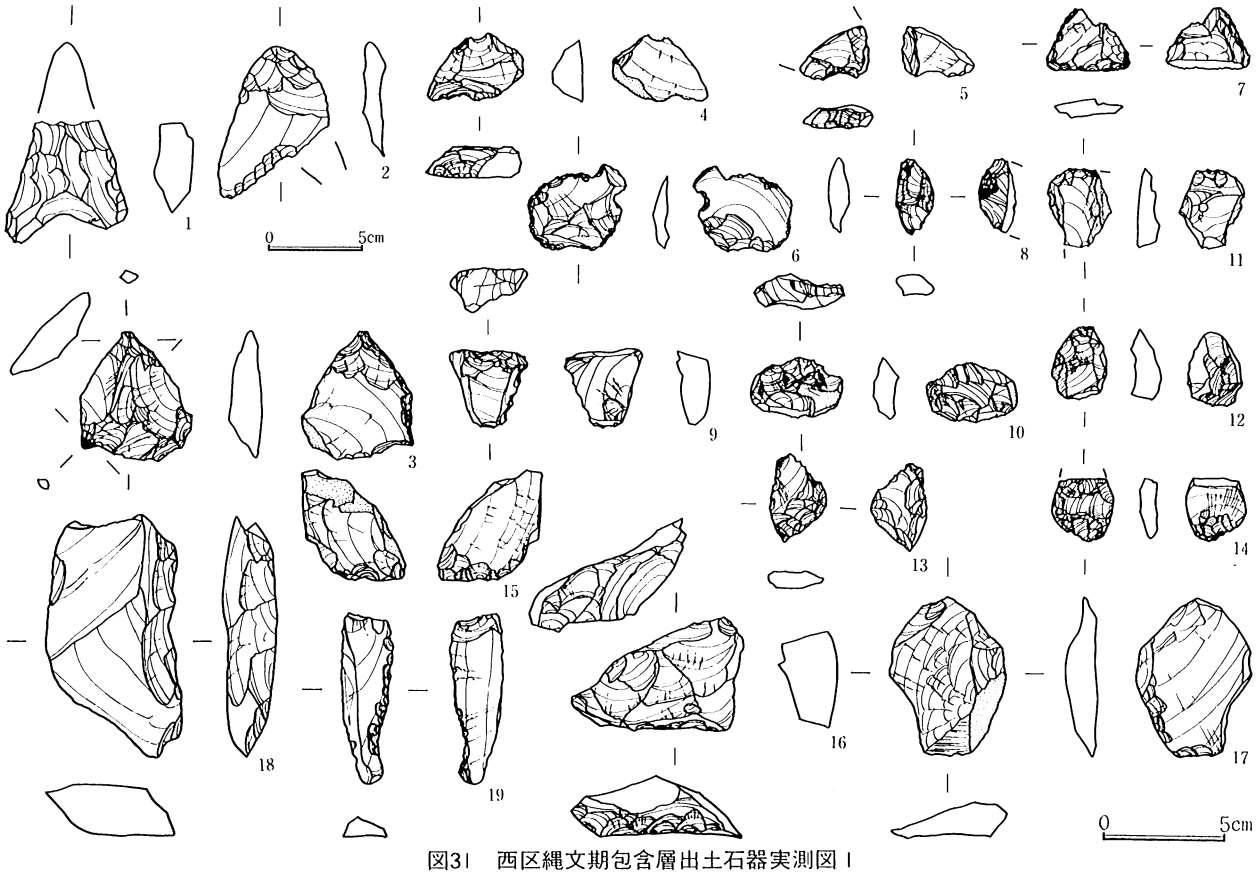
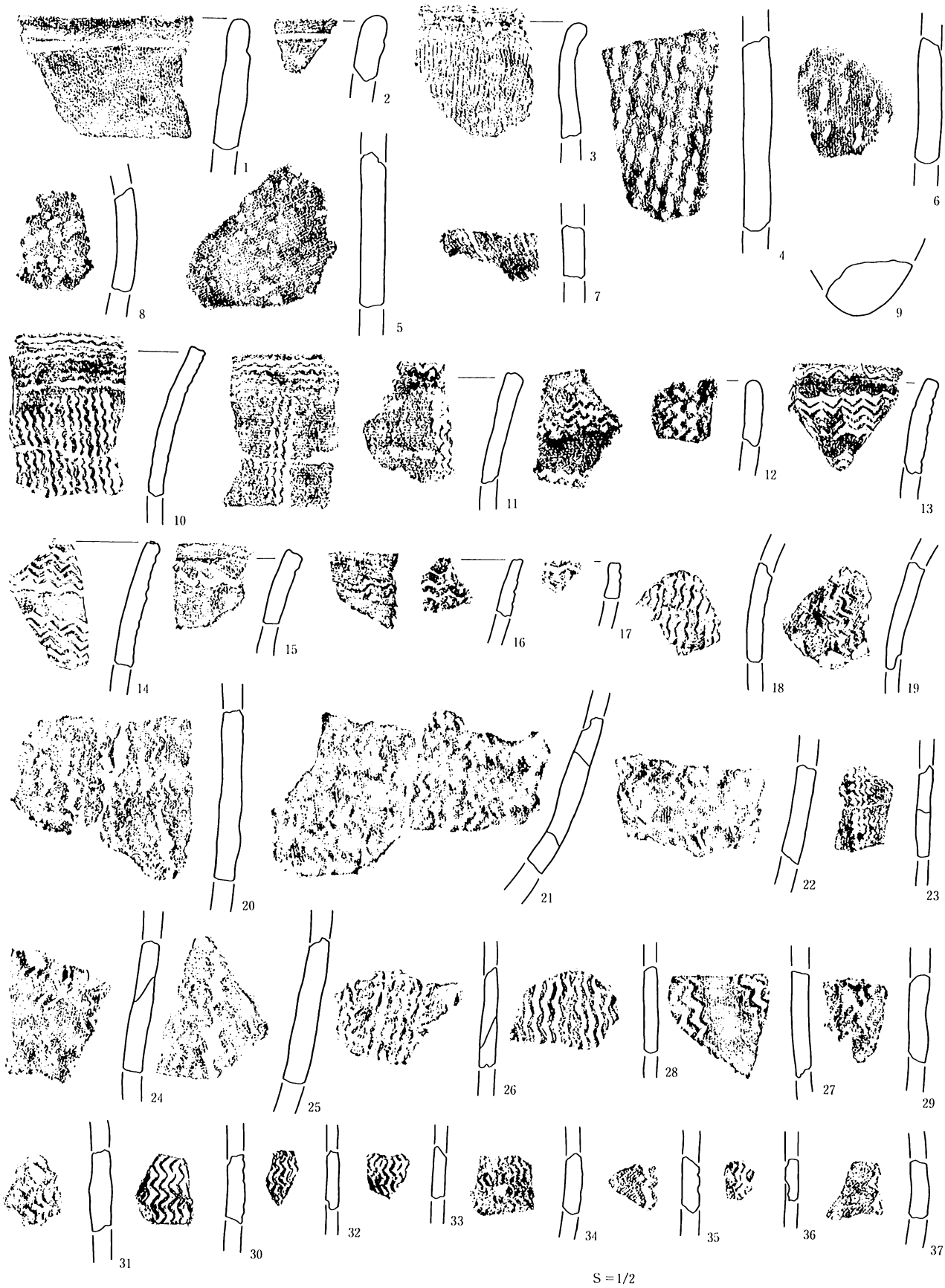


図31　西区縄文期包含層出土石器実測図Ⅰ

図32　西区縄文期包含層出土石器実測図 2



S＝1/2

図33　東区縄文期包含層出土遺物拓影図Ⅰ

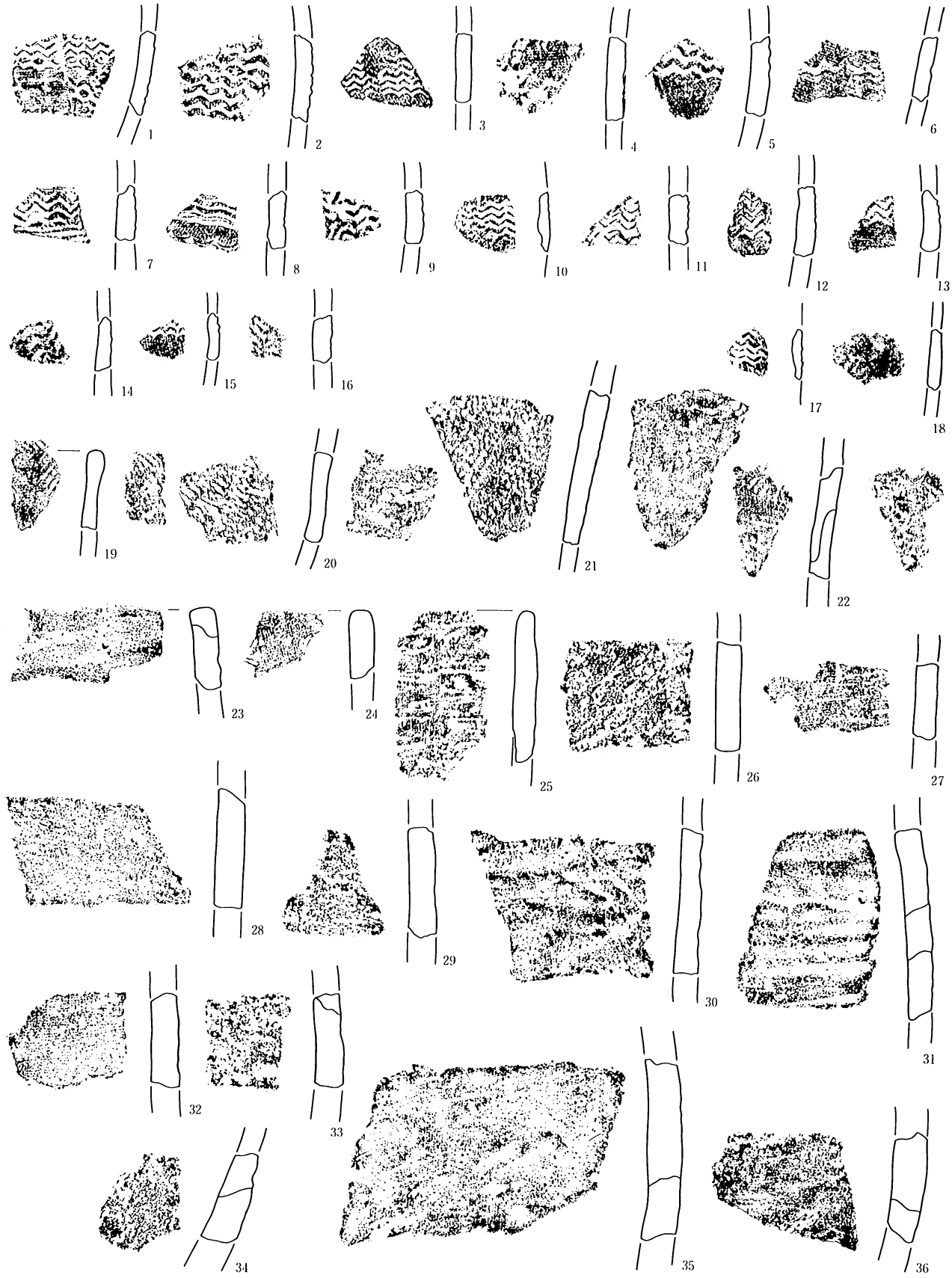


図34　東区縄文期包含層出土遺物拓影図２　　S＝1/2

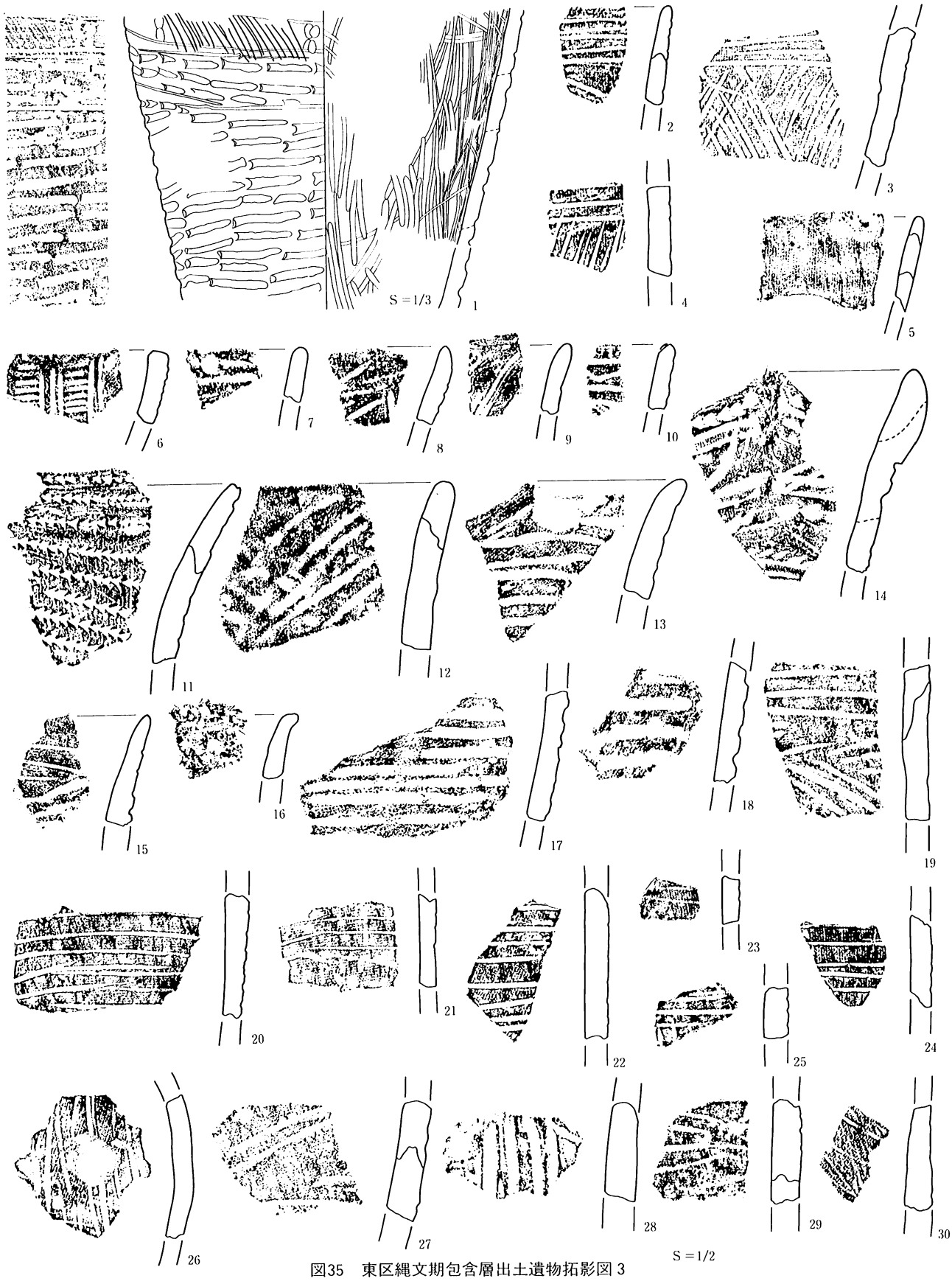


図35　東区縄文期包含層出土遺物拓影図３

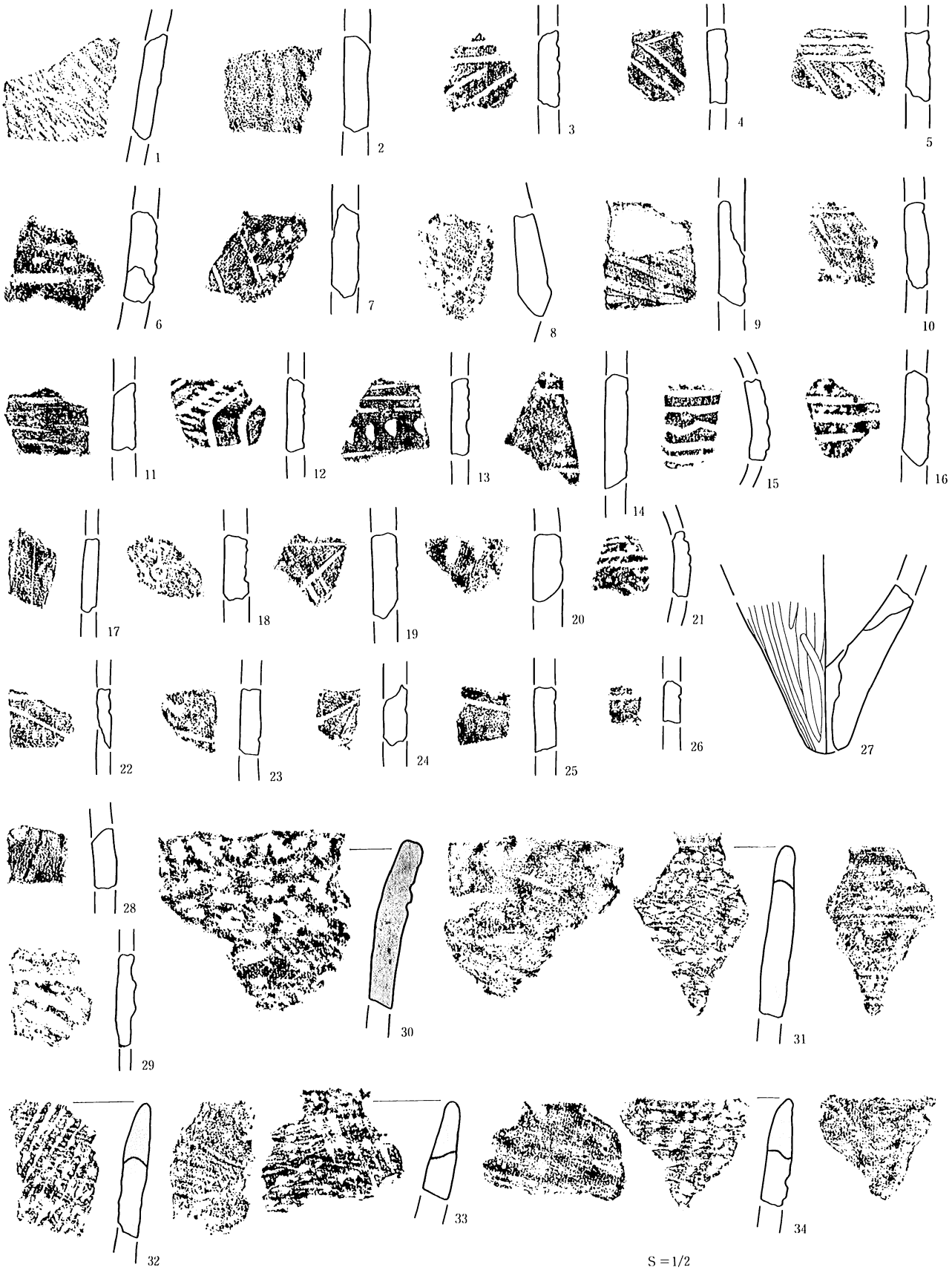


図36　東区縄文期包含層出土遺物拓影図４

図37　東区縄文期包含層出土遺物拓影図５　S＝1/2

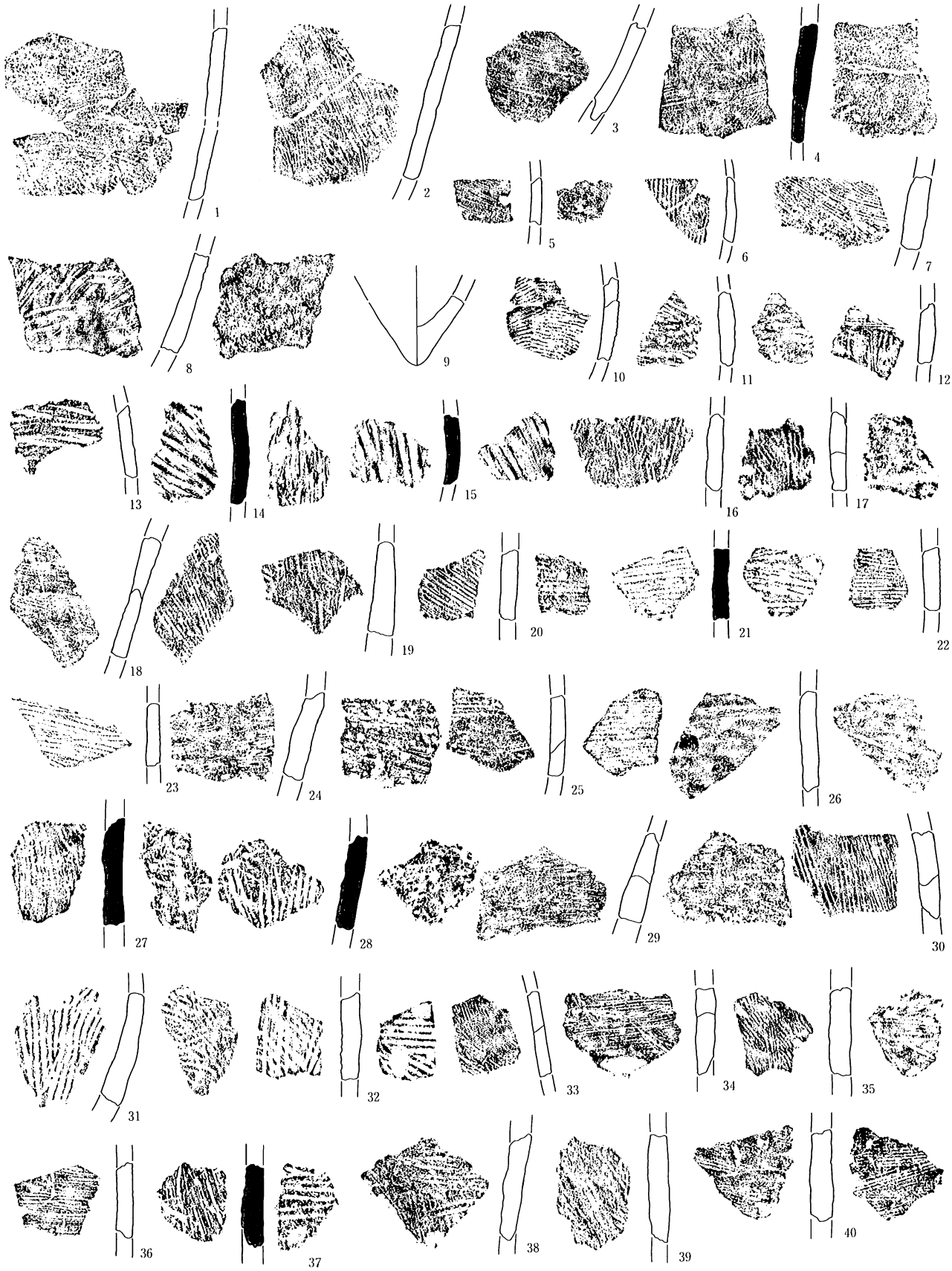
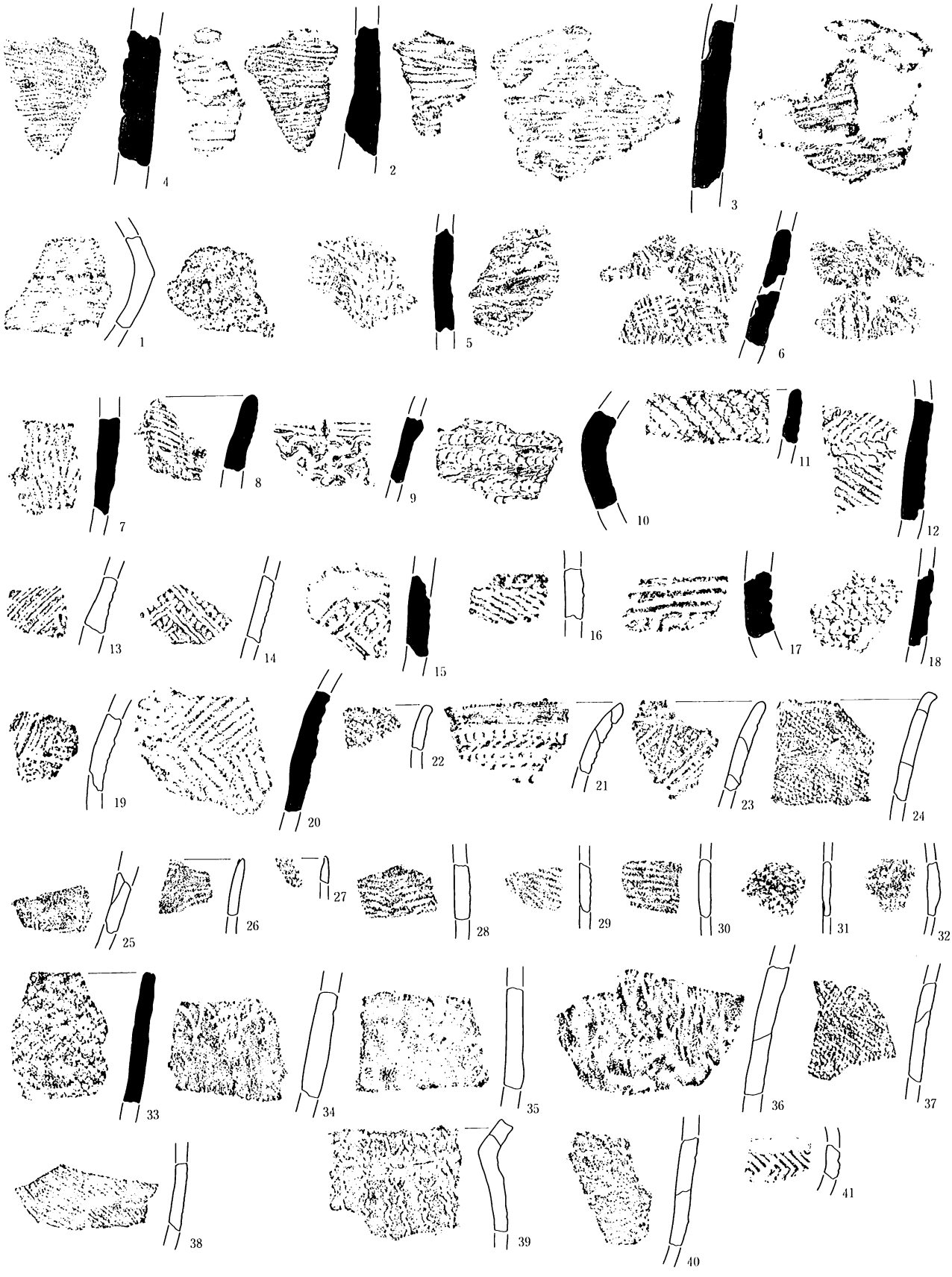


図38　東区縄文期包含層出土遺物拓影図 6 S＝1/3



S＝1/3

図39　東区縄文期包含層出土遺物拓影図７

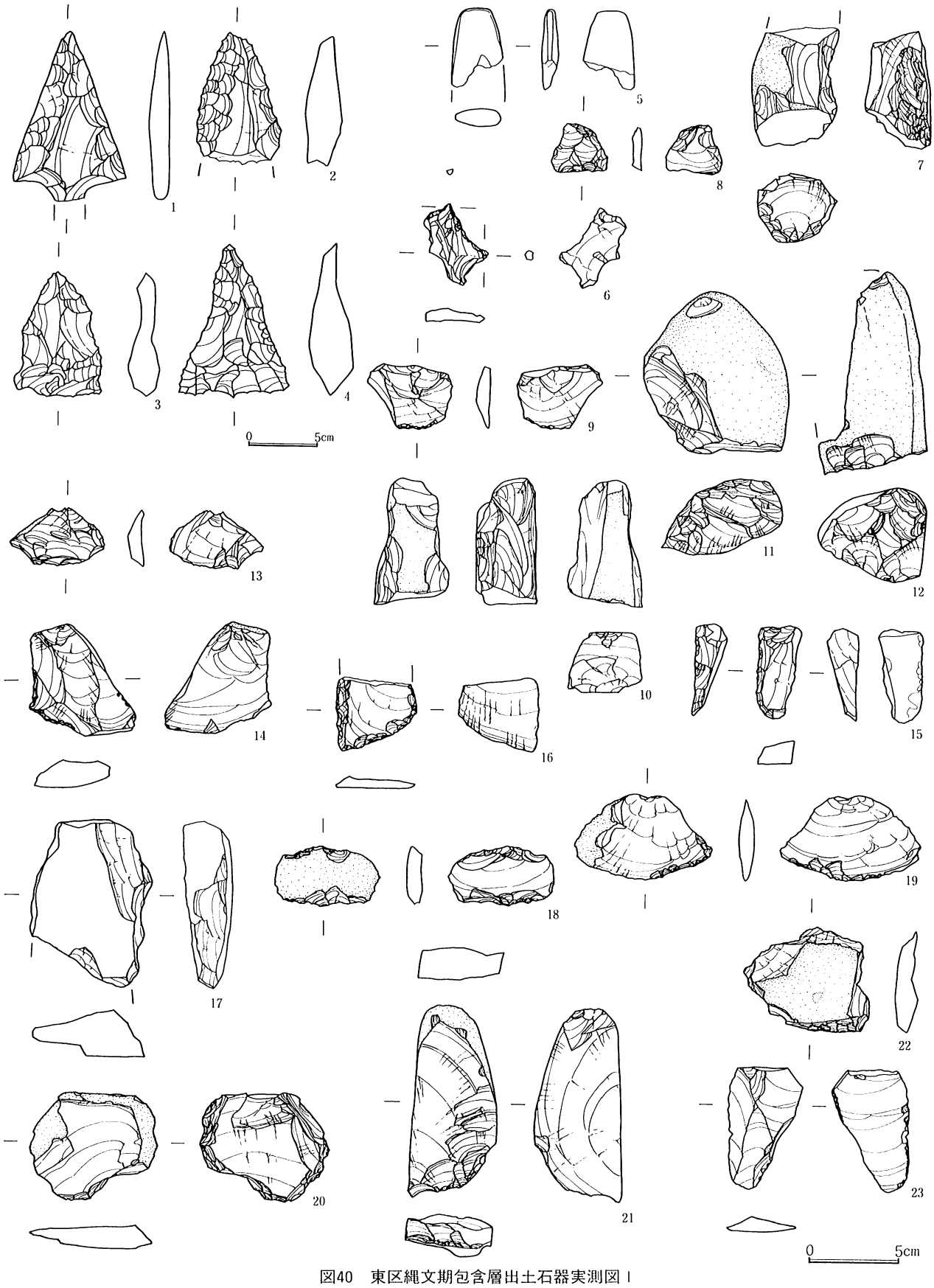


図40　東区縄文期包含層出土石器実測図 I

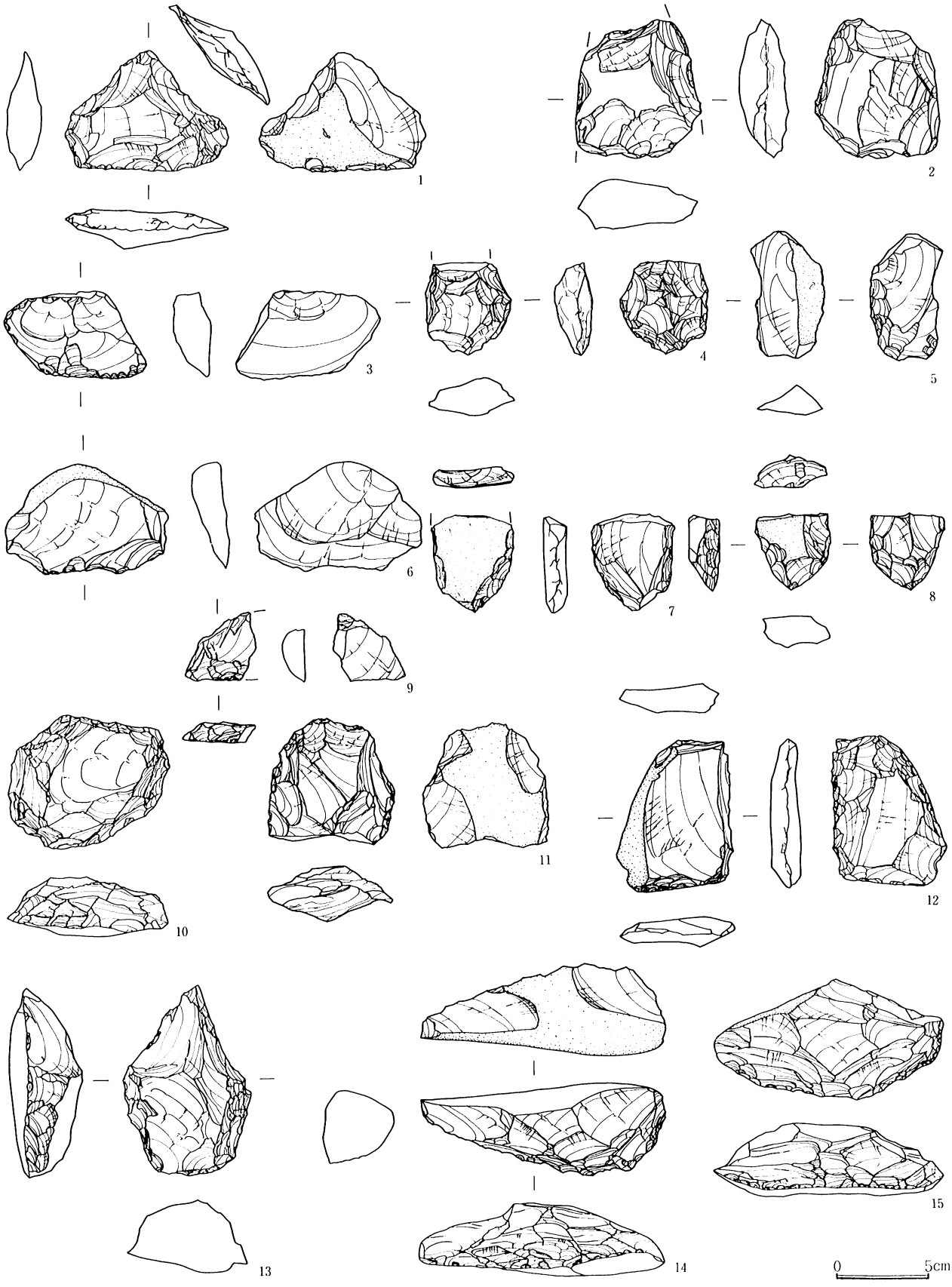


図41　東区縄文期包含層出土石器実測図 2

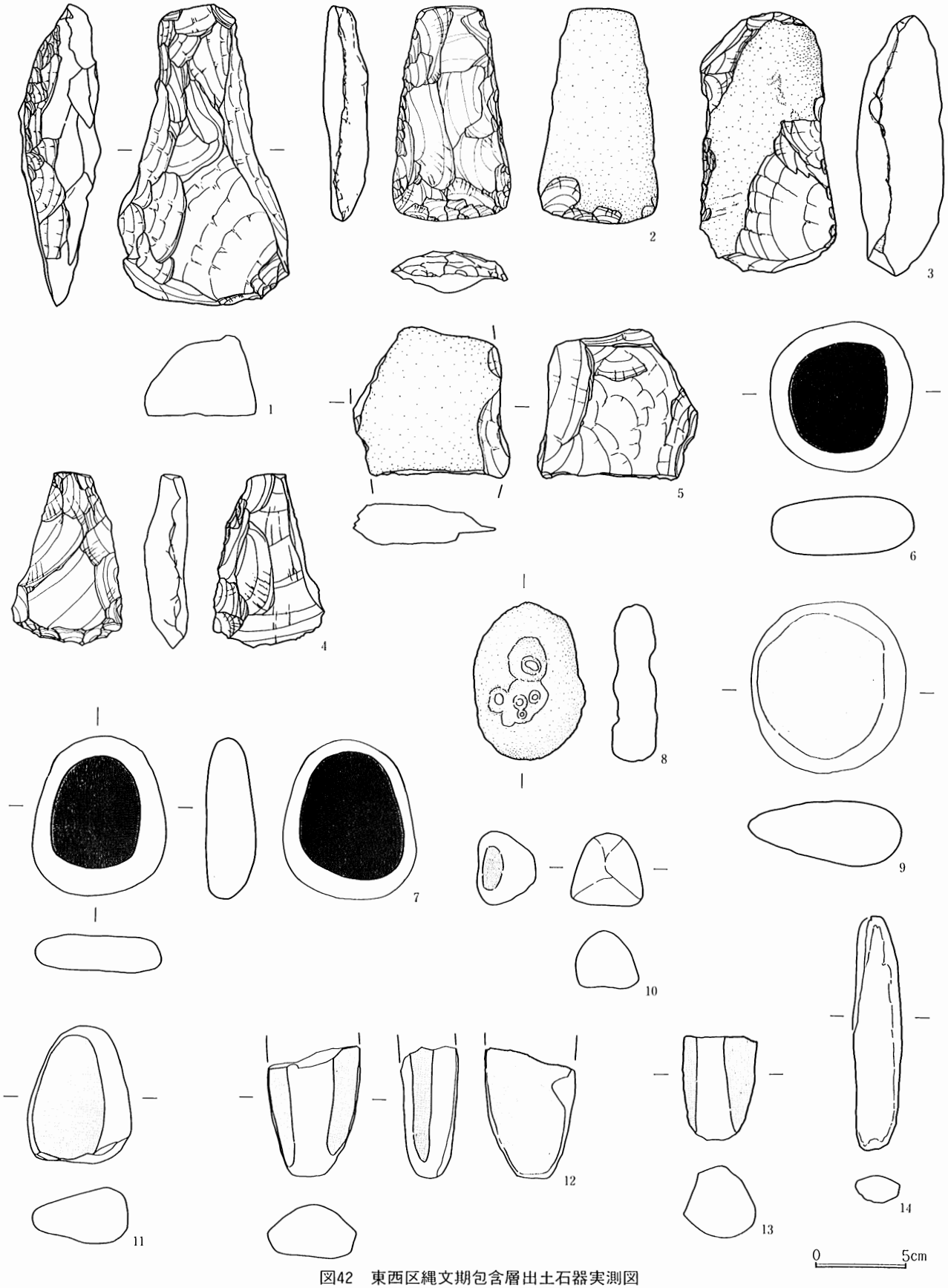


図42　東西区縄文期包含層出土石器実測図

石器一覧表

遺物			器種	石質	重量（g）
図—23	1	ＢＪ－１Ｈ—10	使用痕有る剝片	頁岩	10.2
	2	ＢＪ－１Ｈ—11	剝片	頁岩	73.0
	3	ＢＪ－１Ｈ－１	剝片	頁岩	38.0
	4	ＢＪ－１Ｈ—16	削器	頁岩	43.8
	5	ＢＪ－１Ｈ－２	削器	頁岩	253.1
	6	ＢＪ－１Ｈ—15	すり石	安山岩	254.3
	7	ＢＪ－１Ｈ－７	石皿	安山岩	(1,036.9)
図—31	1	Ｂｍ－５—210	石鏃	安山岩	(1.2)
	2	Ｂｎ－４—282	石鏃	チャート	(0.7)
	3	西区—一括	石錐	頁岩	(26.7)
	4	Ｂｍ－３—一括	掻器	安山岩	12.2
	5	Ｂｍ－４—一括	掻器	頁岩	(4.7)
	6	Ｂｍ－４—一括	石匙	チャート	7.6
	7	Ｂｎ－５—367	削器	頁岩	(5.4)
	8	Ｂｏ－６—438	ピエスエスキーユ	黒曜石	(2.8)
	9	Ｂｎ－４—273	ピエスエスキーユ	チャート	13.4
	10	Ｂｎ－５—372	ピエスエスキーユ	黒曜石	8.9
	11	Ｂｎ－３—一括	ピエスエスキーユ	チャート	(5.7)
	12	Ｂｏ－５—一括	ピエスエスキーユ	黒曜石	6.9
	13	Ｂｎ－４—449	ピエスエスキーユ	頁岩	4.4
	14	Ｂｎ－５—362	ピエスエスキーユ	黒曜石	(4.7)
	15	Ｂｏ－４—一括	削器	頁岩	20.5
	16	Ｂｏ－６—433	削器	頁岩	71.3
	17	Ｂｏ－５—一括	削器	頁岩	37.6
	18	Ｂｎ－３—一括	片面加工削器	安山岩	147.8
	19	Ｂｏ－３—一括	削器	頁岩	11.9
図—32	1	Ｂｎ－３—一括	削器	頁岩	50.8
	2	Ｂｍ－４—一括	削器	頁岩	22.8
	3	Ｂｎ－５—484	削器	頁岩	(21.2)
	4	Ｂｏ－５—420	削器	頁岩	(11.1)
	5	Ｂｍ－４—187	削器	頁岩	12.1
	6	Ｂｏ－４—411	削器	頁岩	(17.8)
	7	Ｂｎ－４—470	削器	頁岩	(50.5)
	8	Ｂｏ－４—周辺	削器	頁岩	38.0
	9	Ｂｎ－３—一括	削器	頁岩	(13.2)
	10	Ａｎ—25—一括	削器	頁岩	25.8
	11	Ｂｎ－３—394	三角錐形石器	頁岩	159.1
	12	Ｂｏ－５—周辺	三角錐形石器	頁岩	(48.9)
	13	Ａｇ—20—一括	削器	頁岩	94.3
	14	Ｂｎ－４—107	片面加工削器	頁岩	49.6
	15	Ａｇ—18—一括	石斧	安山岩	320.0
	16	Ｂｏ－５—一括	石斧	安山岩	477.5
	17	Ｂｎ－５—一括	片面加工石器	安山岩	39.6
	18	Ｂｏ－４—116	片面加工石器	頁岩	82.9
	19	Ｂｍ－４—186	礫器	頁岩	184.9
	20	Ｂｎ－５—373	石斧	頁岩	(370.5)
	21	Ｂｍ－４—333	磨製石斧	蛇紋岩	(24.7)
	22	Ｂｍ－４—一括	石斧	頁岩	60.2
図—40	1	Ｂｎ—20—一括	石鏃	頁岩	(1.7)
	2	Ｂｍ－４—一括	石鏃	チャート	2.8
	3	Ｂｍ－４—一括	石鏃	チャート	1.5
	4	Ｂｎ—19—一括	石鏃	黒曜石	2.8
	5	Ｂｏ—18—166	玉斧	蛇紋岩	(12.9)
	6	Ｂｍ—19—周辺	石錐	チャート	7.7
	7	東区—一括	削器	頁岩	(129.5)

遺物		器種	石質	重量（g）
8	Bn—20	削器	頁岩	3.8
9	Bn—19—一括	削器	頁岩	12.3
10	Bo—19—178	三角錐形石器	チャート	116.9
11	Bo—21—周辺	礫器	頁岩	361.5
12	テストトレNo.6	三角錐形石器？	頁岩	(311.2)
13	Bm—18	削器	安山岩	13.5
14	An—19 一括	削器	頁岩	54.1
15	Bn—17	削器	安山岩	16.7
16	Bm—17—236	削器	頁岩	(12.0)
17	Bn—19—121	削器	安山岩	(150.1)
18	Bo—20—284	削器	頁岩	16.1
19	Bg—18—周辺	削器	頁岩	30.0
20	Bo—17—58	削器	頁岩	68.9
21	Bp—21—332	削器	頁岩	134.3
22	BH—5—49	削器	頁岩	(48.2)
23	Bn—19—131	使用痕有る剝片	頁岩	18.6
図—41 1	Bn—19—127	削器	頁岩	83.6
2	Bo—17	石斧	フォルンフェルス	(140.0)
3	Bm—18—一括	削器	頁岩	66.4
4	Bp—21—326	円盤状石器	頁岩	(40.5)
5	Bo—20	削器	頁岩	35.5
6	Bn—19—160	削器	フォルンフェルス	87.5
7	BH—5—一括	石斧	頁岩	(33.7)
8	Bo—20	石斧	頁岩	30.0
9	Bn—18—373	削器	頁岩	(15.8)
10	Bn—19—112	片面加工石器	頁岩	220.0
11	Bn—19—一括	石斧	頁岩	119.7
12	Bn—19—370	削器	頁岩	93.4
13	Bn—19—368	片面加工石器	頁岩	227.0
14	Br—19—周辺	削器	頁岩	232.2
15	Bn—19—123	片面加工石器	頁岩	273.9
図—42 1	BH—5—一括	石斧	安山岩	619.6
2	Bm—17—379	片面加工石器	フォルンフェルス	183.7
3	Bo—20	石斧	頁岩	529.3
4	Bo—19—198	石斧	フォルンフェルス	108.5
5	Br—19—周辺	石斧	安山岩	(206.7)
6	Bn—3—3	磨石	安山岩	648.1
7	Bo—19—294	磨石	安山岩	540.8
8	西区—一括	凹石	安山岩	349.5
9	西区—一括	磨石	安山岩	928.5
10	Bn—4—244	極すり石	安山岩	110.9
11	Bo—20—289	磨石	安山岩	428.6
12	Bmn—17	極すり石	安山岩	(338.4)
13	Bn—4—473	極すり石	安山岩	323.4
14	Bn—3—382	自然石	結晶片岩	154.0

西区

	図 22	図 25	図 26	図 27	図 28	図 29	図 30
1	BJ—1—1—12	Bm—3—9	Bm—4——括3	Ah—17——括15	Ap—19——括16	Bn—5——括12	Bo—5—423
2	BJ—1——括2	Bn—3—381	Bm—4——括14	Aq—18——括14	Bo—4—409	Bm—4—158	Bn—5——括1
3	BJ—1—8	Bn—4—271	1M——括38	Bm—4—152	Bn—3—33	Bo—5——括18	Bn—4——括9
4	BJ—1—4	Bn—4—321	Bm—4——括18	Bm—3——括4	Bo—4—405	Bn—3——括1	Bm—3—139
5	BJ—1——括4	東斜面一括1	Bm—4——括24	Bm—3——括3	Bm—2——括2	Bn—4——括3	Bn—4—72
6	BJ—1—13	1M—SB2——括35	Bm—4——括26	Bm—5——括8	BH—2——括1	Bo—5—413	Bo—4——括10
7	BJ—1——括6	Bn—4—290	Bn—4—257	BH—3——括1	Bn—4—328	Bn—5—115	Bo—3—41
8	BJ—1—5	Bn—4—374	Bm—3——括27	Bn—3—384	Bm—5—114	Bm—4—54	Bm—4—184
9	BJ—1——括1	1M—2——括36	西区——括16	Bn—3—16	Bm—4—185	Bn—4—228	Bn—4—278
10	BJ—1—6	Bn—5——括6	Bm—4—265	Bn—4—260	Bm—5——括15	Bm—4—188	Bo—5—421
11	BJ—1——括7	Bn—5—122	1M——括34	Bn—4—311	Bm—4—453	Bm—4——括2	Bn—5—358
12	BJ—1——括3	Bm—5——括4	Bm—3—302	Bn—4—144	Bn—5——括11	Bn—4—77	Bn—4—153
13	BJ—1——括5	Bn—4—53	Bm—4——括5	Bm—3——括9	Bo—5—452	Bm—4——括8	Bm—4—167
14	BJ—1——括10	Bn—4—310	Bm—4——括12	Bn—2—1	1M—3——括1	Bn—4—502	Bm—34——括7
15	BJ—1——括12	Bn—4—304	Bm—4——括21	Bn—4—473	1M—SB——括3	Bm—4—156	Bn—5——括5
16	BJ—1—3	Bo—6—446	1M—3——括37	Bp—4—442	Bm—4—164	Bn—2——括4	Bo—6—441
17	BJ—1—17	Bm—4——括7	Bn—5——括11	Ah—17——括13	Bn—5——括17	Bm—4—182	Bn—4—92
18	BJ—1——括14	Bn—4—299	Bm—4——括23	Bm—4—452	Bn—5——括23	BH—2—88	Bn—3——括2
19	BJ—1—18	Bm—4——括19	Bm—3——括1	Bo—5——括1	Bn—4—312	Bm—4——括13	1M—6——括14
20	BJ—1——括9	Bn—5——括2	Bm—3——括2	Bn—4—154	Bn—3——括22	Bn—4—86	1M—4——括15
21	BJ—1——括16	BH—3——括4	BH—3——括3	Bn—3—32	Bo—5—427	1M—1——括24	1M——括16
22	BJ—1—19	Bm—4——括22	1M—5——括1	Bn—3——括10	Bn—3—398	BH—2——括2	
23	BJ—1——括15	Bn—4—298	Bn—4——括2	Bm—4——括5	Bo—5—414	BH—2——括5	
24	BJ—1——括13	Bn—4—172	Bn—4—255	Bn—5—118		1M—SB3——括4	
25	BJ—1——括11	Bn—4—293	Bn—4—269			1M—1——括5	
26	BJ—1—14	Ap—19——括39	Bn—4—112			Bn—4——括25	
27	BJ—1——括18	Bn—4—292	Bn—4——括2			Bn—4—192	
28		Bm—5——括10	Bn—3——括3			BH—2—71	
29		Bn—4——括13	Bo—5—424			1M—3——括	
30		Bn—5——括17	Bn—2——括1			Bo—5—412	
31		Bm—4——括15	西区——括2			Bm—4—195	
32		Bn—5——括25	Bn—3——括6			Bn—4——括1	
33		Bm—3——括20	Bn—3——括7			Bm—4——括8	
34		Bm—4——括8	Bn—3——括4			Bm—4—194	
35		Bn—4——括9	BH—3—39			Bn—4—104	
36			Bn—3—385			Bo—3——括6	
37			Bm—3—125				
38			Bn—4——括5				
39			An—25——括16				
40			Bo—3——括3				
41			Bn—5—365				
42			Bn—3—6				
43			Bo—6—447				

東区

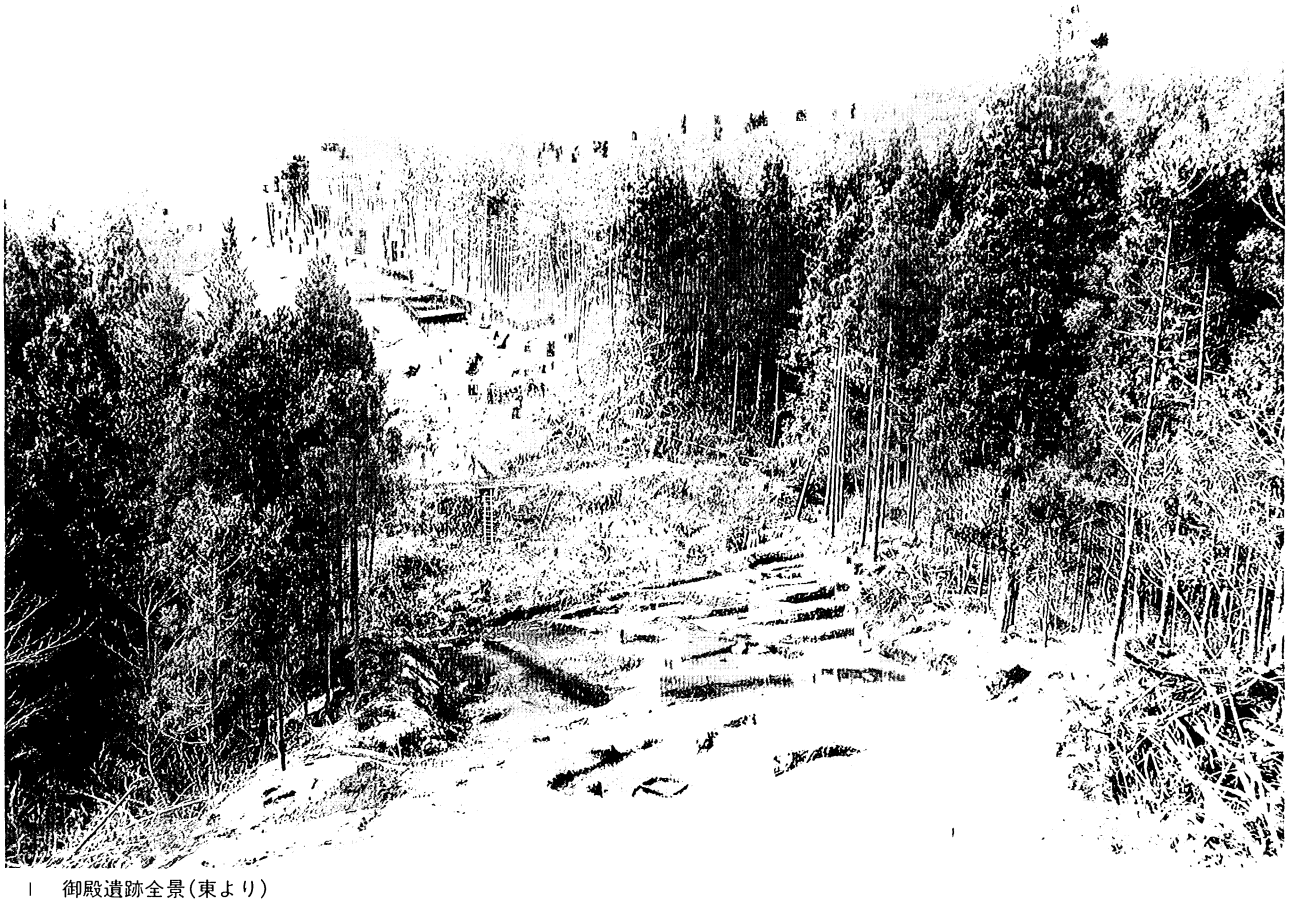
	図　33	図　34	図　35	図　36	図　37	図　38	図　39
1	Bo—18—352	Bo—19—一括11	Bn—19—102	東区—一括16	Bp—21—309	Bn—19—369	東区—一括12
2	1トレ—一括4	Bo—19—一括13	Bo—20—一括1	Bp—21—318	Bo—20—273	Bm—18—218	Bm—19—一括20
3	Bn—17—377	Bo—20—一括4	東区—5—一括4	Bo—17—238	Bm—17—一括2	Bn—19—136	Bo—21—一括29
4	Bn—17—237	Bo—19—一括9	BH—5—11	Bn—18—一括19	BH—5—57	Bo—17—255	Bo—19—180
5	Bo—17—231	Bo—19—一括7	Bo—19—89	Bo—18—一括6	東区—一括15	Bn—18—一括34	Bo—21—11
6	1トレ—一括3	Bn—19—364	Bn—19—一括2	Bo—19—212	1トレ—一括62	Bo—18—一括32	Bo—17—64
7	Bn—18—一括2	Bn—19—一括6	Bo—20—一括24	Bn—18—一括8	Bo—19—181	Bo—17—254	Bo—20—一括8
8	Bo—21—一括1	東区—一括15	Bo—19—94	BH—5—84	1トレ—一括60	Bo—20—一括10	BH—5—98
9	Bp—21—308	Bo—18—357	Bo—19—227	Bo—20—262	Bn—18—一括44	Bo—20—一括42	Bm—17—242
10	Bo—19—208	Bo—19—一括17	1トレ—一括33	BH—5—78	Bn—20—一括4	Bn—18—一括28	Bm—17—238
11	Bo—19—200	Bm—18—一括24	Bo—17—40	Bm—18—一括22	Bo—20—一括5	Bo—17—9	Bp—21—一括7
12	Bo—18—一括14	Bo—21—一括22	BH—5—45	Bm—18—一括11	Bm—17—一括1	Bo—20—267	Bo—17—45
13	Bn—18—一括1	Bn—17—一括25	Bo—19—202	BH—5—一括12	Bo—19—193	Bn—18—375	Bn—19—一括13
14	Bm—18—221	Bn—17—一括21	Bn—20—一括3	Bl—17—一括18	Bo—17—8	Bo—19—一括9	Bn—19—一括9
15	Bo—19—292	Bp—19—一括27	Bo—17—27	Bo—20—一括15	Bo—20—一括6	Bn—19—103	BH—5—66
16	Bmn—17—一括18	Bo—18—172	BH—5—94	Bm—19—一括20	BH—5—29	Bn—19—一括18	BH—5—一括14
17	東区—一括28	Bo—20—一括19	Bo—17—15	Bn—18—一括28	Bn—18—一括3	Bn—19—143	Bp—19—一括6
18	Bo—17—233	Bo—19—230	BH—5—一括7	Bo—19—一括34	Bo—19—100	BH—5—60	Bo—17—249
19	Bo—20—一括8	Bp—19—一括2	Bo—17—30	Bo—18—一括21	Bo—17—39	Bn—19—130	BH—5—一括11
20	Bo—17—252	Bn—18—一括10	Bn—19—372	Bn—17—一括17	Bo—20—一括1	Bo—18—一括26	Bp—19—一括5
21	Bo—19—179	Bn—19—149	Bo—17—一括10	Bn—17—一括27	Bn—20—81	Bn—20—一括25	Bp—17—一括2
22	BH—5—6	Bo—17—5	Bo—17—一括13	Bn—19—一括25		Bm—19—一括33	Bo—18—一括4
23	Bn—18—一括16	Bo—20—274	Bo—17—一括29	Bl—17—一括26		Bn—17—一括22	Bp—19—一括3
24	Bn—19—197	Bm—18—一括3	Bo—18—一括9	Bo—18—一括31		東区—一括19	BH—5—129
25	Bn—19—一括5	東区—一括5	Bo—18—一括23	Bl—17—一括30		Bn—18—一括13	東区—一括10
26	Bn—18—一括2	テストレ2—一括2	Br—19周辺—一括14	Bo—21—一括32		Bn—19—118	Bo—17—一括5
27	1トレ—一括30	Bn—19—359	テストレ№6—一括5	BH—5—159		Bo—17—21	東区—一括13
28	1トレ—一括31	Bo—20—43	Bo—17—97	Bo—21—一括		Bo—19—185	№5 Tes—一括1
29	Bn—19—一括12	Bm—18—223	BH—5—34	Bn—21—341		Bn—17—一括11	Bm—19—一括7
30	Bo—17—53	BH—5—51	Bn—17—一括35	Bn—19—134		Bo—18—173	BH—5—一括4
31	東区—一括13	Bo—19—256		Bn—17—48		Bn—19—155	Bn—18—一括6
32	Bm—18—一括29	Bn—19—144		Bo—17—47		Bo—18—一括24	Bo—20—一括10
33	Bo—20—一括26	Bn—18—一括7		Bn—20—72		Bo—17—28	Bp—21—一括1
34	Bo—17—一括29	BH—5—一括4		Bo—20—46		1トレ—一括61	Bo—17—224
35	Bo—17—一括23	Bo—19—211				Bn—20—51	Bo—17—251
36	Bo—19—一括20	Bn—18—一括1				Bn—19—158	BH—5—171
37	Bm—18—一括10					Bn—18—一括43	BH—5—160
38						BH—5—75	BH—5—161
39						Bm—18—219	1トレ—一括16
40						Bp—21—315	BH—5—162
41							Bn—17—一括15

写　真　図　版

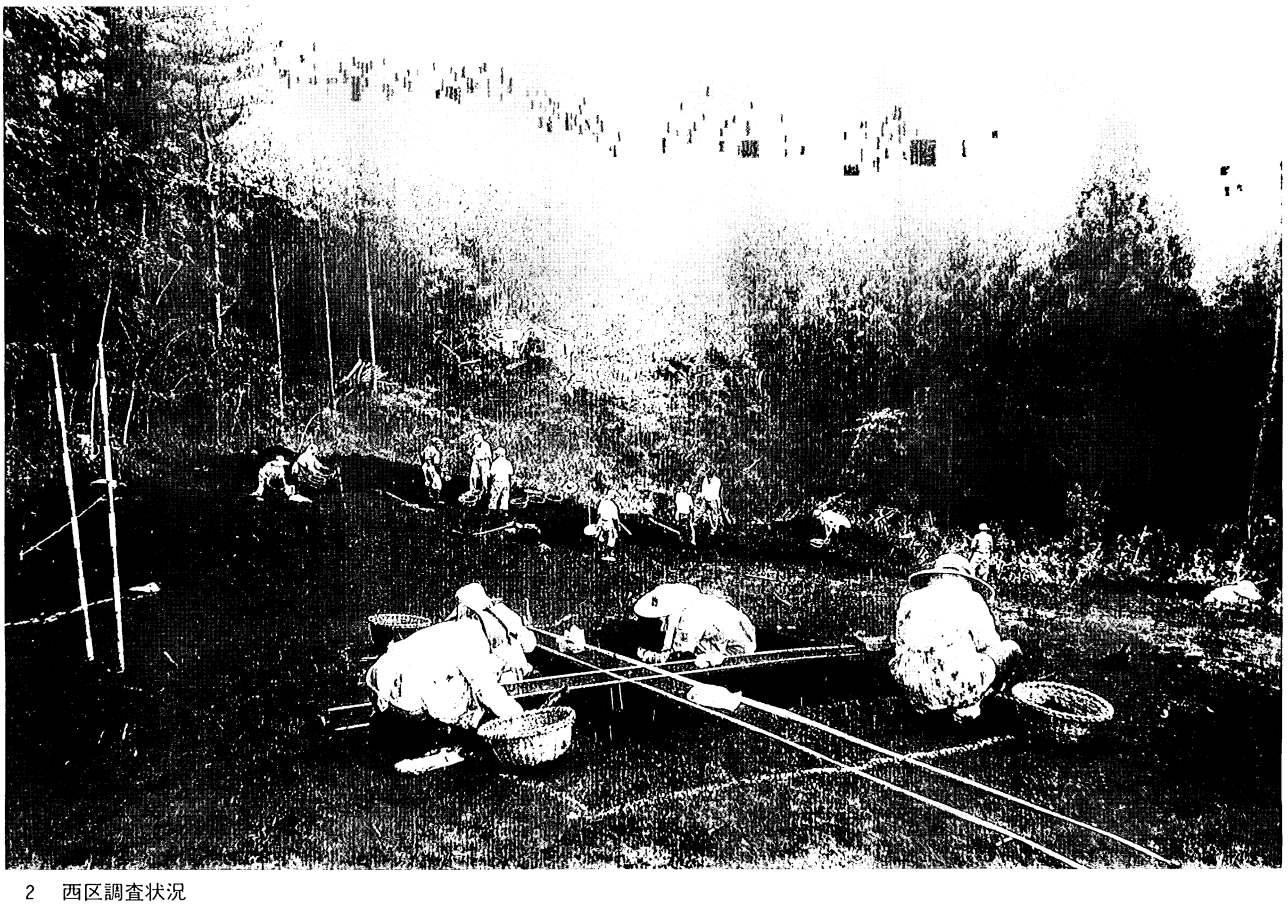
1　御殿遺跡遠景（東より）

2　西区基本土層

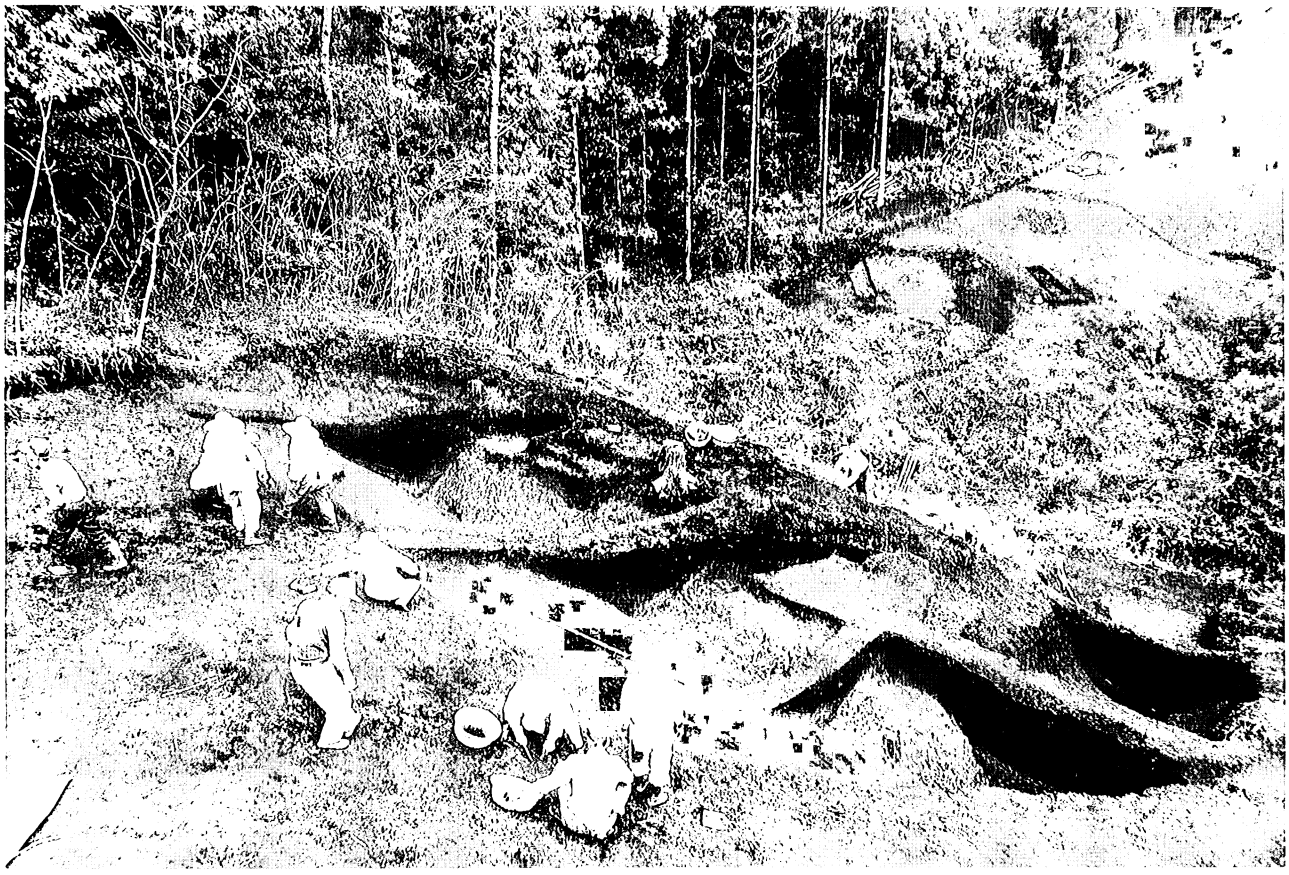
3　東区基本土層



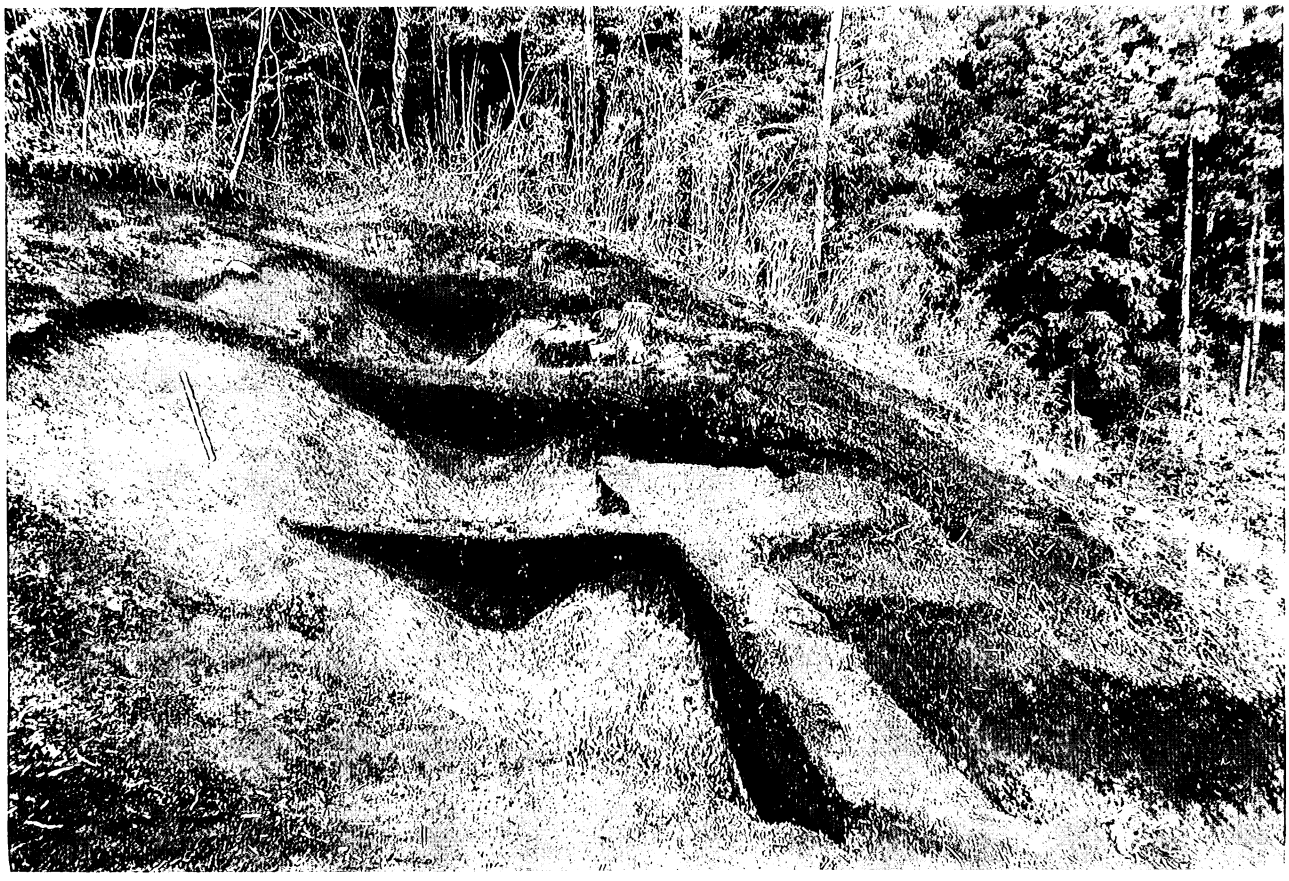
1　御殿遺跡全景(東より)



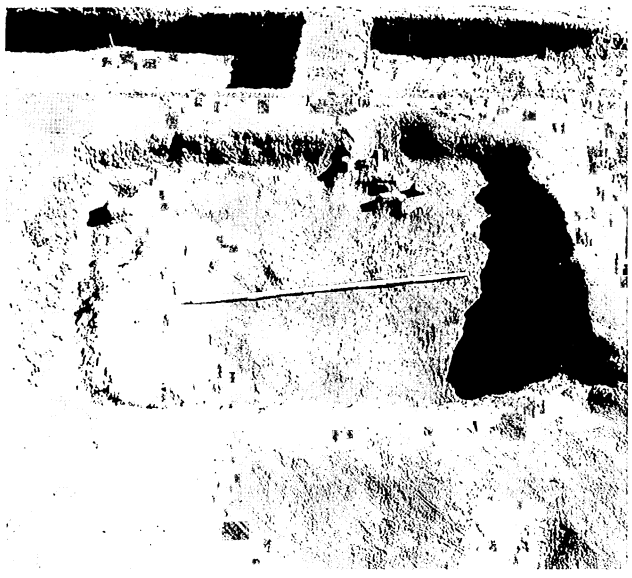
2　西区調査状況



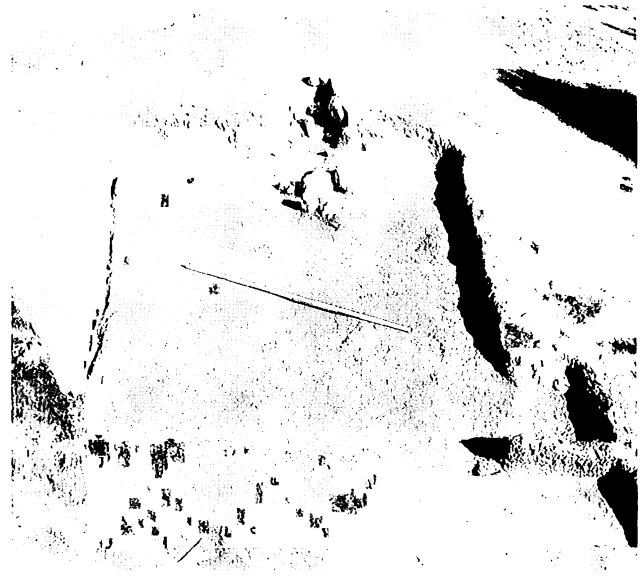
1　大溝の調査



2　大溝全景

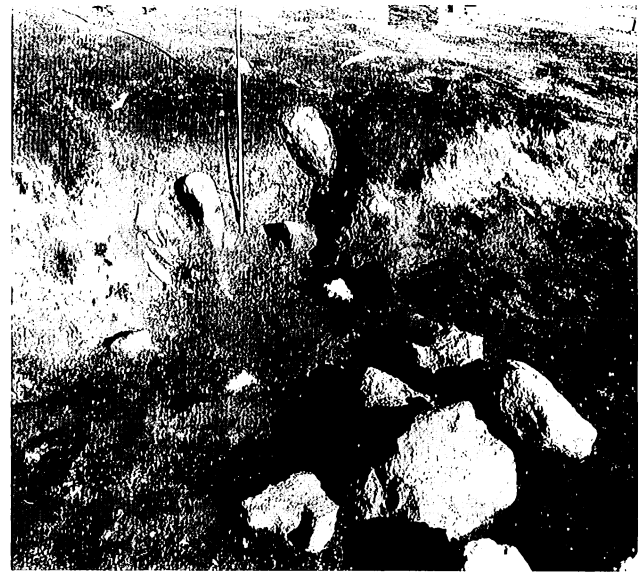


1　BH-1号住居全景



4　BH-2号住居全景

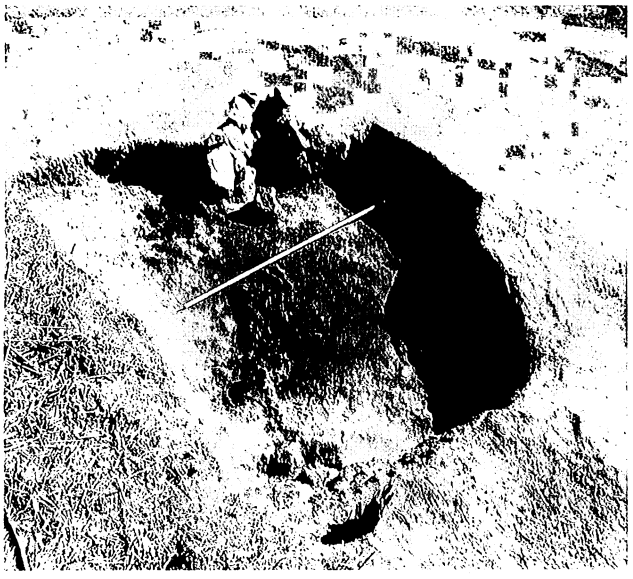
2　BH-1号住居土層堆積状況



5　BH-2号住居竈部分土層堆積状況

3　BH-1号住居遺物の出土状況

6　BH-2号住居竈部分詳細



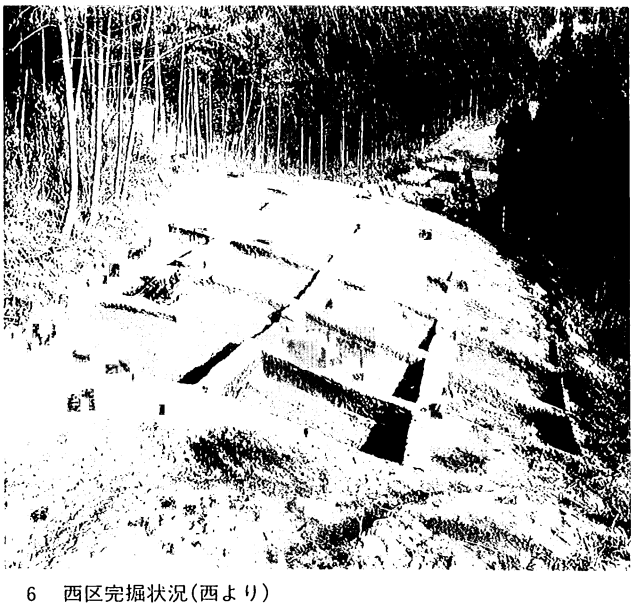
1　BH-3号住居全景

2　BH-3号住居竈部分詳細

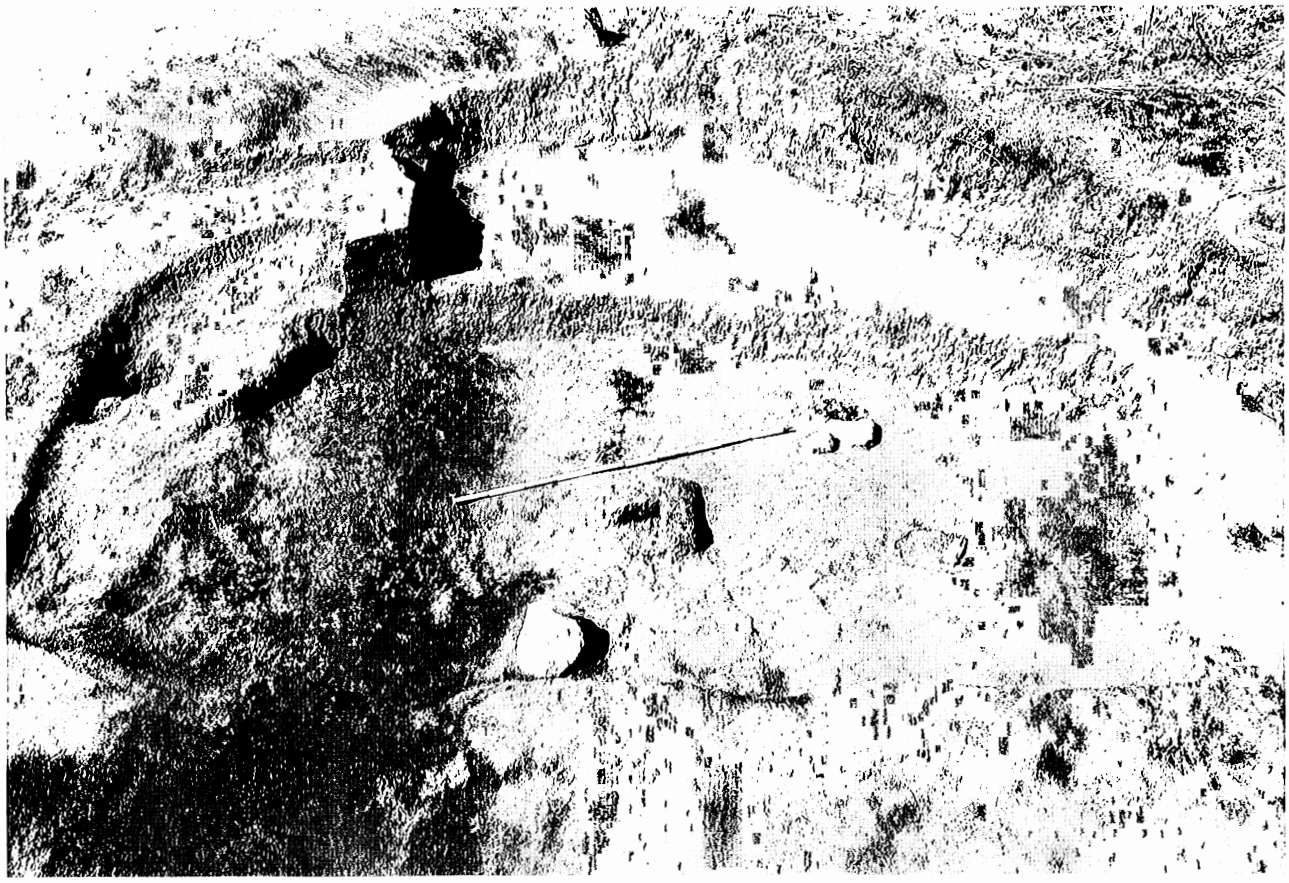
3　BH-4号住居全景

4　AH-Ⅰ号住居全景

5　AH-Ⅰ号住居竈部遺物出土状況



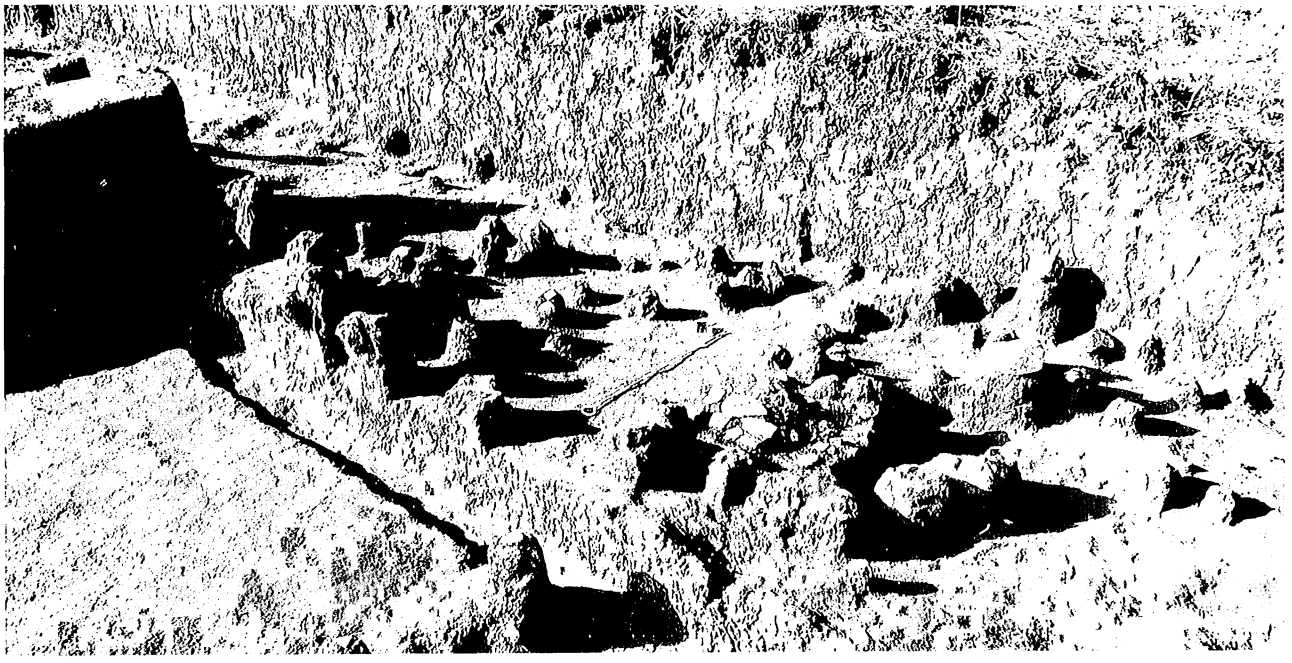
6　西区完掘状況(西より)



1　BJ-Ⅰ号住居全景(東より)

2　BJ-Ⅰ号住居遺物出土状況

3　BJ-Ⅰ号住居地床炉

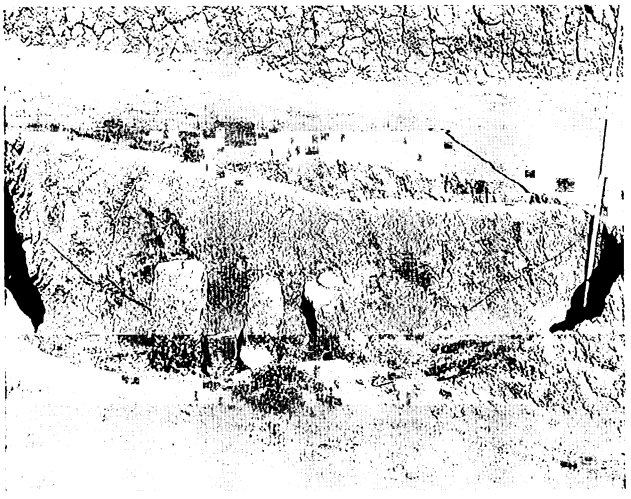


1　西区包含層遺物出土状況(南東より)

2　西区包含層遺物出土状況

3　包含層下部で検出されたBJ-2号土壙

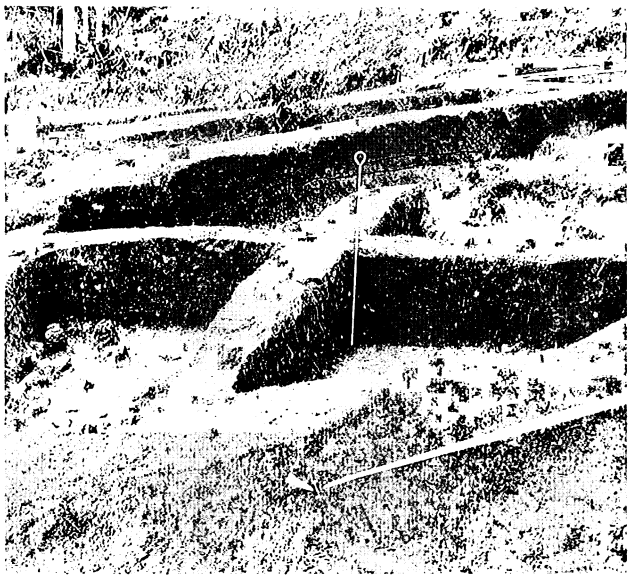
4　包含層下部で検出されたBJ-1号土壙



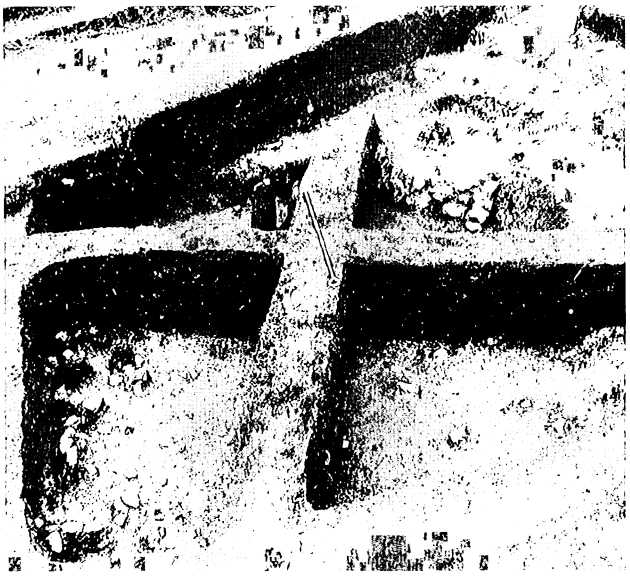
5　BJ-1号土壙土層堆積状況

1　BH-5号住居全景

2　「鐃」鋳型出土状況



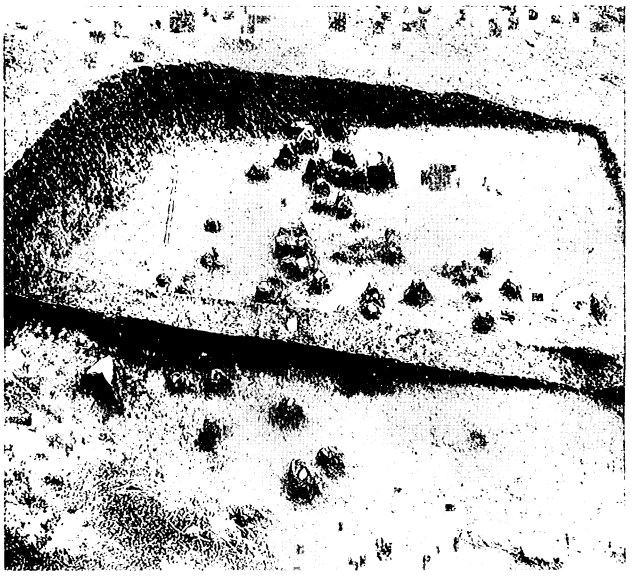
1　BH-5号住居土層堆積状況



2　BH-5号住居土層堆積状況

3　CH-Ⅰ号住居全景

4　BH-6号住居遺物出土状況



5　BH-6号住居全景(北より)

6　CH-Ⅰ号住居土層堆積状況

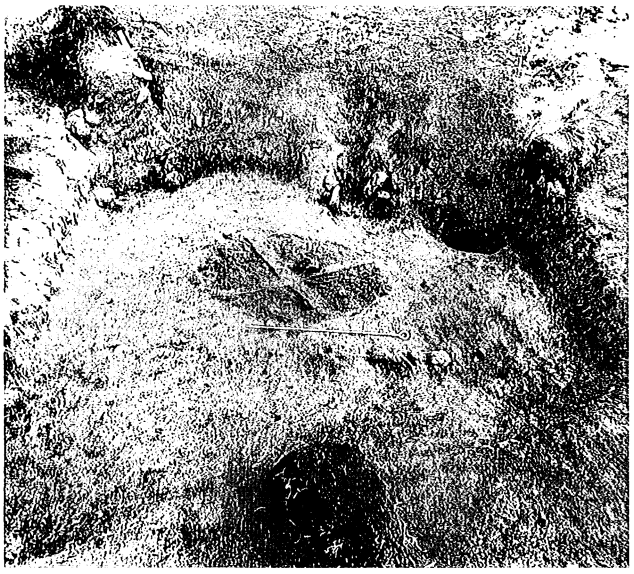
1　東区西端の造成段(北より)

2　造成段上の1号掘立柱建物

1　BH-7号住居遺物出土状況

2　BH-7号住居遺物出土状況(部分)

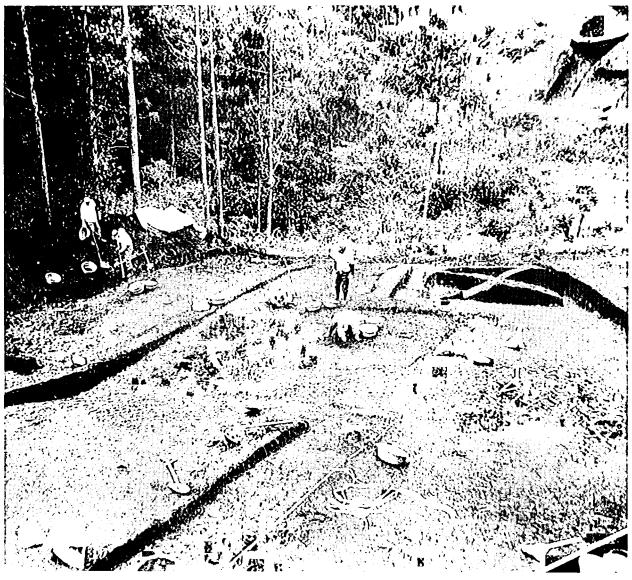
3　BH-7号住居中央敷物状炭化物断面



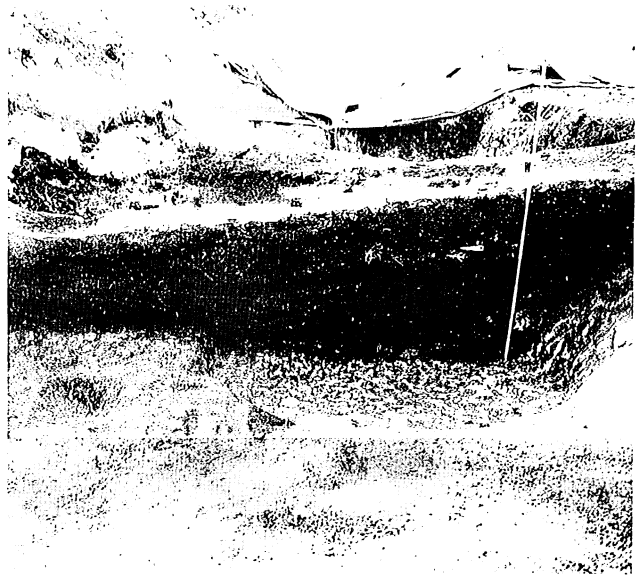
4　BH-7号住居全景

5　BH-7号竈部遺物出土状況

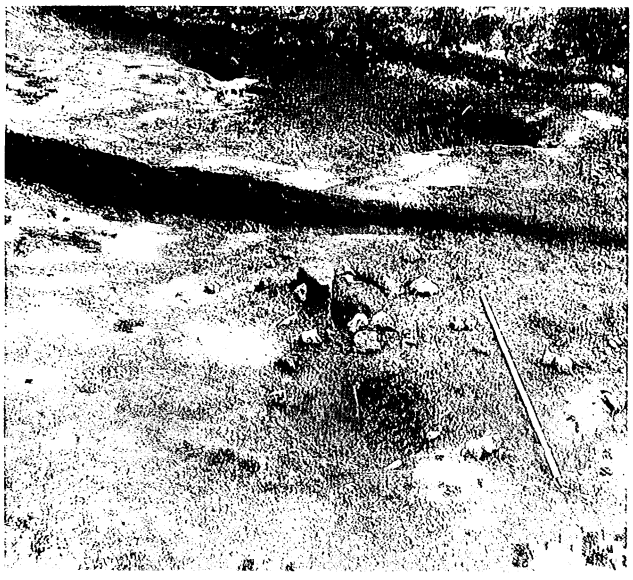
6　BH-7号住居土層堆積状況



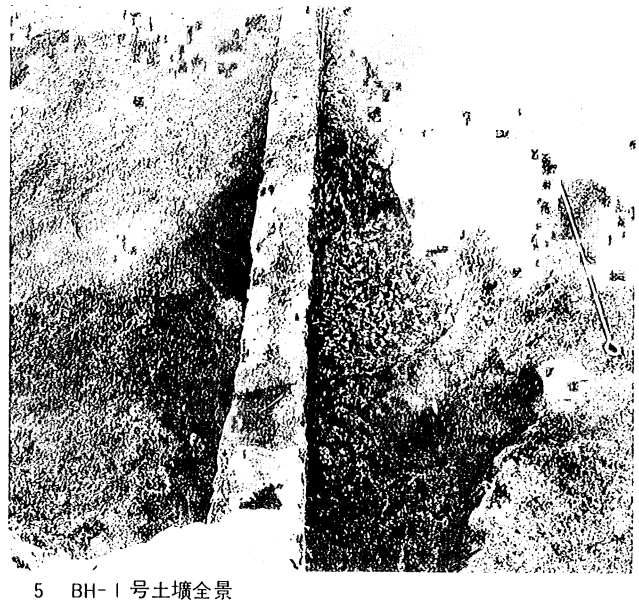
1　東区発掘状況(東より)



4　BH-1号土壙土層堆積状況

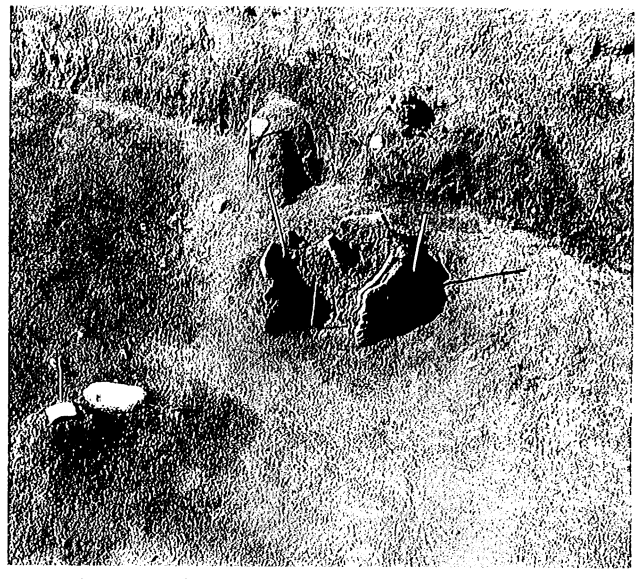


2　BH-1・2号土壙

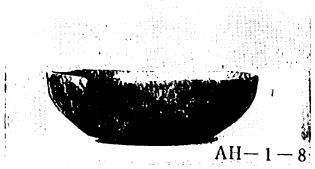


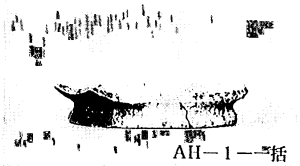
5　BH-1号土壙全景

3　東区縄文包含層遺物出土状況

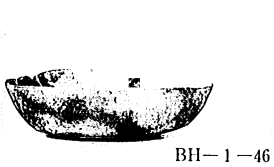


6　東区縄文包含層田戸下層式土器出土状況


AH－1－8


AH－1－一括

BH－1－24

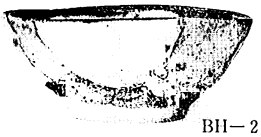

BH－1－46

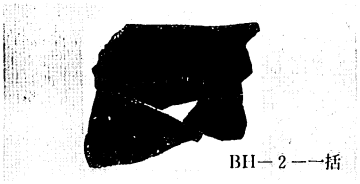
BH－1－48

BH－2－28

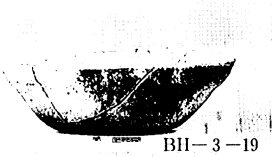
BH－2－10

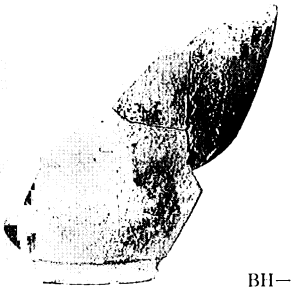
BH－2－一括

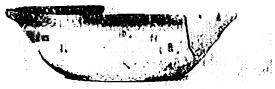

BH－2－27

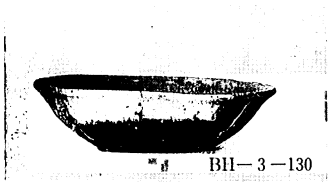

BH－2－一括

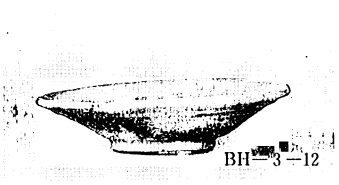
BH－2－14

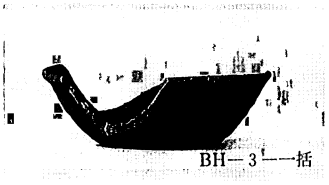

BH－3－19

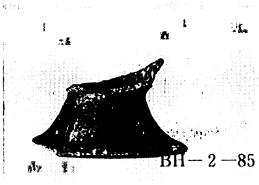

BH－2－51

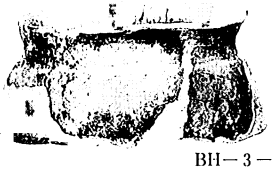

BH－3－2

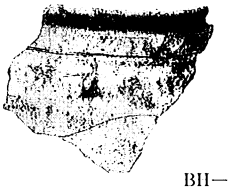

BH－3－130

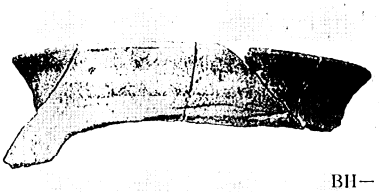

BH－3－12


BH－3－一括

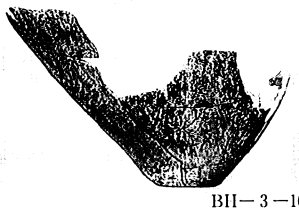

BH－2－85


BH－3－6

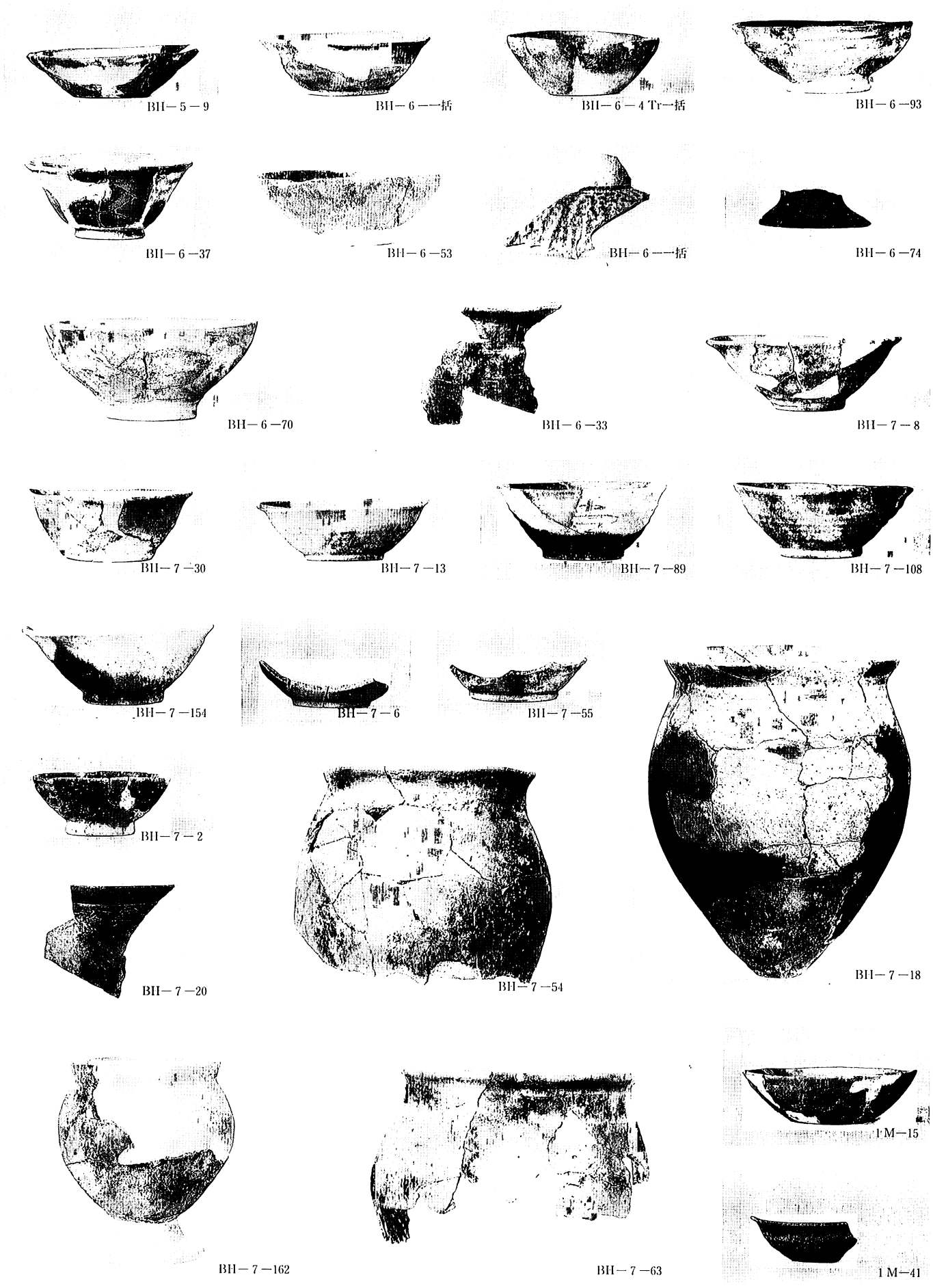

BH－3－88


BH－3－140

BH－3－157

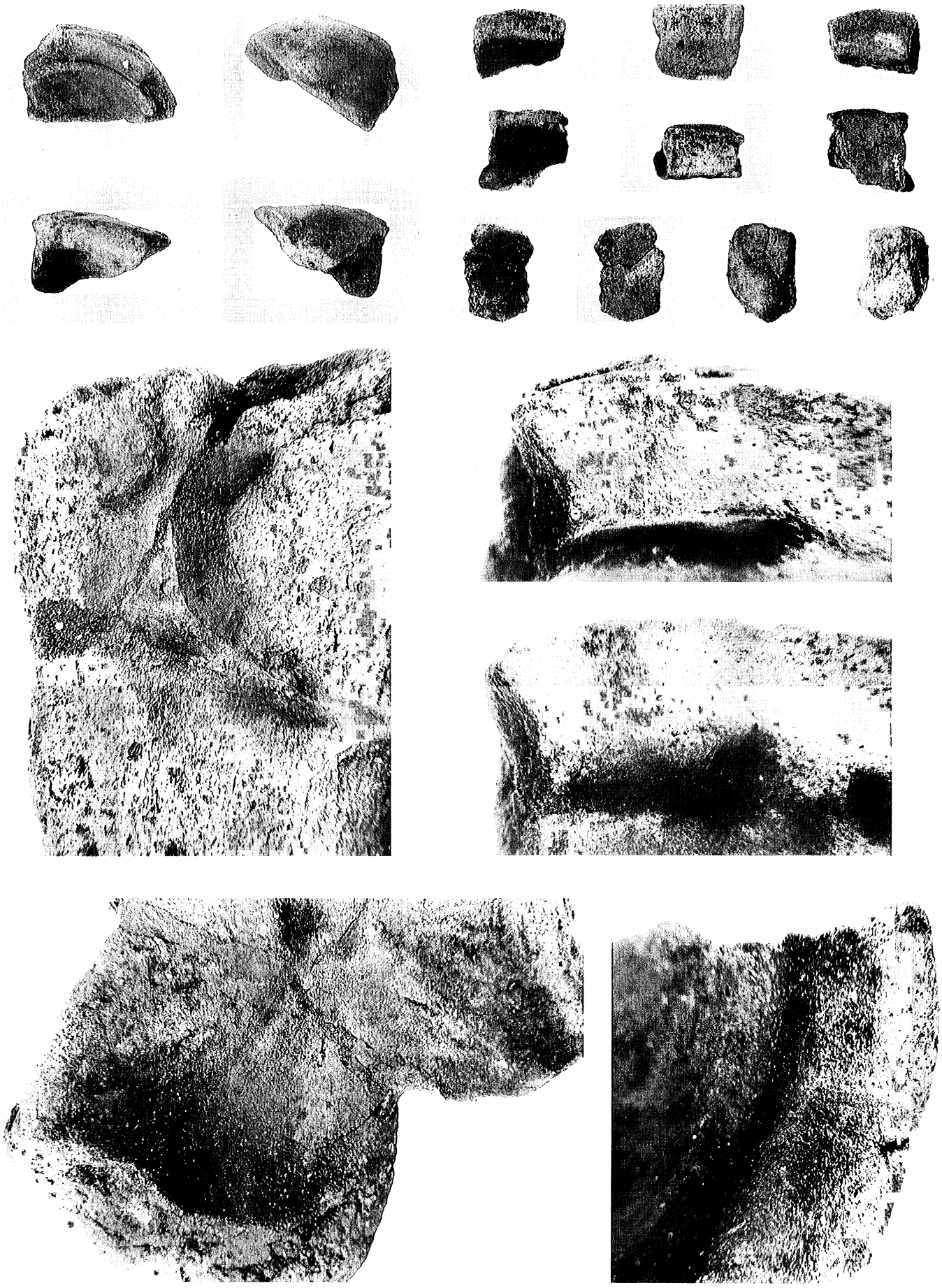

BH－3－101

AH-Ⅰ、BH-Ⅰ・2・3号住居出土遺物

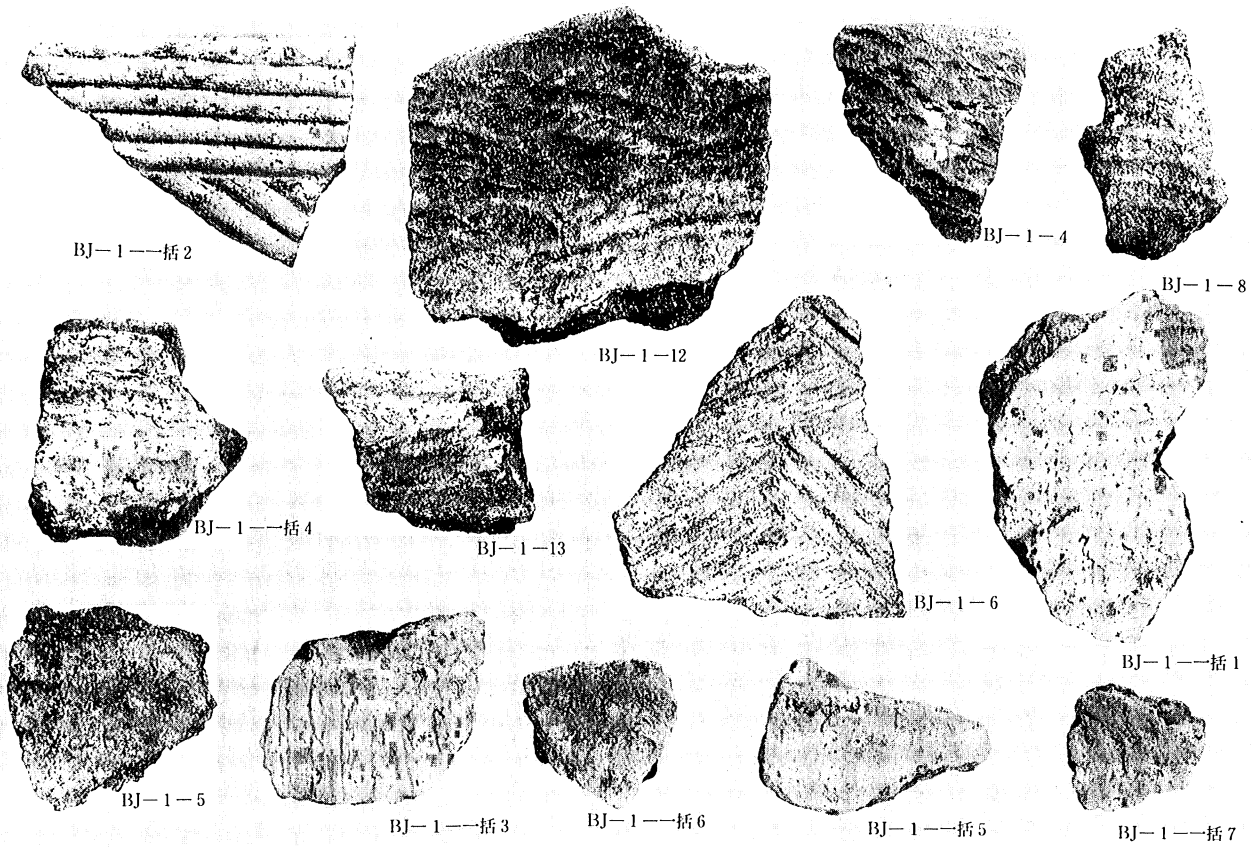


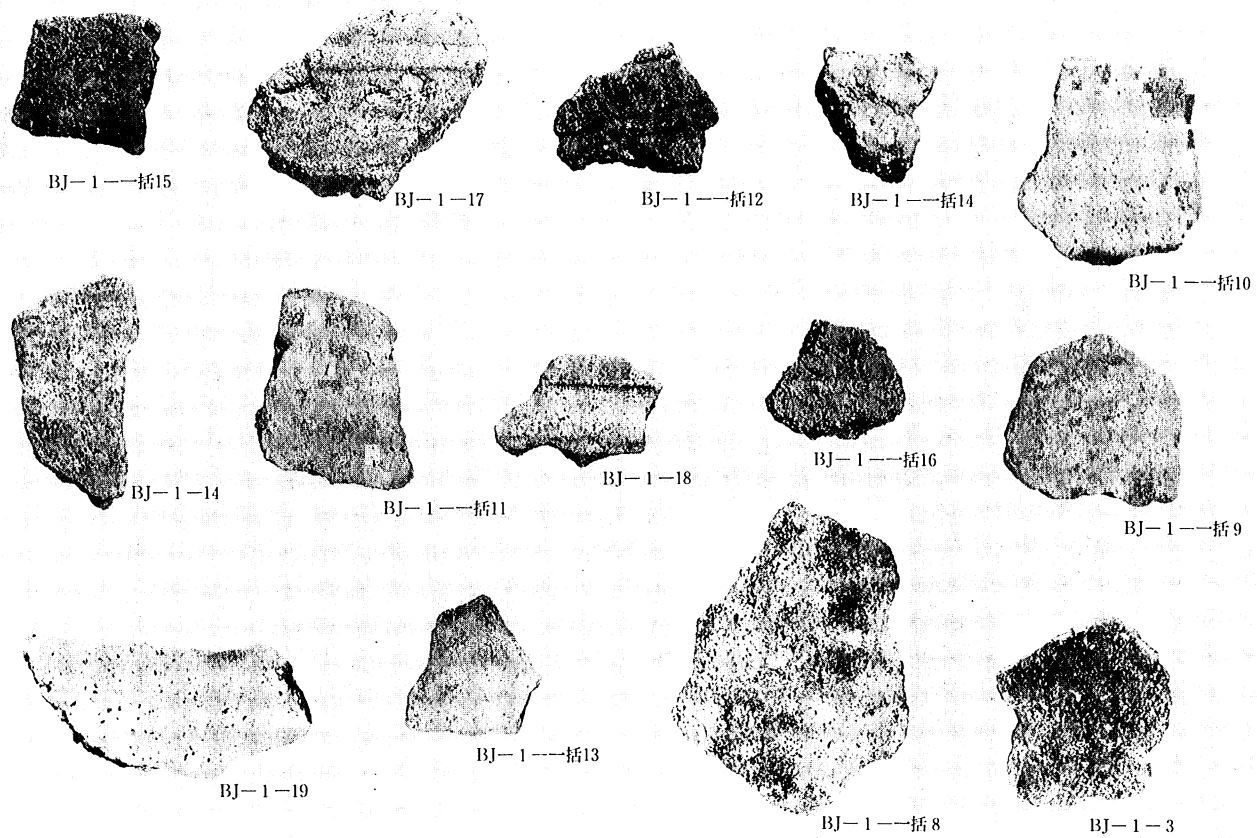
BH-5・6・7号住居出土遺物

BH-5号住居出土「鐃」鋳型

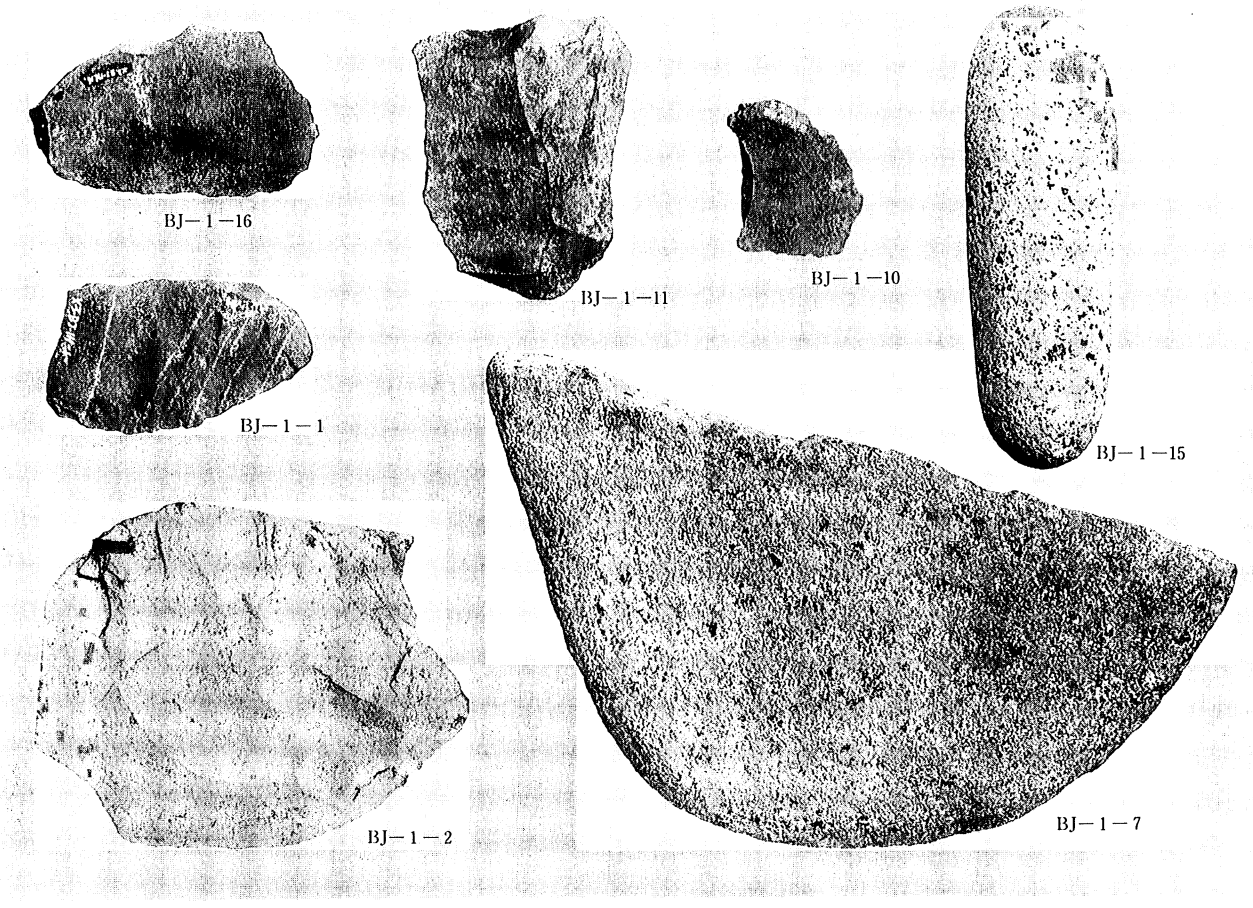


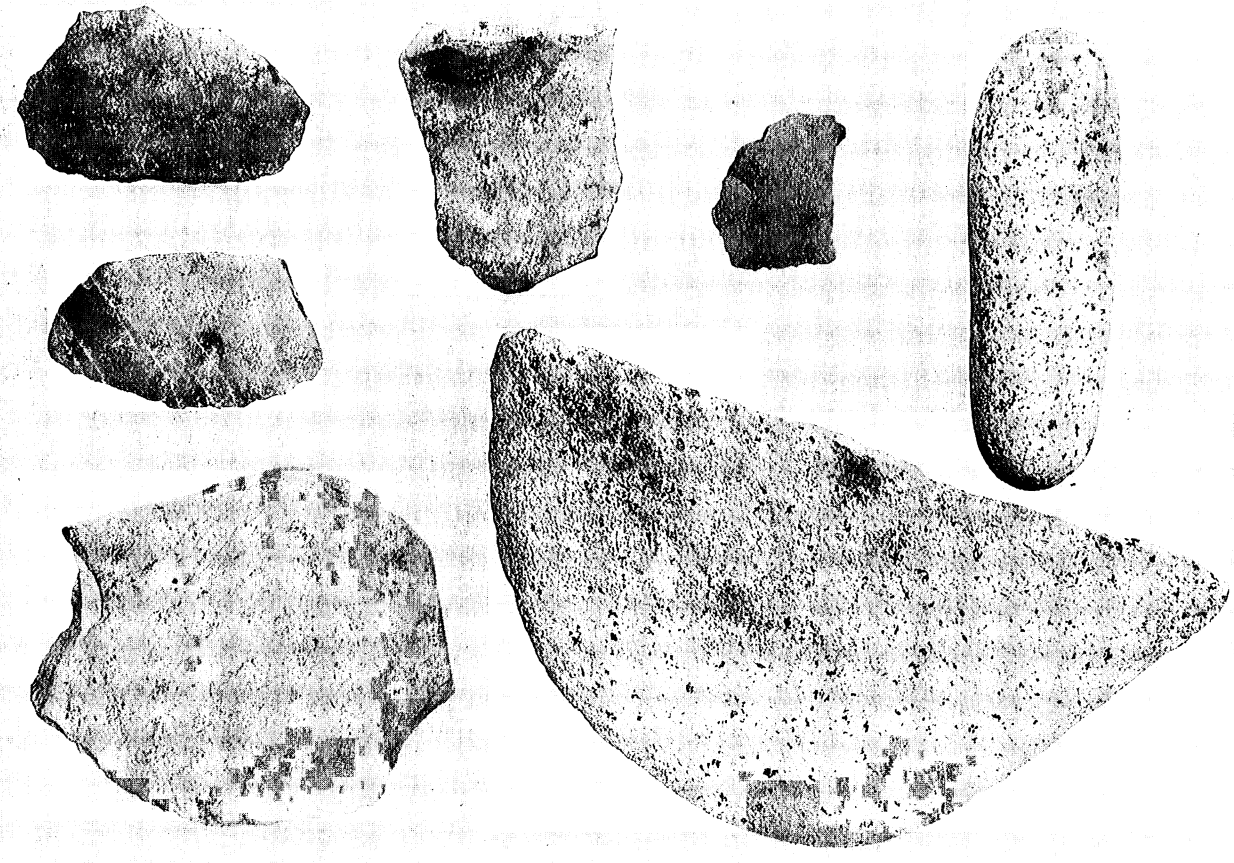
BH-5号住居出土「鐃」鋳型



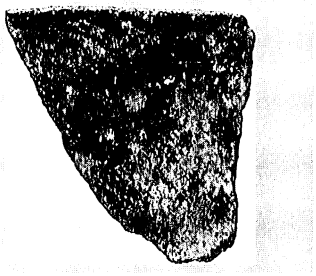


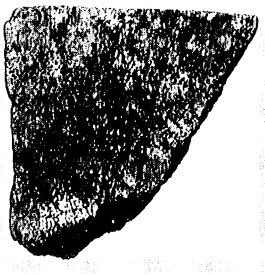
BJ-1号住居出土遺物(土器)





BJ-1号住居出土遺物(石器)

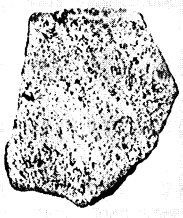


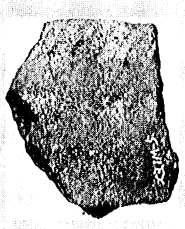


Bn—3—381

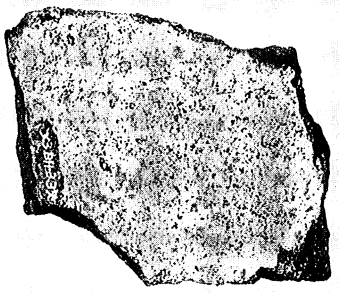
Bm—3—9

Bn—4—328





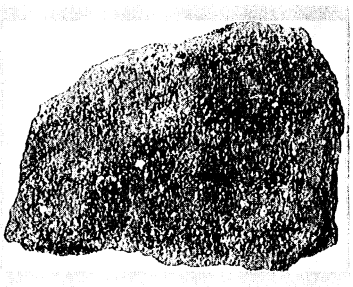
1M—5——括1

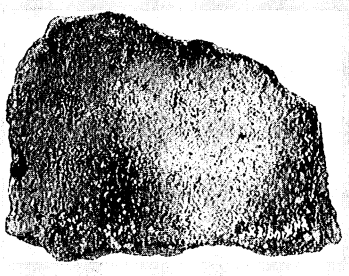


BH—3—39

Bn—4——括2

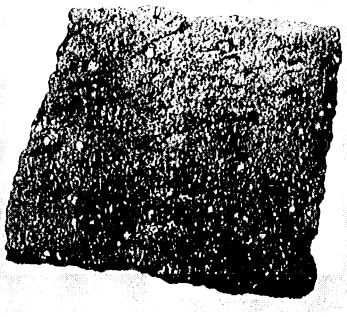
BH—3周边——括3

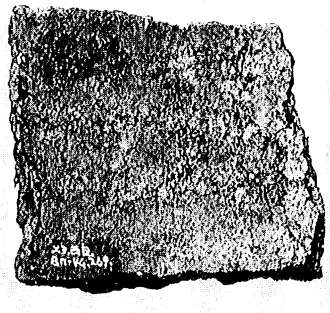




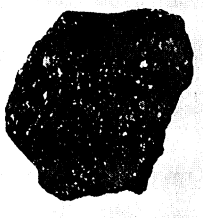
Bn—4—112

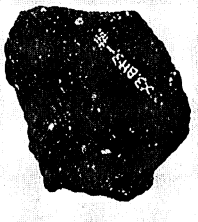
BH—3——括4



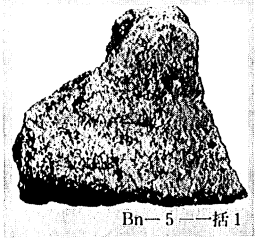


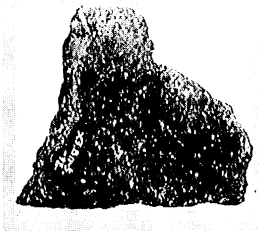
Bn—4—269



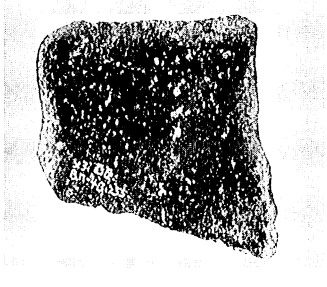


BH—3——括1



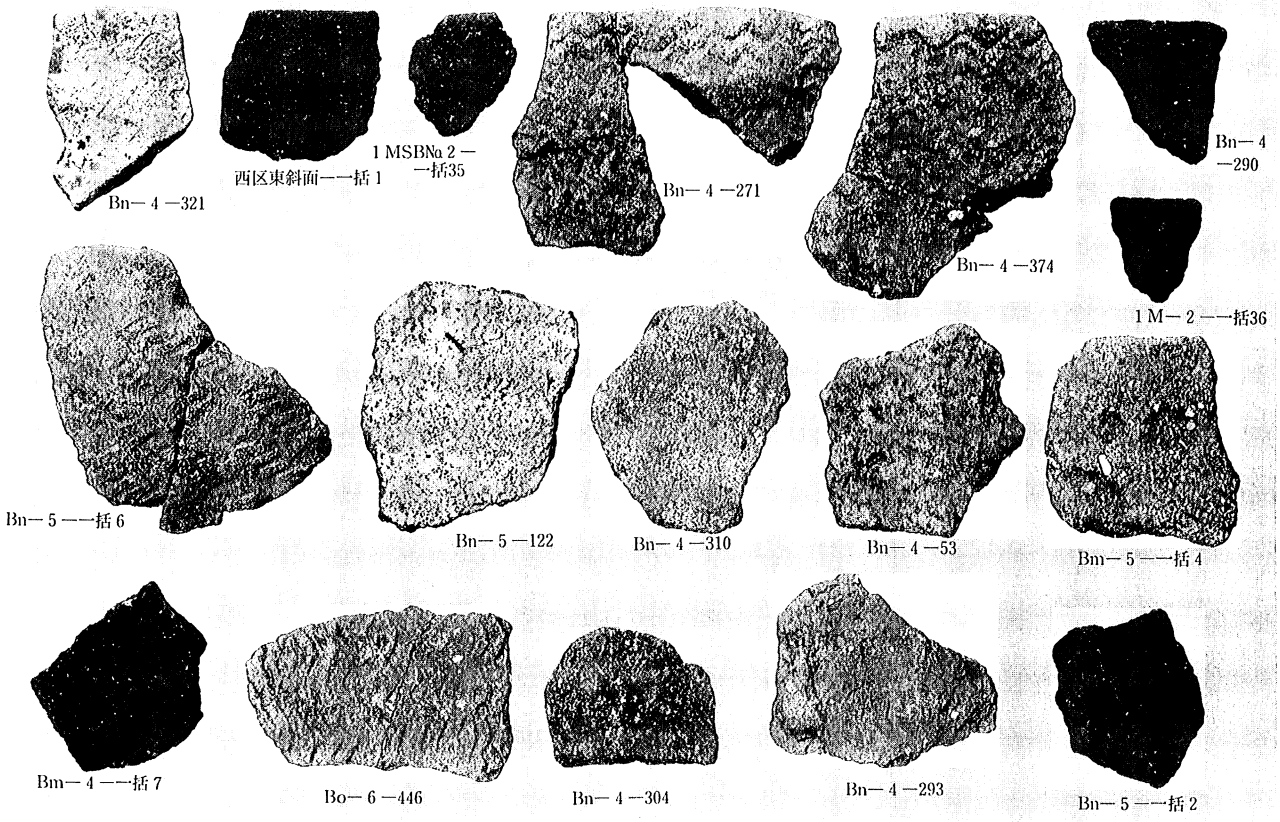


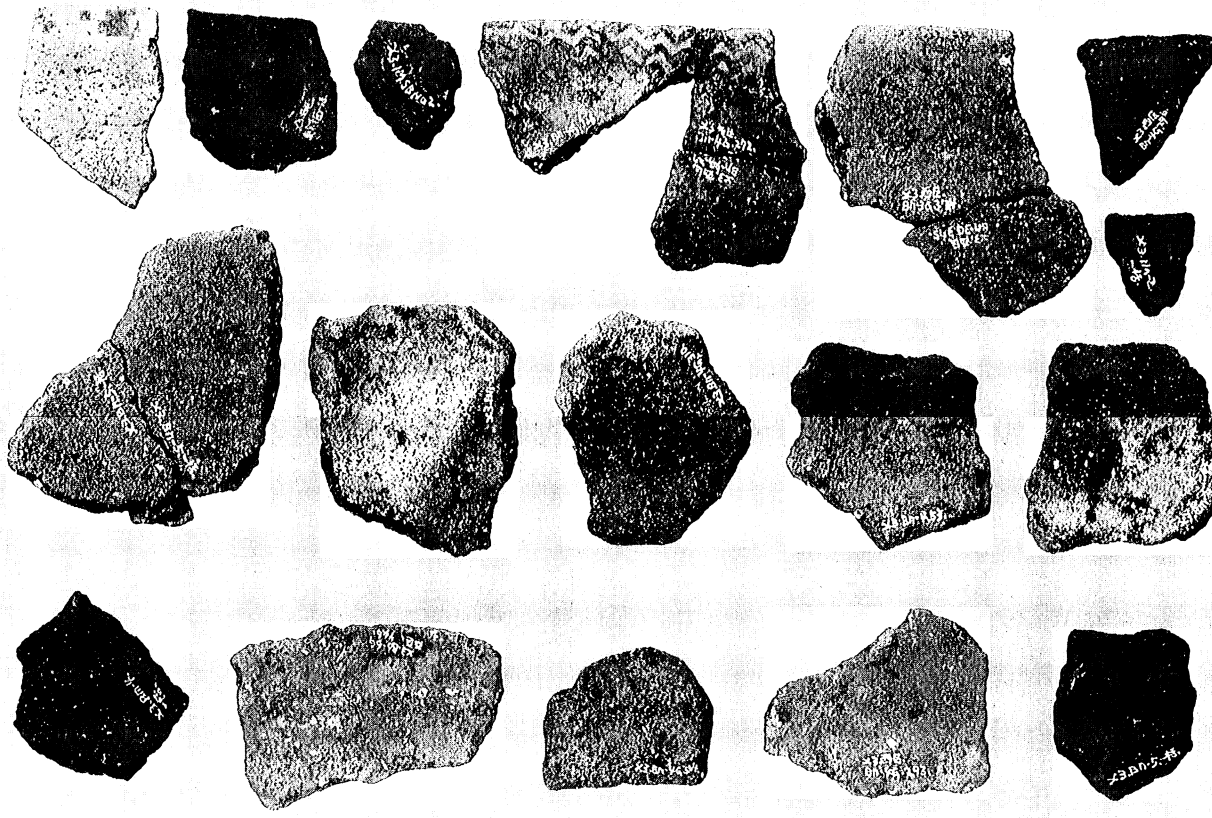
Bn—5——括1



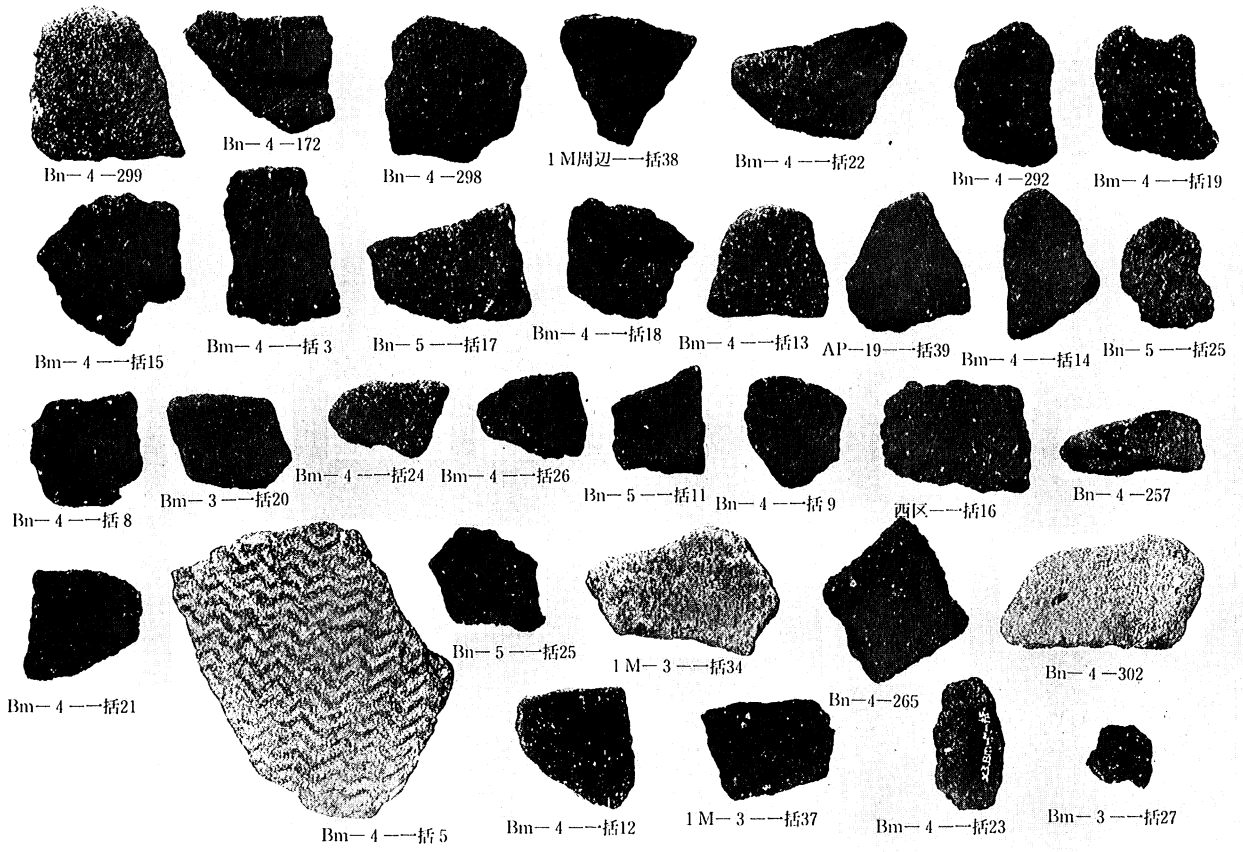
Bn—4—255

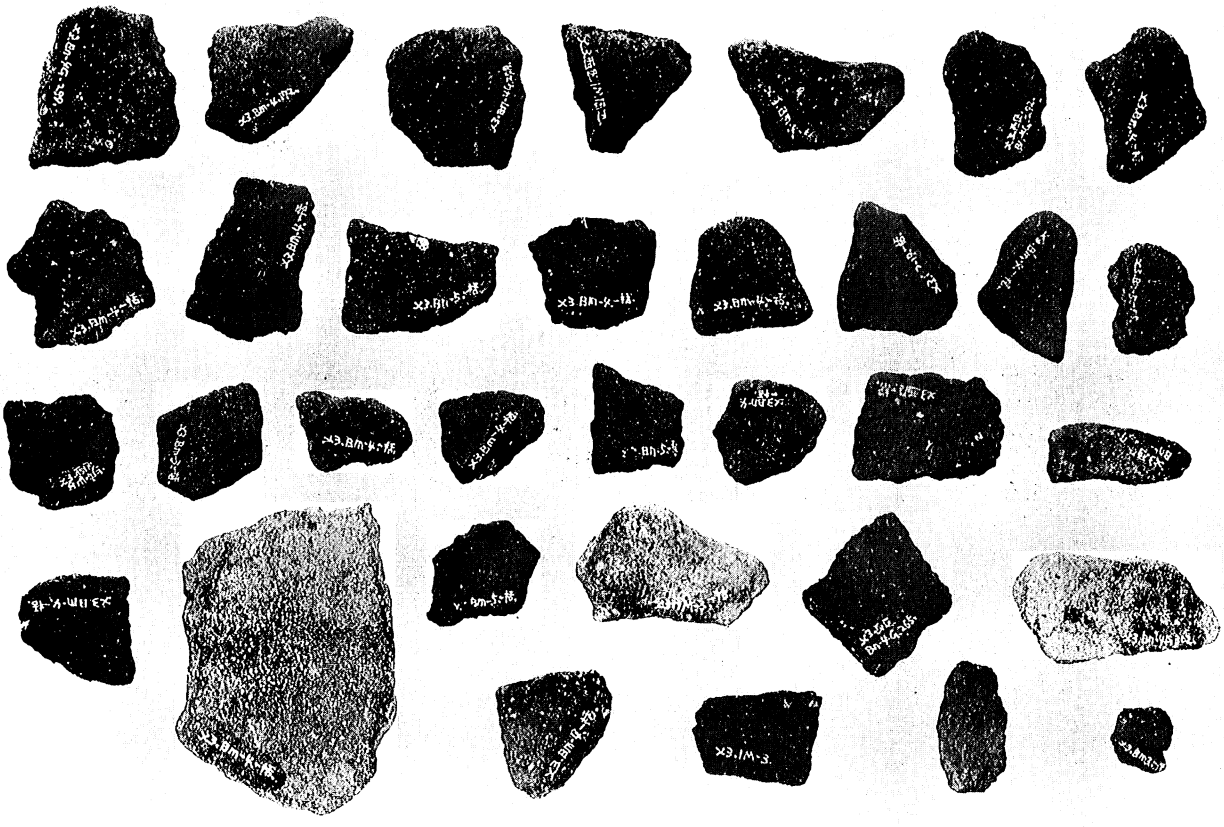
西区包含層出土土器(草創期・早期)Ⅰ



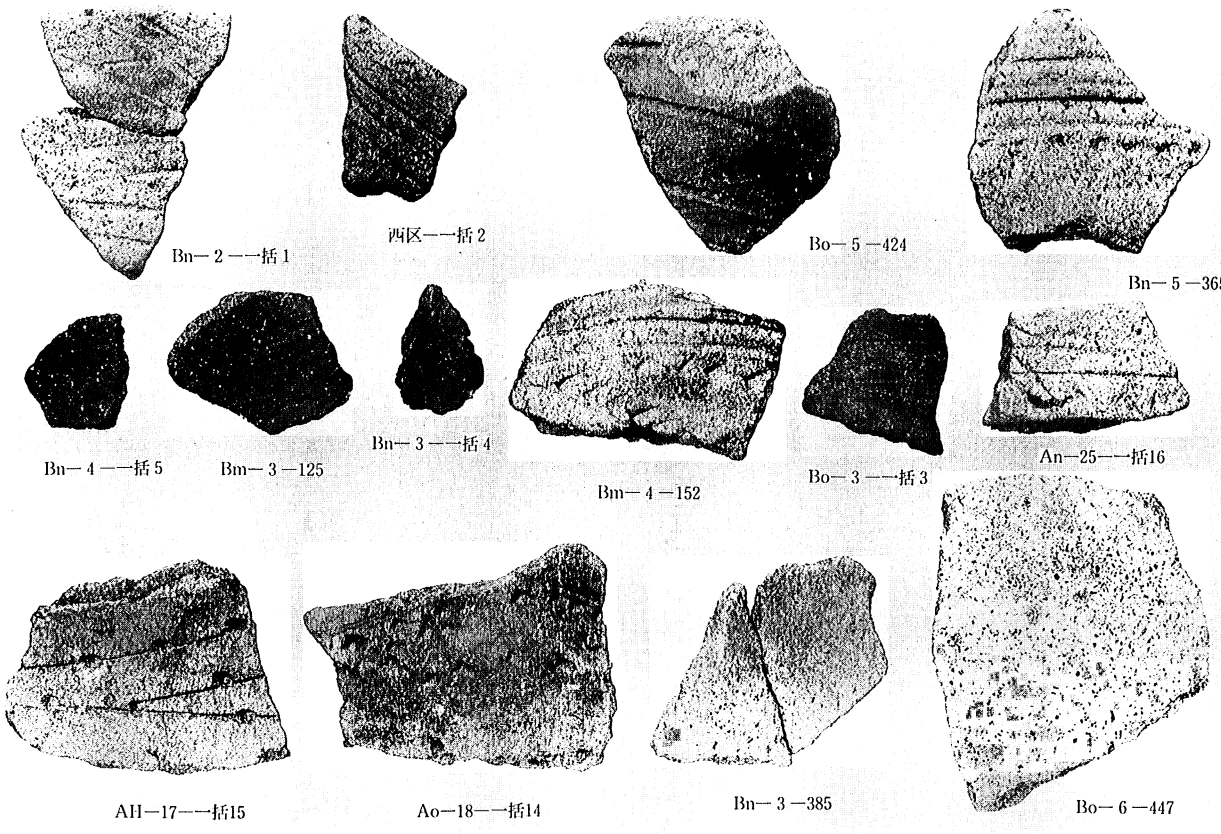


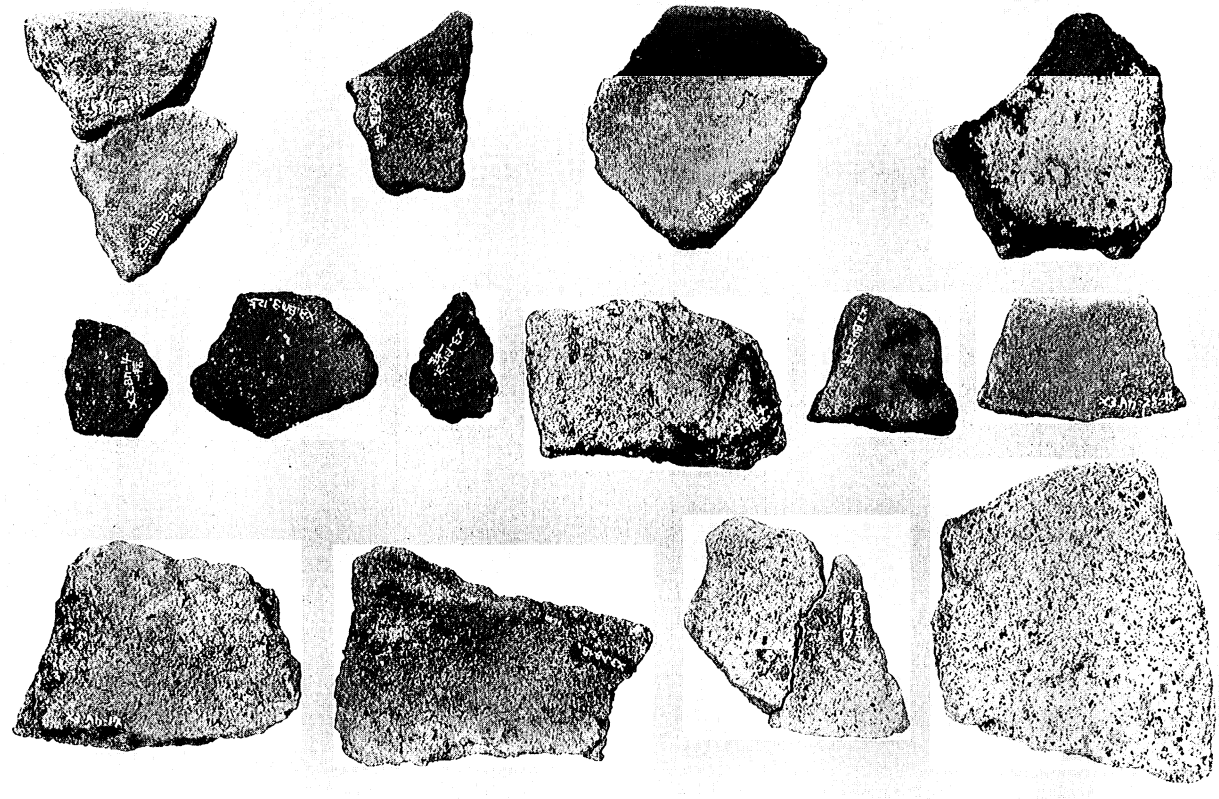
西区包含層出土土器(早期) I



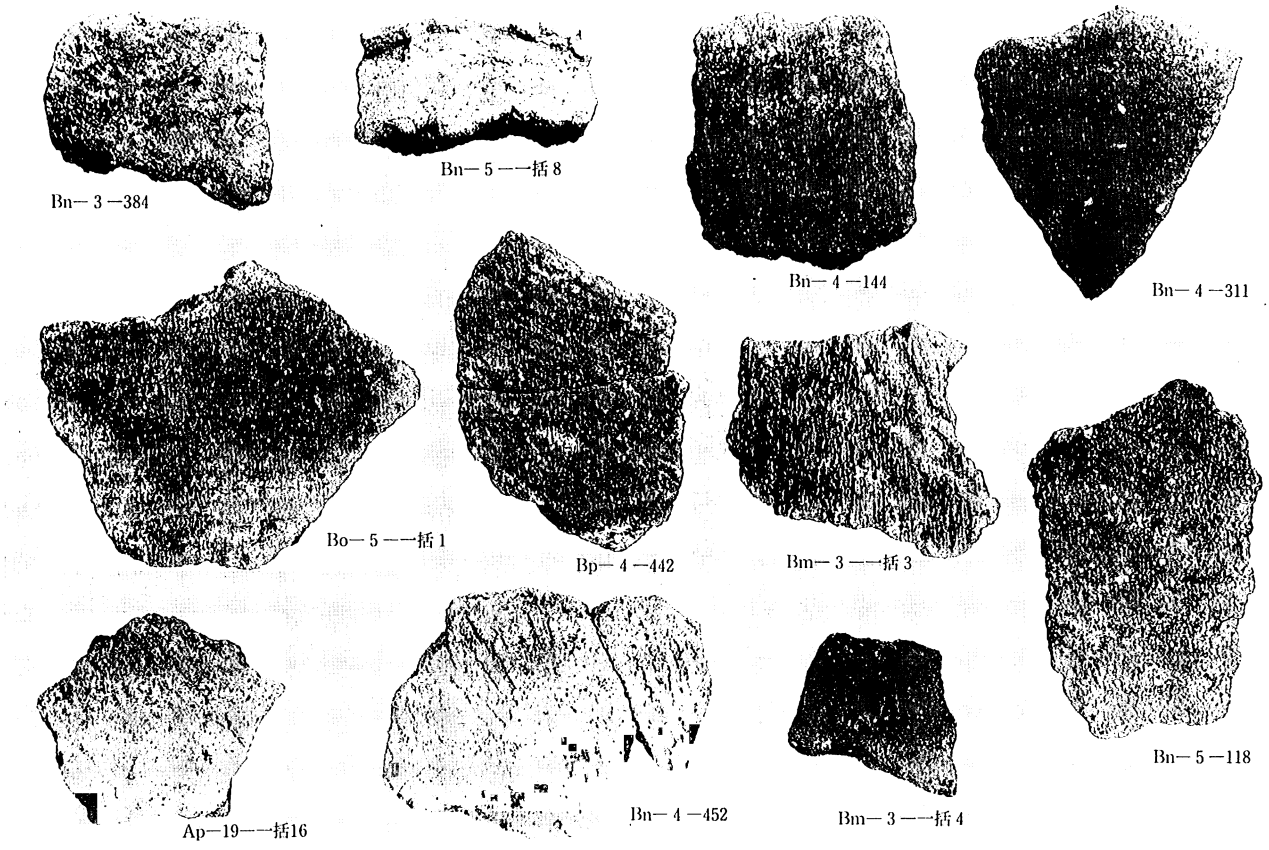


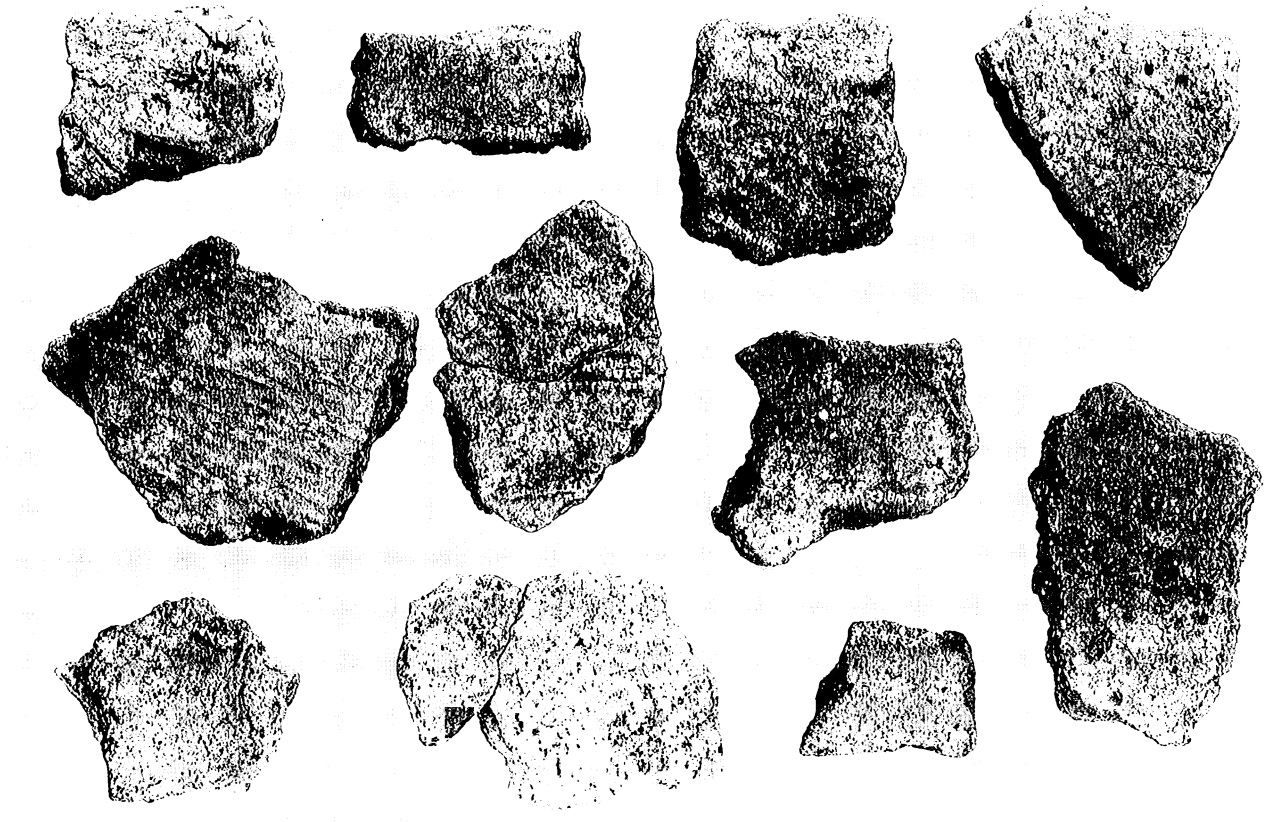
西区包含層出土土器(早期) I



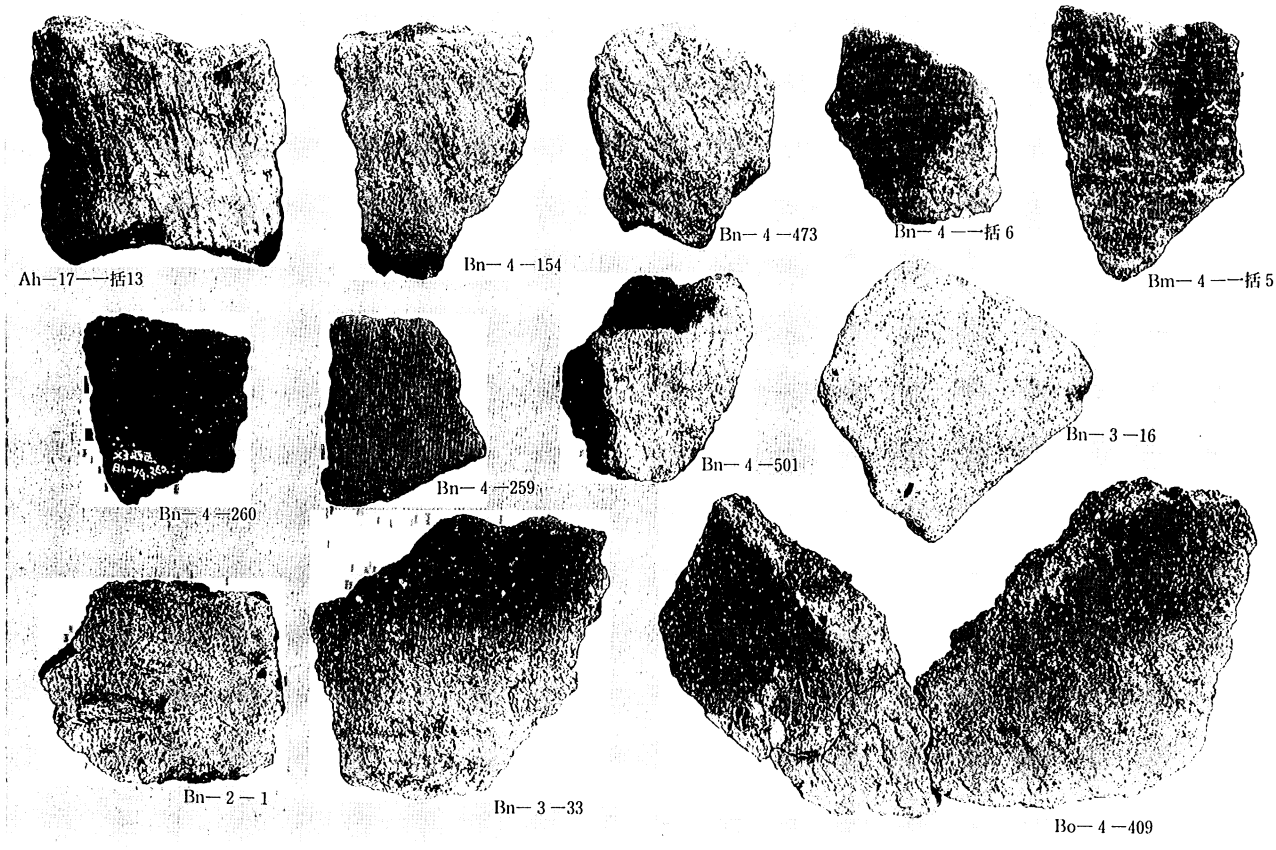


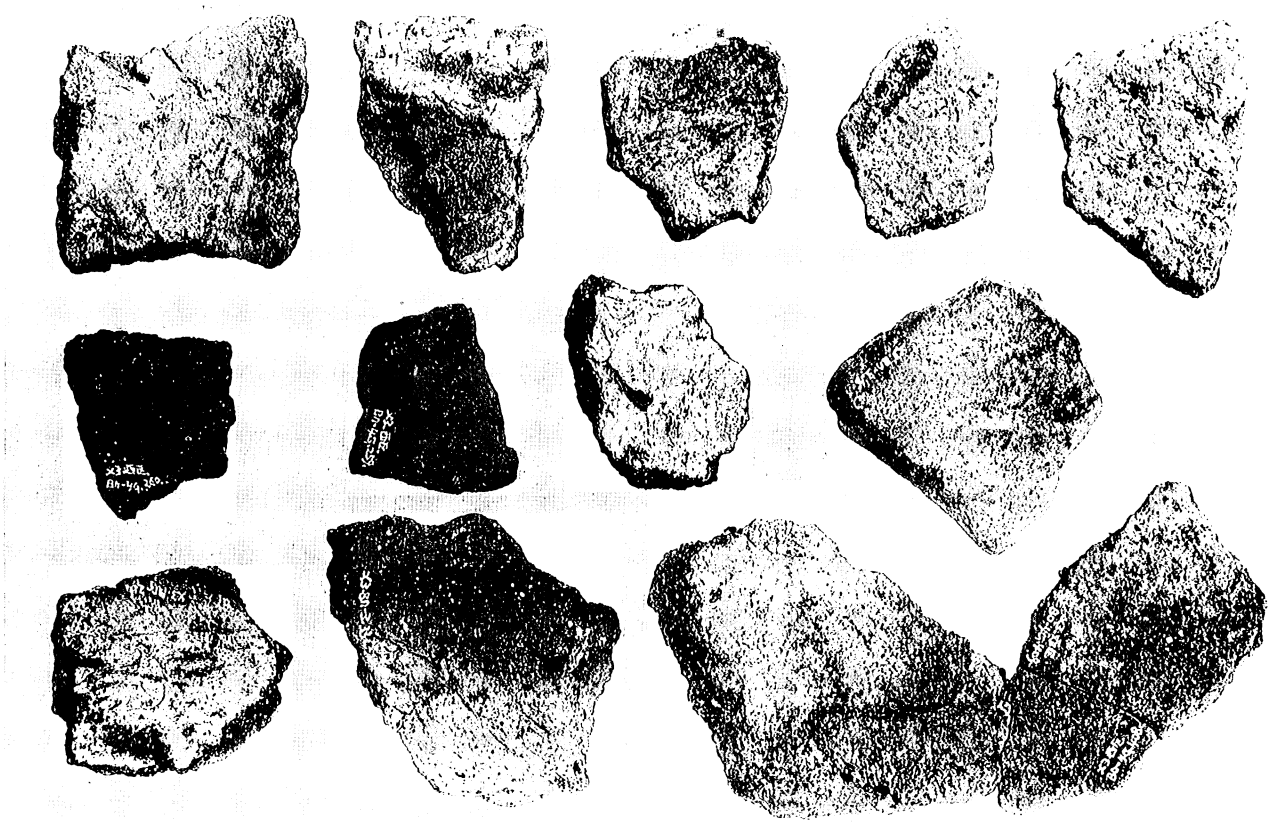
西区包含層出土土器(早期沈線文)





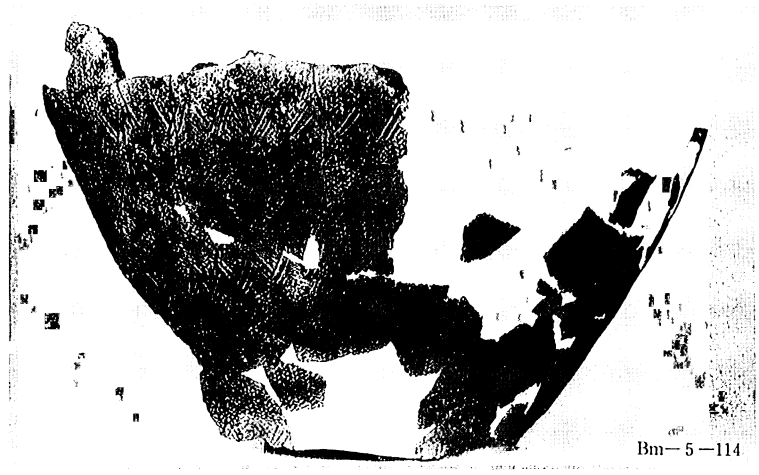
西区包含層出土土器(早期条痕文)



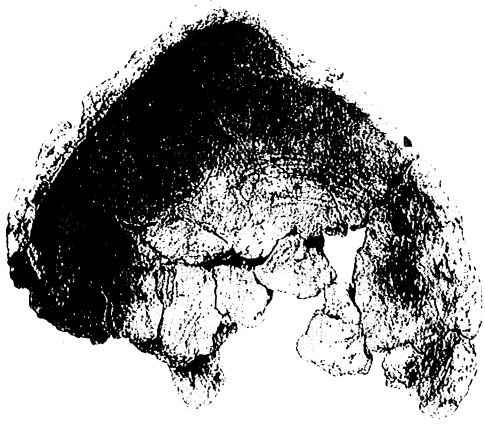


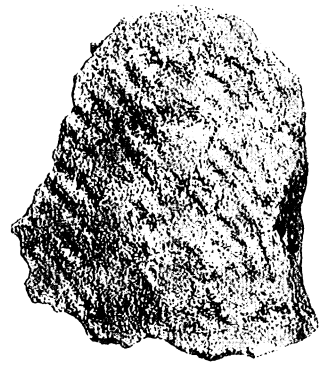
西区包含層出土土器(早期・前期)

Bo－4－405

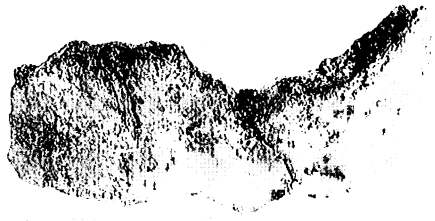


Bm－5－114



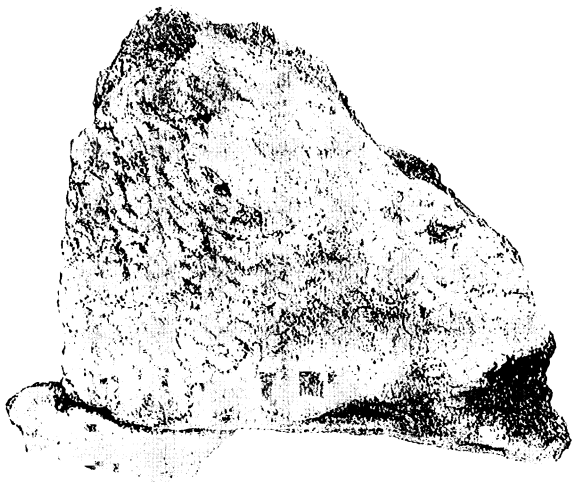


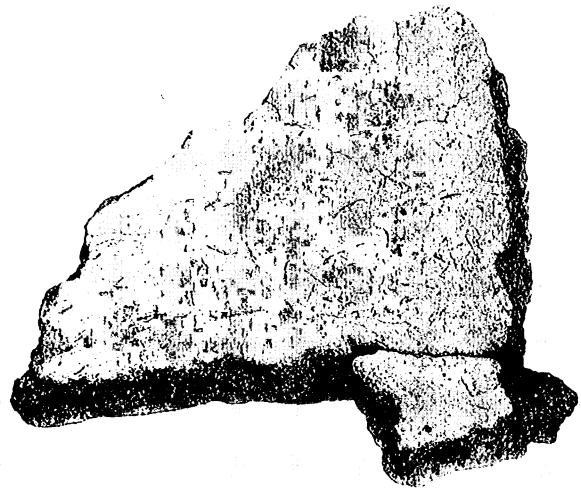
Bn－4－一括25



Bn－4－86

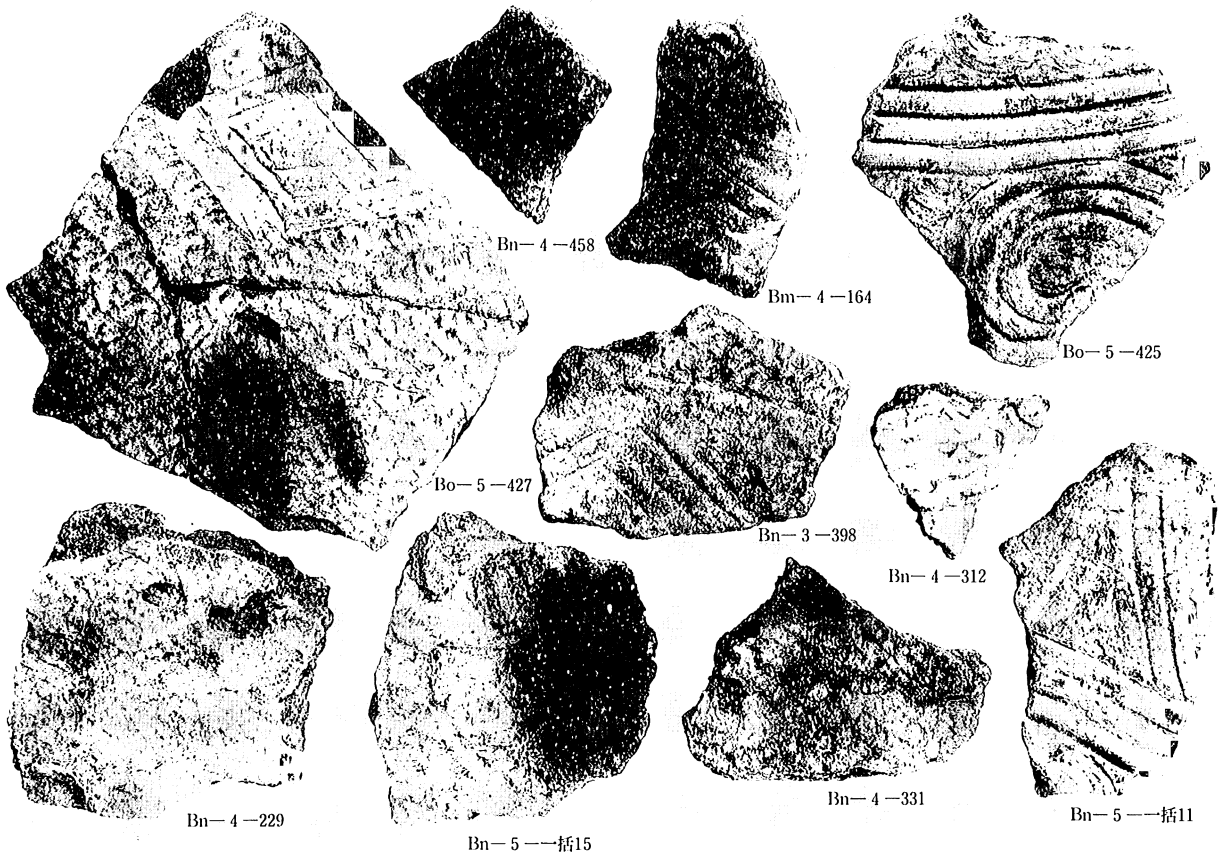
1M－1－一括24

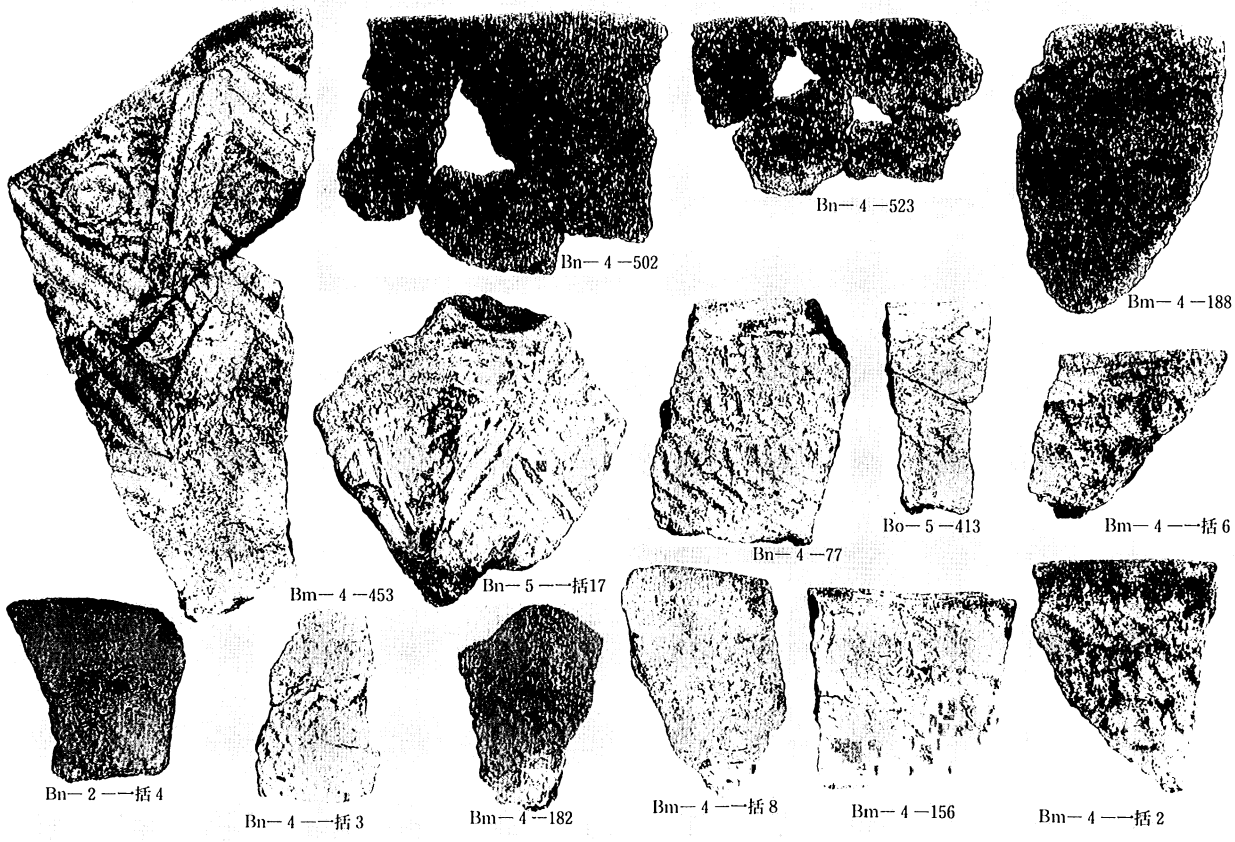




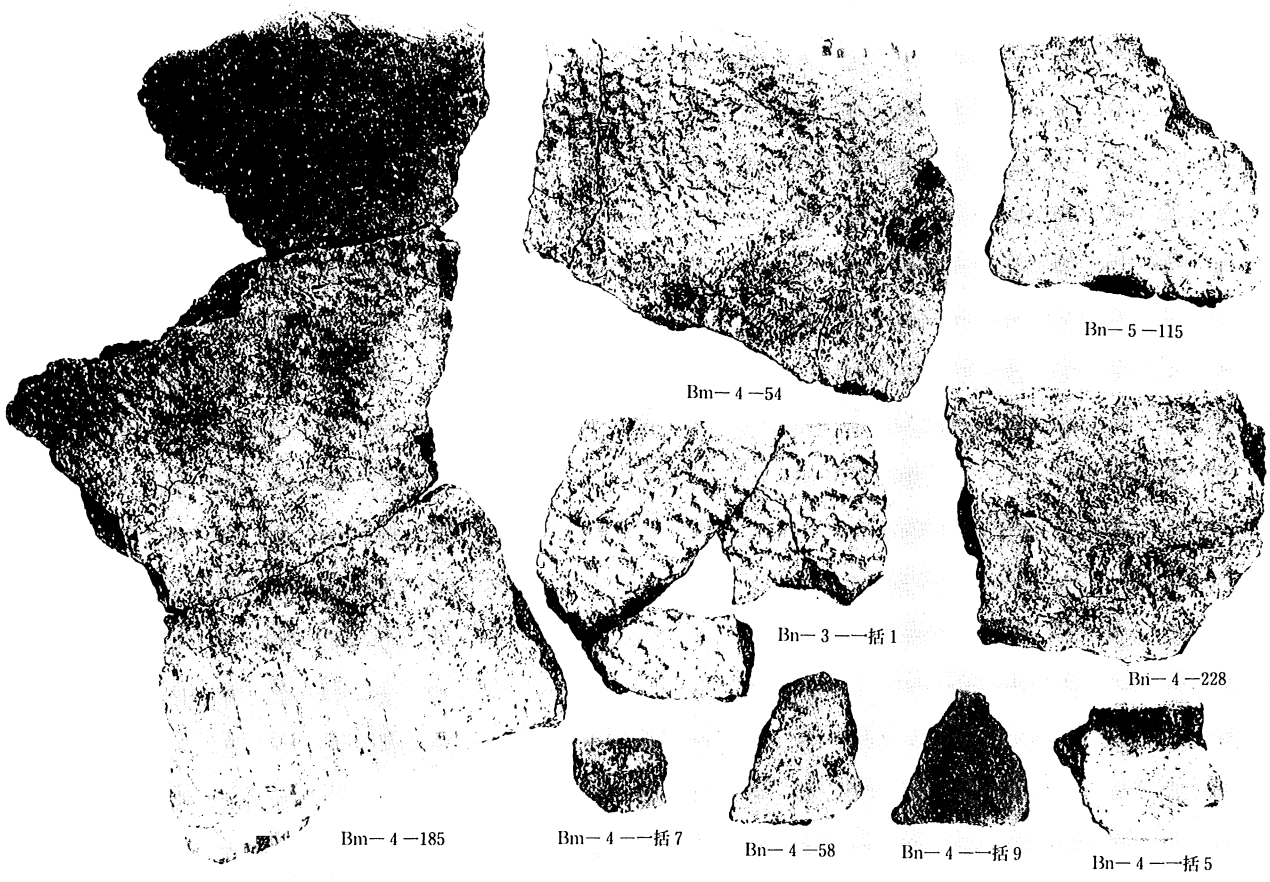
西区包含層出土土器(前期)

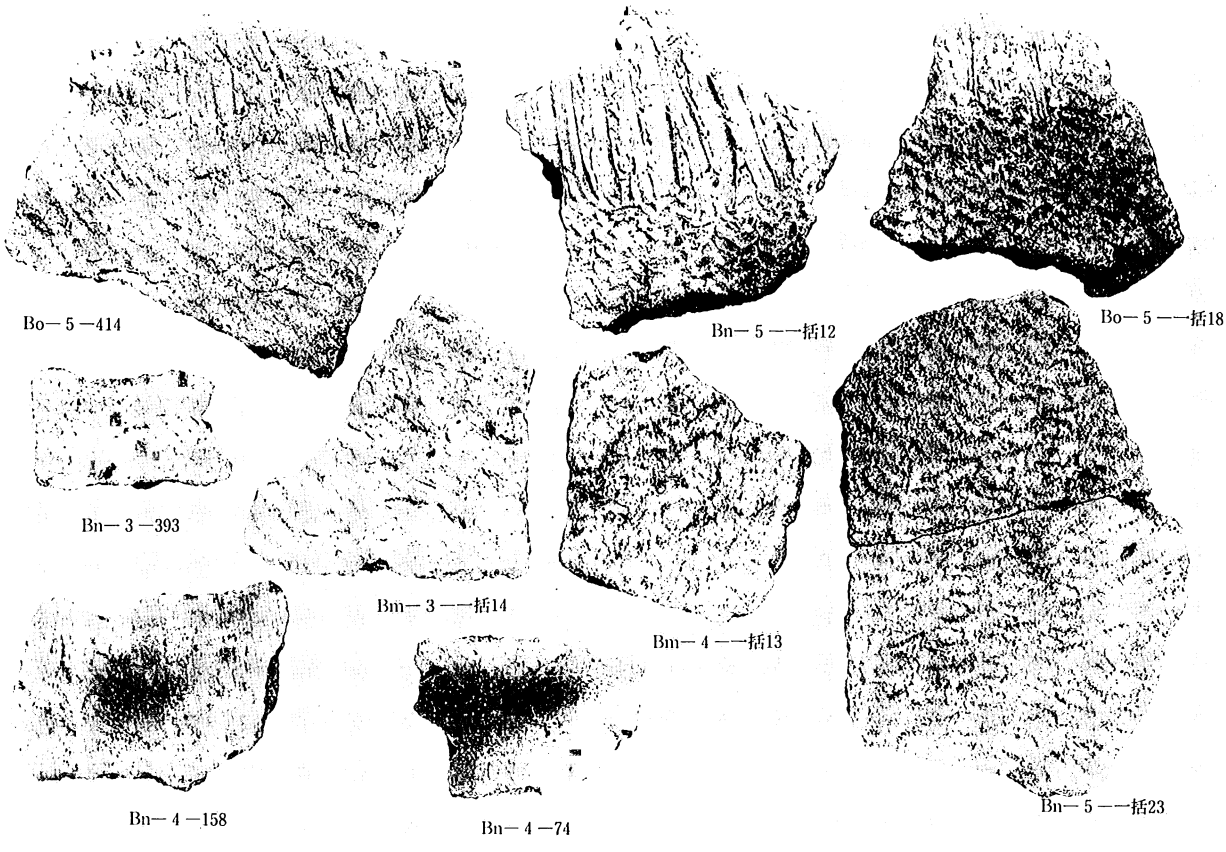
Bm－4－192



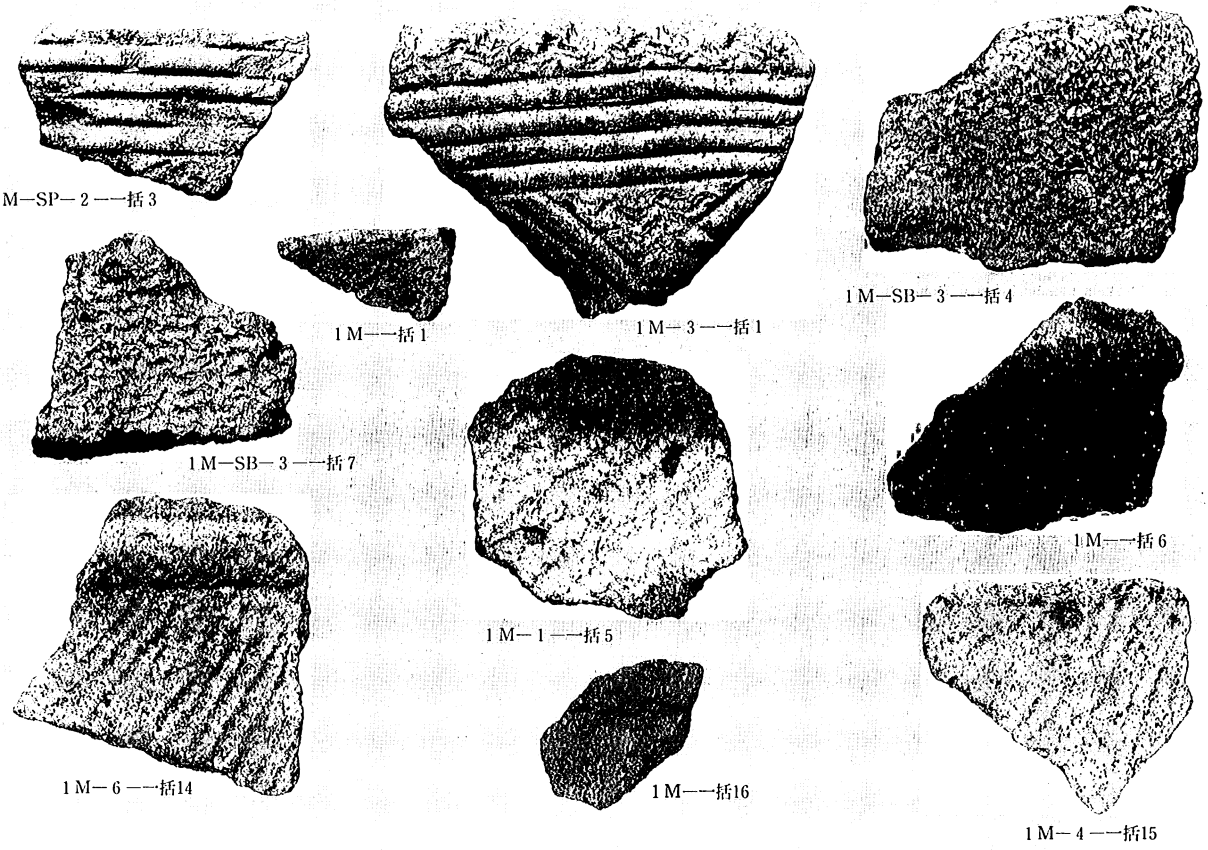


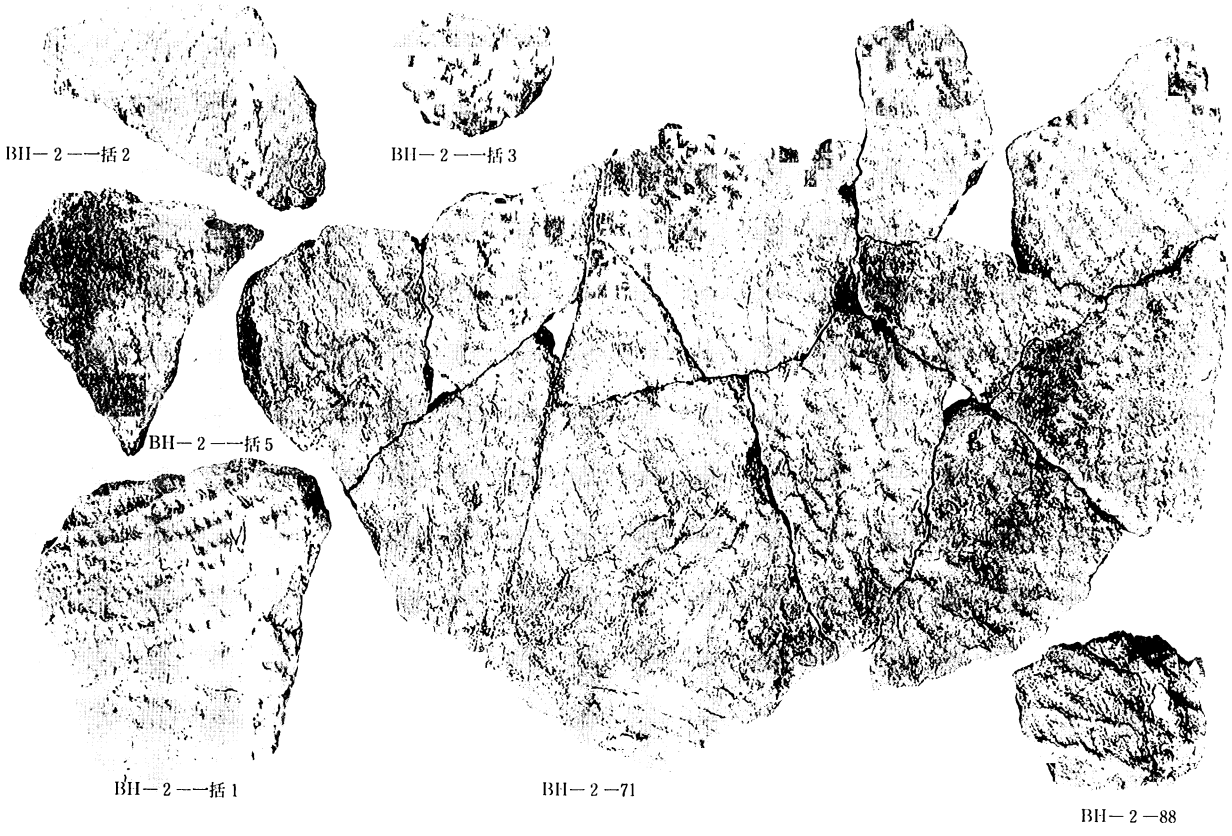
西区包含層出土土器(前期)



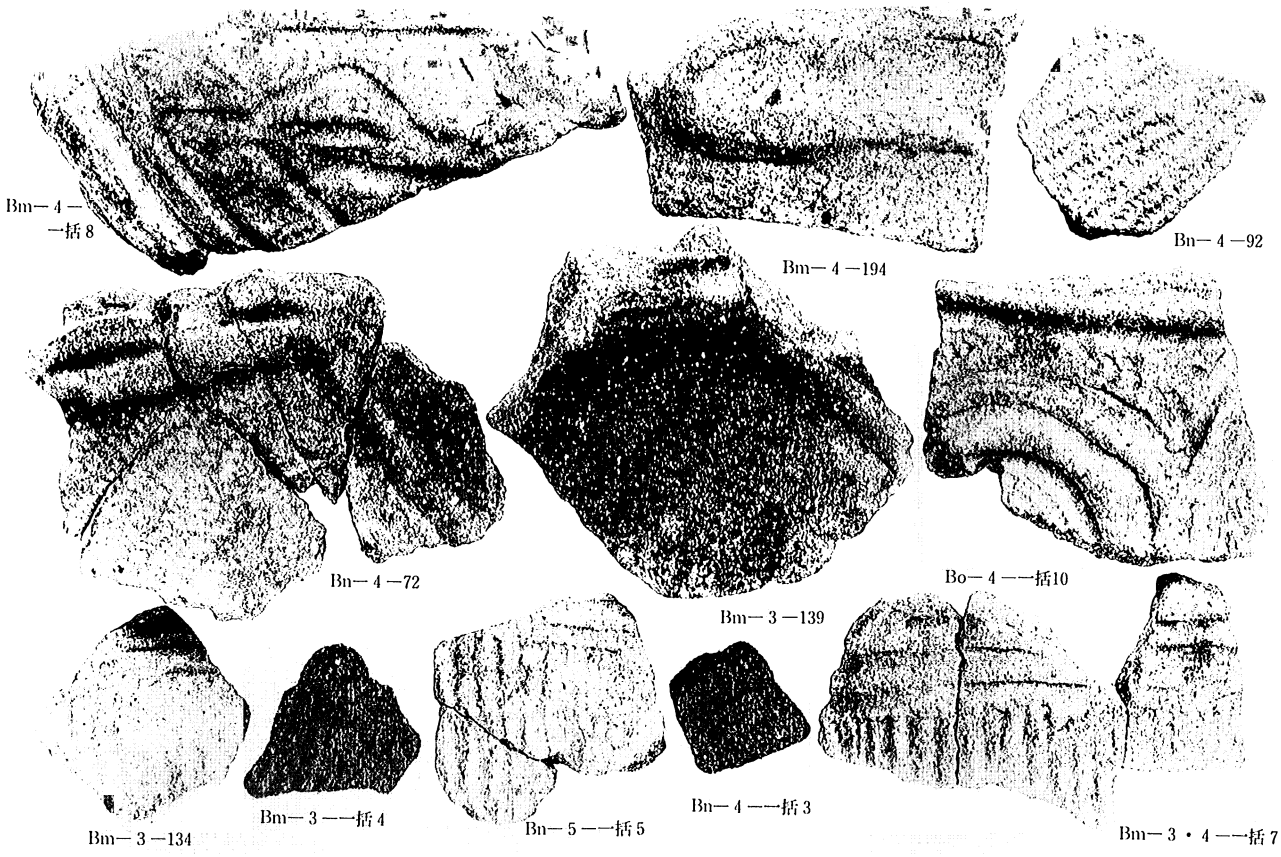


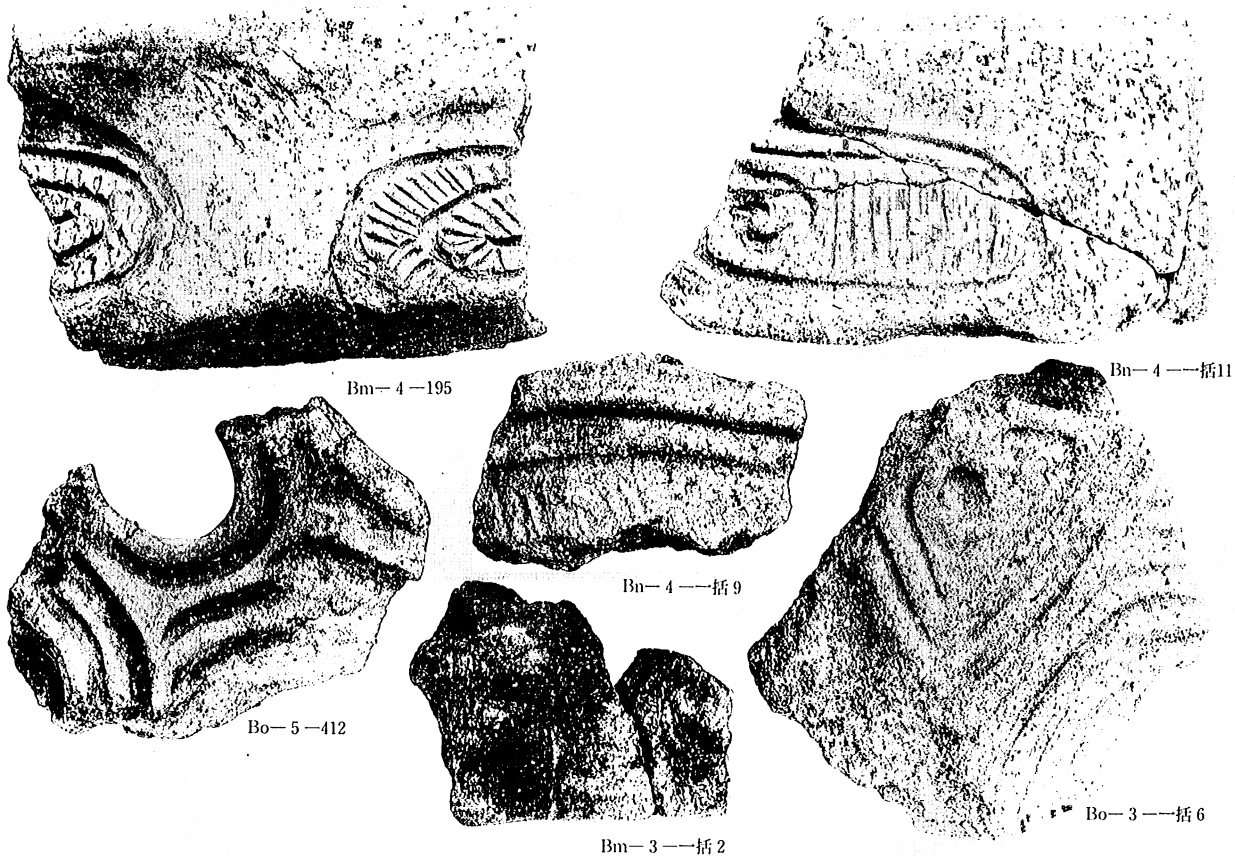
西区包含層出土土器(前期)



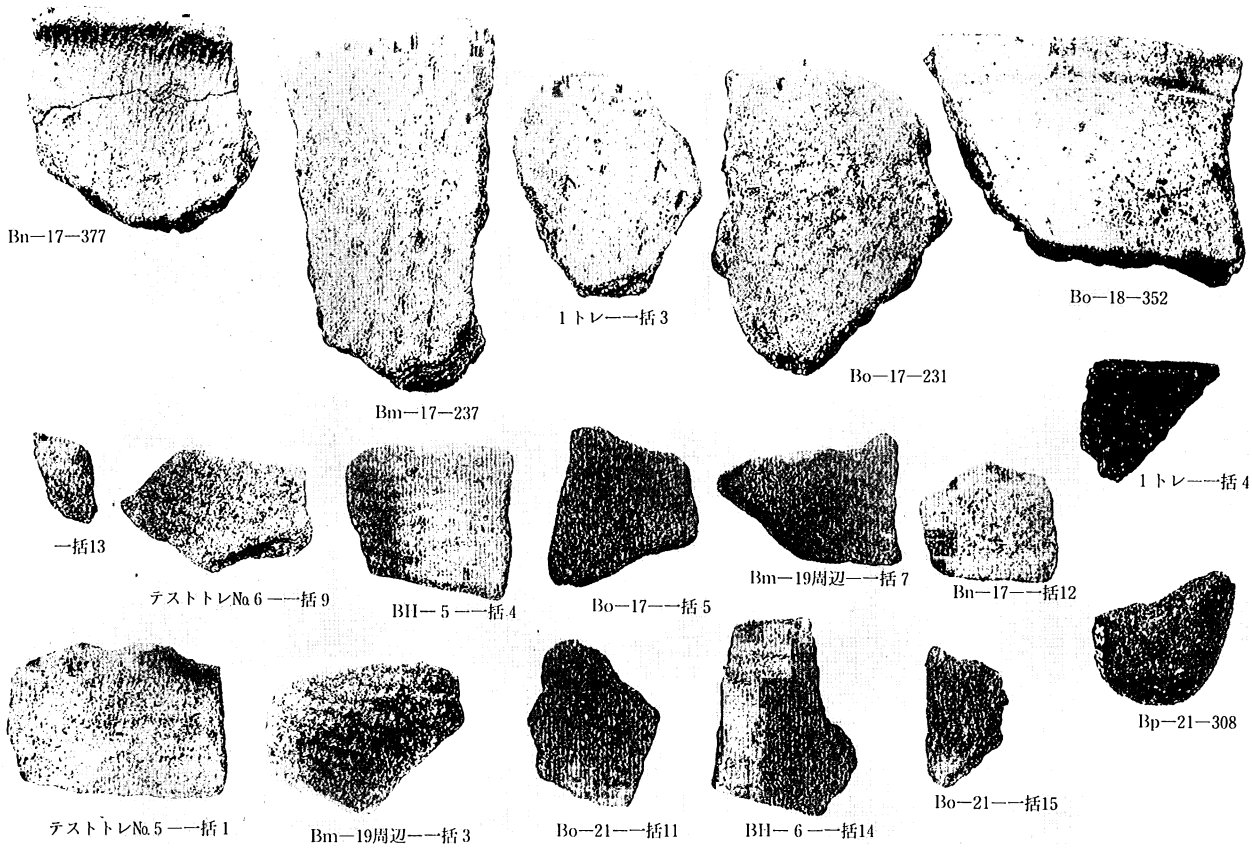


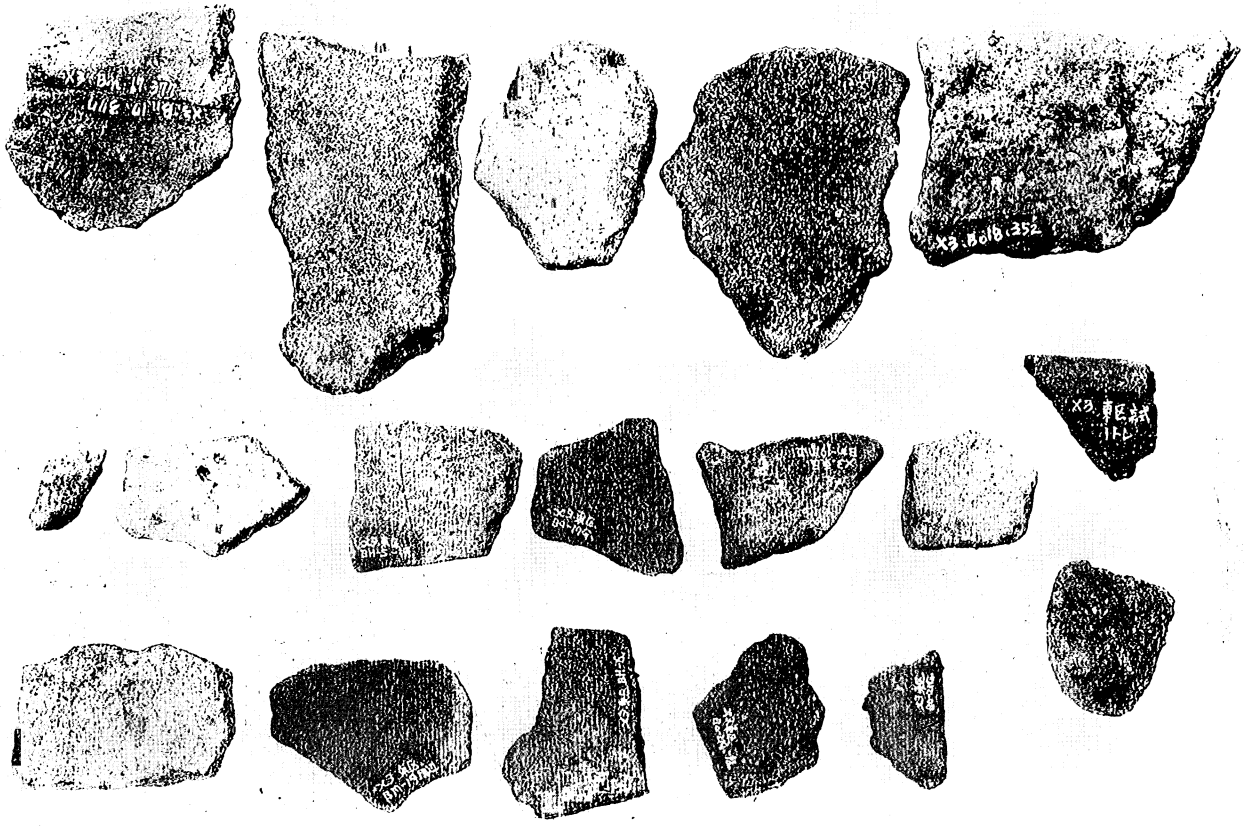
西区包含層出土土器(前期)





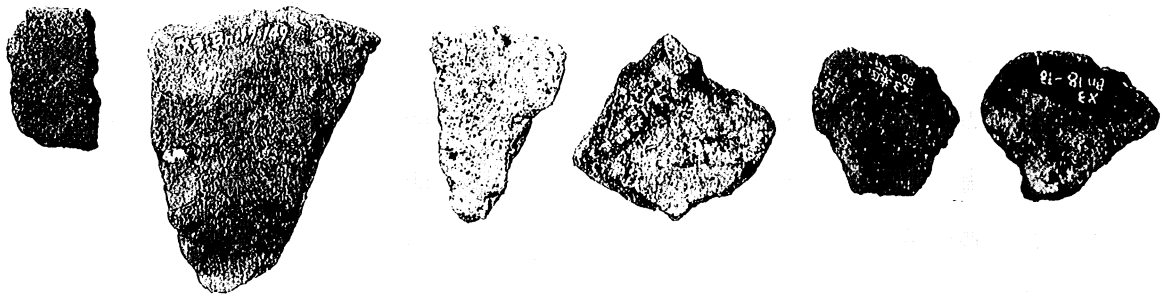
西区包含層出土土器(中期)



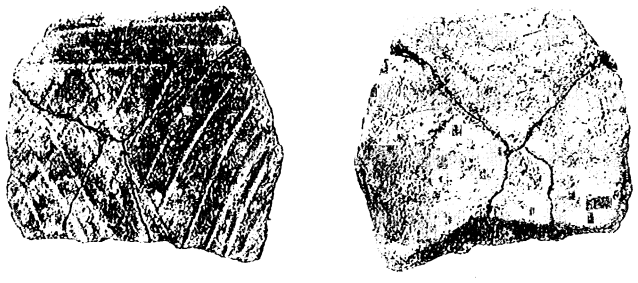


東区包含層出土土器(草創期・前期)

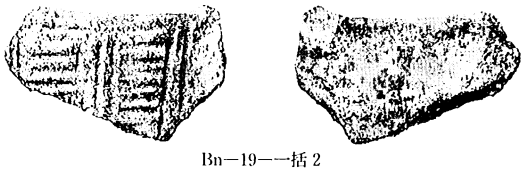
Bp－19－一括 2　Bn－19－149　Bo－17－ 5　Bn－18－一括10　Bo－20－一括10　Bn－18－一括 7



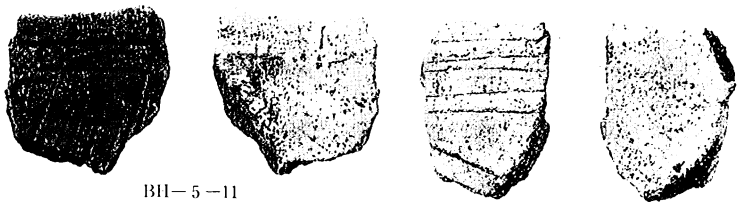
Bo－19－89



東区№ 5 －一括 4



Bn－19－一括 2

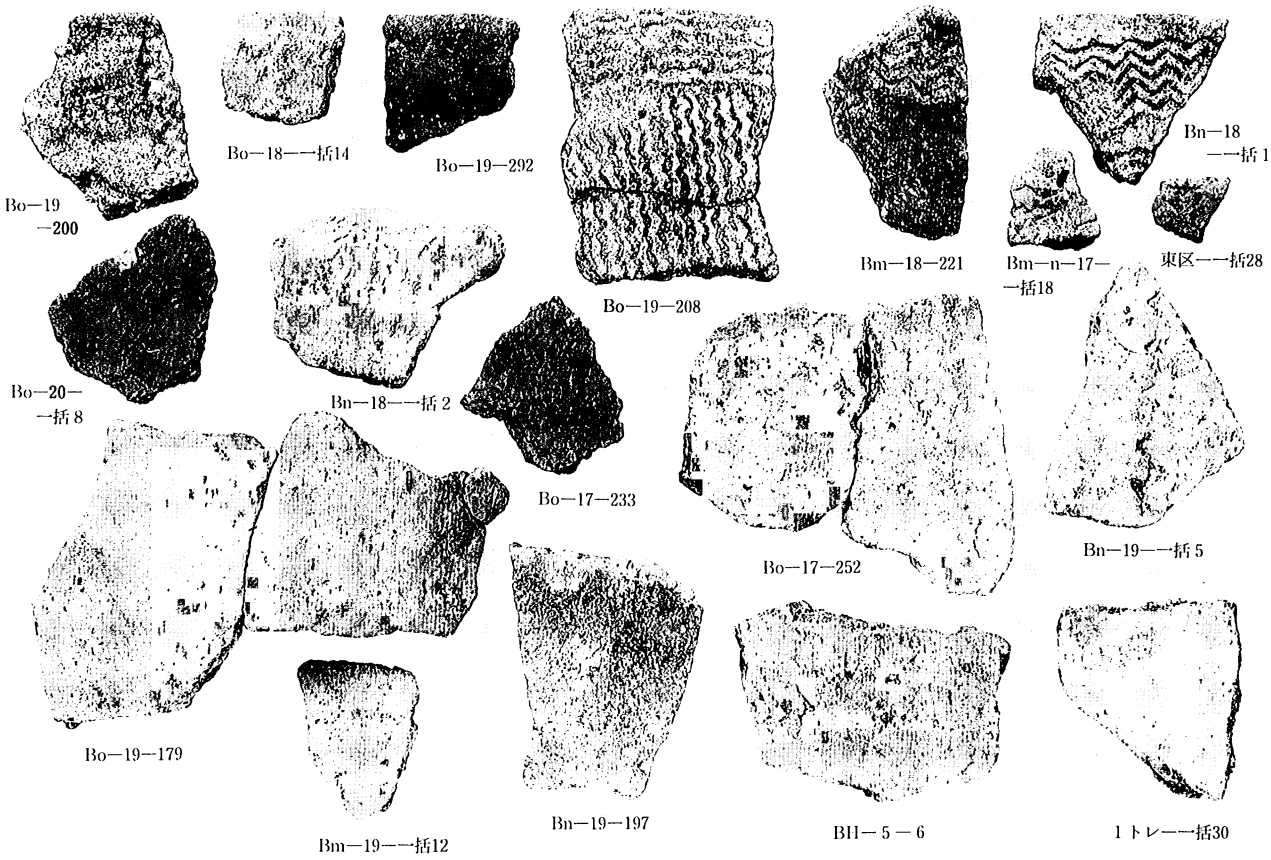


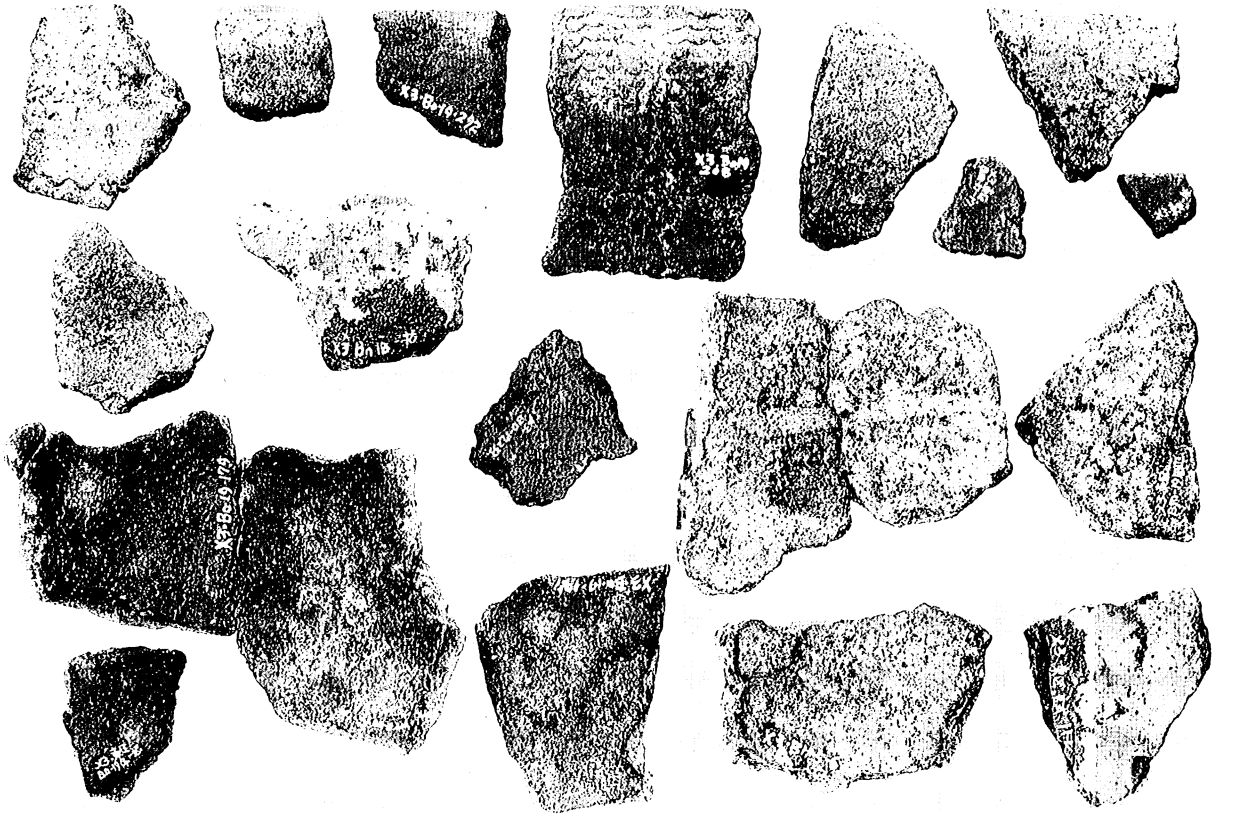
BH－ 5 －11　Bo－20－一括 1

東区一括10

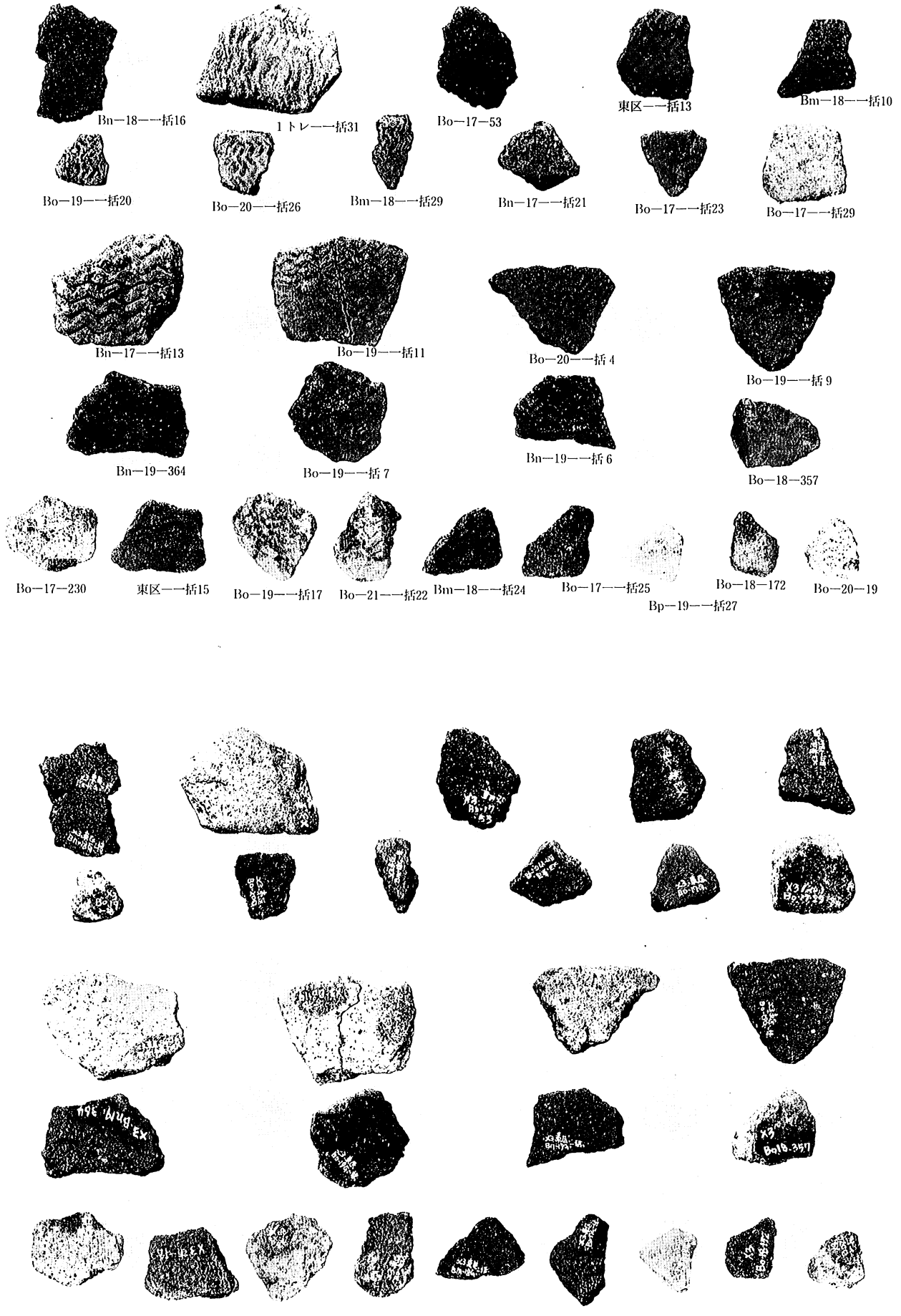
Bn－17－一括15　Bn－20－341　Bo－20－一括

東区包含層出土土器（草創期・早期・中期）　1トレ－一括16　BH－ 5 －162

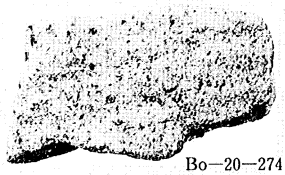


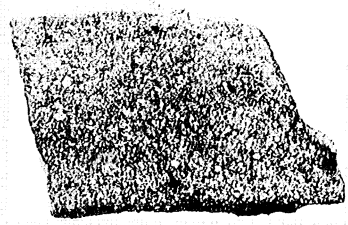


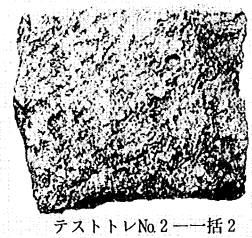
東区包含層出土土器(早期)



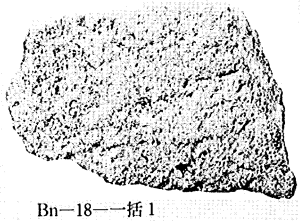
東区包含層出土土器(早期)


Bo—20—274

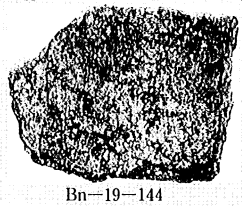

Bo—20—43

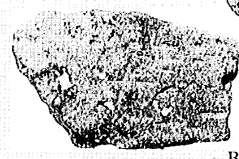

テストトレNo.2—一括2

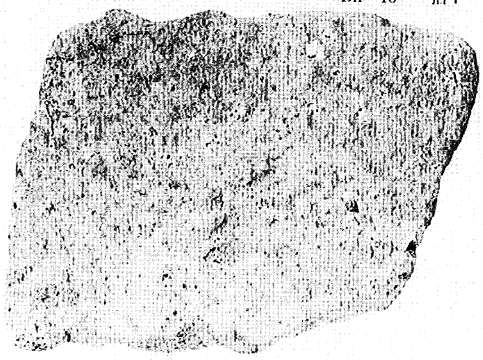
東区—一括5

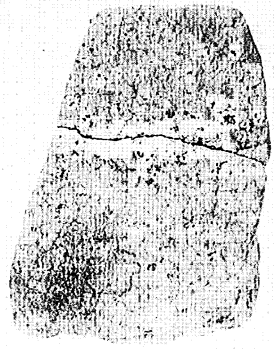

Bn—18—一括1

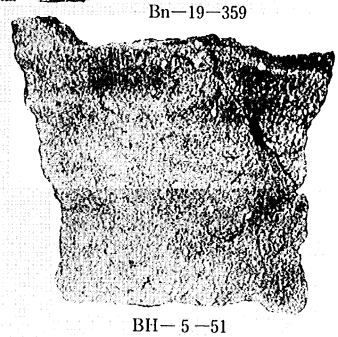
Bn—18—一括7

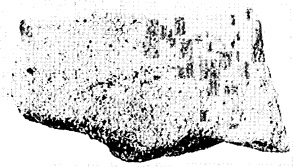

Bn—19—144

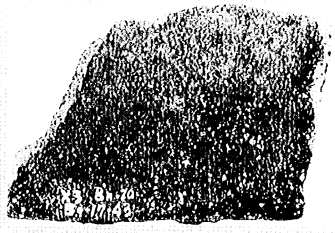

Bn—19—359

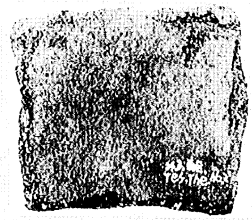

Bo—19—211

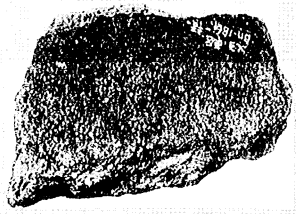

Bo—17—256

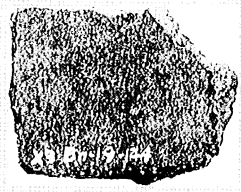

BH—5—51

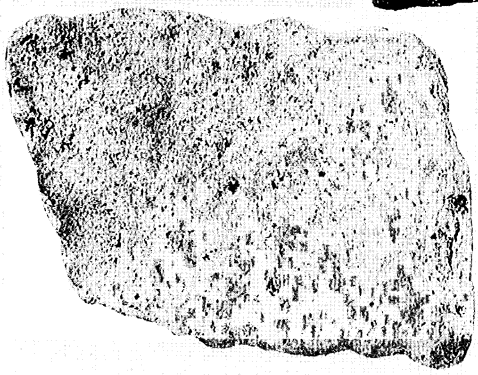


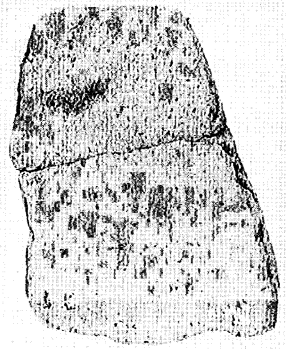


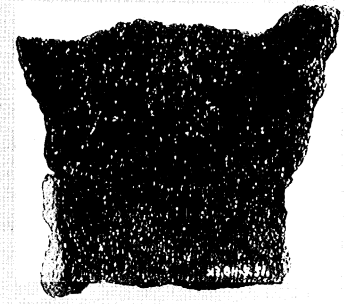




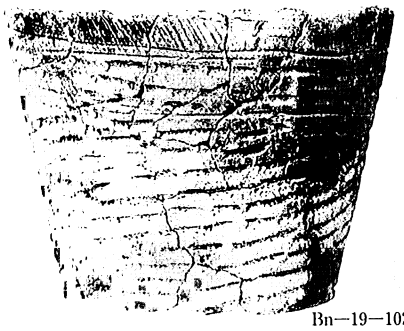








東区包含層出土土器(早期擦痕)



Bn—19—102

Bo—19——括34

1トレ——括33

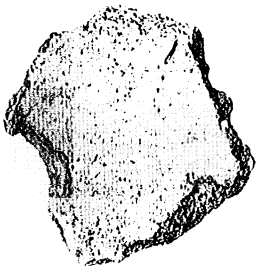
BII—5——括12

Bm—18——括11

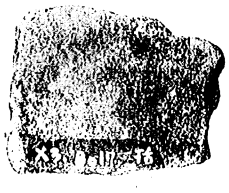
Bo—19—94

Bn—18——括8

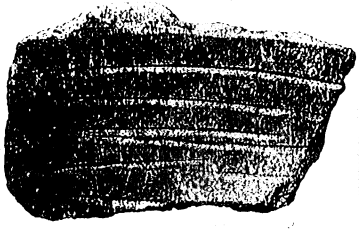
BII—5—84

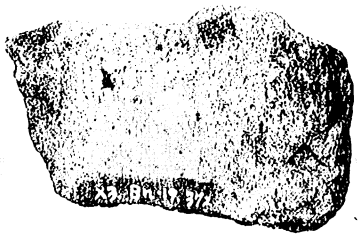


Br—19周辺——括14



Bo—17——括10





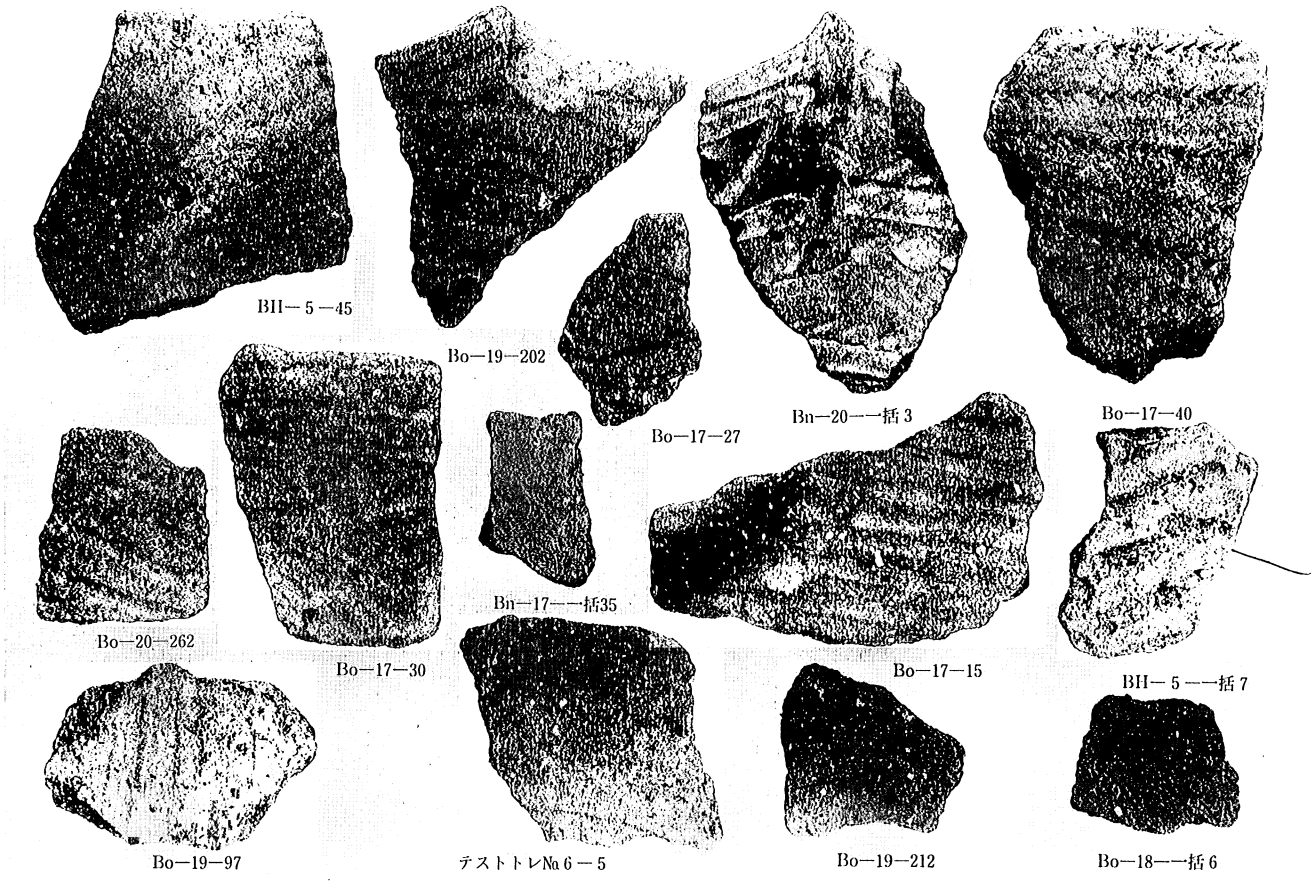
Bn—19—372

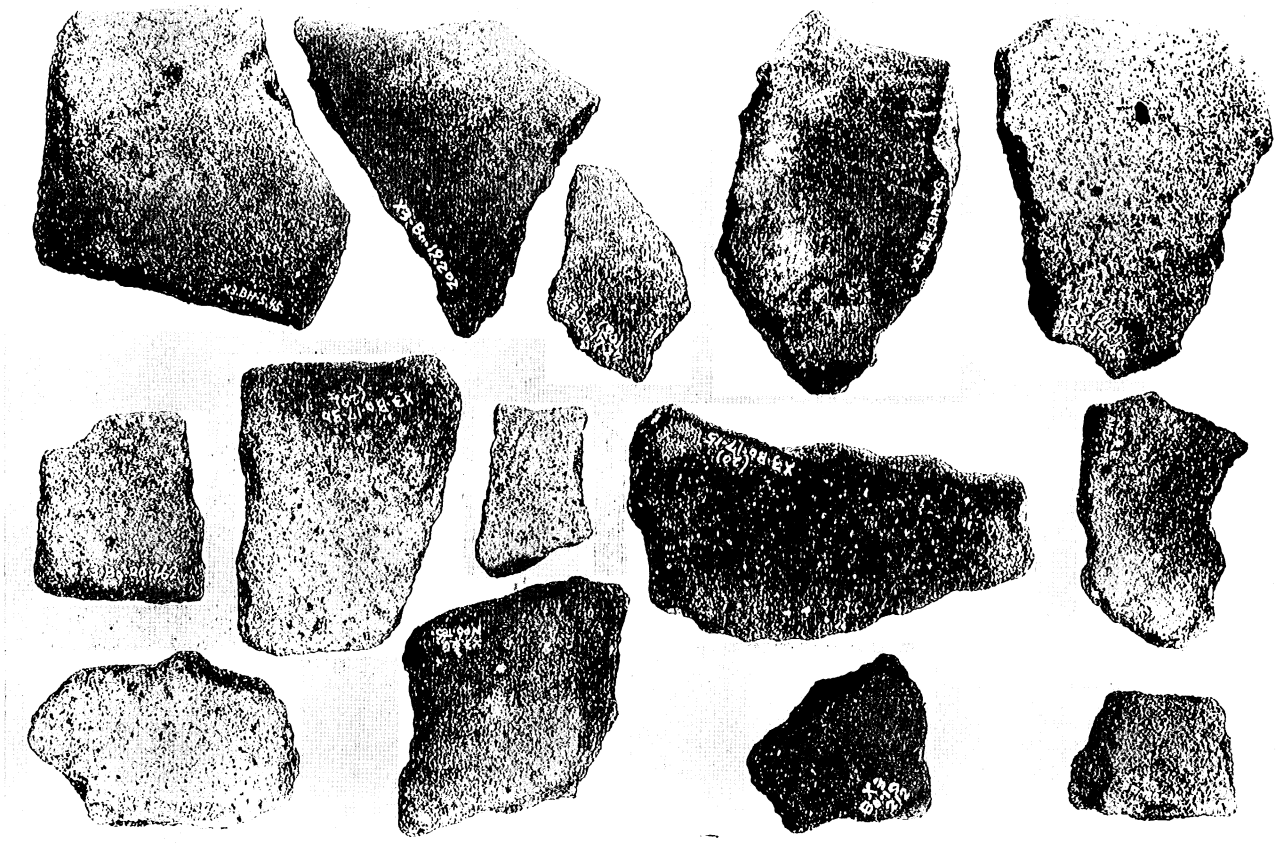
Bo—18——括9

Bo—17——括13

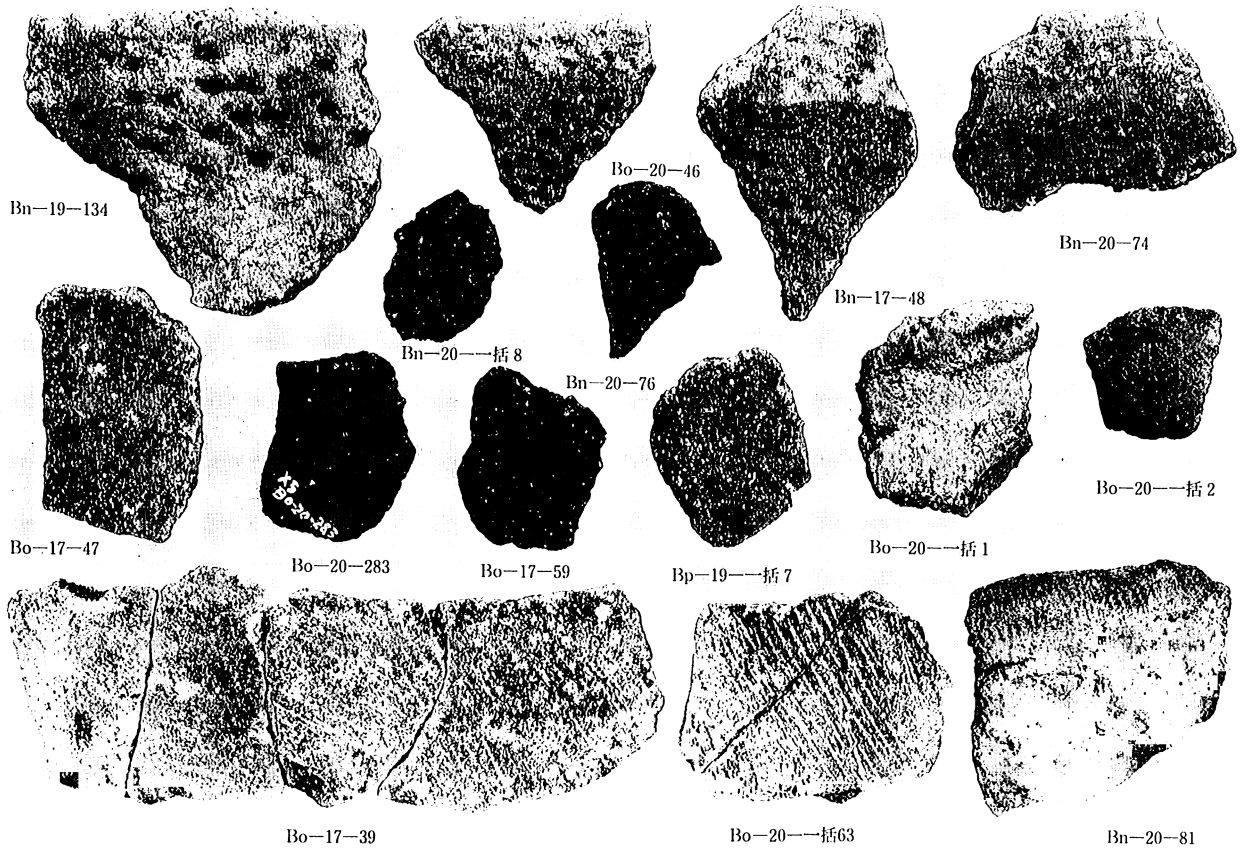
BII—5—159

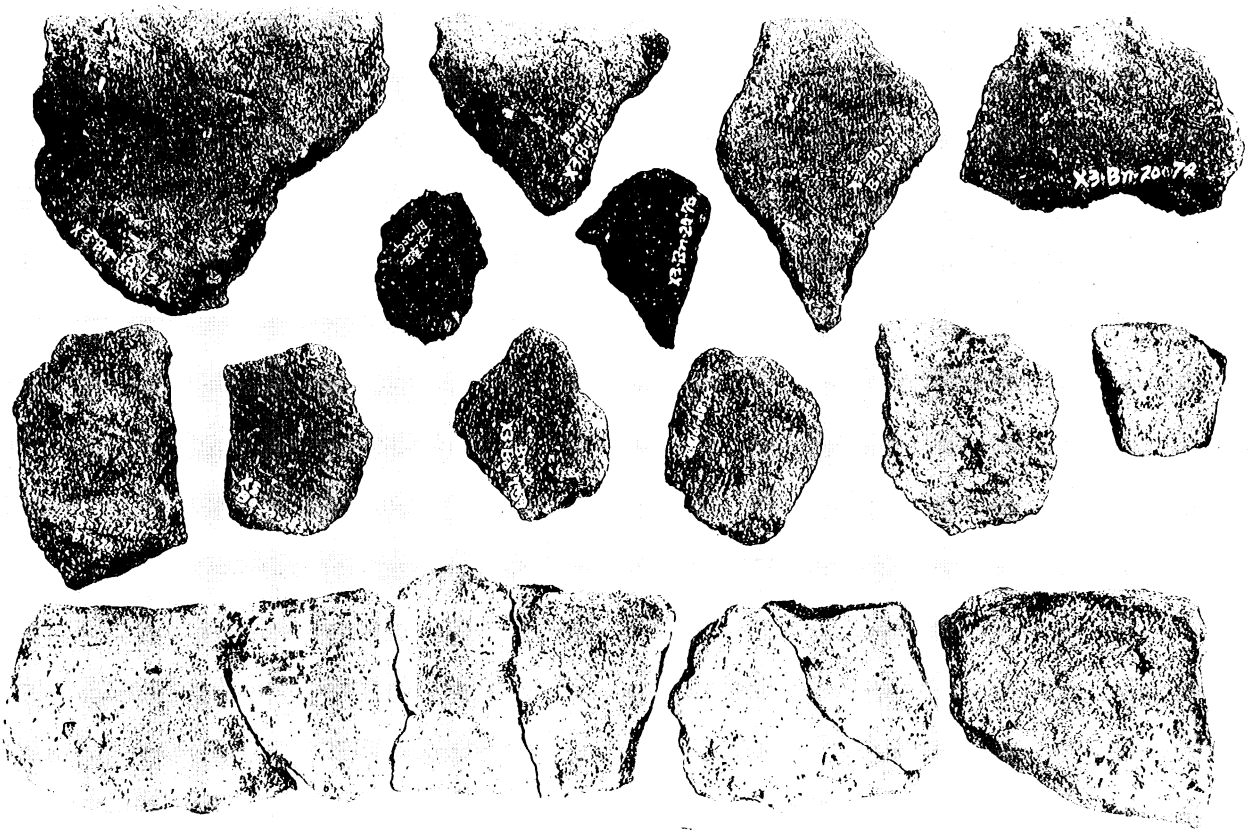
東区包含層出土土器(早期沈線文)



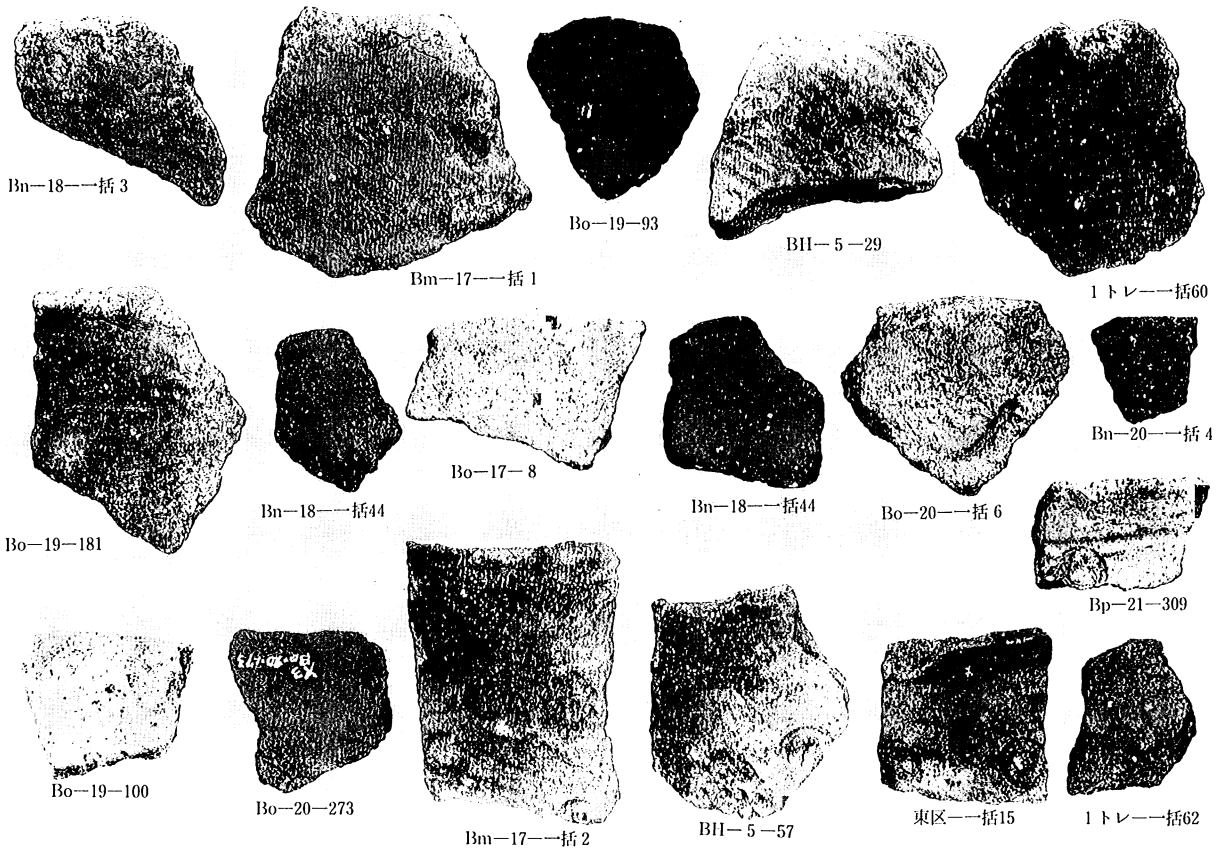


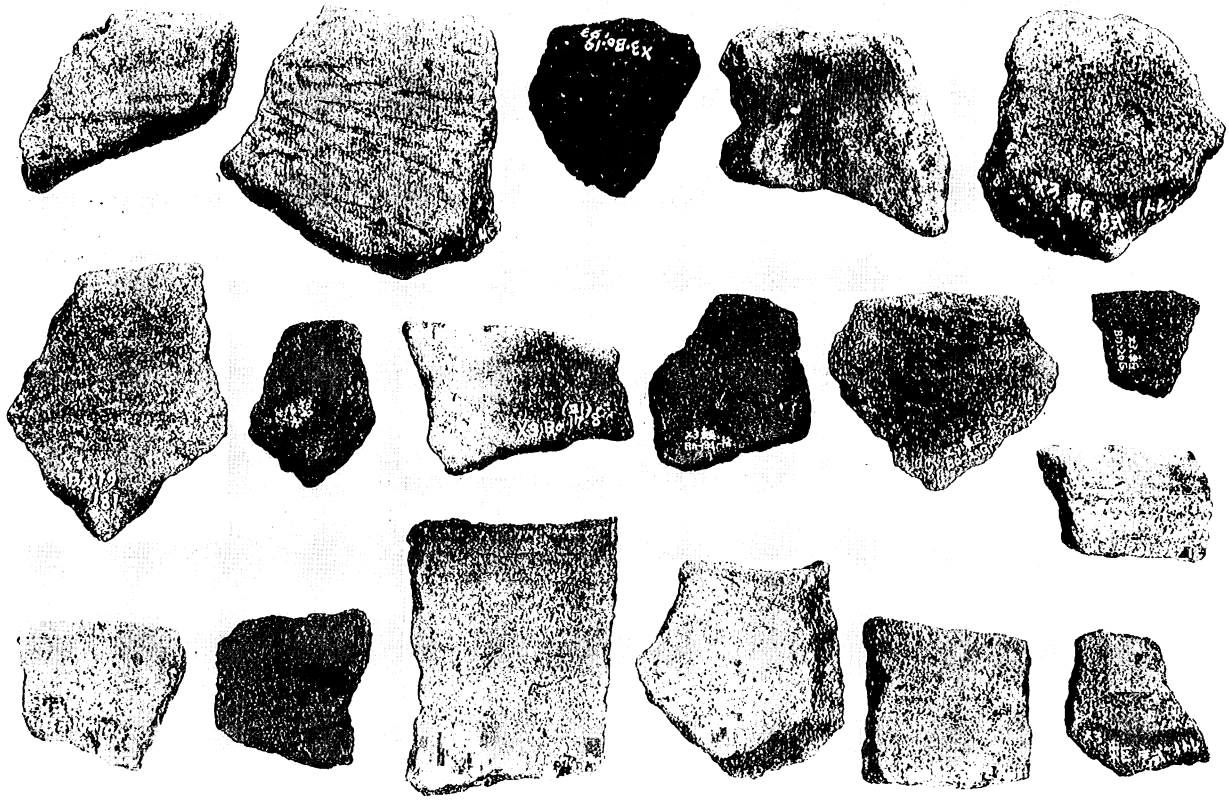
東区包含層出土土器(早期沈線文)



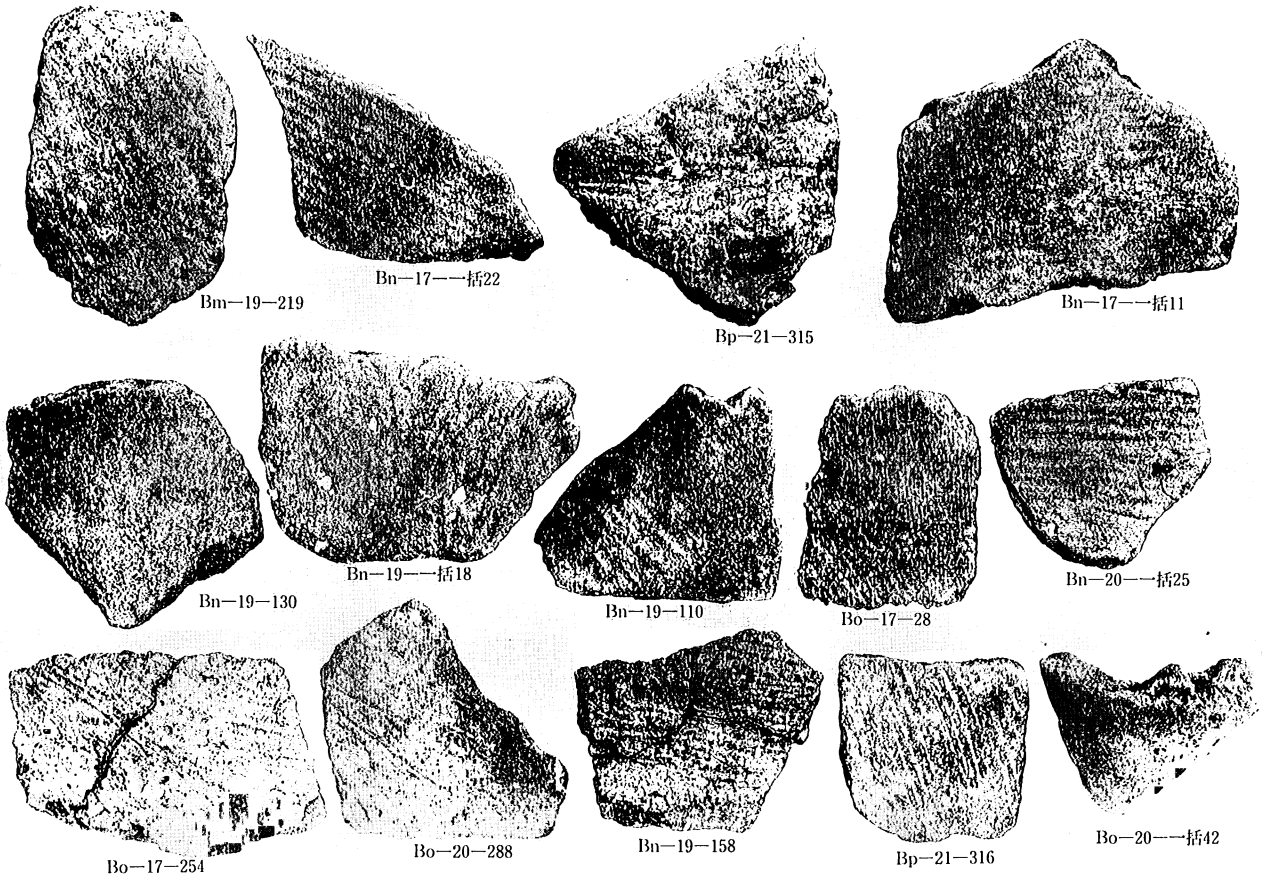


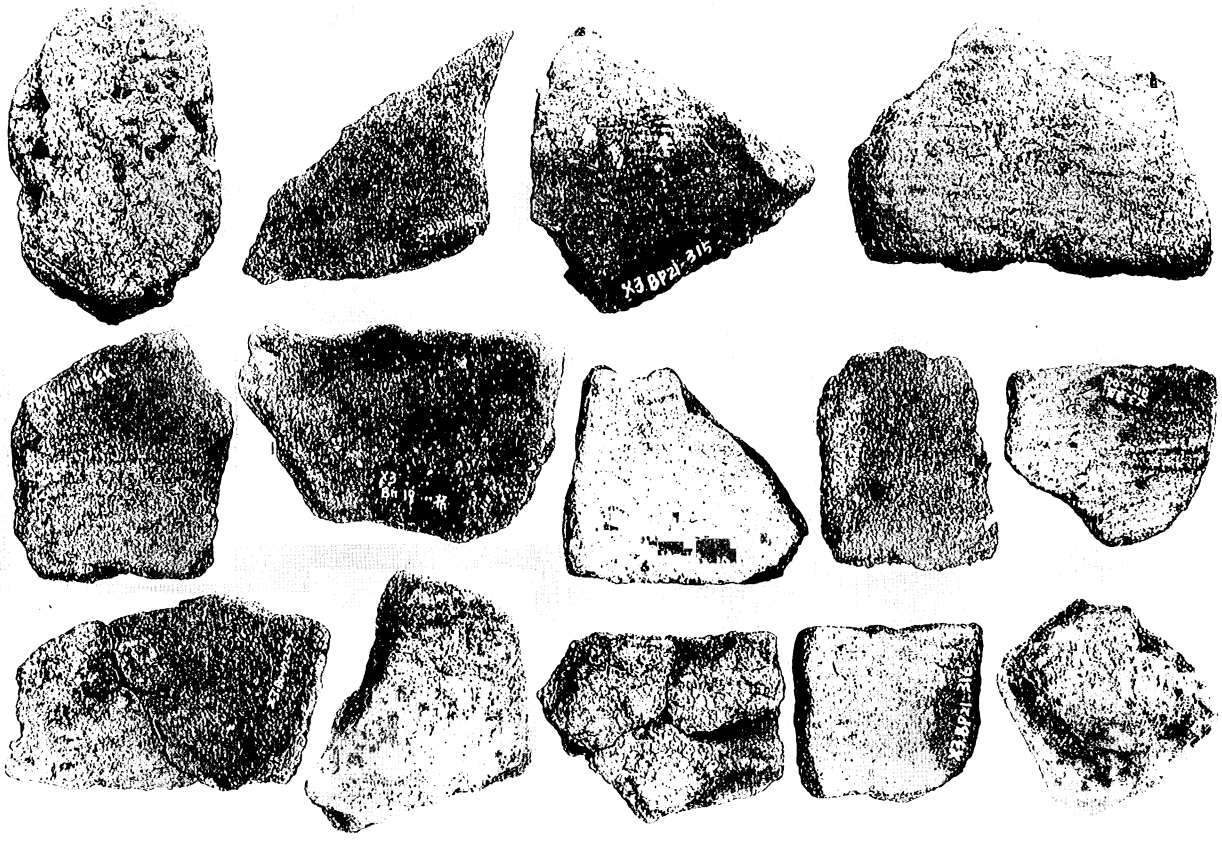
東区包含層出土土器(早期絡条体圧痕文・条痕文)



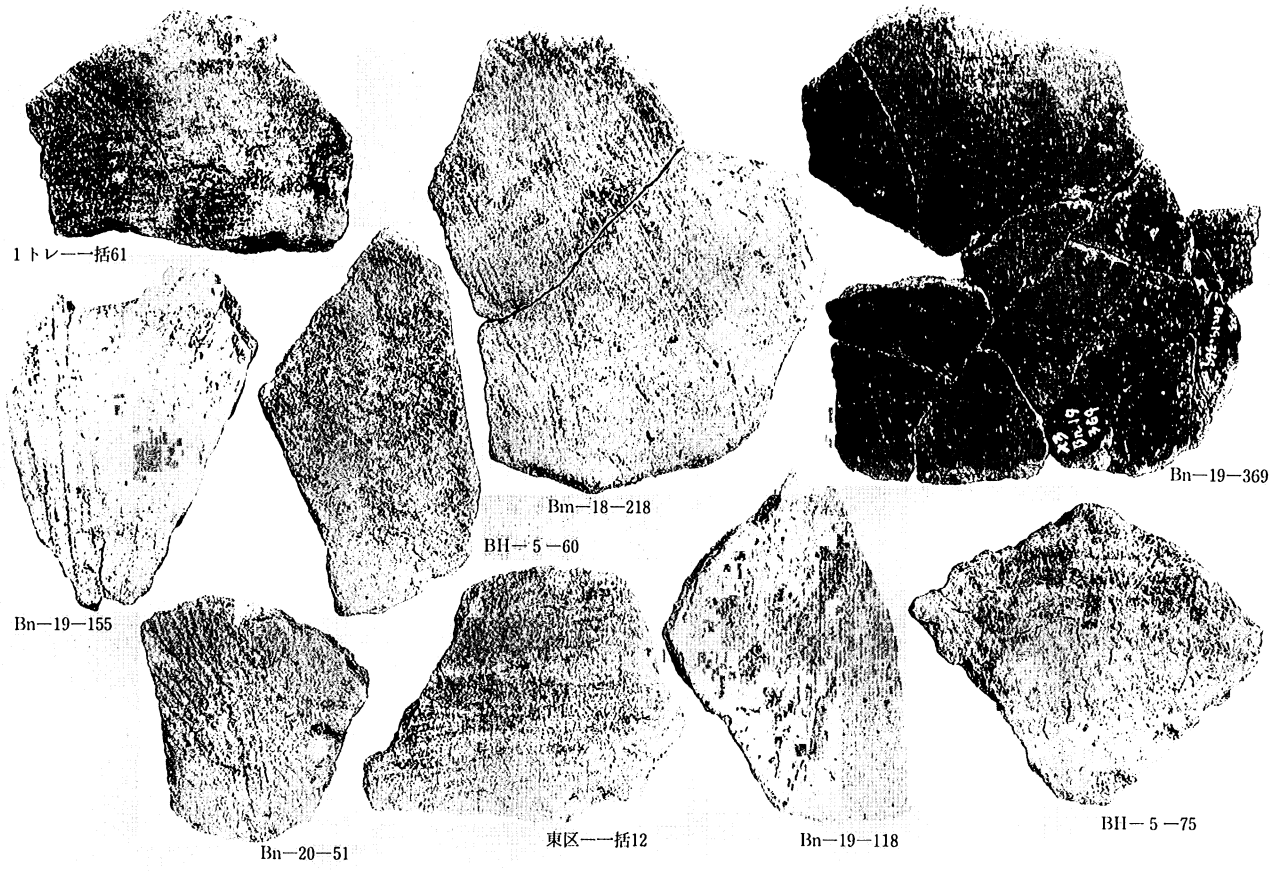


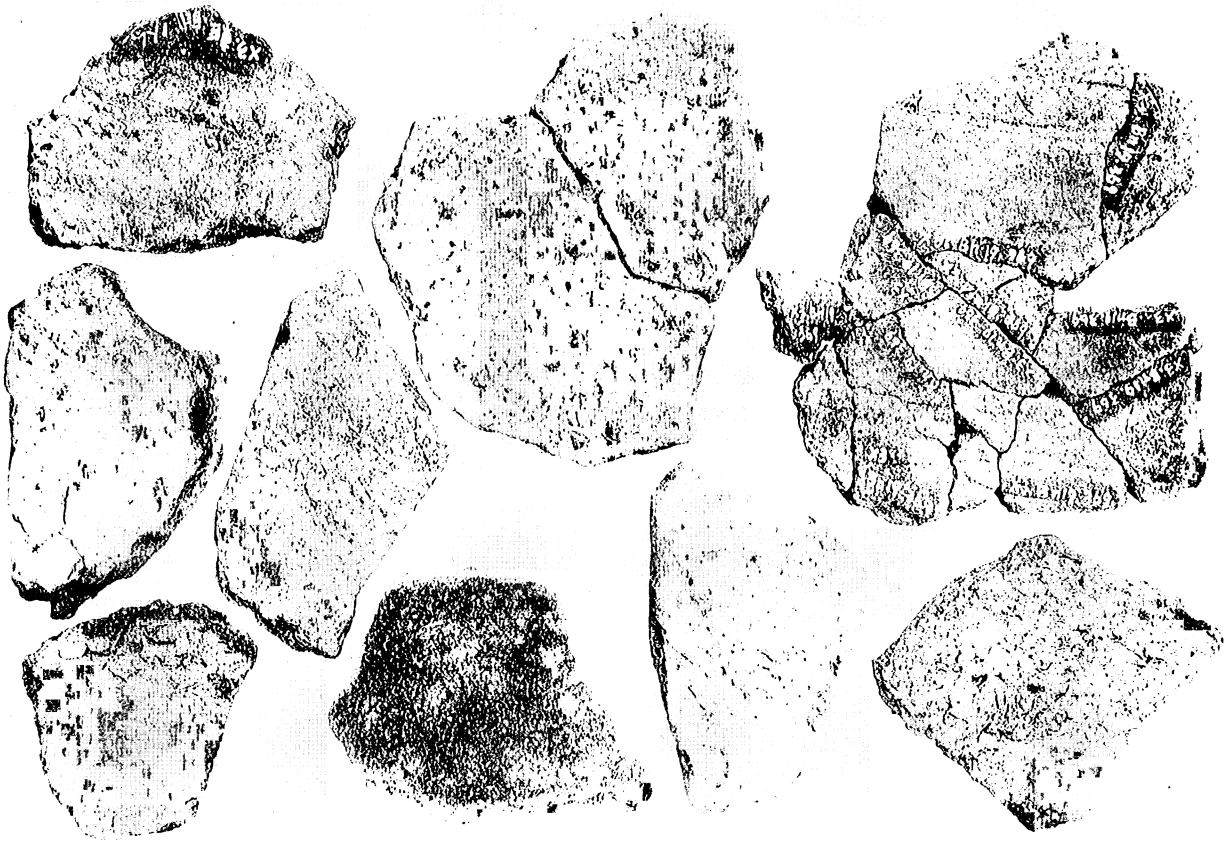
東区包含層出土土器(早期条痕文)



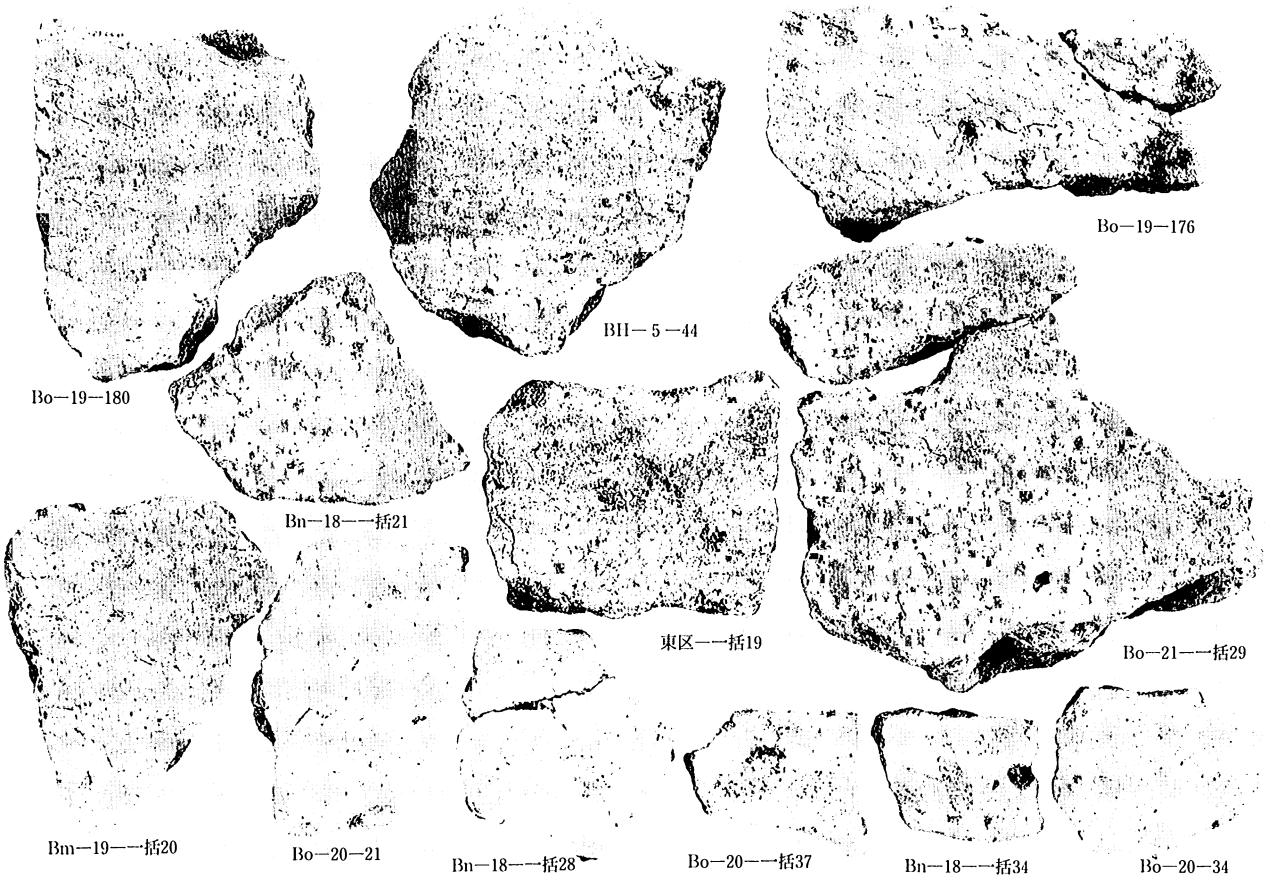


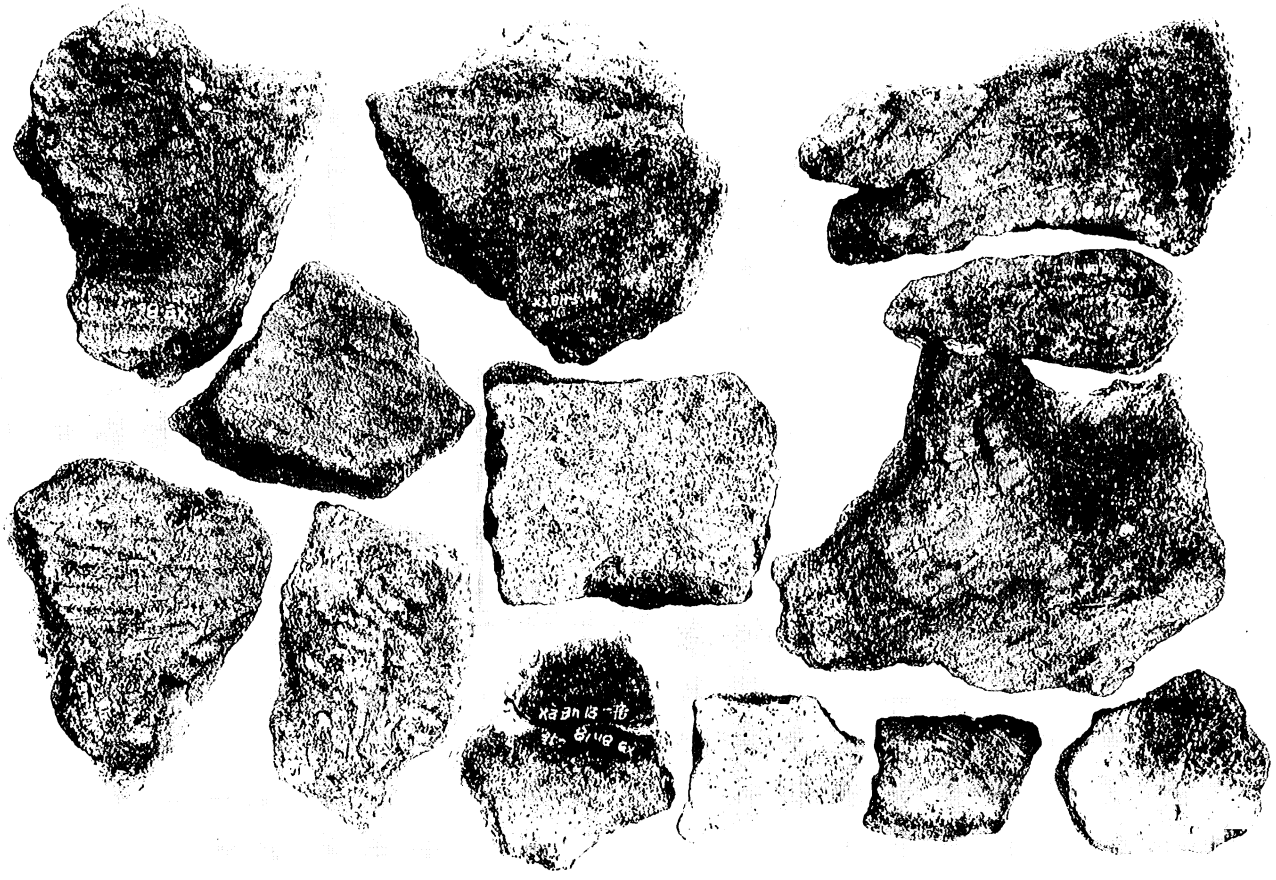
東区包含層出土土器(早期条痕文)



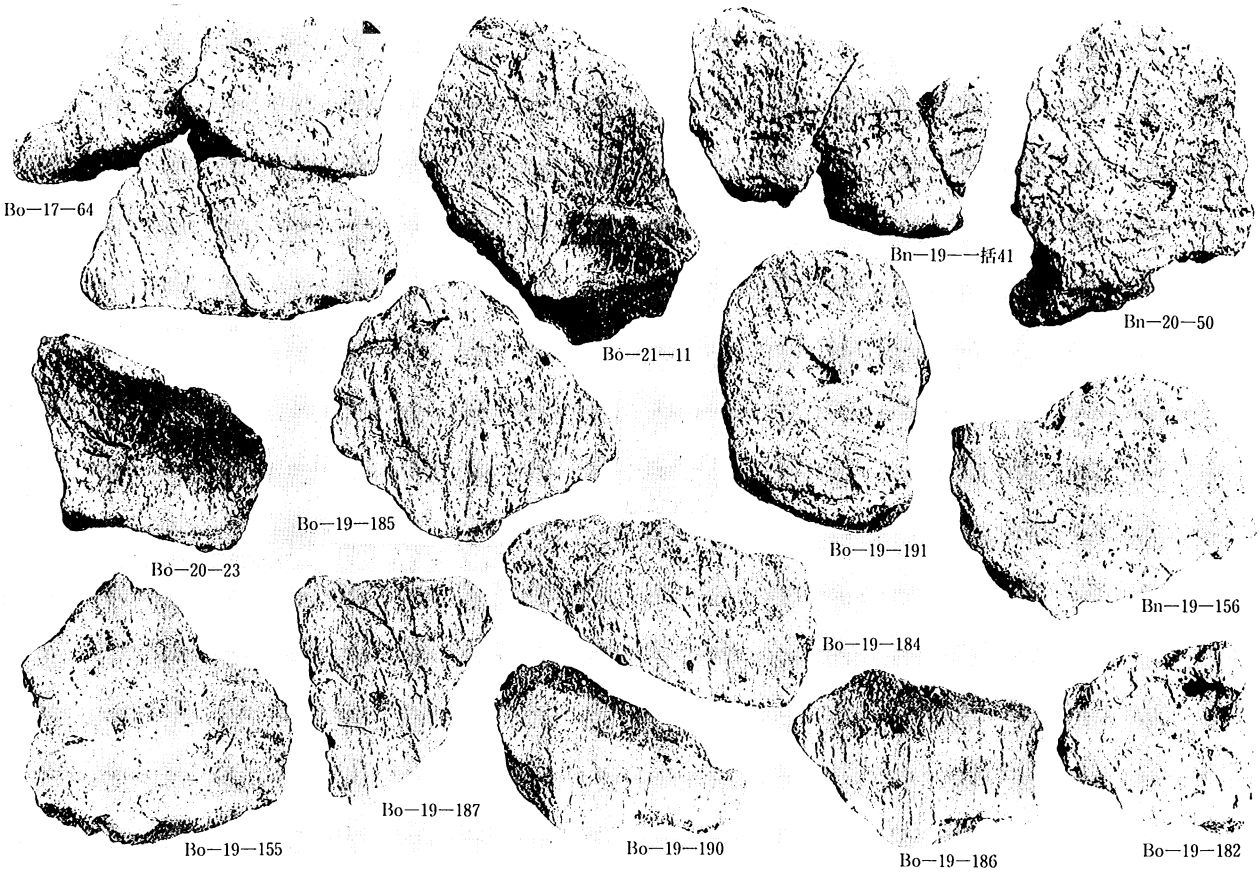


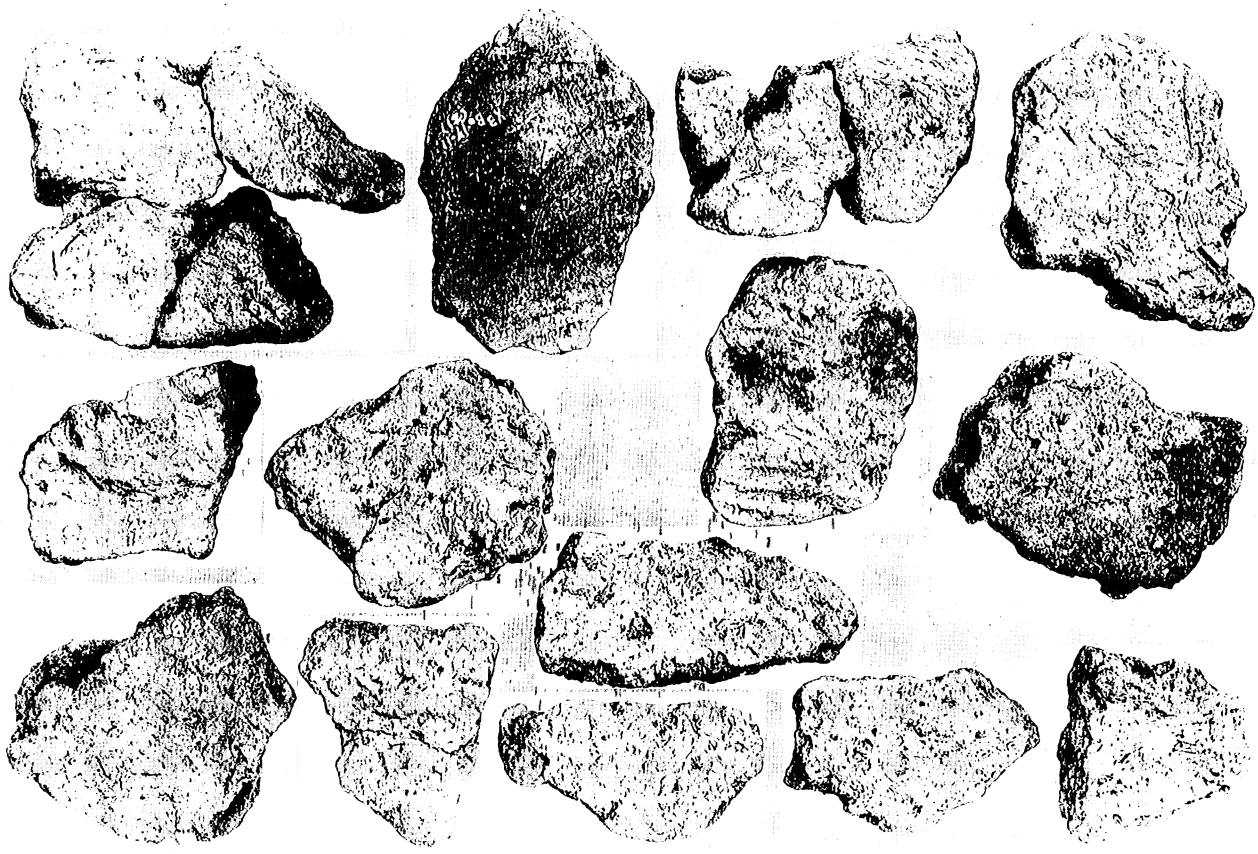
東区包含層出土土器(早期条痕文)



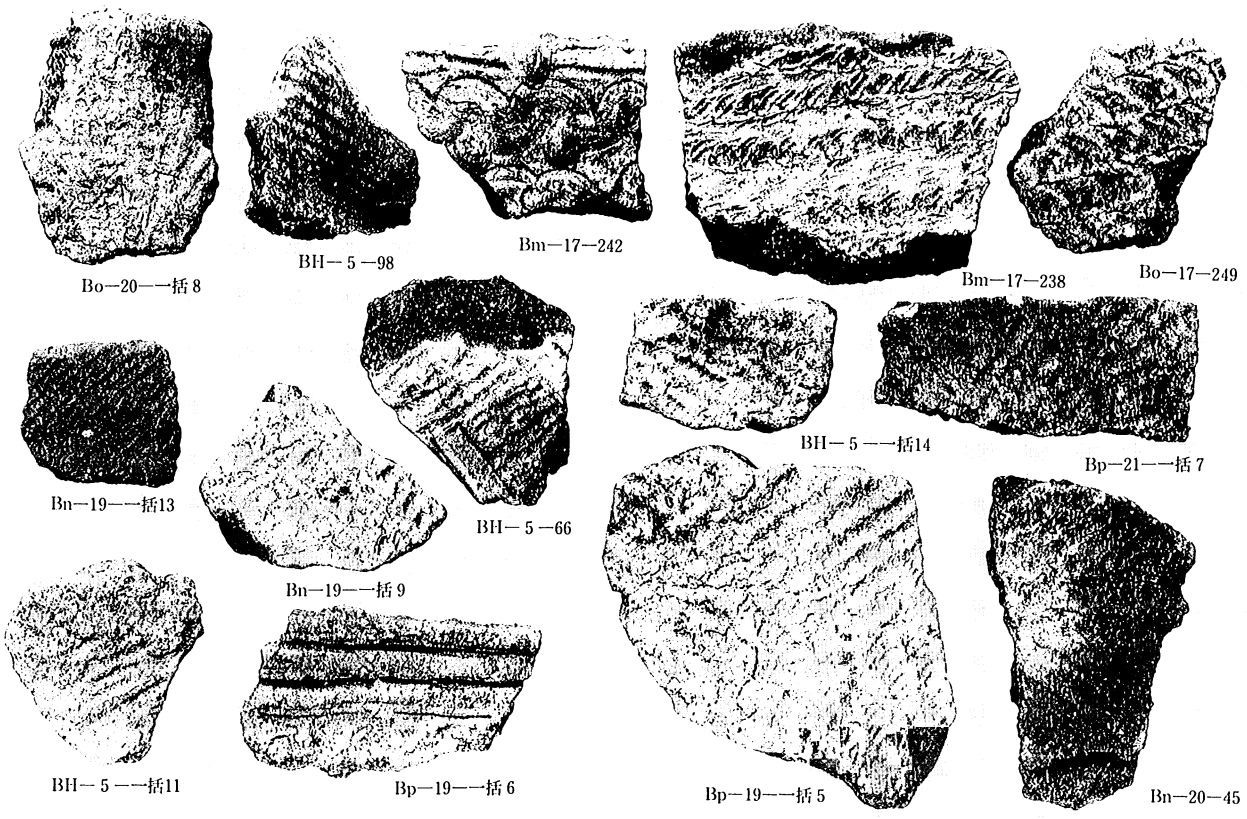


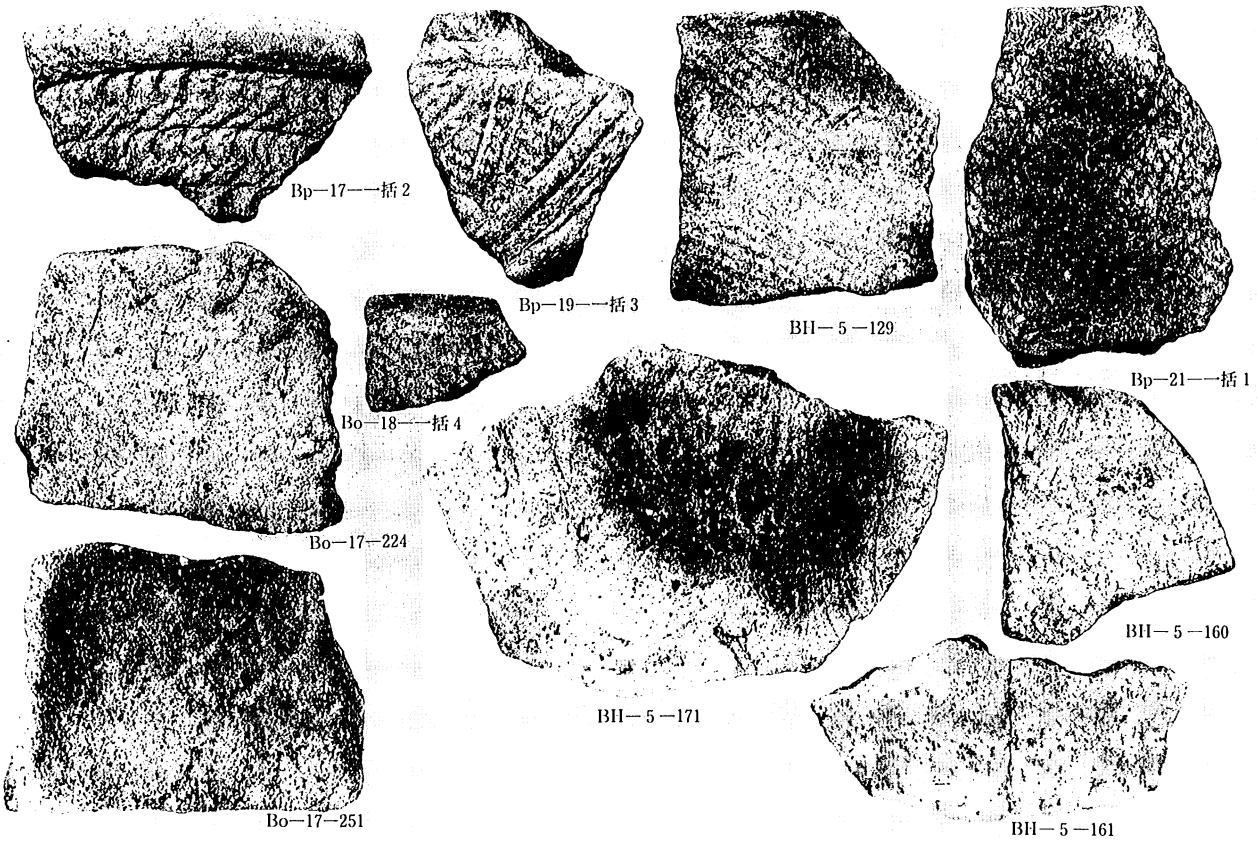
東区包含層出土土器(早期条痕文)



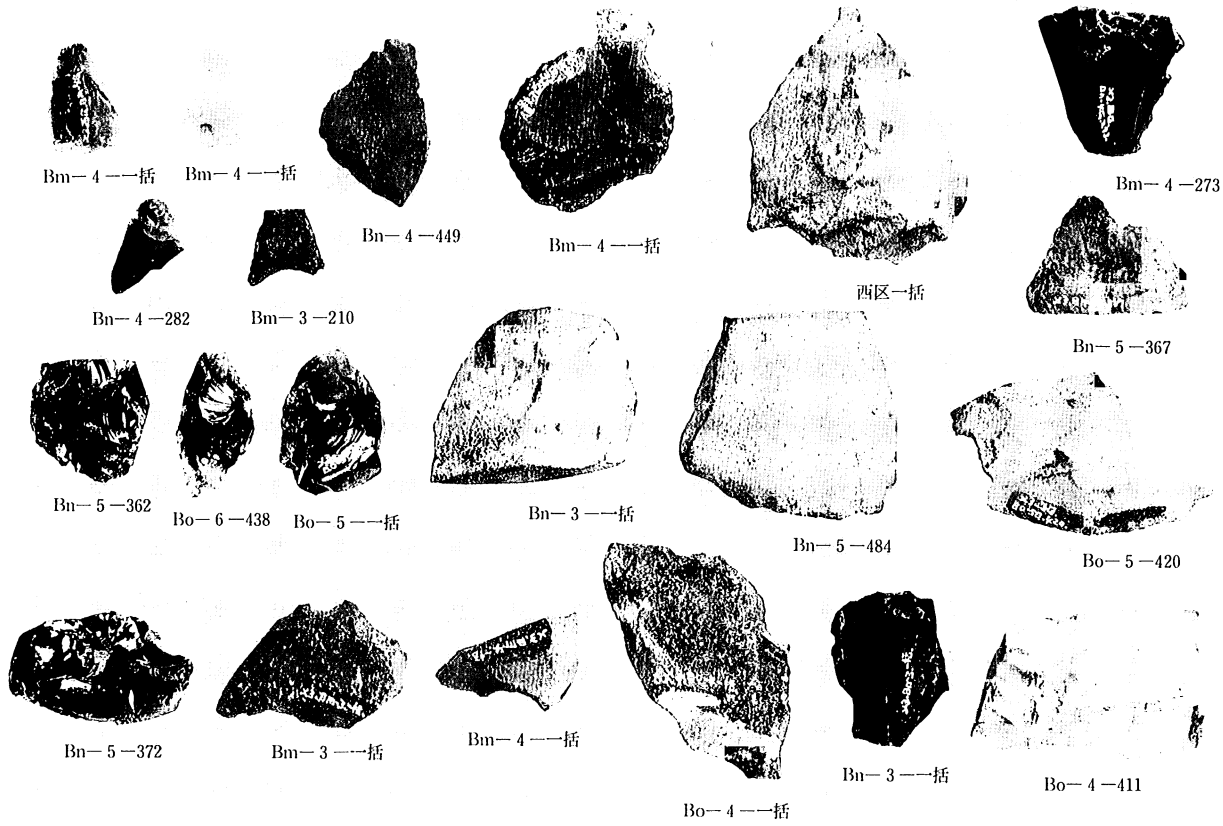


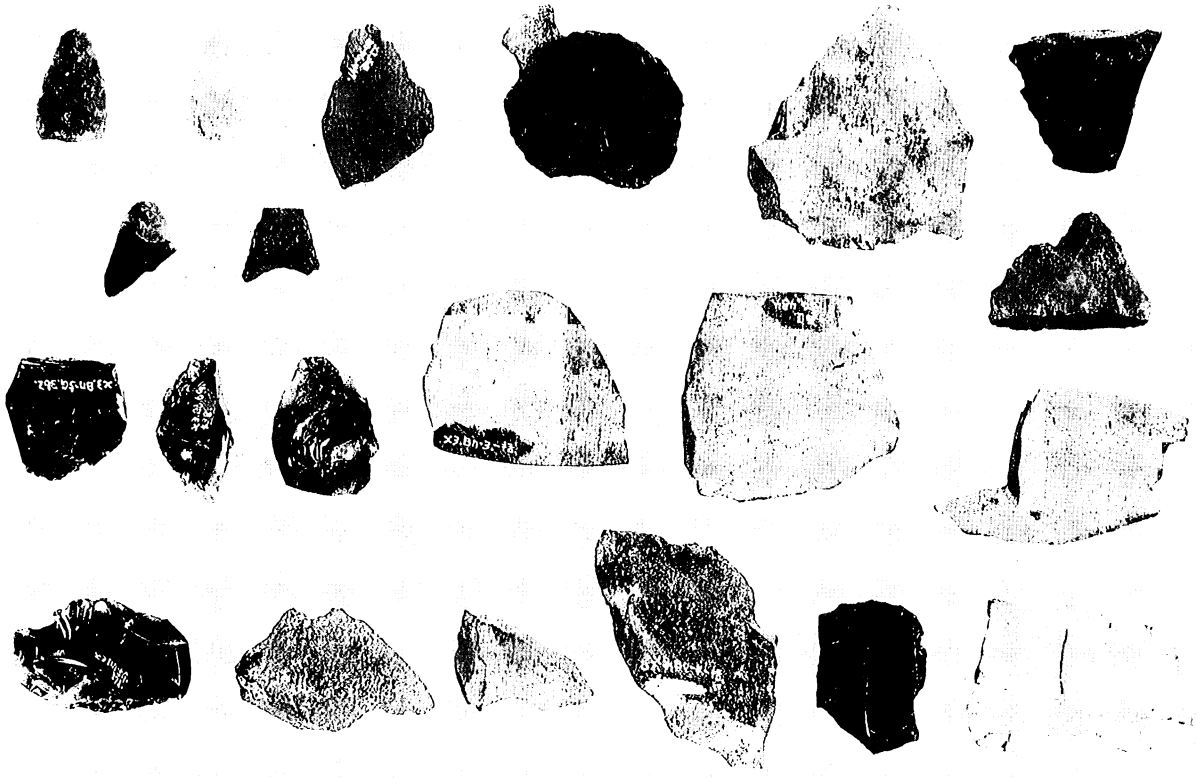
東区包含層出土土器(早期末～前期初頭)



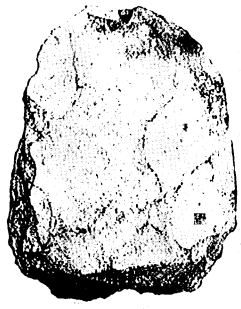


東区包含層出土土器(前期)

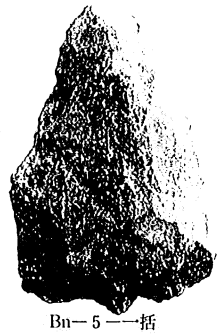




西区包含層出土石器(石鏃・石匙・石錐・ピエス・エスキーユ・削器他)

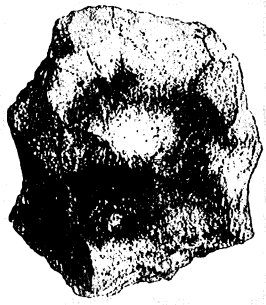


Bn－4－107



Bn－5－一括

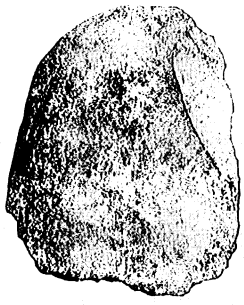
Bn－4－186

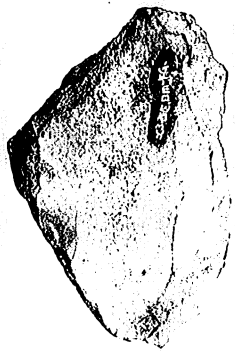


Bo－4－116

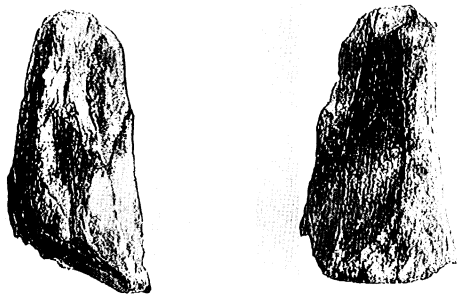
Bm－4－一括

Bn－4－333

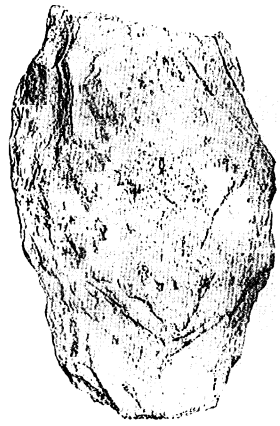


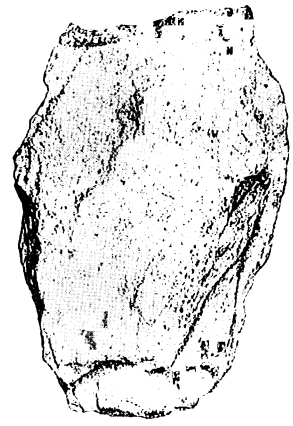


西区包含層出土石器(片面加工石器・礫器・磨製石斧他)



Bo－5周辺一括

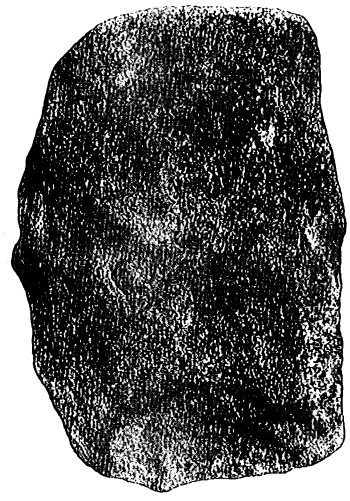




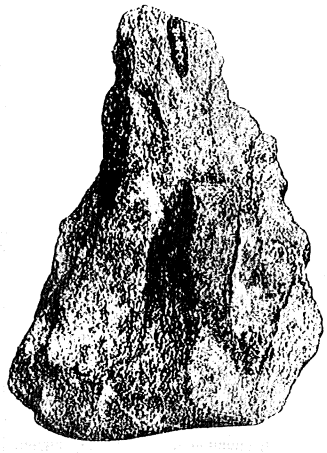
Bn－5－373

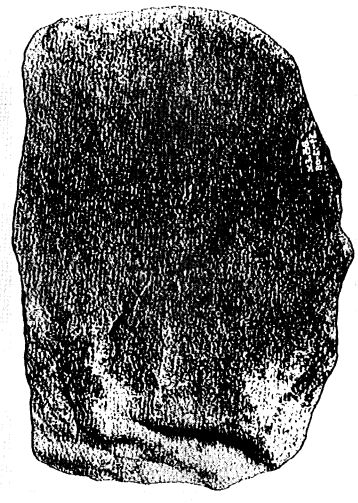
Bn－3－394

Ag－18一括

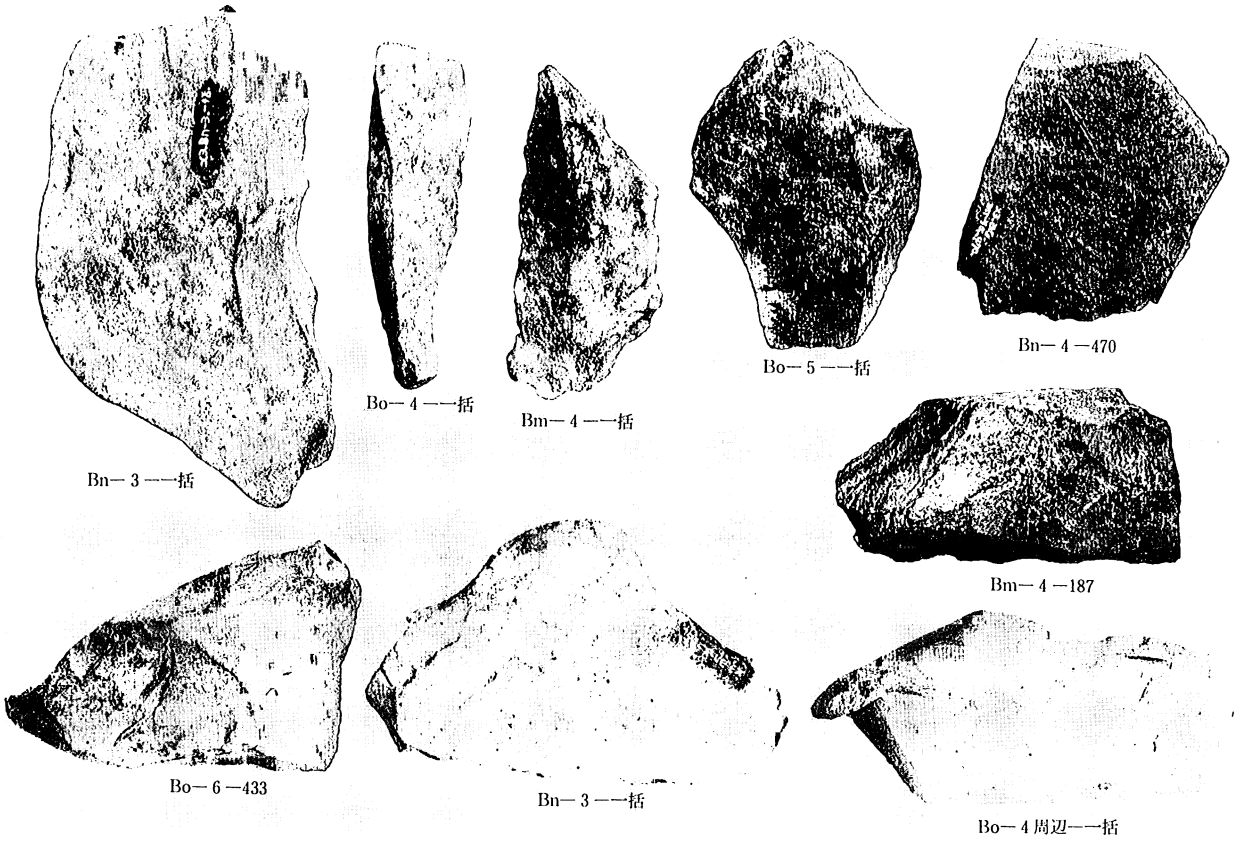


Bo－5一括



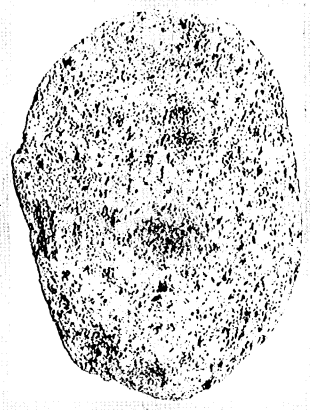


西区包含層出土石器(三角錐形石器・石斧他)

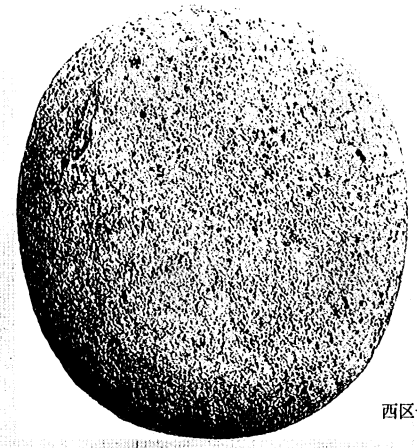


西区包含層出土石器(削器)

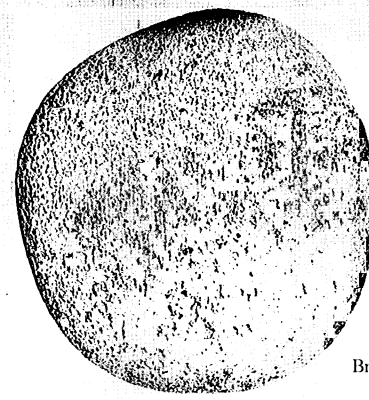
Bn－3－382



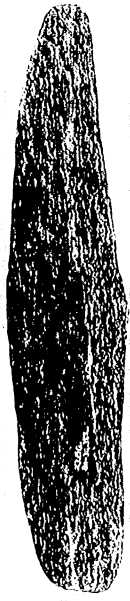
西区一括

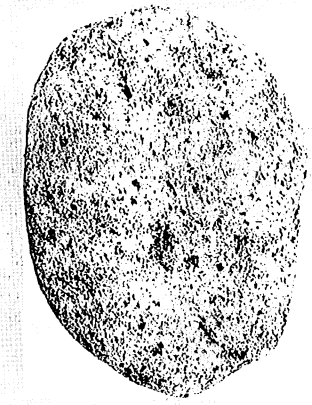


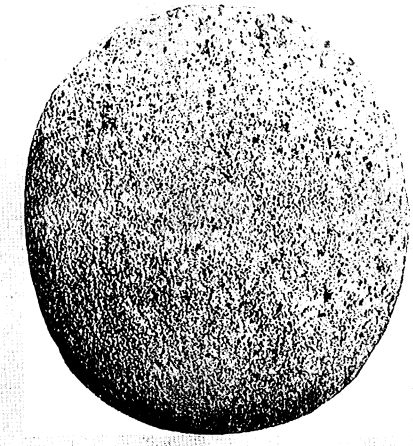
西区一括

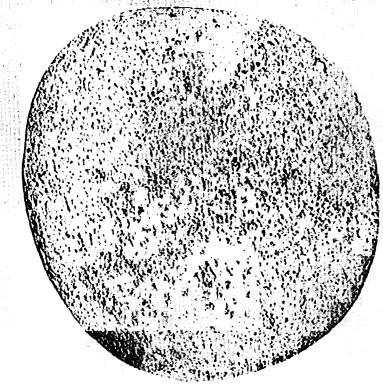


Bn－3－3

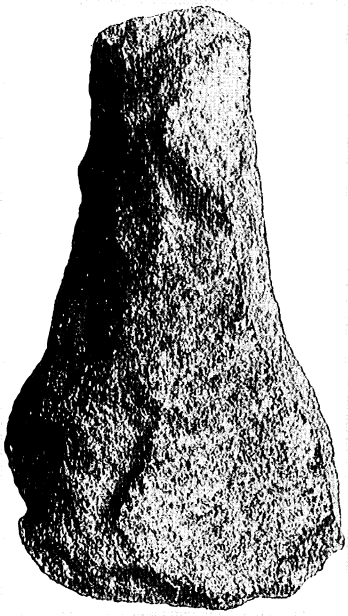


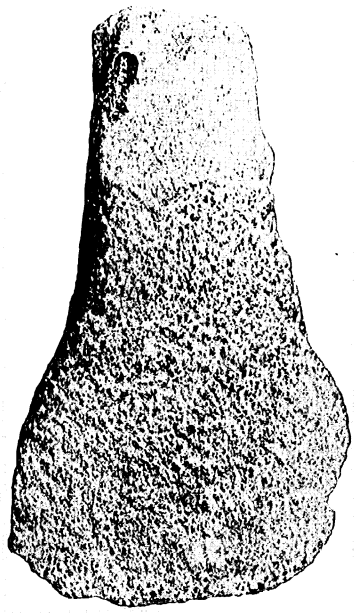




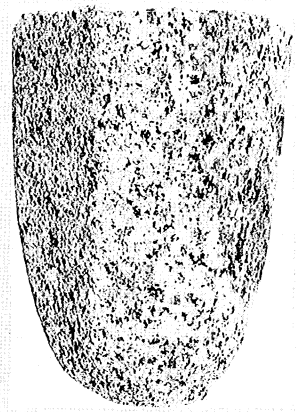


西区包含層出土石器(磨石・凹石)

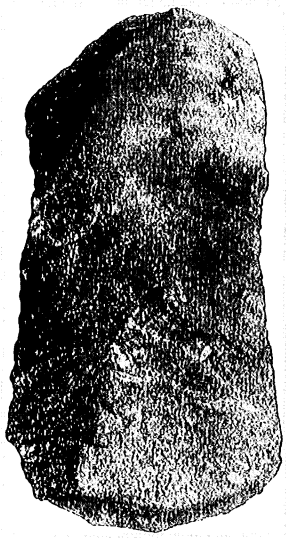


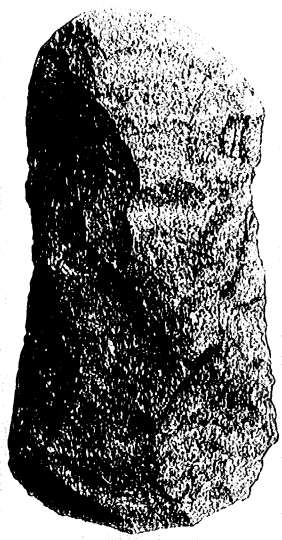


BH－5－一括

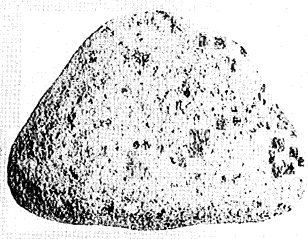


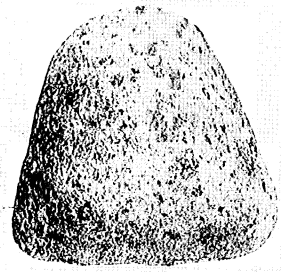
Bn－4－473





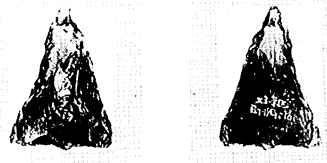
Bo－20－一括



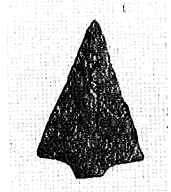


Bn－4－244

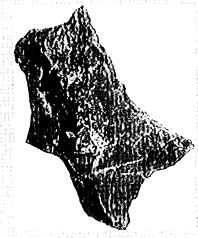
東区包含層出土石斧・西区包含層出土極すり石



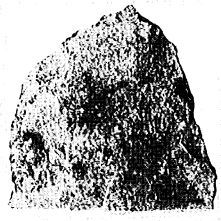
Bn—19——括



Bn—20——括

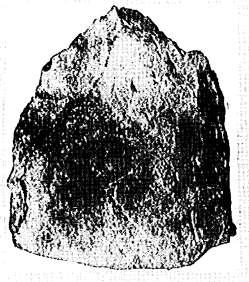


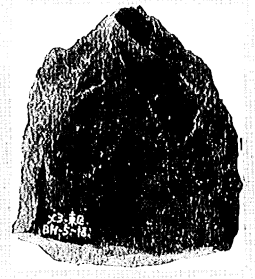
Bm—19周辺——括



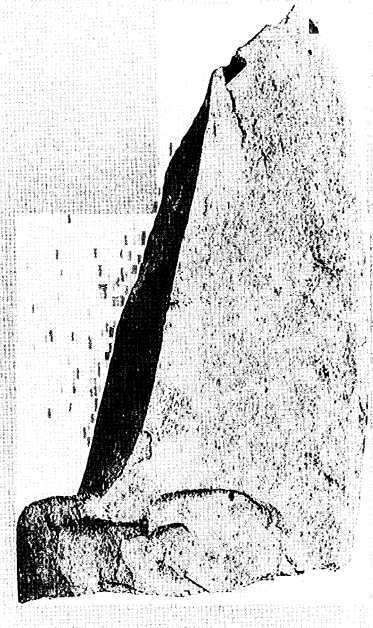
Bo—20——括

Bo—18—166

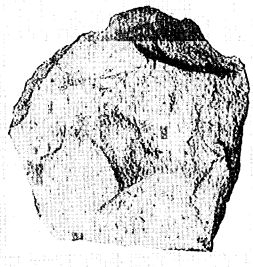




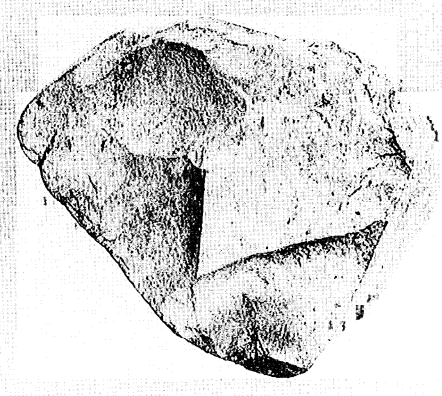
BH—5——括



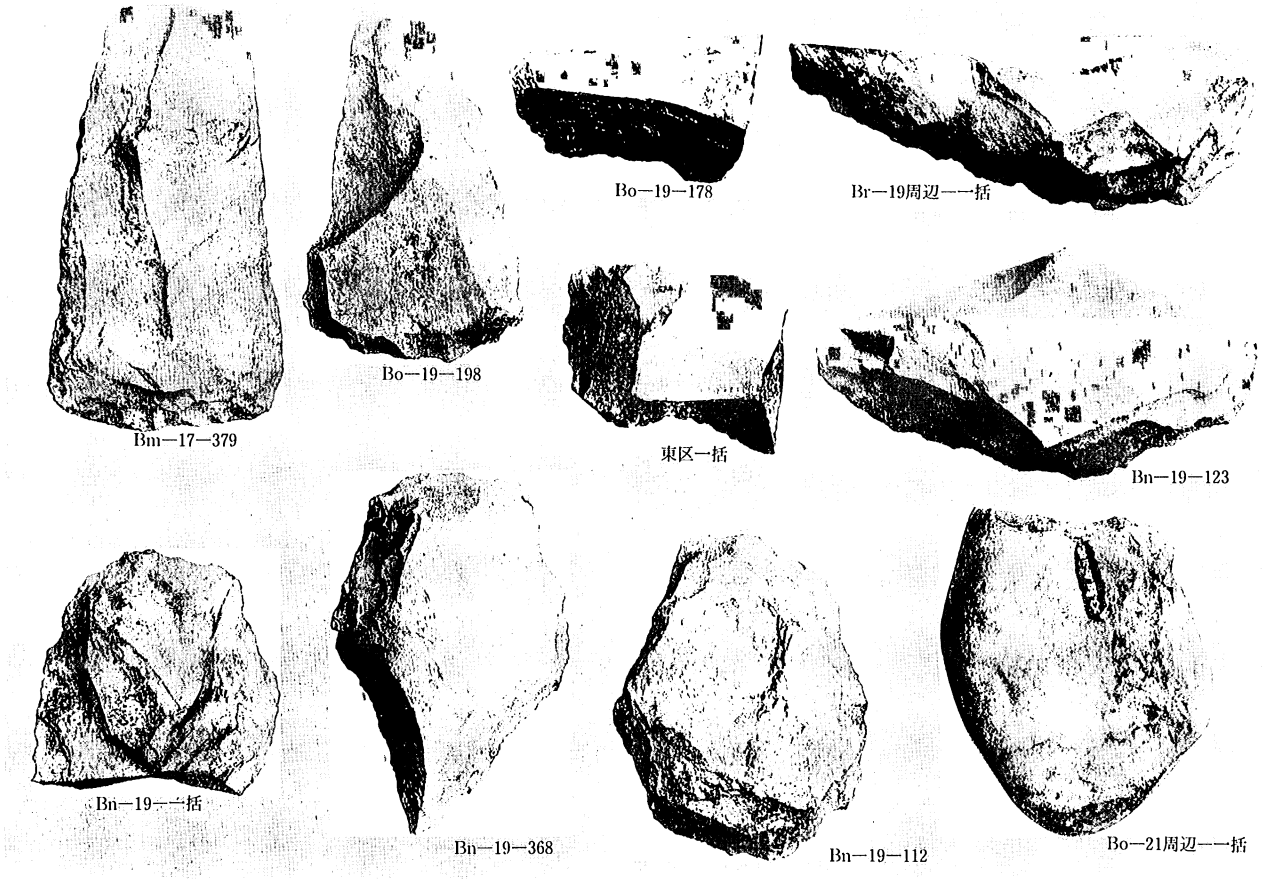
テストトレ№6——括

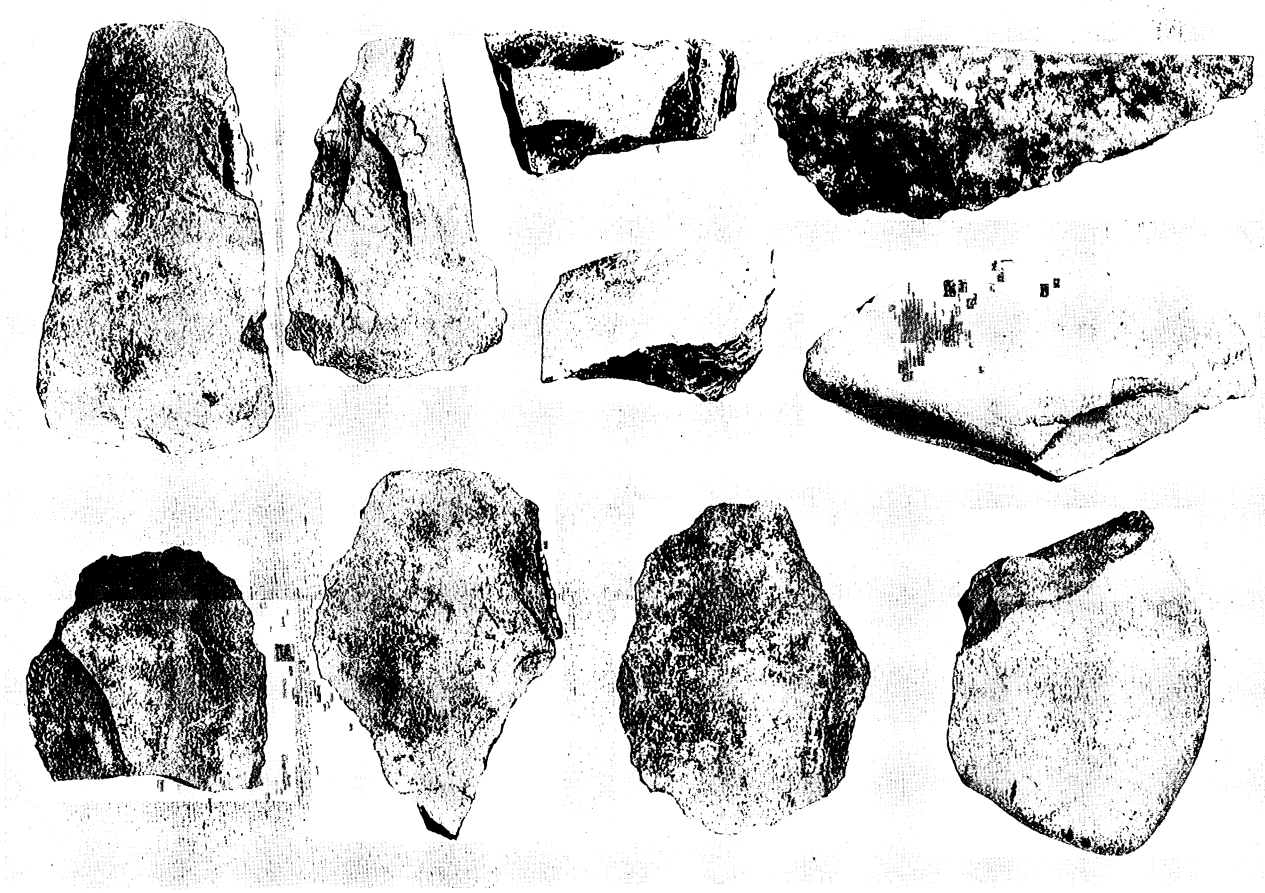


Bp—21—326

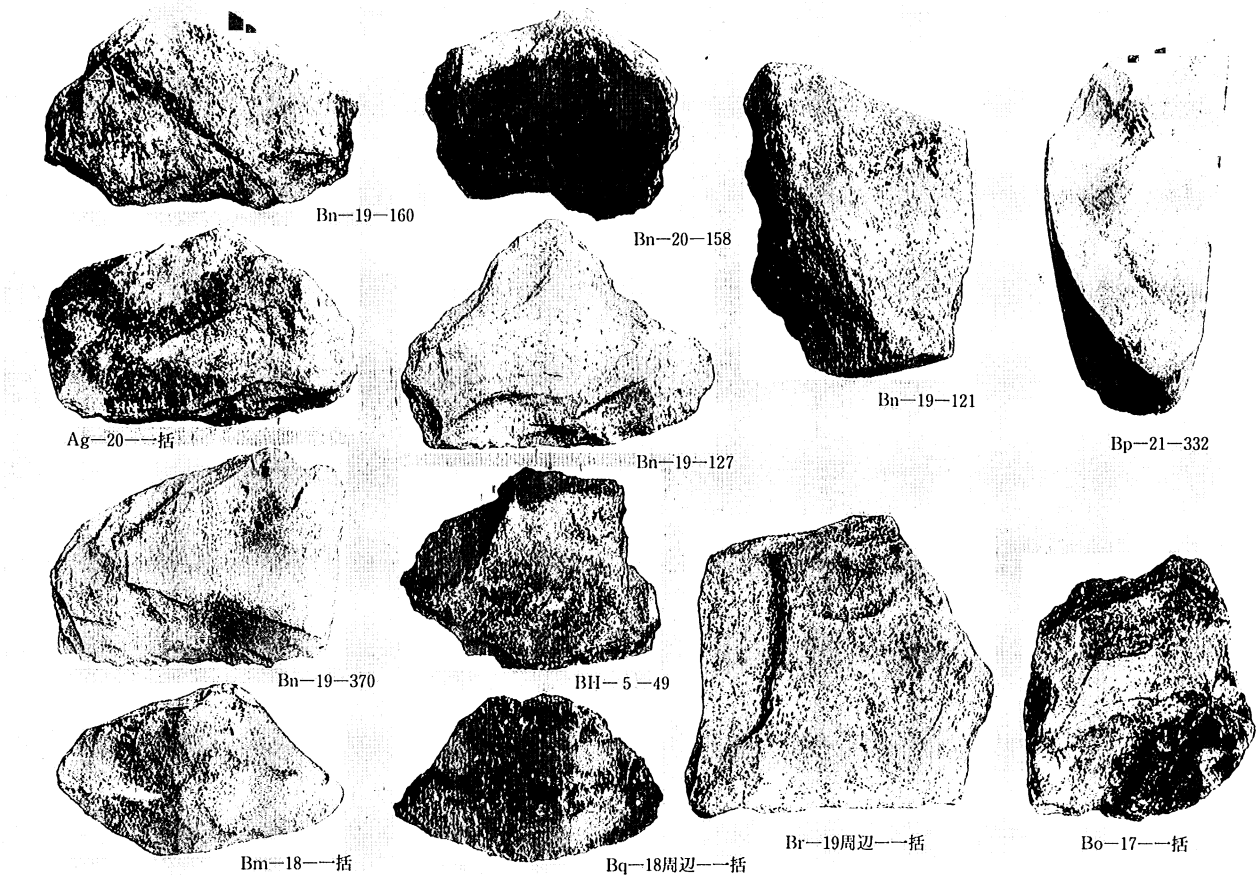


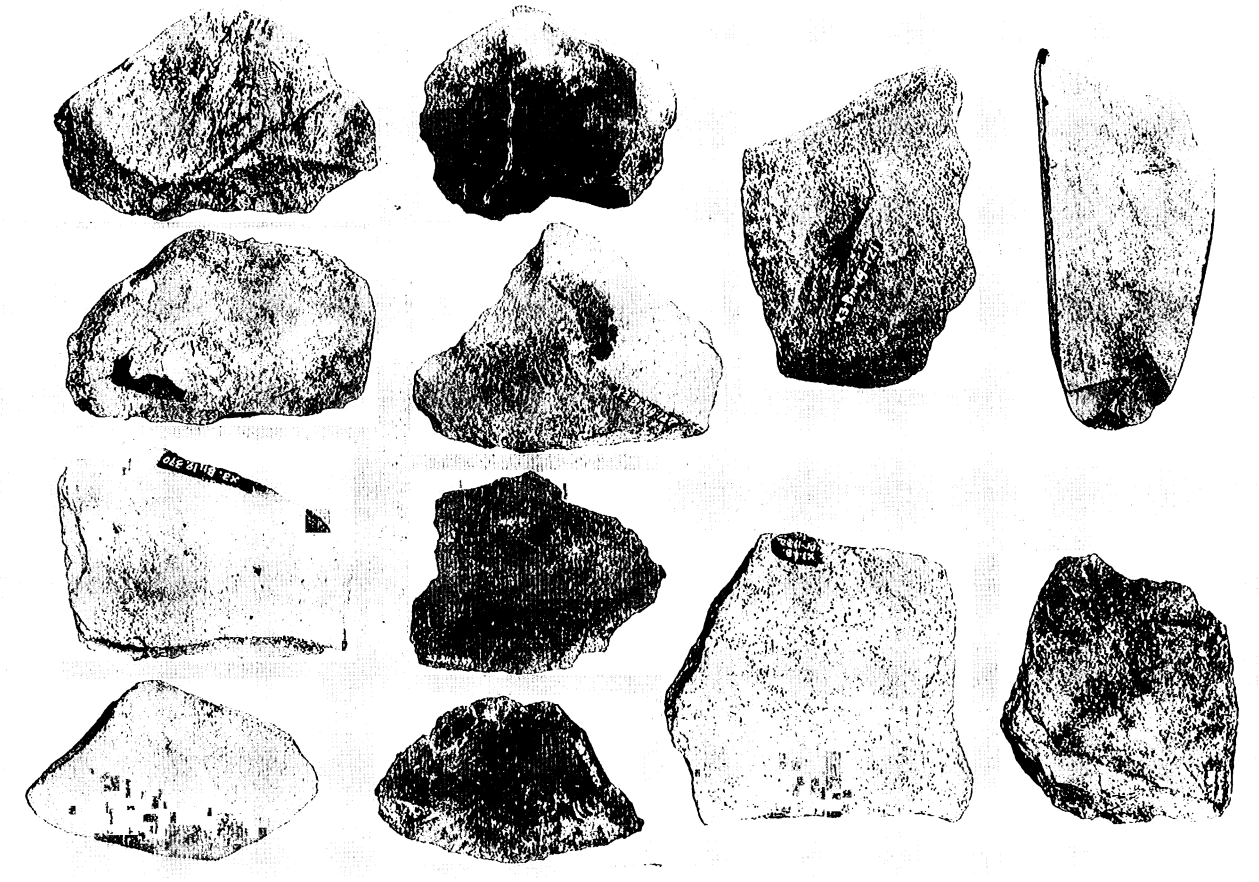
東区包含層出土石器(石鏃・石錐・片面加工石器・磨製石斧)



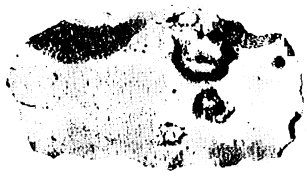


東区包含層出土石器(へら状石器・石斧・削器・礫器)





東区包含層出土石器(削器)

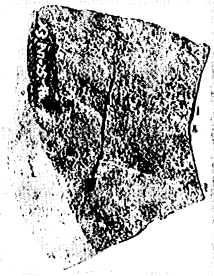

Bo—20—284

Bn—18—373

Bo—20—一括

An—19—一括

Bn—19—一括


An—25—一括

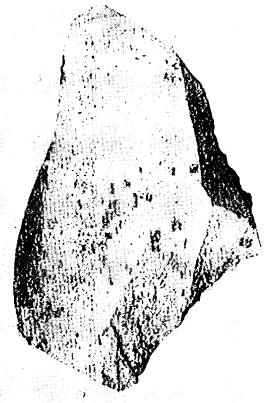
Bm—17—236

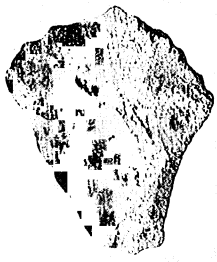
Bn—17—一括

Bn—19—131

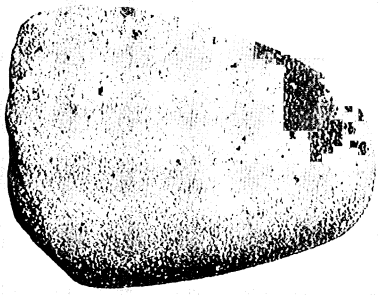
Bn—18—一括

Bn—20—一括

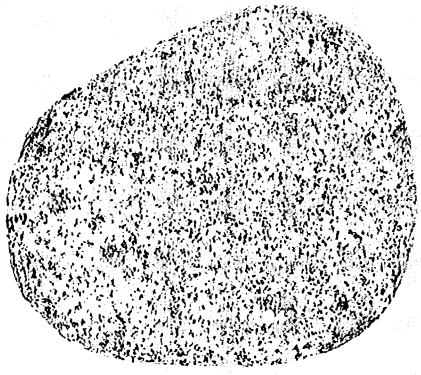




東区包含層出土石器(削器)

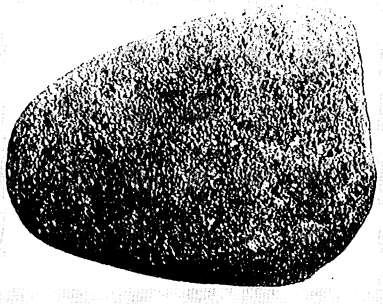


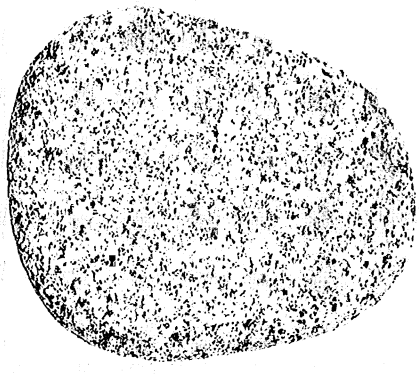
Bo—20—289

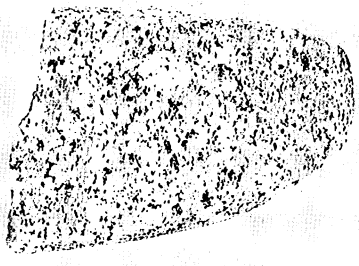


Bo—19—294

Bmn—17—一括







東区包含層出土石器(磨石・極すり石)

発掘報告書抄録

フリガナ	ゴテンイセキ
書名	御殿遺跡
副書名	県営広域営農団地農道整備事業赤城南麓2期地区埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	1
シリーズ名	粕川村文化財報告
シリーズ番号	第15集
編著者名	小島純一
編集機関	群馬県勢多郡粕川村教育委員会
編集機関所在地	〒371-02　群馬県勢多郡粕川村大字西田面194-4
発行年月日	1995年3月15日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 °′″	東緯 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
御殿遺跡（ゴテンイセキ）	勢多郡粕川村大字中之沢（セタグンカスカワムラオオアザナカノザワ）	103063		36°28′48″	139°12′26″	1993年7月20日～1994年3月25日	2,200㎡	農道建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
御殿遺跡	集落	縄文	竪穴住居　1軒 土壙　2基 包含層	縄文土器（前期） 早・前期 土師器・須恵器	1軒は鋳造遺構
		平安	竪穴住居　9軒 掘立柱建物　1棟 土壙　7基		「鐃」鋳型

粕川村文化財報告第15集　御殿遺跡

平成７年３月３日印刷
平成７年３月15日発行

編集
発行　粕川村教育委員会
群馬県勢多郡粕川村西田面194-4
〒371-02　Tel 0272—85—3311

印刷　朝日印刷工業株式会社